



鳥 木 音 光 星 花 海 色

学研

もくじ

監修のことば

文学博士　石井庄司

すべての学習は、そのもとになる練習がたいせつです。とくに、漢字の学習では、くり返しの練習がたいせつです。はじめて学習する漢字は、ひとつひとつの、読み方や使い方や書き方をしっかりと、正しくおぼえて、くりかえし、使い方の練習を重ねていくことが必要です。

本書では、そのような点について、格別にくふうをこらし、小学校で学習する漢字を学年別にまとめ、効率よく練習できるようにしてあります。あやまりやすい筆順、同音でちがった意味のことば、形のよく似た字などは、「ちゅうい」や「さんこう」などのらんで、簡潔に説明してあります。また、形のととのった字を書くときに注意をするところと、硬筆の字の手本を示しました。また、すべての字に成り立ちを示し、漢字にまつわるちしきを集めたコラムもあります。これまでに習った漢字でも、使い方や意味を忘れたときには、巻末のさくいんで、すぐ、ひけるようにしてあります。

どうかこの本と友だちになって、漢字やことばの力がしっかりと身につくようにいのっています。

※本書は、初版発行以来長年にわたって、多くの読者の方々に愛用され版を重ねてきた。このたびの新版発行にあたっては、「資料・さくいん」を除くすべてのページをカラーにするとともに、語例や使い方の例を全面的に検討しなおし、さし絵も改めて、より使いやすくするようにつとめた。

この辞典の使いかた

❖この辞典におさめてある字

この辞典には、小学校で習う漢字(=学習漢字ともいう。一〇〇六字)が、学年別におさめてあります。漢字について、読みかた・書きかた・使いかたのほかに、なりたち・部首・画数なども調べることができます。

また、本の最初に、「ひらがな」「かたかな」についての説明があります。「ローマ字」については、資料のページにのっています。

❖漢字のならべかた

漢字は、はじめて習う学年ごとにならべてあります。学年の中では、一・二年生は、「手・足」「朝・昼・夜」のように、関係の深い漢字どうしを集めてならべてあります。

三年生以上では、音読みの(訓しかないものは訓で)「あいうえお順」にならべてあります。それぞれの学年のはじめに、漢字のもくじがありますので、ページをたしかめてください。

❖漢字にしたしむ

ひらがな・かたかな・アルファベット(A・B・C…)などの文字は、発音だけを表します(=表音文字という)。

ところが、漢字はこれらとはちがって、一字一字が異なった意味を表しています(=表意文字という)。ですから、意味を考えながら漢字をおぼえていくと、楽しいものです。

この辞典では、見出しの字の下に、その漢字の意味を表した絵を入れてあります。また、その漢字がどのようにしてできあがったのかということは、漢字の意味と深いつながりがありますので、「なりたち」というしるしでしめしました。

❖漢字の見出し

姉

おん *シ

くん あね

8かく ↕ 妹 99

[女・5かく]

〈おんなへん〉

いみ あね。「姉むす

四人姉妹の物語です。▼外国の市と姉妹都市(=したしくつきあうことをやくそくした市と市とのかんけい)になる。

なりたち もとの字は「姊」。𠂔(=つるがまきついたぼうの上に一をつけたかたち)と女(=おんな)をくみあわせた字。

見出しの漢字は、大きな字でしめしてあります。書くときに、形をととのえるポイントを、赤字でしめしました。赤い小さなまるは、間をあけるしるしです。

すべての見出し漢字の下には、「その漢字の総画数↓その漢字の部首と部首をのぞいた画数↓部首のよび名」が、上から順に、各一行ずつでしめしてあります。

❖読みをおぼえる

見出し漢字の次にある「おん」「くん」は、その漢字の音読みと訓読みです。訓読みで赤字になっている部分は、送りがなです。

学…くん まなぶ

とあれば、「学ぶ」と書き表すことをしめします。上に*のついた読みは、小学校では習わない読みです。

❖筆順と、硬筆のもはんれい

文字を書く順序を、筆順といいます。筆順にしたがって書けば、むりなく、速く、正しい字が書けます。正しい筆順を身につけましょう。

筆順の下は、硬筆(=えんぴつ・サインペンなど)で書く字のもはんれいです。↓5ページ

❖漢字の意味

筆順の次に、漢字の意味がしめしてあります。それぞれの意味のあとには、その意味で使われている熟語がたくさんあげてあります。

「少」の字には、「すくない。すこし。」という意味と、「わかい。おさない。」という二つの意味があります。

「すくない。すこし。」という意味では、「少数・少量・多少」という熟語があげてあります。「わかい。おさない。」という意味では、「少年・幼少」という熟語があげてあります。「使い方」も参考にして、漢字の意味をおぼえましょう。

❖使い方

漢字は、一字が一つのことばとして使われる場合や、送りがなをつけて使われる場合、ほかの字とむすびついて熟語として使われる場合などがあります。

漢字がじっさいにどのように使われるかを、いくつかの短い文のれいでしめしてあります。れいの文を参考にして、じぶんでも短文をつく

ってみましょう。

※「いみ」と「使い方」のらんの熟語で、＊のついた字は学習漢字外の漢字、★のついた熟語は特別な読みかたをするものです。

✤参考・注意

参考のしるしのところには、その漢字について知っておくとためになることが、また、注意のしるしのところには、漢字を書くときや読むときにまちがえやすいことがしめしてあります。じぶんでは正しいと思っていることでも、まちがっている場合があります。参考や注意に書いてあることを読んで、正しいちしきを身につけましょう。

✤さくいん

引きたい漢字の学年がわからないときに、そのページ数を調べるために、三つのさくいんがついています。

読みかたがわからない漢字をさがすときは、四四七ページからの「総画さくいん」か、四四三ページからの「部首さくいん」を使います。

「総画さくいん」は、漢字が画数の少ないものから順にならび、ページ数がしめされています。また、「部首さくいん」は、漢字が部首ごとに集められて、ページ数がしめされています。

どちらも、画数の数えかたや何の部首に属するかがわからないと、さがせません。めんどうがらずに使ってみて、使いかたになれるようにしましょう。

漢字の読みかたがわかっているときには、四六三ページからの「音訓さくいん」を使いましょう。漢字の読みが「あいうえお順」にならべられています。

総画さくいん

- このさくいんは、漢字を画数順にならべたものです。同じ画数の漢字は、学年順にならべています。
- 丸数字は、その漢字を学習する学年をあらわしています。

1画

	②丸 113	②切 141	①左 51	③打 184	⑥処 382	②羽 128
	②万 117	②午 90	①目 55	③氷 200	⑥幼 412	②肉 129
	②弓 126	②友 100	①生 73	③申 178	⑥庁 397	②自 100
①一 40	②工 109	②太 135	①白 78	③由 207	⑥穴 365	②色 111

部首さくいん

- このさくいんは、漢字を部首別にならべたものです。
- 丸数字は、その漢字を学習する学年をあらわしています。
- ＊のついた漢字は、本来はほかの部首に入るものです。

〔一 いち〕	⑥乱 413	③化＊ 150	⑥俳 403	②内 132	⑤制 323
	⑥乳 401	⑥仁 385	④停 263	⑤再 310	②前 132
①一 40	〔亅 はねぼう〕	⑤仏 344	④健 236	⑥冊 374	⑤則 330
③丁 188		③仕 165	④側 258	②同＊ 137	⑥刻 371
①七 43	③予 208	③他 184	⑤備 341	④周＊ 248	④副 273

音訓さくいん

- このさくいんは、漢字を読みかたの五十音順にならべたものです。読みかたが同じ漢字は、画数順になっています。
- カタカナは音読み、ひらがなは訓読みです。赤い字は送りがなです。
- 丸数字は、その漢字を学習する学年。

あ

		あげる	①上 50	あと	②後 132		⑥著 396
			④挙 230	あな	⑥穴 365	あらわれる	③表 200
		あさ	②朝 89	あに	②兄 98		⑤現 305
アイ	④愛 216	あざ	①字 74	あね	②姉 99	ある	③有 207
あい	③相 182	あさい	④浅 255	あばく	⑤暴 347		⑤在 312

✤資料編

●**教科書に出てくる学習漢字外のおもな漢字**　教科書には、地名・人名・専門用語などに、学習漢字外の漢字が出てきます。そのような漢字を集めて、読みや熟語例をしめしています。

●**漢字のなりたち**　絵からできた象形文字など、漢字のできかたをまとめて説明しています。

●**漢字の読みかた**　音読み・訓読み・重箱読み・湯桶読みなど、読みの種類を説明しています。

●**漢字の部分と部首**　漢字のおもな部分と部首について、よび方や漢字例をのせています。

●**漢字の筆順**　筆順の基本的なきまりについて、具体例をあげて説明しています。

●**ローマ字の書きかた**　アルファベットの書きかたや書き表しかたの注意点、ワープロでローマ字入力する際の打ちかたなどをのせています。

✤漢字の書体・学習法について

小学校の教科書では、教科書体という書体の漢字を使っています。この本の漢字も、その書体に合わせています。

各学年の最初のページに、漢字学習法がのせてあります。一～二年生はおうちのかた向け、三～六年生はお子さん向けとなっていますので、指導の参考になさってください。

✤漢字クイズ・漢字のちしき

奇数ページの下のらん外に、楽しい漢字クイズと、漢字のちしきがのっています。漢字クイズの答えは、次のページにのっています。

●硬筆の手本の記号について●

各漢字について、硬筆の手本をしめしていますが、その部分で使用している記号をよく理解させ、字形の整った正しい漢字が書けるようにご指導ください。

四（はらう）　挙　英　包

- ・ とめる
- まがる
- おれる
- まげてとめる
- はらう
- (一度とめて)はらう〈右〉
- 形の注意
- 画の方向
- 空ける
- 長さの割合



おうちのかたへ

【平仮名】 お子さんがたは、文字を単独に覚えていくわけではありません。「あひる」の「あ」のように、言葉の中で覚えていきます。次のページからの平仮名の一覧表には、その文字の入った言葉が、楽しい詩と共に載せてあります。また、書き順や字形の取り方の注意も載っています。

●まず、「あいうえお」の母音の発音を、正しい口の開け方の写真をまねて練習します。

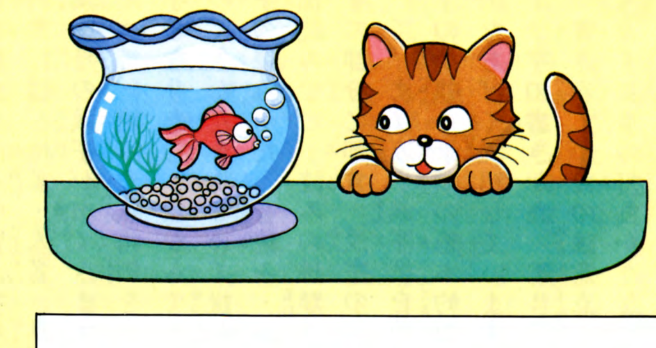
●絵を見ながら、言葉を正しく発音します。また、詩をくり返し読んで、発音練習をします。

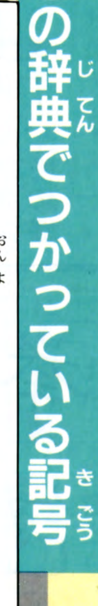
●「あのつくもの何?」のような言葉遊びの中で、例以外の言葉の数を増やしていきます。

●書き順や字形の注意に従って、書き方の練習をします。

●濁音・半濁音・拗促音・長音・「は・へ・を」などの練習をします。

【片仮名】 片仮名は、目に触れる機会が少ないため、お子さんは苦手なものですから、片仮名で書く語（＝外来語）をたくさん覚えることが大事です。また、筆順や筆使いは、漢字の書き方の基本にもなりますので、しっかり練習させるようにしましょう。





この辞典でつかっている記号

おん　音読み

くん　訓読み（訓読みの赤字の部分は送りがな）

いみ　漢字の意味







つかいかた　使い方　その漢字のことばと、熟語の使用例



なりたち　漢字のでき方

さんこう　参考　書き方や使い方の参考ちしき

ちゅうい　注意　書き方や使い方の注意点

①②③…意味の区別

* 中学校以上で習う読み方

* 学習漢字以外の漢字　★ 特別な読み方の熟語

↕ 反対、または対の意味をもつ漢字

▼ 文例

ひらがなの　よみかき

あ

あかるい
あさです
あひるさん
あおい
あさがお　さきました

縦棒は少し曲げて書かせましょう。

い



いかだに　のった
いんこと　いぬが
いちごを　いっぱい
たべました

「り」にならないようにきちんととめます。

う

うめの　はな
うぐいす　うたう
もう　はるだ

点の位置を少しはなして書きます。

え

えのぐを　つかって
えを　かこう
えんそくに　いった
えを　かこう

どの線も少しずつななめに書きます。

お

おてだま　おはじき
おりがみ　おえかき
みんな「お」が　つく
おもしろい　あそび

二画目は，右上がりに書きます。

●**おうちのかたへ**●平仮名の１字１字について正しい発音，字形，書き順などをしっかり習得させましょう。各文字についている詩を読み，楽しく発音や言葉を身につけさせましょう。筆順や字形は，注意を参考にしてください。「あ・い・う・え・お」は基本になる音ですから，写真のように正しい口形ではっきり発音させましょう。

か

かきの しるを すう
かぶとむし
かだんを さんぽする
かたつむり

か か か（はねる・とめる・とめる）

最後に書く点は、少しはなして書きます。

き

きつつきは
きを つつく
きりんの おやこは
きの はを たべる

き き き き（とめる・とめる・はねる・とめる）

下の部分を、せまく書きます。

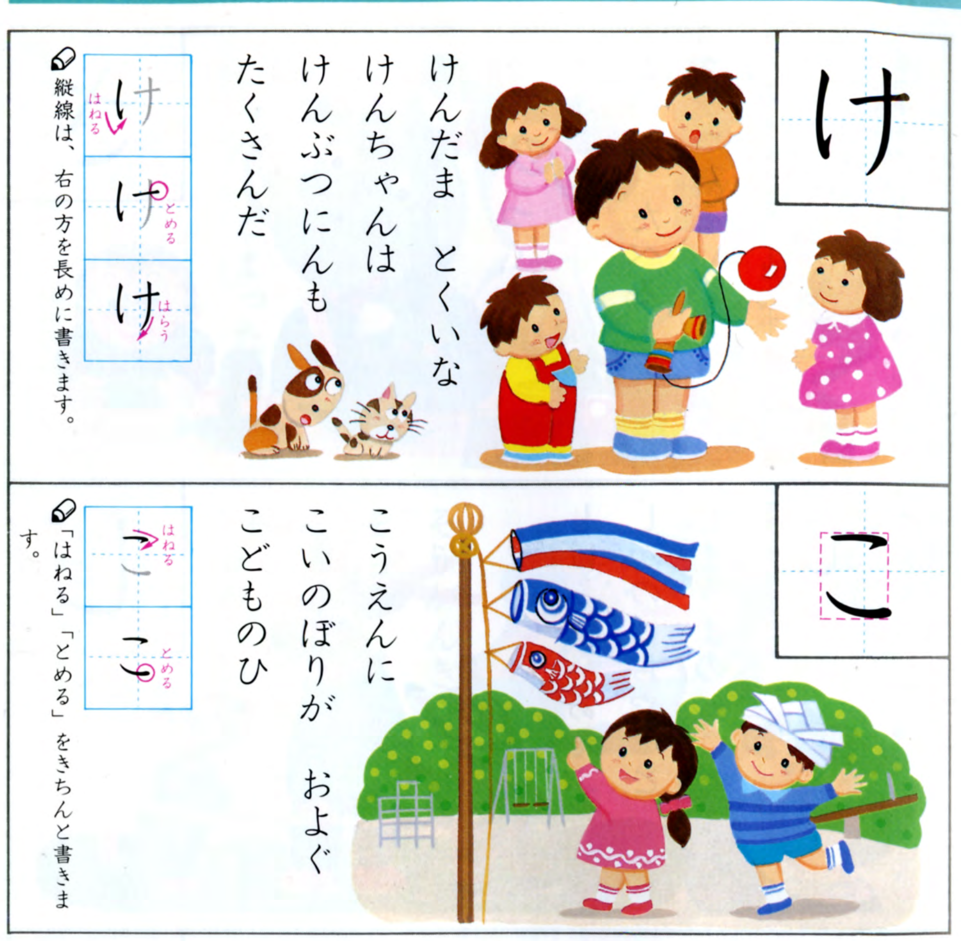
く

くまさんの
くるまの なかには
くりや くるみが
いっぱいだ

く（おれ・とめる）

「おれ」は、角度に気をつけて書きます。

け



けんだま とくいな
けんちゃんは
けんぶつにんも
たくさんだ

け け け（はねる・とめる・はらう）

縦線は、右の方を長めに書きます。

こ

こうえんに
こいのぼりが およぐ
こどもの ひ

こ こ（はねる・とめる）

「はねる」「とめる」をきちんと書きます。

しりとりを しましょう

▼□に、「か・き・く・け・こ」の じを いれて しりとりを しましょう。



●おうちのかたへ● カ行の音をはっきり発音することが大切です。口をしっかりあけて，「か・き・く・け・こ」の入った言葉を言わせましょう。また，「はねる」「とめる」をしっかり覚えさせましょう。

さ

さるが　つくる
ささぶね
さいが　たべる
ささだんご

とめる　はねる　とめる

字の形が□になるように書かせます。

し

しばふで　あそぶ
しかの　おやこと
しまうまの　こども

はらいをきちんとします。

す

すみれ　すずらん
すいせんの　はな
すずしい　かぜに
ゆれて　いる

とめる　はらう

横棒は長めに、二画目は下に長めに書きます。



せ

せんせいの
せなかに
せみが　とまったよ

とめる　はねる　とめる

書き順に気をつけて書かせます。

そ

そうがんきょうで
そらを　みたら
そらとぶじゅうたん
うかんでた

とめる

一筆で書きます。下の部分は小さく。

まちがえやすい　じ

▼□に　はいる　じは　どちらでしょう。

さ　き　し　く　す　む　そ　ろ

□かな
□か
□ずめ
□り

●おうちのかたへ●文字の書き順に気をつけさせます。特に「さ・せ」は誤りやすい文字です。「そ」の「おれ」と「おりかえし」はむずかしいので形が正しく整うよう練習させましょう。

た

たぬきが　たたく
たいこが　ひびく
やまの　たにまに
こだまする

た　た　た　た（とめる）

字の形が□になるように書きます。縦線は少し長めに。

ち

ちいさい　ねずみが
ちゃわんの　なかの
ちくわを　ちぎって
はこんでる

ち（とめる）　ち（はらう）

「おりかえし」に気をつけ、縦線は長めに書かせます。

つ

つぼみが　ひらいた
つきみそう
つきの　ひかりに
よつゆが　ひかる

つ（はらう）

□の形に書きます。「う」との違いに気づかせます。

て



てんとうむしが
てがみを　かいた
きってを　はって
てがみを　だした

て（おれる・とめる）

「おれ」をきちんと書きます。「そ」と比べさせてみます。

と

とんぼと
とびうお
とぶのが
とくい

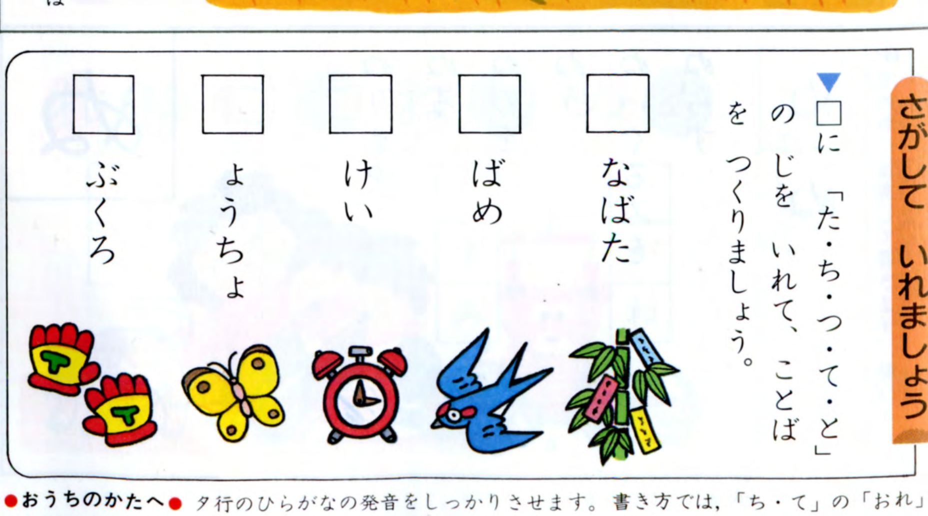
と　と（とめる）

下の部分をせまく書きます。一画目はななめに書かせます。

さがして　いれましょう

▼□に「た・ち・つ・て・と」の　じを　いれて、ことばを　つくりましょう。

□なばた
□ばめ
□けい
□ようちょ
□ぶくろ



●おうちのかたへ● タ行のひらがなの発音をしっかりさせます。書き方では、「ち・て」の「おれ」「おりかえし」の方向を、手本を見て何回も練習させましょう。つは小さい「っ」と大きさを区別して、ます目に大きくきちんと書かせます。



な

ながぐつを　はいた
なかよしが　さんにん
ならんで　なわとび

な　な　な　な（とめる・はねる）
縦の棒を少し短くななめに書き、「結び」をていねいにします。

に

にらめっこ
にっこり　わらって
まけちゃった
にゅうどうぐもも
わらってる

に　に　に（はねる・とめる）
縦線を長く書きます。

ぬ

ぬりえを
ぬる
ぬのを
ぬう
ぬいぐるみを
ぬらす

ぬ　ぬ（とめる）
字の形に注意して書きます。結びをしっかり。

ね

ねこの　かぞくね
ねころぶ　こねこ
ねむって　いる　こねこ
おっぱい　ねだって
いるのは　だれかな

ね　ね（とめる）
縦線を長く書くと字の形が整います。

の

のりもの　だいすき
のはらで　あそぼう
のみもの　のりまき
のびのび　あそぶ

の（はらう）
字の形が○になるように気をつけて書きます。

まちがえやすい　じ

▼□に　はいる　じは　どちらでしょう。

れ　ね　こ　に　ね　れ　ぬ　め

□こ　□じ　□ずみ　□がね

●おうちのかたへ●「ナ行」は字形がむずかしく，バランスよく書かせることが大切です。縦線の長さ（「に・ね」），結びの形（「な・ぬ・ね」）に注意して書かせましょう。「の」は丸い形に，バランスよく書くようにします。

ひらがな

は

はるの　あさ
はくちょうが　およぐ
はなびらが
まう

は（はねる）　は（とめる）　は（とめる）

一画目の縦線を長めにまげて書きます。

ひ

ひまわり　さいて
おひさま　みて　いる
ひこうき　とんで
ひよこが　みて　いる

ひ（とめる）

「おれ」をきちんと書き、まん中をふくらませるように書きます。

ふ

かぜが　ふき
ふうせんが　とぶ
ふうりんが　なる
ふうしゃが　まわる

ふ（はねる）　ふ　ふ（はねる）　ふ（とめる）

字の形△に気をつけて書きます。左右の点は下の方に書きます。

ひらがな

へ

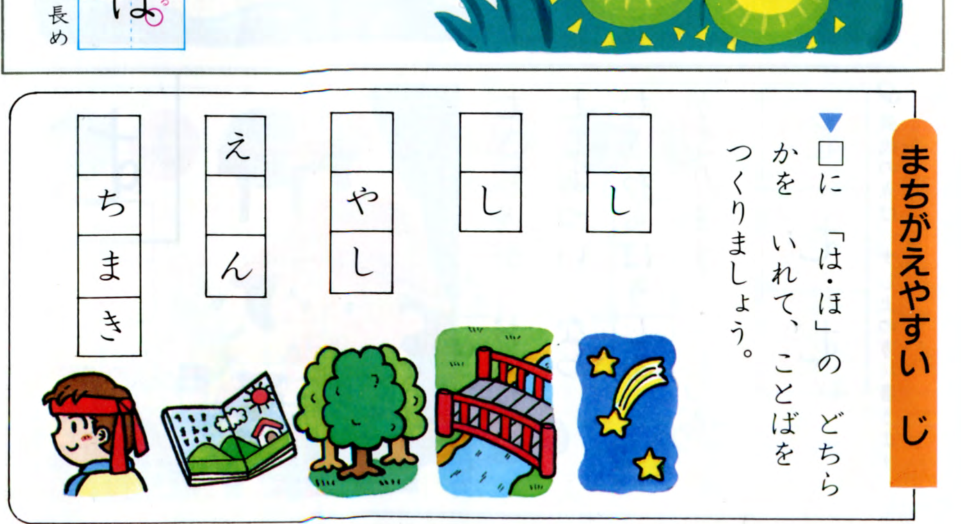


へびが
いえへ　かえる
へびの
へやは
とても　ほそながい

へ（とめる）

「とめ」をきちんと書きます。

ほ



ほしが　きれいな
なつの　よる
ほたるが　ひかる
くさの　なか

ほ（はねる）　ほ（とめる）　ほ（とめる）　ほ（とめる）

「結び」をていねいに。縦線は、長めにまげて書きます。

まちがえやすい　じ

▼□に「は・ほ」の　どちらかを　いれて、ことばを　つくりましょう。

□し　□し　□やし　え□ん　□ちまき



●おうちのかたへ● ハ行のひらがなを，はっきり発音させます。「は→あ」「ひ→い」「ふ→う」「へ→え」「ほ→お」に聞こえないよう，口をあけて言わせます。「ふ」の形は正しく書くのがむずかしいので何回も練習させましょう。

ひらがな

ま

まちかどで
まつりの　たいこを
まねする　こども

ま　ま　ま（とめる）

縦線はまっすぐに。「結び」はしっかりとめます。

み

みずうみで
みんなで　しよう
みずあそび

み　み（とめる・はらう）

「おれ」をしっかり書きます。横線は長めに書きます。

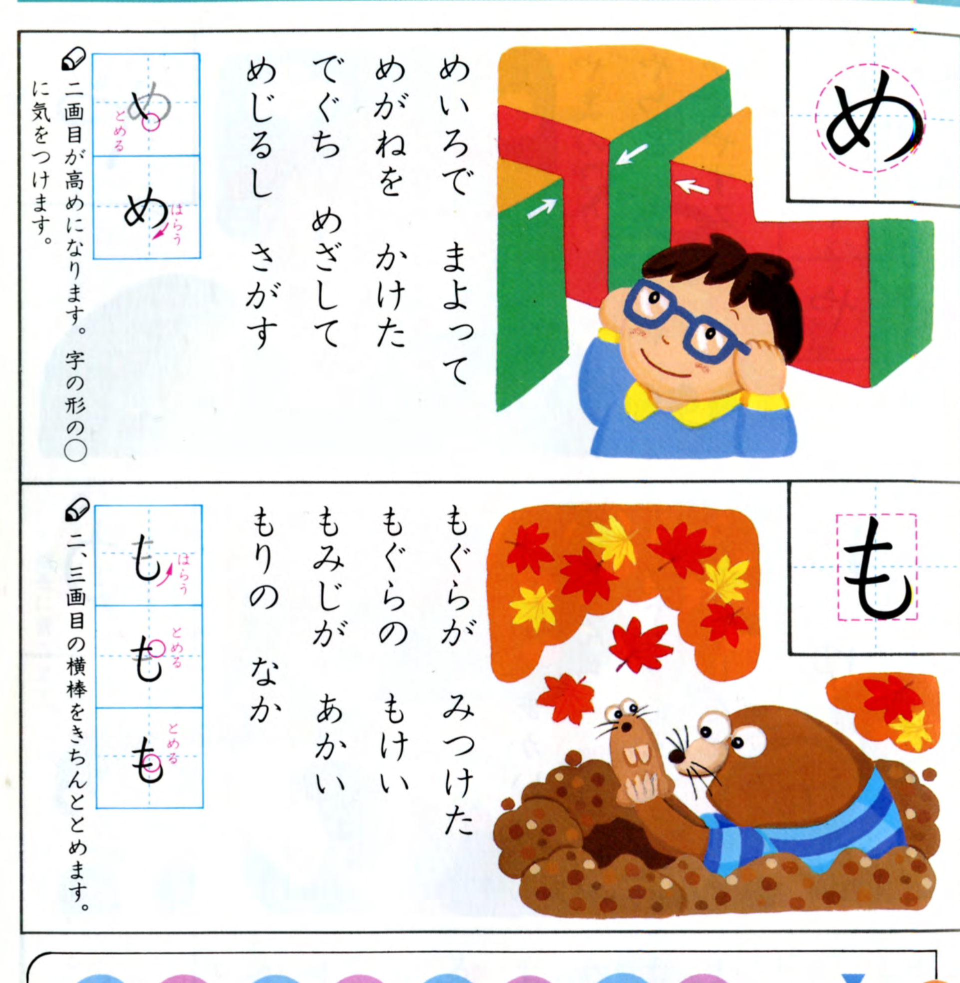
む

むぎちゃが　おいしい
むしあつい　なつ
むぎわらぼうしを
かぶります

む　む　む（とめる）

最後の点は、少し上の方に書きます。

ひらがな



め

めいろで　まよって
めがねを　かけた
でぐち　めざして
めじるし　さがす

め　め（とめる・はらう）

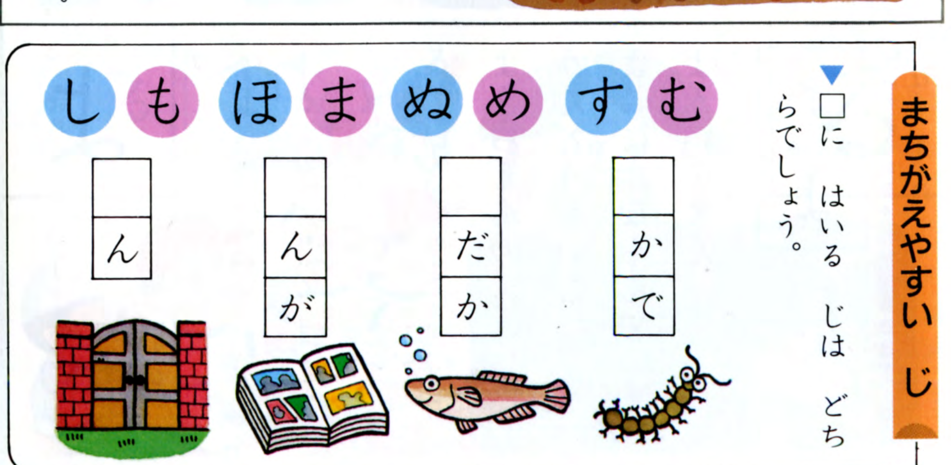
二画目が高めになります。字の形の○に気をつけます。

も

もぐらが　みつけた
もぐらの　もけい
もみじが　あかい
もりの　なか

も　も　も（はらう・とめる）

二、三画目の横棒をきちんととめます。



まちがえやすい　じ

▼□に　はいる　じは　どちらでしょう。

し　も　ほ　ま　ぬ　め　す　む

□かで　□だか　□んが　□ん

●おうちのかたへ●マ行は形を正しく書くことが大切です。特に「み，む，め」の文字をバランスよく書くよう，練習させましょう。「み」は横長に書くと形よく書けます。「む」は点の位置に気をつけさせましょう。

や

やまのぼり
やっと　やまごや
ひとやすみ

書き順に気をつけて書きます。横線は長く、縦線はななめに書きます。

ゆ

ゆうひが　あかい
ゆうえんち
あしたも　あそぼうと
ゆびきりしたよ

字の形が○になるように書きます。

よ

ようちえんの
うんどうかい
よこに　ならんで
ようい　どん

よの結びに気をつけて書きます。縦線はまっすぐに。

ら

らくだに　のって
らっぱを　ふいたよ
らららららら

二画目の書き出す位置に気をつけます。

り

もりの　なか
りすが
りんごを
たべて　いる

「はらい」をきちんと書きます。文字を縦長に書きます。

る

るすばん　して　いる
かえるの　こども
おかあさんは　いつ
かえるのかな

「おれ」「おりかえし」「結び」に注意。

●おうちのかたへ●「や・ゆ・よ」は小さく書く「ゃ・ゅ・ょ」があるので，ます目にきちんと書かせます。「ゆ」を正しく書くのはむずかしいので，お手本をよく見て練習させましょう。

れ

れんがで　できた
いえの　まえ
れんげが　さいた
きれいだね

れ（とめる）　れ（はらう）
「おれ」と「おりかえし」に気をつけて書きます。

ろ

ろばは　うたが　すき
じぶんの　うたを
ろくおんして　いる

ろ（はらう）
「3」のようにならないように書きます。

わ

わたあめを　たべながら
わなげを　する　わに

わ（とめる）　わ（はらう）
「おれ」と「おりかえし」に気をつけて書きます。縦棒はまん中より左側に書きます。



を

「を」は　ことばを　くっつける
ときに　つかいます。

は**を**　みがく。
て**を**　あらう。
くつ**を**　はく。

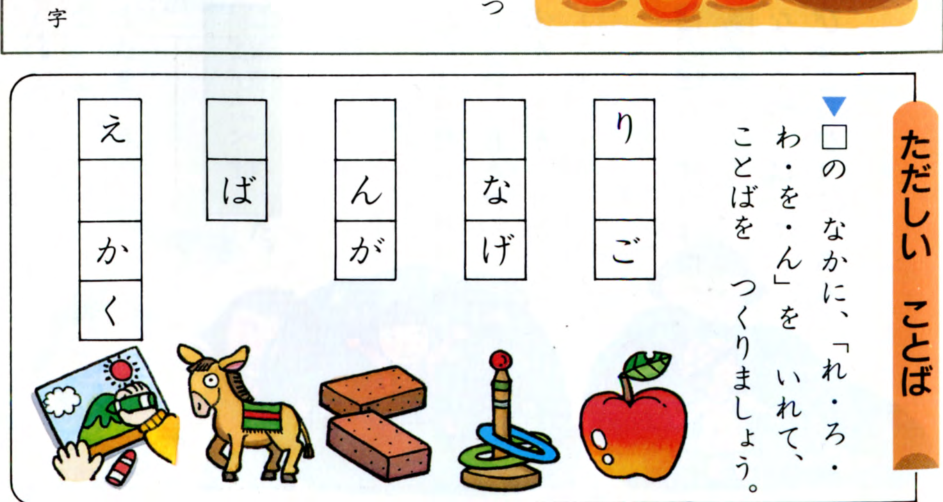
を（とめる）　を（とめる）　を（とめる）
下の部分をせまく書くと整います。縦長に書きます。

ん

「ん」は　ことばの　うえには　つきません。

し**ん**ぶ**ん**
みか**ん**
し**ん**か**ん**せ**ん**

ん（はらう）
おりかえしに気をつけて書きます。字の形が△になるように。



ただしいことば

▼□の　なかに、「れ・ろ・わ・を・ん」を　いれて、ことばを　つくりましょう。

り□ご
□なげ
□んが
□ば
え□かく

゛や ゜が つく じ（だくおんと はんだくおん）

●しを よんで ゛や ゜が つく じに なれましょう。

がぎぐげご
ざじずぜぞ
だぢづでど
ばびぶべぼ

がっこう いく みち
げんきで あるく
ともだち おはよう
なかよく あそぼう

ぶんぶんごまに
べいごまあそび
おじいさんが
おしえて くれた
むかしの あそびに
ゆめが ある



ぱぴぷぺぽ

たんぽぽの
しろい わたげが
ぷか ぷか うかぶ

ぱらぱら ぽつぽつ
あめが ふる
ながぐつ はいて
ぴょこ ぴょこ あるく




ちいさく かく じ

●しを よんで ちいさく かく じに なれましょう。

ゃゅょ

しゃぼんだま とばし
しゃしんを とろう
しゅっしゅ しゅっしゅっしゅと
きしゃが はしる
きょうりゅう はしって
きょうそうだ
おしゃれな くじゃくは
おけしょうしてる
にんぎょうげき みて
じょうきげん



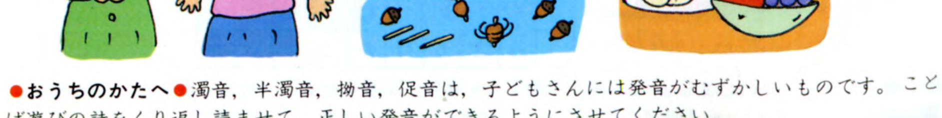
っ

くだものを
かって きて
きって たべた。

きのみを
ひろって
こまを つくった。

うたを うたって
なかよく なった。



●おうちのかたへ●濁音，半濁音，拗音，促音は，子どもさんには発音がむずかしいものです。ことば遊びの詩をくり返し読ませて，正しい発音ができるようにさせてください。

のばす おん

● ーは、のばす おんです。のばす おんの かきかたを おぼえましょう。

ゆうはんを かぞくで たべる

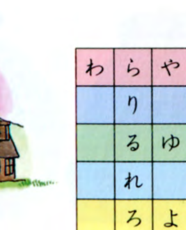
おとうさん
おかあさん
おばあさん
おじいさん
おにいさん
おねえさん
おとうと
いもうと





おかあさん・おばあさん ＞「アー」と のばす おん→「あ」と かきます。
おにいさん・おじいさん ＞「イー」と のばす おん→「い」と かきます。
ゆうやけ・ゆうはん ＞「ウー」と のばす おん→「う」と かきます。
おねえさん ―「エー」と のばす おん→「え」と かきます。
おとうさん・おとうと・いもうと ＞「オー」と のばす おん→「う」と かきます。





わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い
	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

「は」と「へ」と「を」

● つぎの ぶんを よんで みましょう。

あれは(ワ) はと(ハ)だ。

「は」の じには、「ハ」と「ワ」の ふたつの よみかたが あります。「ワ」は、ことばと ことばを つなぐ ときに つかいます。

○の なかに、「は」か「わ」を いれて みましょう。

◯たし◯ いちねんせいです。

● 「え」と「へ」

「へ」も、ことばを つなぐ ときには、「エ」と よみます。

へ(ヘ)びが こちらへ(エ) はって くる。

● 「お」と「を」

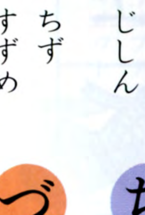
どちらも「オ」と よみますが、ことばを つなぐ ときには、「を」を つかいます。

かお(オ)を(オ) あらう。

「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」

● ふたつの ことばが くっついて できた ことばや、おとが つづく ときには、「ぢ」や「づ」を つかいます。





じ　じしゃく　じしん
ず　ちず　すずめ
ぢ　はな｜ぢ　ちぢむ
づ　おり｜づる　つづく

●おうちのかたへ●のばす音（長音）は，まず書き方の原則を覚えさせることが大切です。長音で誤りが多いのは，エ列長音とオ列長音です。「おねえさん」「こおり」「おおきい」「とおい」などは，書いて覚えさせるようにしましょう。助詞の「は・へ・を」は例文を使って何回も書くことが大切です。

かたかなの よみかき

○とめる ▽はねる ╱はらう ↗おる ＼まげる

	ア行	カ行	サ行
ア／カ／サ	**ア** アイロン アイスクリーム	**カ** カンガルー カスタネット	**サ** サンタクロース サッカー
イ／キ／シ	**イ** イヤホーン イヤリング	**キ** キャンプ キャベツ	**シ** シュークリーム シーソー
ウ／ク／ス	**ウ** ウクレレ ウエハース	**ク** クリスマス クッキー	**ス** スカート スパゲッティ
エ／ケ／セ	**エ** エプロン エレベーター	**ケ** ケーキ ケーブルカー	**セ** セロリ セーター
オ／コ／ソ	**オ** オムレツ オルゴール	**コ** コーヒー コアラ	**ソ** ソーセージ ソース

	タ行	ナ行	ハ行
タ／ナ／ハ	**タ** タクシー タンブリン	**ナ** ナイフ ナイター	**ハ** ハンバーグ ハム
チ／ニ／ヒ	**チ** チョコレート チンパンジー	**ニ** ニュース	**ヒ** ヒヤシンス ヒーター
ツ／ヌ／フ	**ツ** ツーピース ツナサンド	**ヌ** ヌガー カヌー	**フ** フォーク フィルム
テ／ネ／ヘ	**テ** テニス テレビ	**ネ** ネクタイ ネオン	**ヘ** ヘリコプター ヘルメット
ト／ノ／ホ	**ト** トランプ トマト	**ノ** ノート ノックアウト	**ホ** ホットケーキ ホームラン

●**おうちのかたへ**● かたかなには直線が多く使われています。この表で，かたかなで書くことばに親しませましょう。かたかなの語い数をふやすことが大切です。

マ　マラソン　マヨネーズ

ミ　ミシン　ミキサー

ム　ムームー　ゲーム

メ　メロン　メダル

モ　モノレール　モーターボート

ヤ　ヤッケ

ユ　ユーフォー　ユニホーム

ヨ　ヨット　ヨーグルト

ラ　ランドセル　ライオン

リ　リュックサック　リボン

ル　ルビー　ルーズリーフ

レ　レーンコート　レモン

ロ　ロケット　ロボット

ワ　ワイシャツ　ワッペン

ヲ　ン　パン　ハンカチ

゛や ゜の つく かたかな（だくおんと はんだくおん）

● かたかなにも ゛（てんてん）や ゜（まる）が つく ものが あります。
つぎの しを よんで、よみかたに なれましょう。

だくおん

ガギグゲゴ
ザジズゼゾ
ダヂヅデド
バビブベボ

ゴリラの　ゴンタは
バナナが　だいすき
ベンチに　すわって
じょうずに　たべる

カンガルーの　ルーは
ボタンが　だいすき
ベッドに　すわって
ドレスに　つける

はんだくおん

パピプペポ

わたしの　ペットは
プールが　だいすき
パチャ　パチャ　ピッチャン
ペチャ　ペチャ　ポッチャン

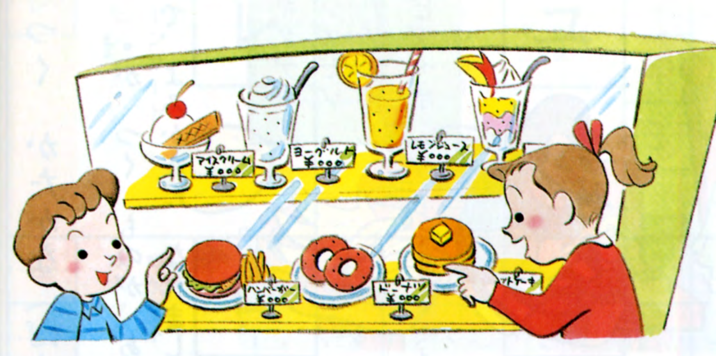
わたしの　ペットは
ワッペン　だいすき
ペタペタ　ペッタン
いっぱい　つける

●おうちのかたへ●かたかなで書く音にも濁音，半濁音があります。濁点（゛）半濁点（゜）の有無でまったくちがうことばになりますので，注意させましょう。（例　ベンチとペンチ）　かたかなのと
め・はね・はらいなどは，正しく確実に覚えるように練習させましょう。

のばす おんと ちいさく かく じ

●かたかなの のばす おんは、「ー」で かきあらわします。

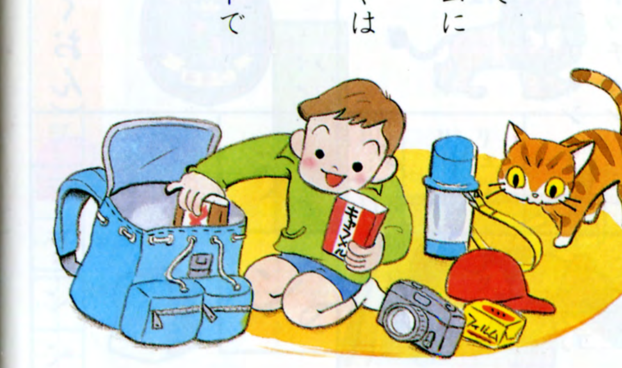
アイスクリーム
ヨーグルト
レモンジュースに
ハンバーガー
ドーナツ
ホットケーキ
シュークリーム
メニューに のってる
どの たべものも
みんな だいすき



●ちいさく かく じが はいる ことばも あります。

ツ	ヤ	ユ	ヨ	ア	イ	ウ	エ	オ

リュックサックに
キャラメル いれて
カメラに フィルムに
チョコレート
キャンプの したくは
もう できた
あしたは ファイトで
しゅっぱつだ



かたかなの かきかた

かきじゅん

ソ うえから したへ かきはじめが よこに ならぶ ←→ ン したから うえへ かきはじめが たてに ならぶ

ツ うえから したへ ひだりから みぎへ ←→ シ したから うえへ うえから したへ

じの かたち

コ でない ←→ ユ でる

ヌ でない ←→ ヌ でる

にて いる じ

ナ と メ
ニ と エ
ワ と ク
ユ と コ
テ と チ
ア と マ
セ と ヤ
ケ と ク

●゛（てんてん）や ゜（まる）は、いちばん さいごに かきましょう。

ゲ

゛（てんてん）は したの 、（てん）から かきます。

●おうちのかたへ● 字形が似ているためにまちがえやすいかたかなの字を掲げてあります。かたかなを書き順どおり正しく書くことが、正しい漢字を書くことにつながります。かたかなの，のばす音の書きかたは，ひらがなの場合とはちがっています。のばす音は長音記号（ー）を使うことを意識させましょう。

かたかなで　かく　ことば

● かたかなで　かくのは、がいこくから　きた　ことば（＝がいらいご）と、ものおとや　なきごえを　あらわす　ことばです。

① がいこくの　とちの　なまえ

アメリカ、ニューヨークなど、がいこくの　くにや　まちの　なまえ、アルプス、ナイルなど、がいこくの　やまや　かわなどの　なまえは、かたかなで　かきます。

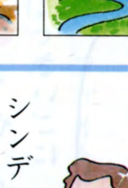
アメリカ・ワシントン
スイス・アルプス
アメリカ・サンフランシスコ
インド　ガンジスがわ
みなみアメリカ　アマゾンがわ
にっぽん
フランス・パリ
アフリカ　サハラさばく

② がいこくの　ひとの　なまえ

ジョンや　メリーなど、がいこくの　ひとの　なまえは、かたかなで　かきます。











ファーブル
エジソン
リンカーン
アンデルセン
シンデレラ
ピーター・パン

③ がいこくから　きた　ことば

オランダご
ゴム
ガラス
ランドセル
コーヒー

えいご
スプーン
スカート
ケーキ

ポルトガルご
ボタン
カステラ
パン

イタリアご
ピアノ

ドイツご
ガーゼ

フランスご
クレヨン

がいこくから　きた　ことばは　かたかなで　かきます。どんな　ことばが　ありますか。さがして　みましょう。

④ いろいろな　ものおと

ものおと
ガチャン・トントン
コツコツ・ポチャン

⑤ どうぶつの　なきごえ

なきごえ
モー・メェー・ワンワン
チュンチュン・オギャー

●おうちのかたへ● 片仮名は，１・２年で文字の読み書きを習得し，片仮名で書く語の種類を学習します。片仮名で書く語を区別するのはむずかしいので，常に語句として学習し，また普段から目に触れるようにすることが大切です。チョコレートやチューリップなど，のばす音（ー）の書き方は特にむずかしいので，日常生活の中で意識づけさせるようにします。

一年生の漢字学習法

○学校での勉強

一年生では、八十字の漢字を読み、順次書くようにしていきます。

まず、小学校の文字学習の基礎として、机にすわって書く姿勢や、鉛筆の持ち方を指導します。

次に、平仮名・片仮名をふくむ文字学習の入門として、文字の形を、長方形・四角形・三角形などのおおまかな形としてとらえるために、いろいろな図形をかきます。

漢字学習は、一学期の後半か二学期の初めから始まりますが、横・縦・はね・はらい・おれなどの画や、点など、漢字の構成要素をしっかり意識しながら、漢数字などの簡単な字の学習から入っていきます。また、筆順なども意識して書く習慣をつけさせます。

○家庭学習のポイント

①体で覚える筆順

一年生は、繰り返し練習する学習に興味・関心のある時期です。

この時期に、基礎的漢字の筆順を、理屈ではなく、体で覚えさせることが最も大切です。

②はね・とめ・はらいの指導

その漢字がテストで正解不正解ということではなく、教科書と見比べながら、「ここははらう」「ここははねる」ということをきちんと指導することも大切です。そうした学習を通して、「どこははねなくてはいけない」とか、「こういうところははらう」ということを理屈や知識としてではなく、一年生なりに漢字の形を自分なりにイメージし、獲得することになります。

③漢字の意味の理解

漢字を学習すると、その漢字を使いたくてしかたがなくなるのが一年生です。そのため、「木」を学習すると「先生が木ました。」「ようふくを木ます。」といった使い方をしだします。

これは、漢字の「木」の音を、平仮名の使い方と同じものとして使ってしまう誤りです。

漢字には、平仮名と違って、一字一字意味のあることを指導する必要があります。そのとき、「木」に関係する「林」「森」などを例にしたり、場合によっては子どもの生活に密着した、たとえば「松・梅・桜」などを例にして、「木」が植物の木であることを理解させることも必要です。

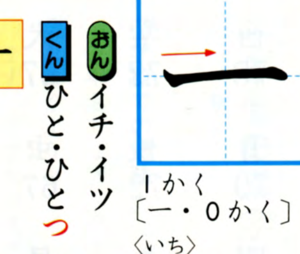


一年生でならう字

一

おん イチ・イツ
くん ひと・ひとつ

1かく 〔一・0かく〕〈いち〉



いみ ❶数の1。ひとつ。「一まい・一本・一ぴき・一わ・一回・一度」❷はじめ。「一年生・一月・一ばん・一とう」❸おなじ。「一心・一定・同一」

つかいかた ▼テストのこたえを、一つまちがえた。▼犬の子を、一ぴきもらった。▼かけっこで、一とうになりました。▼一月のたんじょう日で、年を一つとった。▼おんどを一定(=おなじ)にする。

さんこう とくべつなよみかた。「一日」「一人」

なりたち 一(=いっぽんのよこせん)で、ひとつをあらわした字。

二

おん ニ
くん ふた・ふたつ

2かく 〔二・0かく〕〈に〉

いみ ❶数の2。ふたつ。「二まい・二本・二ひき・二回・二わ」❷にばんめ。「二学期・二月」

つかいかた ▼おにぎりを二つたべました。▼ねえさんと年が二つはなれている。▼えんぴつを二本けずった。▼みちが二またにわかれている。▼夏休みがおわり、もうすぐ二学期がはじまります。

さんこう とくべつなよみかた。「二十歳(二十)」「二十日」「二人」「二日」

なりたち 二(=にほんのよこせん)で、ふたつをあらわした字。

三

おん サン
くん み・みつ・みっつ

3かく 〔一・2かく〕〈いち〉

いみ ❶数の3。みっつ。「三びき・三本・三回・三ば(三わ)・三台・三角形・三しん・三日・三日月」❷さんばんめ。「三学期・三女・三男」

つかいかた ▼メロンを三つもらった。▼きってを三まいかいました。▼にわに、ひよこが三ばいます。▼三きゅう三しんしてしまった。▼三かくパスのれんしゅうをする。▼うちには、じてん車が三台ある。

さんこう とくべつなよみかた。「三味線」

なりたち 三(=さんぼんのよこせん)で、みっつをあらわした字。

四

おん シ
くん よ・よつ・よっつ・よん

5かく 〔口・2かく〕〈くにがまえ〉

いみ ❶数の4。よっつ。「四人・四つかど・四かくい・四わ・四ひき・四さつ・四本・四方・四季」❷よんばんめ。「四月・四男」

はらう

つかいかた ▼ぼくは四人きょうだいです。▼四つかどのポストに、はがきを入れた。▼ねこの子が、四ひきもうまれました。▼四かくいテーブルで、ごはんをたべます。▼ぼくのせきは、まえから四ばんめです。▼四月にひっこしをしました。

なりたち 口(=くち)と八(=わかれるかたち)をあわせて、よっつをあらわした字。

かんじクイズ 「一」を「壱」とかくことがある。これはなんのため?

一年

五

4かく
〔二・2かく〕
〈に〉

おん ゴ

くん いつ・いつつ

五 五 五 五

いみ ❶数の 5。いつつ。「五こ・五ひき・五本・五わ・五人・五円・五名」❷ごばんめ。「五月五日・五年生」



つかいかた ▼おとうとは 五さいです。▼かぞくは、みんなで 五人です。▼五月五日は、子どもの日です。▼ゆうがた 五じに、いえに かえった。

さんこう とくべつな よみかた。「五月晴れ」「五月雨」

ちゅうい 「いつつ」を、「五つつ」と かかない。

なりたち X(=ふたつの せんが まじわる ようす)から、五の 字に なった。

六

4かく
〔八・2かく〕
〈はち〉

おん ロク

くん む・むつ・むっつ・むい

六 六 六 六

いみ ❶数の 6。むっつ。「六人・六足・六本・六わ(六ぱ)・六ひき(六ぴき)・六円」❷ろくばんめ。「六じ・六年生」

つかいかた ▼すずめが 六わ、でんせんに とまって います。▼一はこ 六本入りの いろえんぴつを かった。▼わたしの たんじょう日は、六月六日です。▼ゆうがた 六じから テレビを 見ます。▼六年生の 人たちが、校ていで マラソンを して いる。

なりたち 穴(=おおいを した かたち)から 六の 字に なり、むっつを あらわす。

七

2かく
〔一・1かく〕
〈いち〉

おん シチ

くん なな・ななつ・なの

七 七

いみ ❶数の 7。ななつ。「七人・七さつ・七わ(七わ)・七ひき(七ひき)・七本(七本)・七五三」❷しちばんめ。「七月七日」

つかいかた ▼金ぎょを 七ひき かって いる。▼あすで 七つに なります。▼秋に、七五三の おいわいを します。▼七月七日は、七夕です。

さんこう とくべつな よみかた。「七夕」

ちゅうい 「ひち」と よまない こと。

なりたち 七(=十の 字を 切る かたち)から 七の 字に なり、ななつを あらわす。

八

2かく
〔八・0かく〕
〈はち〉

おん ハチ

くん や・やつ・やっつ・よう

八 八

いみ ❶数の 8。やっつ。「八本(八本)・八わ(八ぱ)・八ひき(八ぴき)・八重ざくら」❷はちばんめ。「八月八日・八じ」

つかいかた ▼たこの 足は、八本 ある。▼八重ばが かわいらしい 女の子。▼きげんが わるくて、八つあたり(=だれに たいしても おこること)を した。▼まいあさ 八じには、家を 出ます。

さんこう とくべつな よみかた。「八百屋」

なりたち 八(=みぎと ひだりに わける かたち)から 八に なり、やっつを あらわす。

九

おん キュウ・ク

くん ここの・ここのつ

2かく 〔乙・1かく〕〈おつ〉



いみ ❶数の 9。ここのつ。「九わ・九ひき・九本・九回・九人(九人)・九重」❷きゅうばんめ。「九月九日」

つかいかた ▼ねえさんは、ぼくより 九つも 年上です。▼さんすうで、九九を ならった。▼にわに、にわとりが 九わ います。▼やきゅうは、九人ずつで おこないます。▼テストは、九時から はじまります。▼ぼくの たんじょう日は 九月九日です。

ちゅうい 「九のつ」と かかない こと。

なりたち 乚(=手を まげた かたち)から 九→九と なり、ここのつを あらわす。

十

おん ジュウ・ジッ

くん とお・と

2かく 〔十・0かく〕〈じゅう〉

いみ ❶数の 10。とお。「十円・十本・十ぴき・十わ(十ぱ)・十色」❷じゅうばんめ。「十月十日」

つかいかた ▼おにごっこの おにが、目を つぶって 十 かぞえる。▼けんすいが 十回 できた。▼十月十日は ぼくの たんじょう日だ。

さんこう とくべつな よみかた。「二十」「二十歳」「二十日」

ちゅうい 「十本」「十ぴき」「十ぱ」は、「じっ」と よむ。「じゅっ」とは よまない。

なりたち |(=ふとい せん)の ●(=まんなかが ふくれて)十→十と なった。

こたえ「見ざる・聞かざる・言わざる」。よけいなことはするなといういましめ。

百

おん ヒャク

くん ―

6かく 〔白・1かく〕〈しろ〉

いみ ❶十の 十ばい。「百点・百円玉・百本(百本)・百ぴき(百ひき)・百ぱ(百わ)・百回」❷数が おおい。「百貨店・百科じてん」

つかいかた ▼こくごの テストで、百てんを とった。▼百円玉が 百こ たまった。▼百科じてんには、たくさんの ことがらが のって います。

さんこう とくべつな よみかた。「八百屋」

ちゅうい 「しゃく」と よまない こと。

なりたち 白(=しろ)と 一(=いち)を くみあわせて 百と なり、ひゃくを あらわす。

千

おん セン

くん ち

3かく 〔十・1かく〕〈じゅう〉

いみ ❶百の 十ばい。「千円さつ・千本・千びき・千ば(千わ)・千両ばこ」❷ひじょうに たくさん。「千草・千人力・千羽づる」

つかいかた ▼この たいいくかんには、千人が はいれる。▼千円さつを 出して、おつりを もらう。▼ともだちの びょうきが なおるように、みんなで 千羽づるを おった。▼きょうは、すもうの 千秋楽(=さいごの 日)です。▼千代紙で、人ぎょうを つくった。

なりたち 亻(=人に 一を くわえた かたち)から 千と なり、千の 字に なった。

かんじクイズ「五大州」は、アジア・ヨーロッパ・アフリカ・アメリカ、あと一つは？

日

おん ニチ・ジツ

くん ひ・か

4かく 〔日・0かく〕〈ひ〉



いみ ❶たいよう。ひの ひかり。「お日さま・日あたり・日光」❷ひるま。「日夜・日中」❸いちにち。「祭日・よく日」❹「日本」の りゃく。「日米」❺「日曜日」の こと。

つかいかた ▼日あたりの いい へや。▼日光よくを する。▼五月三日は しゅく日です。▼日曜日に ハイキングに 行った。

さんこう とくべつな よみかた。「明日」「昨日」「今日」「一日」「二十日」「日和」「二日」

なりたち ☉(=お日さまの かたち)から、日→日 と なって できた 字。

月

おん ゲツ・ガツ

くん つき

4かく 〔月・0かく〕〈つき〉

いみ ❶つき。つきの ひかり。「月見・月夜・まん月・三日月・名月」❷一年を 十二に わけた ひとつ。「正月・年月・今月」❸「月曜日」の こと。

つかいかた ▼まんまるい お月さま。▼三日月の かたちの クッキー。▼今月の もくひょう。▼十月には、うんどう会が ある。▼こんしゅうは、月・火が 休みです。

さんこう とくべつな よみかた。「五月晴れ」「五月雨」

なりたち ☽(=三日月の かたち)から、☽→月と なって できた 字。

火

おん カ

くん ひ・*ほ

4かく 〔火・0かく〕〈ひ〉



いみ ❶もえて いる もの。ほのお。「火事・火山・花火・消火」❷あかり。「灯火・火かげ」❸「火曜日」の こと。

つかいかた ▼火が まっかに もえて いる。▼火事に なったら たいへんだから、火の 用心を しよう。▼日本には、火山が おおい。▼夜、みんなで 花火を した。▼ふねの いさり火(=魚を さそいあつめる 火)。▼火曜日に テストが ある。

なりたち 火(=ほのおの かたち)から、火→火→ 火と なって できた 字。

水

おん スイ

くん みず

4かく 〔水・0かく〕〈みず〉

いみ ❶みず。また、みずのような もの。「水道・水車・水えい・水いろ・水あめ・雨水」❷おおみず。「水がい・こう水」❸すもうで しょうぶが ながびいた とき、しばらく 休ませる こと。「水入り」❹「水曜日」の こと。

つかいかた ▼つめたい 水を のむ。▼水道の じゃぐちを ひねる。▼青々と した 水田が ひろがる。▼こう水に おそわれた。▼水入りの 大ずもう。▼あしたは 水曜日だ。

なりたち 氵(=ながれる みずの ようす)から、水の 字に なった。

かんじクイズ 「七福神」の中で、いつもにこにこわらっているかみさまは？

こたえ オセアニア。

一年

木

おん ボク・モク
くん き・こ

4かく〔木・0かく〕〈き〉

木 木 木 木

いみ ❶たちき。き。「大木・草木・木のは」❷ざいもく。「木材・木馬・木目・木刀」❸「木曜日」の こと。

つかいかた ▼大きな 木が 立って いる。▼すずしい **木かげ**で、ひとやすみしよう。▼これは みごとな けやきの **大木**だ。▼おとうとと **つみ木**で あそんだ。▼**丸木ばし**を わたる。▼ピアノの れんしゅうが、**木曜日**に ある。

さんこう とくべつな よみかた。「木綿」

なりたち (=じめんに はえて いる 木の かたち)から、→木と なった 字。

金

おん キン・コン
くん かね・かな

8かく〔金・0かく〕〈かね〉

金 金 金 金 金 金 金 金

いみ ❶きん。こがね。「金貨・金山」❷かなもの。「金づち・金ぞく・はり金」❸おかね。「金もち・金がく・きふ金」❹「金曜日」の こと。

つかいかた ▼オリンピックで、**金メダル**を とった。▼みほさんの えが、てんらん会で **金しょう**に えらばれた。▼**金色**(=金いろ)に かがやく **金貨**の 山。▼かばんの **金具**が とれた。▼**お金**を きふする。▼お寺の **金堂**(=ほとけさまを まつった ところ)。

なりたち (=土と きんぞくの つぶと の くみあわせ)が、→金と なった 字。

一年

日よう日
月よう日
火よう日
水よう日
木よう日
金よう日
土よう日

土

おん ド・ト
くん つち

3かく〔土・0かく〕〈つち〉

土 土 土

いみ ❶つち。どろ。「土足・赤土・ねん土」❷じめん。「土地」❸くに。ちほう。「国土・きょう土」❹「土曜日」の こと。

つかいかた ▼スコップで **土**を ほる。▼**土足**で あがっては いけません。▼**ねん土**で、おめんを つくった。▼大雨で、**土砂くずれ**が おこった。▼あいた **土地**を、ちゅう車じょうに する。▼みどりの おおい **国土**。

さんこう とくべつな よみかた。「土産」

なりたち (=つちを もりあげた かたち)から、→→土と なった 字。

上

3かく 〔一・2かく〕 ↕下 50 〈いち〉



おん ジョウ・*ショウ

くん うえ・うわ・かみ・あげる・あがる・のぼる・*のぼせる・*のぼす

上 上 上

いみ ❶うえ。「地上・水上」❷たかい ところ。「ちょう上」❸はじめの ほう。「上流・川上」❹あがる。「上りざか・上京・向上」❺すぐれて いる。「上品・上質」

つかいかた ▼いすの 上に、上着を おいた。▼山の ちょう上に たどりついた。▼川上から、ふねで 川下りを した。▼かいだんを 上って、屋上に 上がる。▼上品な 人。

さんこう とくべつな よみかた。「上手」

なりたち 二(＝下じきの うえに ものが ある かたち)から、上↓上と なった 字。

下

3かく 〔一・2かく〕 ↕上 50 〈いち〉

おん カ・ゲ

くん した・しも・*もと・さげる・さがる・くだる・くだす・くださる・おろす・おりる

下 下 下

いみ ❶した。「上下・地下」❷ひくい。「年下・部下」❸おわりの ほう。「下流・川下・以下」❹さがる。さげる。「下りざか」❺おとる。「下品」

つかいかた ▼木の 下。▼台から 下りる。▼地下鉄に のる。▼年下の 子の めんどうを みる。▼川下に むかう。▼きおんが 下がる。▼ゆるい 下りざか。▼下品な たいど。

さんこう とくべつな よみかた。「下手」

なりたち 二(＝おおいの したに ものが ある いみ)から、下↓下と なった 字。

左

5かく 〔エ・2かく〕 ↕右 51 〈こう〉

おん サ

くん ひだり

左 左 左 左 左

いみ ひだり。「左手・左きき・左むき・左せつ・左右・右左」

つかいかた ▼つぎの かどを 左に まがると、えきが ある。▼日本の どうろでは、車は 左がわつうこうです。▼この こうさてんは、左せつ(＝左へ まがる こと)きんしです。▼どうろを おうだんする ときは、左右を よく 見よう。

さんこう もと「左」と かいたので、「一」を 先に、「ノ」を あとに かくと、おぼえよう。

なりたち ナ(＝ひだり手)と エ(＝しごと)を くみあわせて、左↓左と なった 字。

右

5かく 〔口・2かく〕 ↕左 51 〈くち〉

おん ウ・ユウ

くん みぎ

右 右 右 右 右

いみ みぎ。「右手・右がわ・右せつ・右岸・左右・右左」

つかいかた ▼右手に 赤い はた、左手に 白い はたを もつ。▼しんごうを 右せつ(＝右に まがる こと)すると、こうえんが ある。▼きょろきょろと、左右を 見まわす。▼日本では、人は 右がわつうこうです。

さんこう もと「右」と かいたので、「ノ」を 先に、「一」を あとに かくと、おぼえよう。

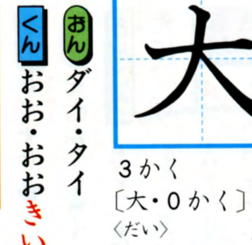
なりたち ナ(＝みぎ手)と ロ(＝くち)を くみあわせて、右↓右と なった 字。

かんじクイズ じだいげきにでてくる「十手」はなんとよむ？

こたえ 「ノ」を先にかく。

一年

大



おん ダイ・タイ

くん おお・おお**きい**・おお**いに**

3かく 〔大・0かく〕〈だい〉 ↕小 53

大 大 大

いみ ❶おおきい。「大木・大地・大ごえ・大空」❷すぐれている。たいせつな。「大臣・大学者・大物・大事・大役」❸かずや りょうが おおい。ひじょうに。「大ぜい・大すき・大よろこび・大せいこう」

（はらう）

つかいかた ▼校ていに、見上げるような **大**木が 立って いる。▼**大きい** こえで はなす。▼みんな **大わらい**した。▼**大事**に して いる 本。▼おたのしみ会は、**大いに** もりあがった。▼テレビゲームが **大すき**だ。

なりたち 𠀋（＝手足を ひろげて 立って いる 人の すがた）から、大→大と なった 字。

中

おん チュウ

くん なか

4かく 〔｜・3かく〕〈ぼう〉

中 中 中 中

いみ ❶ものの うちがわ。「中に・中み・文中・車中」❷あいだ。「中間・中立」❸まんなか。「中心・中央」❹なかほど。「中流・中じゅん・中休み」❺とちゅう。「じゅぎょう中」

（はらう）

つかいかた ▼へやの **中**は あたたかかった。▼じしんが あって、**夜中**に 目が さめた。▼町の **中央**に、川が ながれて いる。▼五月の **中じゅん**に、遠足が ある。▼ねえさんは、らいねん **中学生**に なる。

なりたち 𠁧（＝はたざおを わくの まんなかに 立てた かたち）から、中→中と なった。

一年

上 にいさんは

下 ぼくは

大きい

小さい

中ぐらい

右 人は

左 車は

小

おん ショウ

くん ちい**さい**・こ・お

3かく 〔小・0かく〕〈しょう〉 ↕大 52

小 小 小

いみ ❶ちいさい。「小犬・小鳥・小川・小学校・小数」❷すこし。「小食・小休止（＝すこし やすむ こと）」

つかいかた ▼いもうとは まだ **小さい**ので、あまえて いる。▼わたしの 家では、**小犬**と **小鳥**を かって いる。▼きれいな **小川**が ながれて います。▼わたしは **小学一年生**です。▼わたしの おかあさんは、**小食**（＝しょくじの りょうが すくない こと）です。

なりたち 小（＝ぼうを けずって ほそく ちいさく する ようす）を あらわした 字。

手

おん シュ
くん て・*た

4かく〔手・0かく〕〈て〉

手手手手

いみ ❶て。てのひら。「はく手・手足」❷もつ ところ。「とっ手」❸はたらく 人。「うんてん手」❹かいた もじ。「手紙」❺やりかた。「手だん」

つかいかた ▼いえの 手伝いを する。▼うまの 手づなを とる。▼やきゅうの せん手。▼びょういんで、手じゅつを する。▼ともだちに 手紙を かく。

さんこう とくべつな よみかた。「上手」「下手」「手伝う」

なりたち 手(＝ての かたち)から、手→手と なった 字。

足

おん ソク
くん あし・たりる・たる・たす

7かく〔足・0かく〕〈あし〉

足足足足足足足

いみ ❶あし。「土足・足あと・手足・足くび」❷あるく。「遠足・足なみ・いそぎ足」❸たりる。「不足・まん足」❹ひとそろいの はきものを かぞえる ことば。「一足」

つかいかた ▼ふろ場で 足を あらう。▼足なみを そろえて あるく。▼あしたは 遠足だ。▼おかねが すこし 足りない。▼百点を とって、まん足だ。▼げんかんに、くつが なん足も ならんで いる。

なりたち (＝ひざから あしの さきまでを あらわした かたち)から、→足と なった 字。

目

おん モク・*ボク
くん め・*ま

5かく〔目・0かく〕〈め〉

目目目目目

いみ ❶め。「目玉」❷目で みる。「目つき・目測」❸ねらい。「目てき・目ひょう」❹みだし。「目次・品目・目ろく」❺きざまれた もの。「目もり」

つかいかた ▼けさは、はやく 目が さめた。▼目つきの するどい 人。▼ぼうしを 目ぶか(＝目が かくれる ほど)に かぶる。▼一学期の 目ひょうを きめる。▼あたらしい 本の 目次を ながめる。▼ものさしの 目もりを よむ。

なりたち (＝めの かたち)から、→目→目と なった 字。

耳

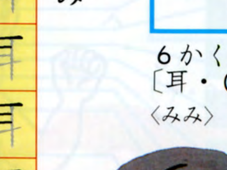
おん *ジ
くん みみ

6かく〔耳・0かく〕〈みみ〉

耳耳耳耳耳耳

いみ ❶みみ。「耳たぶ・耳もと」❷ものの はし。「パンの 耳」❸きく。「耳ざわり・耳なれる・聞き耳・はつ耳」

つかいかた ▼耳を すまして、音を きく。▼耳もとで ささやく。▼パンの 耳を きりおとす。▼かべの むこうから、耳ざわりな 音が する。▼森君が 転校するなんて、はつ耳だ。▼耳なりが するなら、耳鼻科で みて もらいなさい。



なりたち (＝みみの かたち)から、→→耳と なった 字。

かんじクイズ むかしからこわいとされていたもの、地震・雷のほかあと二つは？

こたえ 大みそか。



3かく
〔口・0かく〕
〈くち〉

おん コウ・ク

くん くち

口口口

いみ ❶くち。「口ぶえ・口元・口調」❷ものの だしいれや、人が でいりする ところ。「出口・入り口・まど口・じゃ口」❸人の かず。「人口」

つかいかた ▼口を 大きく あけて うたう。▼口ぶえを ふきながら あるく。▼きびしい 口調(＝口の ききかた)で、ちゅういする。▼みなさん、出口で おしあわないで ください。▼いろいろな 国の 人口(＝人の 数)を しらべる。

なりたち (＝くちの かたち)から、→口と なった 字。

● からだの よびな

まゆ
耳
はな
は
した
あご
くび
かた
むね
すね
あたま
目
ほお
口
かお
うで
はら
へそ
手
ゆび
足

一年

人

2かく
〔人・0かく〕
〈ひと〉

おん ジン・ニン

くん ひと

人人

いみ ❶にんげん。ひと。「人生・名人・人形・人手」❷人の 数を かぞえる ことば。「五人」

つかいかた ▼あの 人は とても やさしい。▼人通りの おおい 道を あるく。▼おとうさんは、ものまねの 名人だ。▼りっぱな 人間に なりたい。▼女の子が 三人 います。

さんこう とくべつな よみかた。「大人」「一人」「二人」「若人」

なりたち (＝立って いる ひとを よこから みた ようす)から、→→人と なった 字。

子

3かく
〔子・0かく〕
〈こ〉
↕親 97

おん シ・ス

くん こ

子子子

いみ ❶こども。むすこ・むすめ。「子ねこ・親子・子そん・王子」❷ひと。「女子・男子」❸ものの なまえや じょうたいを あらわす ことばの 下に つける ことば。「様子・調子」❹たね。「種子」❺小さい。こまかい。「原子」

つかいかた ▼子犬が とびまわる。▼なかの よい 親子。▼先生は 女子大出です。▼どうも 様子が へんだ。▼花の 種子を とる。

さんこう とくべつな よみかた。「迷子」「息子」

なりたち (＝ちいさい こどもの かたち)から、子と なった 字。

一年

女

おん ジョ・*ニョ・*ニョウ

くん おんな・*め

3かく
〔女・0かく〕
〈おんな〉
↕男 58



いみ ❶おんな。「女子・女性」❷むすめ。おんなのこ。「王女・長女・次女・三女・一男一女」

つかいかた ▼女子バレーのせん手。▼女子校にかよう。▼小さな女の子。▼げきで、女神のやくをする。▼女ゆうになるのがゆめです。▼うつくしい天女のまいをまう。▼外国の王女が、日本をおとずれた。

さんこう とくべつなよみかた。「乙*女」「早乙*女」

なりたち →(=おんなの人のからだつき)から、→女となった字。

男

おん ダン・ナン

くん おとこ

7かく
〔田・2かく〕
〈た〉
↕女 58

いみ ❶おとこ。「男子・男女・男性・大男・山男」❷むすこ。おとこのこ。「長男・次男・三男」

つかいかた ▼げんきな男の子がうまれました。▼男子と女子にわかれて、ドッジボールをした。▼わたしの父は、長男です。▼おじは、山のぼりがすきな山男だ。

なりたち 田(=た)と力(=ちから)をくみあわせてできた字。

名

おん メイ・ミョウ

くん な

6かく
〔口・3かく〕
〈くち〉

いみ ❶もののよびな。なまえ。「名字・地名・本名・題名」❷ひょうばんがたかい。「名物・名所・有名」❸すぐれている。「名人・名作・名案」❹人数をかぞえることば。「三十名」

つかいかた ▼名ふだをつける。▼名字と名まえをあわせて、氏名という。▼名物のおまんじゅうをもらう。▼父はつりの名人だ。▼女子は、全校で二百名います。

さんこう とくべつなよみかた。「仮名」「名残」

なりたち →→名 三日月と口をあわせてできた字。

年

おん ネン

くん とし

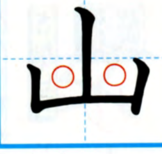
6かく
〔干・3かく〕
〈ひる〉

いみ ❶としつき。一ねん。「年月・年末・新年・去年」❷とし。ねんれい。「年少・青年・少年・年下」

つかいかた ▼新年のあいさつをする。▼来年の四月には、二年生になります。▼木には、年りんがある。▼年末・年始の休みをとる。▼年上の人。▼ぼくには、同い年のいとこがいる。

さんこう とくべつなよみかた。「今年」

なりたち 禾(=いね)と人(=ひと)をくみあわせた字。いねがみのってから人にとり入れられるまでをあらわした。



山

おん サン
くん やま

3かく〔山・0かく〕〈やま〉

山 山 山

いみ ①やま。「山地・山中・富士山・山道・登山」②たかく つみあげた もの。「一山・山もり」

つかいかた ▼遠足で、山に のぼる。▼しずかな 山里の 村。▼夏休みに、父と 富士登山を した。▼山頂（＝山の いただき）で、日の出を おがんだ。▼とおくに、山みゃくが つらなって 見える。▼一山 五百円の みかんを かった。▼山もりの さくらんぼを たいらげた。

なりたち （＝三つの やまの かたち）から、→山と なった 字。

川

おん *セン
くん かわ

3かく〔川・0かく〕〈かわ〉

川 川 川

いみ かわ。「川上・川下・川口・谷川・河川・小川・天の川」

つかいかた ▼ふねで 川を 下る。▼川岸に、やなぎの 木が はえて いる。▼川上に むかって、川を さか上って いった。▼谷川の つめたい 水を のんだ。▼大がかりな 河川工事が はじまった。▼川ぞこまで 見える きれいな 小川に、めだかが およいで いる。

さんこう とくべつな よみかた。「川原」

なりたち →川 かわが ながれる ようすから できた 字。

林

おん リン
くん はやし

8かく〔木・4かく〕〈きへん〉

林 林 林 林 林 林 林 林

いみ ①木が たくさん はえて いる ところ。はやし。「山林・植林・森林・松林」②たくさん あつまって いる ようす。「林立」

つかいかた ▼林の なかの ほそい 道を あるく。▼松林の なかで、松ぼっくりを みつけた。▼夏休みに、林間学校へ いきます。▼森林に すむ どうぶつたち。▼高い えんとつが 林立して いる（＝たくさん ならんで いる）。

なりたち → → 林 木が ならんだ かたちから できた。

森

おん シン
くん もり

12かく〔木・8かく〕〈き〉

森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森 森

いみ 大きな 木が、たくさん おいしげって いる ところ。もり。「森林」

つかいかた ▼こんもりと した おみやの 森。▼森に かこまれた しずかな みずうみ。▼森で、きのこや 木のみを さがした。▼北の 国では、見わたす かぎり 森林が 広がって いる。

さんこう ふつう、林より たくさんの 大きな 木が しげった ところを 森と いう。

なりたち → → 森 木を 三つ あわせて できた 字。

かんじクイズ 「白寿」は、99さいのおいわいのこと。なぜこういうのかな？

こたえ うなぎ。

一年

● えから できた かんじ



田

5かく
〔田・0かく〕
〈た〉

おん デン

くん た

田田田田田

いみ ❶たんぼ。た。「水田・田うえ・田畑」❷いなか。こうがい。「田園・田舎」❸土の 中から さんぶつが とれる ところ。「油田」

つかいかた ▼田に うえる なえを そだてる。▼田うえに そなえて、田んぼを たがやす。▼青々と した 水田が ひろがって いる。▼田畑(＝たと はたけ)を たがやす。▼のどかな 田園の けしき。▼油田を ほる。

さんこう とくべつな よみかた。「田舎」

なりたち 田(＝四角に くぎった たんぼの かたち)から、田→田と なった 字。

一年

空

8かく
〔穴・3かく〕
〈あなかんむり〉

おん クウ

くん そら・あく・あける・から

空空空空空空空空

はらう

いみ ❶そら。「青空・大空・空気・空中」❷なかみが ない。からっぽ。むだ。「空ばこ・空き地・空せき・空らん・空車・真空・空ぶり」❸ひこうきの こと。「空港」

つかいかた ▼くも ひとつ ない 青空。▼空気は すんで いる。▼空きかんを あつめる。▼空っぽの はこ。▼空車(人が のって いない 車)が、三台 ならんで いる。▼空港へ 見おくりに いく。

なりたち 穴(＝あな)と 工(＝つきぬける)を くみあわせた 字。

雨

8かく
〔雨・0かく〕
〈あめ〉

おん ウ

くん あめ・あま

雨雨雨雨雨雨雨雨

はねる

いみ あめ。あめふり。「雨天・長雨・大雨・雨やどり・雨水・雨ぐつ・風雨・降雨量・梅雨(ばいう・つゆ)」

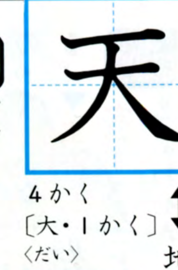
つかいかた ▼大つぶの 雨が ふって きた。▼梅雨に 入ってから、雨もようの 日が つづいて いる。▼木の 下で、雨やどりを する。▼ゆうがた 雨戸を しめる。▼風雨が はげしく なって きた。

さんこう とくべつな よみかた。「五月雨・時雨・梅雨・小雨・春雨」

なりたち 雨(＝あめが ふる ようす)から、雨→雨と なった 字。

かんじクイズ あて字で「百足」とかく、いきものがいる。なんだろう？

こたえ 100から1をひくと99て、百の上のよこぼう「一」をとると白だから。



天

4かく 〔大・1かく〕〈だい〉 ↕ 地 121

おん テン

くん *あめ・あま

天天天天

いみ ❶そら。てんき。「天地・天体・天気・天こう」❷かみさま。「天使・天国」❸しぜんの きまり。「天災」❹うまれつき。「天才・天性」

つかいかた ▼天にも のぼるような 気もち。▼よい 天気が つづく。▼天の川が、きれいに 見える。▼天使のような やさしい 人。▼ちえを 出しあって、天災(=しぜんに よる さいがい)に そなえる。▼サッカーの 天才。

つきでない

なりたち (=手足を ひろげた 人の 上に 一の しるしを つけた かたち)から、→天と なった 字。



気

6かく 〔气・2かく〕〈きがまえ〉

おん キ・ケ

くん —

気気気気気気

いみ ❶くうき。ガス。「気体・気温・天気・気球・湯気」❷こころの はたらき。こころもち。「元気・勇気・気分」❸ようす。「気配・景気・気品」

つかいかた ▼タイヤに 空気を 入れる。▼いもうとは、勝気な せいかくだ。▼元気を 出す。▼わすれものに 気が ついた。▼うしろに、人の 気配が した。

さんこう とくべつな よみかた。「意気地」

なりたち →氣(気) もとの 字は「氣」。米を ふかす ときの ゆげの かたちから できた。

夕

3かく 〔夕・0かく〕〈ゆう〉 ↕ 朝 89

おん *セキ

くん ゆう

夕夕夕

いみ ゆうぐれ。ゆうがた。「夕方・夕立・夕日・夕やけ・夕かん・夕食・夕はん・夕ぐれ・夕顔」

つかいかた ▼いえに かえる とちゅうで、はげしい 夕立に あった。▼まっかな 夕日が しずむ。▼きれいな 夕やけを 見た。▼けんこうな からだは、一朝一夕(=わずかな 日にち)には できない。

さんこう とくべつな よみかた。「七夕」

なりたち (=三日月の かたち)から、→夕と なった 字。月が 出る よると いう いみを あらわす。

花

7かく 〔艹・4かく〕〈くさかんむり〉

おん カ

くん はな

花花花花花花花

いみ ❶草や 木の はな。「花だん・花びん・花見・花まつり・花わ・花たば」❷うつくしくて、りっぱな もの。「花火・花よめ」

つかいかた ▼きれいな 花を、花びんに さした。▼みんなで、クラスの 花だんに 草花の たねを まいた。▼ともだちの たんじょう日に、花たばを おくる。▼ゆうべ、かぞくで 花火を した。▼うつくしい 花よめいしょう。

なりたち 艹(=植物を あらわす かたち)と 化(=かの 音)を くみあわせた 字。

草

おん ソウ
くん くさ

9かく
〔艹・6かく〕
〈くさかんむり〉

草 草 草 草 草 草 草 草 草

いみ ❶くさ。「草原・水草・雑草・草花・草むら」❷したがき。「草案・草稿(＝文の したがき)」

つかいかた ▼広い **草原**を、うまに のって はしりまわる。▼**草花**を おし花に する。▼**牧草**を かりとる。▼**草案**(＝案の したがき)を ねる。

さんこう ㋐艹(くさかんむり)の つく 字の おおくは、植物に かんけいが ある。㋑と くべつな よみかた。「草履*」

なりたち 艹(＝植物を あらわす かたち)と 早(＝そうの 音)を くみあわせた 字。

竹

おん チク
くん たけ

6かく
〔竹・0かく〕
〈たけ〉

竹 竹 竹 竹 竹 竹

いみ しょくぶつの たけ。「竹やぶ・竹の子・青竹・竹林」

つかいかた ▼ほそい **竹**で、つり ざおを つくった。▼**竹やぶ**で、**竹の子**を さがす。▼**竹馬**に のって あそぶ。▼うらの 山に、**竹林**(＝竹の 林)が ある。▼**竹**を わったような(＝さっぱりと した せいかくの) 人。

さんこう とくべつな よみかた。「竹刀(＝けん道で つかう 竹で つくった 刀)」

なりたち ー ー 竹 二本の たけの かたちから できた。

犬

おん ケン
くん いぬ

4かく
〔犬・0かく〕
〈いぬ〉

犬 犬 犬 犬

いみ いぬ。「子犬・小犬・犬小屋・のら犬・番犬・野犬」

つかいかた ▼**犬**を さんぽに つれて いく。▼**子犬**が、まるく なって ねむって いる。▼**犬ぞり**で 北の国を はしる。▼おとうさんが、**犬小屋**を つくって くれた。▼大きな **番犬**を かって いる いえ。▼さいきん、**野犬**が ふえて こまって いる。▼**けいさつ犬**の くんれんを する。

ちゅうい 「、」が ないと、「大」に なる。

なりたち ー ー ー 犬 いぬの すがたを あらわした。

虫

おん チュウ
くん むし

6かく
〔虫・0かく〕
〈むし〉

虫 虫 虫 虫 虫 虫

いみ ❶むし。「こん虫・よう虫・害虫」❷きもち。「虫が すかない」❸あいてを ばかに して いう ことば。「弱虫」

つかいかた ▼あきの よる、**虫**の なく こえが きこえる。▼こうえんで、**こん虫**さいしゅうを した。▼**害虫**を たいじする。▼なんとなく **虫**が すかない(＝気に いらない) 人。▼いもうとは、とても **なき虫**だ。

なりたち もとの 字は「蟲」。(＝へびの かたち) から **虫**と なり、三つ くみあわせて できた。のちに、略字から 「虫」に なった。

一年

貝



7かく 〔貝・0かく〕 〈かい〉

おん ―

くん かい

貝貝貝貝貝貝貝

いみ どうぶつの かい。かいがら。「まき貝・二まい貝・貝づか」

つかいかた ▼はまべで、きれいな 貝がらを ひろった。▼桜貝を 糸で むすんで、ネックレスを つくった。▼貝づかは、大むかしの 人が たべた あとの 貝がらを すてた ところです。

さんこう むかし、貝は お金の やくめを して いたので、貝の つく 字は お金に かんけいが ある。

なりたち 貝→貝→貝 二まい貝の かたち から できた 字。

貝 はらう

石

5かく 〔石・0かく〕 〈いし〉

おん セキ・シャク・*コク

くん いし

石石石石石

いみ いし。「小石・岩石・化石・石き・じ石・石油」

つかいかた ▼川原には、大きな 石が ごろごろして いた。▼たかい 石がきの 上に そびえる お城。▼石油ストーブを つける。▼きょうりゅうの 化石が 出た。▼じ石で 方角を しらべる。

さんこう 「石」は もと、こくもつや えきたいなどを はかる たんいとしても つかわれた。一石は 十斗で、やく 百八十リットル。

なりたち 𠂆口(=がけの 下に いしが ある ようす)から、𠂆口→石と なった 字。

石 つきでない

一年

王

4かく 〔王・0かく〕 〈おう〉

おん オウ

くん ―

王王王王

いみ ❶おうさま。「国王・女王・王子・王国」❷その みちで いちばん すぐれて いる 人。「王者・発明王・ホームラン王」

つかいかた ▼「はだかの 王さま」の ものがたりを よむ。▼白い うまに のった 王子さまが やって きた。▼かれは、サッカーの Jリーグで とくてん王に なった。

さんこう とくべつな よみかた。「親王」

ちゅうい 「玉」と まちがえない こと。

なりたち 王(=手足を 広げた 人が、天と 地の あいだに たつ)から できた 字。

王

玉

5かく 〔玉・0かく〕 〈たま〉

おん ギョク

くん たま

玉玉玉玉玉

いみ ❶ほう石。また、たいせつな もの。たま。「玉石(=ほう石と ふつうの 石)・玉の はだ・お年玉」❷まるい かたちの もの。たま。「水玉・目玉・あめ玉」

つかいかた ▼宝玉(=たからと する ほう石)が ついた、王さまの かんむり。▼水玉 もようの ワンピースを きる。▼とんぼの 目玉は、まるくて 大きい。

ちゅうい 「王」と まちがえない こと。

なりたち 丰(=三つの たまを ひもで つないだ かたち)から できた 字。

玉

かんじクイズ 「生そば」「生ビール」、それぞれの「生」のよみかたは?

こたえ ちがう。「ショウ学生」は「小」、「ショウ年」は「少」。

一年

力

おん リョク・リキ

くん ちから

2かく
〔力・0かく〕
〈ちから〉

いみ ❶はたらきの もとに なる もの。ちから。また、はたらき。「体力・水力・馬力・力もち・気力・学力・実力」❷はげむ。つとめる。「努力・力投」

つかいかた ▼力を あわせて、つなを ひく。▼全力を 出して はしる。▼実力を 出し きる。▼もっと 体力を つけたい。▼努力 した かいが あった。▼力士が、土ひょうに 上がる。

ちゅうい 「刀」と まちがえない こと。

なりたち ちからを こめた うでの きんにくが、すじばる ようすを あらわした 字。

糸

おん シ

くん いと

6かく
〔糸・0かく〕
〈いと〉

いみ いと。また、いとのように ほそながい もの。「毛糸・生糸・きぬ糸・せい糸・くもの 糸」

つかいかた ▼毛糸で セーターを あんだ。▼生糸は、かいこの まゆから とります。▼きぬ糸を つくる 工場を、せい糸工場と いいます。▼なっとうが 糸を ひいて いる。

さんこう 「糸（いとへん）」の 字は、糸に かんけいの ある いみを あらわす。

なりたち 絲（糸） もとの 字は 「絲」。きいとを 二つ くみあわせた かたちから できた。

車

おん シャ

くん くるま

7かく
〔車・0かく〕
〈くるま〉

いみ ❶くるま。「車輪・水車（すい・みず しゃ・ぐるま）・歯車」❷くるまを つけた のりもの。とくに、じどうしゃ。「自動車・自転車・電車・車庫・車内・一輪車」

つかいかた ▼風車を つくって あそぶ。▼オランダは、風車で ゆうめいです。▼道路は 車で いっぱいだ。▼おとうさんは、電車で 会社に かよって います。▼一輪車に のる れんしゅうを する。▼車庫に 車を 入れる。

なりたち 車 車輪を じくどめで とめた むかしの 一輪車を あらわした 字。

音

おん オン・*イン

くん おと・ね

9かく
〔音・0かく〕
〈おと〉

いみ ❶おと。「音楽・ざつ音・足音・音色」❷こえ。「発音・音読・母音（＝ア・イ・ウ・エ・オの 音）」❸かんじの、中国の よみかたを もとに した よみかた。「音訓」❹たより。「音信」

つかいかた ▼おまつりの たいこの 音が きこえる。▼母の 足音が きこえて きた。▼よい 音色の ふえ。▼音信が とだえた。

さんこう とくべつな よみかた。「観音」

なりたち 音 はっきり いう 口の なかに 一を 入れた かたちから できた 字。

学

8かく
〔子・5かく〕
〈こ〉

おん ガク

くん まなぶ

学学学学学学学学

いみ ❶べんきょうする。まなぶ。「学生・学習・学者」❷ちしき。「科学・医学・学問」❸がっこう。「入学・進学・学年・学級・大学・学長」

学 はねる

つかいかた ▼父は、英会話を学んでいる。▼大きくなったら、アメリカに留学したい。▼社会科の学習で、車の工場を見学した。▼めざましい科学ぎじゅつの進歩。▼大学に入学する。

なりたち もとの字は學。臼(=りょう手)と宀(=いえ)とメ(=まじわるようす)と子をくみあわせた字をりゃくした。

校

10かく
〔木・6かく〕
〈きへん〉

おん コウ

くん —

校校校校校校校校校校

いみ ❶がっこう。「校庭・校歌」❷くらべる。しらべる。「校正」

校 とめる

つかいかた ▼まいにち学校にかよう。▼集団登校をしています。▼校門のところにあつまる。▼みんなで、校歌をうたう。▼新しい校舎ができあがった。▼校長先生のおはなしをきく。▼全校の生徒が、校庭のそうじをした。▼父のつとめのかんけいで、転校した。▼学校新聞の校正(=まちがいをなおすこと)をする。

なりたち 交(=足を×形に交差させたかたち)と木(=き)をくみあわせた字。

こたえ 「女」という字をわけると、「く・ノ・一」だから。

先

6かく
〔儿・4かく〕
〈にんにょう〉

おん セン

くん さき

先先先先先先

いみ ❶さき。はじめ。まえ。「先頭・先着・先方・先まわり」❷今よりまえ。むかし。「先祖・先月・先日・先生」

つかいかた ▼その先を右にまがると、公園です。▼にわ先に、小鳥がやってきた。▼いちばん先頭をあるく。▼先着順(=さきについたじゅん)にうけつける。▼先生のおみまいにいった。▼先週からかぜをひいている。▼先月、八さいになりました。

なりたち 止(=あしのかたち)と儿(=人のからだ)で、「つまさき」をあらわした。

生

5かく
〔生・0かく〕
〈うまれる〉

↕死 165

おん セイ・ショウ

くん いきる・いかす・いける・うまれる・うむ・*おう・はえる・はやす・*き・なま

生生生生生

いみ ❶うまれる。うむ。はえる。「生後・生産・たん生日・芝生」❷いきている。「生物・生命・生活・一生・人生・生木」❸ものごとがおこる。おこす。「発生」❹手をくわえていない。「生水・生糸」❺べんきょうをしている人。「学生・生徒」

つかいかた ▼三月生まれの人。▼草が生える。▼米の生産高。▼人の一生。▼生の魚。▼長生きをする。▼じこが発生した。

なりたち 屮(=くさ木のめ)と土(=つち)をくみあわせて、生→生となった字。

かんじクイズ 草が化けたらなにになる?

字

6かく
〔子・3かく〕
〈こ〉

おん　ジ
くん　＊あざ

字字字字字字

いみ　❶もじ。「文字・漢字・ローマ字・字体・字典・数字」❷市や　町や　村の　中の　小さな　くいき。あざ。「大字」

つかいかた　▼ととのった　文字を　かく。▼漢字の　なりたちを　しらべる。▼名字と　名前を　こたえる。▼ねえさんは、習字を　ならって　いる。▼日本では、ひらがな・かたかな・漢字・ローマ字の、四つの　文字を　つかって　いる。▼ここは、山田町　字　田中です。

なりたち　宀（＝いえ）と　子の　くみあわせ。子が　ふえるように　字が　ふえる　いみ。

字　はねる

文

4かく
〔文・0かく〕
〈ぶん〉

おん　ブン・モン
くん　＊ふみ

文文文文

いみ　❶ぶんしょう。「作文・文学・文集・文章」❷もよう。「じょう文・文様」❸もじ。「文字」❹学問や　げいじゅつ。「文化・文明」

つかいかた　▼えんそくの　作文を　かく。▼外国の　ともだちと　文通（＝手紙の　やりとりを　する　こと）を　する。▼大むかしの　絵文字。▼じょう文土器（＝なわの　もようの　ある　大むかしの　やきもの）が　発見された。▼十一月三日は　文化の日です。

なりたち　（＝土器に　つけた　もよう）から、→文と　なった　字。

文

本

5かく
〔木・1かく〕
〈き〉

おん　ホン
くん　もと

本本本本本

いみ　❶ほん。「本屋・絵本」❷ものごとの　大もと。「基本・根本・本社」❸ただしい。ほんとうの。「本物・本番・本気・本心・本名」❹この。「本人・本日」❺細長い　ものを　かぞえる　ことば。「一本」

つかいかた　▼本屋さんで、絵本を　かった。▼スポーツでは、基本が　だいじです。▼うわさは　本当か　どうか、本人に　たしかめた。▼本気を　だして　れんしゅうする。▼だいこんを　一本　かった。

なりたち　木の　下の　ところに　しるしを　つけて、「根もと」を　あらわした　字。

本

かん字の　ちしき

●にて　いる　字

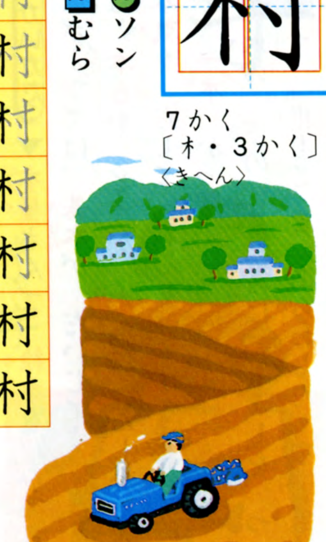
にて　いる　字に　気を　つけましょう。

- 王―玉
- 早―草
- 貝―見
- 村―林
- 字―学
- 大―犬
- 上―土
- 白―百
- 人―入
- 木―本
- 石―右
- 日―月―目

村

おん ソン
くん むら

7かく
〔木・3かく〕
〈きへん〉



村村村村村村村

いみ いなかで、いえが あつまって いる ところ。また、人々を おさめる ための くぶんの 一つ。むら。「山村・漁村・農村・村落・村長・村里・村役場・村人・村民」

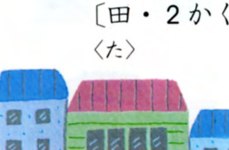
つかいかた ▼村はずれに、ふるい 寺が ある。▼おじいさんは、村長を して いた。▼村おこし（＝村を さかんに する こと）の しごと。▼村民運動会を ひらく。

なりたち 木（＝き）と 寸（＝しばらく やすむ い み）を くみあわせた 字。やすんで いる ところから、すむ ところに なった。

町

おん チョウ
くん まち

7かく
〔田・2かく〕
〈た〉





町町町町町町町

いみ ❶にぎやかな ところ。また、人々を おさめる ための くぶんの 一つ。まち。「町かど・町民・町長」❷市や まちの 中の、小さな くいき。「町内会」



つかいかた ▼町かどの ポストに、手紙を 入れる。▼町営の プール。▼あすの おまつりには、町内の おみこしが 出る。

さんこう 「町」は もと、道の 長さや 土地の 広さの たんいと しても つかった。

なりたち 田（＝た）と 丁（＝丁字形に まじわる あぜ道）を くみあわせた 字。



一年生の かん字の ちゅういてん①

かきじゅんで ちゅういしたいのは、

九 ノ九
七 一七
右 ノナ右右右
左 一ナ左左左
出 ｜十中出出
上 ｜卜上
田 ｜冂冊田田
耳 一丅下下王耳
糸 く幺幺糸糸糸
力 フカ

また、字たいと しても「右」は よこぼうが ながいのに たいして、「左」は 二かく目の はらいが ながく なります。

「右」と おなじ なかまは「布・希・有」、「左」と おなじ なかまは「存・在・友」などです。

「糸」は、かきじゅんと 字けいを しっかり たしかめ、六かくで かく ことを おぼえましょう。

「天」は、上の よこぼうよりも 下の よこぼうが みじかい ことに ちゅういしましょう。

一年生の かん字の ちゅういてん②

「上」と「下」と いう 字は、よみかたが たくさん あります。おくりがなにも ちゅういしましょう。

「上」…ジョウ（上京）・うえ（山の上）・かみ（川上）・あがる（上がる）・あげる（上げる）・のぼる（上る）・のぼせる（上せる）・のぼす（上す）

「下」…カ（落下）・ゲ（下校）・した（下見）・しも（川下）・もと（足下）・さがる（下がる）・さげる（下げる）・くだる（下る）・くだす（下す）・くださる（下さる）・おろす（下ろす）・おりる（下りる）

「早」は、じこくや じきが はやい ことを あらわす ときに つかいます。「早起き・早口・早朝・早春・朝早く」などと つかいます。







一年

赤

おん セキ・*シャク

くん あか・あかい・あからむ・あからめる

7かく 〔赤・0かく〕 〈あか〉



赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤

いみ あか。あかい。「赤組・赤十字・赤はん」

つかいかた ▼運動会で、ことしは赤組が かった。▼赤ちゃんが なきやんだ。▼おいわいの 赤はんを たべた。▼赤らめる。▼赤(=赤しんごう)は とまれ、青(=青しんごう)は すすめ。▼日に やけた 赤どういろ(=赤ぐろい いろ)の はだ。

さんこう とくべつな よみかた。「真っ赤」

なりたち 𡗗－灻－赤 大と 火を くみあわせて できた 字。

白

おん ハク・*ビャク

くん しろ・しら・しろい

5かく 〔白・0かく〕 〈しろ〉

↕黒 112

白 白 白 白 白

いみ ❶しろ。しろい。「白衣・白鳥・白ざとう・白雪・白髪」❷あかるい。「白昼・白日」❸ただしい。「けっ白(=やましく ない)」❹あきらか。「明白」❺なにも ない。「白紙・空白」❻ありの ままに いう。「白じょう」

つかいかた ▼白い 雲が うかんで いる。▼白鳥が いる。▼純白(=真っ白)の ドレス。▼つみを 白じょうする。

なりたち 白(=どんぐりの かたち)から、白→白 と なった 字。どんぐりの みは しろい ことから できた。

青

おん セイ・*ショウ

くん あお・あおい

8かく 〔青・0かく〕 〈あお〉

青 青 青 青 青 青 青 青

いみ ❶あお。あおい。「青空・ろく青(=どうの 青い さび)」❷わかい。「青年」

つかいかた ▼青い 空に 白い 雲。▼やさいの はっぱを たべる 青虫。▼わかわかしい 青年。▼青春時代(=わかく げんきな 時代)を たのしむ。

さんこう ㋐「青草」「青な」などの 「青」は、みどりいろの こと。㋑とくべつな よみかた。「真っ青」

なりたち 生(=あおい 草の めばえ)と 井(=いどの 中の しみず)を あわせた 字。

円

おん エン

くん まるい

4かく 〔冂・2かく〕 〈どうがまえ〉

円 円 円 円

いみ ❶まるい かたち。まる。「円形・円周」❷おだやか。「円まん」❸お金の たんい。「千円」

つかいかた ▼円く わに なって おどる。▼コンパスで 円を かく。▼やねが 円形を した やきゅう場。▼なるべく 円まんに かいけつしましょう。▼ちょきんばこに、二百円 入れる。▼円高(=日本の お金の かちが 上がる こと)に なる。

なりたち もとの 字は 圓。員(=まるい いれもの)と 囗(=かこい)を くみあわせた 字。まるい かこいの いみを あらわす。

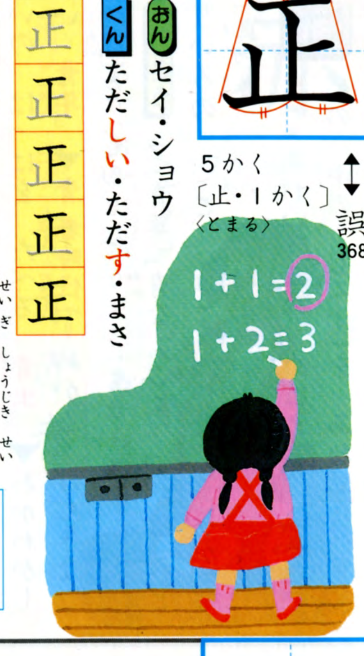
正

5かく 〔止・1かく〕〈とまる〉 ↕誤 368

おん セイ・ショウ

くん ただしい・ただす・まさ

正 正 正 正 正



いみ ❶ただしい。「正義・正直・正確」❷ちょうど。まさしく。「正午・正面」❸まともな。「正門・正式」❹ほんらいの。「正副」❺一月。「正月」

つかいかた ▼正しい　こたえを　出す。▼まちがいを　正す。▼身長を　正確に　はかる。▼正に、父の　いう　とおりに　なった。▼正月休みに、スキーに　いった。

さんこう かずを　かぞえる　とき、一・丅・下・正・正のように　かいて　つかう。

なりたち 一（＝もくひょうを　あらわす　ばしょ）と　止（＝あし）を　くみあわせた　字。

早

6かく 〔日・2かく〕〈ひ〉

おん ソウ・*サッ

くん はやい・はやまる・はやめる

早 早 早 早 早

いみ ❶はやい。はじめ。「早朝・早春」❷はやく　する。いそぐ。「早足・早急」

つかいかた ▼けさは　早く　おきた。▼こんやは　早めに　ねよう。▼あたまが　いたくて、早退した。▼早まった　ことを　しないように。▼早そく（＝すぐに）、しごとに　とりかかる。

さんこう とくべつな　よみかた。「早乙女」「早苗」

なりたち （＝くぬぎや　はんの木の　み）から　黒い　せんりょうを　とる　ことから、朝くらい→朝はやいて、早→早と　なった。

入

2かく 〔入・0かく〕〈いる〉 ↕出 81

おん ニュウ

くん いる・いれる・はいる

入 入

いみ はいる。いれる。「入学・入社・入れ物・記入・加入」

つかいかた ▼入り口から　入る。▼水が　入って　いる　コップ。▼かばんに、きょうかしょと　ノートを　入れる。▼おとうとは、来年　小学校に　入学する。▼メモちょうに　記入する。▼はたらいて、収入を　える。

ちゅうい 「入」（いる）と　「人」（ひと）は　よく　にて　いるが、ちがう　字。

なりたち ⋀（＝いえの　いりぐち）から、入→入と　なった　字。

出

5かく 〔凵・3かく〕〈うけばこ〉 ↕入 81

おん シュツ・*スイ

くん でる・だす

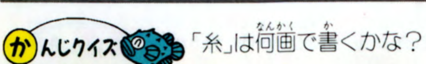
出 出 出 出 出

いみ ❶でる。また、だす。「出発・出口・外出・輸出・出場・出演」❷あらわれる。また、あらわす。「出現・出火・出版」❸うまれ。そこを　でた　こと。「出身・大学出」

つかいかた ▼外へ　出て　あそぶ。▼大声を　出す。▼サッカーの　しあいに　出場する。▼父は　北海道の　出身です。

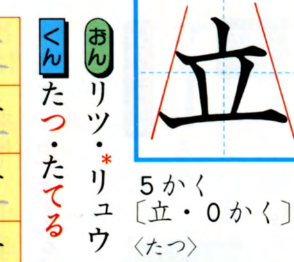
さんこう とくべつな　よみかた。「出納」（＝お金の　出し入れ）

なりたち （＝あしが　せんから　でる　ようす）から、→出と　なった　字。



「糸」は何画で書くかな？

立



おん リツ・*リュウ
くん たつ・たてる

5かく
〔立・0かく〕
〈たつ〉

立立立立立

いみ ❶たつ。「起立・木立」❷つくる。さだめる。「立案・建立」❸なりたつ。なりたたせる。「成立・自立」❹はじまる。「立春」

つかいかた ▼赤ちゃんが はじめて 立った。▼「起立、礼。」▼みんなで けいかくを 立てる。▼町立の 小学校。▼売買の けいやくが 成立する。▼二百年前に 建立された(＝建てられた)寺院。▼あすは 立春(＝こよみの うえで 春が はじまる 日)だ。

なりたち [glyph](＝ひとが 大地に たつ ようす)から、[glyph]→立と なった 字。

休

おん キュウ
くん やすむ・やすまる・やすめる

6かく
〔亻・4かく〕
〈にんべん〉

休休休休休休

いみ ❶やすむ。やすめる。「休日・休校・休けい・連休・夏休み」❷とまる。やめる。「休火山・休止・休戦」

つかいかた ▼ここらで ひと休み。▼この うたを きくと、心が 休まる。▼こんどの 休日は、つりに いく よていです。▼五月の 連休に、りょこうを した。▼みせを、本日は 休業いたします。▼富士山は 休火山だ。

ちゅうい 「体」と まちがえない こと。

なりたち [glyph]→[glyph]→休 人が 木の そばで やすむ ようすから。

見

おん ケン
くん みる・みえる・みせる

7かく
〔見・0かく〕
〈みる〉

見見見見見見見

いみ ❶みる。ながめる。みえる。「見学・見物」❷あらわれる。「発見」❸かんがえ。「意見」❹人に あう。「会見」

つかいかた ▼星を 見る。▼とおくに 山が 見える。▼おかしの 工場を 見学する。▼化石を 発見する。▼じぶんの 意見を はっきり いう。▼大臣が 記者会見を する。

ちゅうい 「いって みる」「たべて みる」などの 「みる」は かながき。

なりたち [glyph](＝目と 人を くみあわせた かたち)から、[glyph]→見と なった 字。

かん字の ちしき

●かん字を わけて おぼえよう

王は、一と土
音は、立と日
花は、艹とイとヒ
貝は、目と八
学は、ツと冖と子
休は、イと木
空は、宀と八と工
犬は、大と、
校は、木と亠と父
左は、ナと工
字は、宀と子
早は、日と十
草は、艹と日と十
足は、口とトと人
男は、田と力
天は、一と大
百は、一と白
名は、夕と口
林は、木と木

男

二年生でならう字

春 86　夏 86　秋 86　冬 87　光 87　風 87　晴 88　雲 88　雪 88　朝 89　昼 89　夜 89
午 90　明 90　星 90　野 91　原 91　岩 92　谷 92　海 92　池 93　公 93　園 93　東 94
西 94　南 94　北 95　時 95　分 95　週 96　曜 96　今 96　元 97　間 97　親 97　父 98
母 98　兄 98　弟 99　姉 99　妹 99　自 100　友 100　体 100　毛 101　頭 101　顔 101　首 102
声 102　心 102　思 103　考 103　才 103　言 104　記 104　話 104　書 105　読 105　聞 105　国 106
語 106　算 106　数 107　理 107　科 107　社 108　会 108　図 108　画 109　工 109　作 109　楽 110
歌 110　絵 110　色 111　紙 111　黄 112　黒 112　形 112　点 113　丸 113　線 113　直 114　角 114
合 114　計 115　何 115　答 115　電 116　教 116　知 116　万 117　毎 117　回 117　半 118　当 118
番 118　組 119　交 120　通 120　道 120　場 121　地 121　方 121　京 122　市 122　里 122　家 123
寺 123　店 123　門 124　室 124　戸 124　台 125　汽 125　船 125　弓 126　矢 126　刀 126　牛 127
馬 127　魚 127　鳥 128　鳴 128　羽 128　肉 129　米 129　麦 129　茶 130　食 130　活 130　用 131
前 132　後 132　内 132　外 133　遠 133　近 133　多 134　少 134　古 134　新 135　太 135　細 135
強 136　弱 136　長 136　高 137　広 137　同 137　歩 138　走 138　行 138　来 139　帰 139　止 139
売 140　買 140　引 140　切 141

二年生の漢字学習法

◆

○学校での勉強

①漢字学習のめあて

　二年生では、一年の配当漢字八十字と、二年の配当漢字百六十字を読むこと、また、一年の漢字を正しく書き、文の中で使えるようにすることをねらいとしています。

　二年の漢字百六十字については、順次書くようにすることが指導されます。

　三年生以上になると、漢字テストのために漢字を覚えるような、学習姿勢が生まれることがあります。テストではしっかり書けるのに、作文などでは使わないということがあります。

　ですから、二年生のこの時期に、学習した漢字を使う姿勢や態度を養うことが、これからの漢字学習をしていく態度を形成することにつながります。

②漢字の構成の理解

　一年生では、「文字の形」を長方形・四角形・三角形などの大まかな形でとらえさせましたが、二年生では、たとえば「草」は「艹」と「早」に分けられるというように、一字の漢字を上下・左右などに分けられるかどうかという視点から、漢字の形をとらえさせます。これは、後に学習する漢字の構成についての基礎知識となります。

○家庭学習のポイント

　一年生の学習の延長として、筆順や字形を体で覚えさせる段階でもあります。そのためには、繰り返し学習が必要です。

　しかし、そうした学習と並行して、漢字には一字一字意味のあることや、実際に学習した漢字を使えるようにするための学習が必要な時期でもあります。

　すなわち、二年生での漢字学習は、繰り返しという機械的学習とそうでない学習との兼ね合いを考えながら指導する時期と言えます。

　後者の学習のために、次のような学習をさせて下さい。

①漢字の意味からの分類

　たとえば、「白・黒・青・赤・黄・茶」など「色」に関係する漢字あつめをさせます。

　また、「生き物」に関係する漢字ということで、「牛・馬・虫・鳥」などを集めます。

②漢字の構成からの分類

　たとえば、上下に分けられる漢字「草・雲・男」、左右に分けられる漢字「絵・活・記」などのように分類させます。

春

おん シュン
くん はる

9かく〔日・5かく〕〈ひ〉

いみ ❶はる。「春分・春風・春季・春雨・早春・立春」❷としのはじめ。「新春」❸わかい年ごろ。「青春」

つかいかた ▼まちにまった春がきた。▼きもちのよい春風。▼すっかり春めいてきた。▼新春のあいさつをする。

なりたち [古代文字]-春 艸(=くさ)と屯(=芽がでるようす)と日(=たいよう)をくみあわせた字。

夏

おん カ・*ゲ
くん なつ

10かく〔夂・7かく〕〈すいにょう〉

いみ なつ。「夏季・夏休み・夏祭り・夏至・初夏」

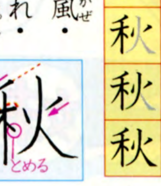
つかいかた ▼ことしの夏はとくにあつくて、父はすっかり夏負けしてしまった。▼夏至は、一年のうちで昼がいちばん長くなる日です。▼初夏のさわやかな風がきもちいい。

なりたち [古代文字]-[古代文字]-夏 人がかざりのあるおめんをかぶっておどるかたちからできた字。

秋

おん シュウ
くん あき

9かく〔禾・4かく〕〈のぎへん〉



いみ あき。「秋風・秋季・秋分・秋晴れ・秋祭り・秋雨・春秋・晩秋」

つかいかた ▼秋の大運動会。▼きょうは秋分の日で、休みです。▼雲一つない秋晴れの空。▼秋祭りのけいこをする。▼秋のおわりごろのことを、晩秋という。

なりたち 禾(=さくもつ)と火(=ひ)をくみあわせて、「とり入れのきせつ」をいみした字。

二年

冬

おん トウ
くん ふゆ

5かく〔冫・3かく〕〈にすい〉

ななめに

いみ ふゆ。「冬季・冬至・冬みん・冬休み・初冬」

つかいかた ▼さむい冬がやってきた。▼冬至は一年じゅうでいちばん昼のみじかい日です。▼冬休みのけいかくをたてる。▼冬山にのぼる。

さんこう 冬は、上が「夂」、夏は、下が「夊」。

なりたち 夂(=たべものをたくわえるいみ)と冫(=こおり)をくみあわせてできた字。

光

おん コウ
くん ひかる・ひかり

6かく〔儿・4かく〕〈にんにょう〉

ツではない

はねる

いみ ❶ひかり。ひかる。「光線・日光・月光・発光」❷けしき。「光景・観光」❸ほまれ。めいよ。「栄光」

つかいかた ▼月の光にてらされる。▼ぴかぴかと光るあやしい物体。▼日光がまぶしい。▼おおぜいの観光客。▼お会いできて光栄です。

なりたち [古代文字]-炗-光 あたまにたいまつをのせた人のかたちから。

風

おん フウ・*フ
くん かぜ・かざ

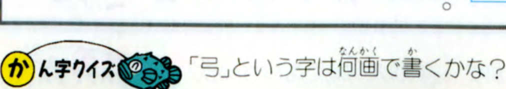
9かく〔風・0かく〕〈かぜ〉

いみ ❶かぜ。「風雨・台風」❷よの中のうごき。ならわし。「風潮・風習」❸ありさま。ようす。「風景・風情」❹おもむき。「風流」❺うわさ。「風評」❻びょうきの一つ。「★風邪」

つかいかた ▼台風が近づいて、風雨が強まる。▼きゅうに風むきがかわった。▼古風な考え。

なりたち [古代文字]-風 凡(=ふねのほ)と虫(=むし)をくみあわせてできた字。

二年



「弓」という字は何画で書くかな？

晴

おん セイ
くん はれる・はらす

12かく 〔日・8かく〕〈ひへん〉



いみ ❶そらがはれる。「晴天・快晴・秋晴れ・★五月晴れ」❷おもてだった。正式の。「晴れ着」❸さっぱりする。「晴れ晴れ」

つかいかた ▼あすは晴れるでしょう。▼秋晴れの一日、市の大運動会が行われた。▼晴天がつづいている。▼七五三に、晴れ着をきた。▼うたがいが晴れる。▼うらみを晴らす。

なりたち 日(＝太陽)と青(＝すみきっている)をあわせた字。

雲

おん ウン
くん くも

12かく 〔雨・4かく〕〈あめかんむり〉

いみ そらのくも。「雲海・雲行き・雨雲・入道雲・暗雲」

つかいかた ▼空にうかんだ白い雲。▼雲間からうすびがさす。▼ひこうきが、雲海の中に入った。▼あやしい雲行き。▼入道雲がむくむくわき出す。▼雲をつかむような(＝はっきりしない)話だ。

なりたち 雨(＝あめ)と云(＝ゆげなどがたちこめるようす)をくみあわせた字。

雪

おん セツ
くん ゆき

11かく 〔雨・3かく〕〈あめかんむり〉

いみ ゆき。「雪国・雪山・新雪・風雪・初雪・雪がっせん・積雪・★雪崩・★吹雪」

つかいかた ▼みんなで雪だるまをつくった。▼一面の雪げしょう。▼新雪をけって、スキーのはつすべりをした。▼山にはまだ残雪があった。

なりたち もとの字は「䨮」。雨(＝あめ)と彗(＝ほうきではいてきれいにする)からできた。地上をきれいにするゆきのいみ。

朝

おん チョウ
くん あさ

12かく 〔月・8かく〕〈つき〉 ↕ 夕 65

いみ ❶あさ。よあけ。「朝礼・朝夕・朝ばん・朝日・朝刊・明朝・早朝・★今朝」❷てんのうがせいじをとるところ。「朝てい」

つかいかた ▼さわやかな朝だ。▼朝日がまぶしい。▼朝礼で先生の話をきく。▼朝食にトーストを食べた。

なりたち －朝 (＝日がのぼる)と(＝ふねのかたち)をくみあわせてできた字。

昼

おん チュウ
くん ひる

9かく 〔日・5かく〕〈ひ〉 ↕ 夜 89

いみ ひるま。正午。また、ひるごはん。「昼間・昼寝・昼夜・白昼・昼食・昼休み・昼すぎ」

つかいかた ▼高原では、昼と夜のおんどのさが大きい。▼昼休みにドッジボールをする。▼白昼(＝ま昼)、どろぼうにはいられた。▼お昼にうどんを食べた。

なりたち －晝(昼) もとの字は「晝」。(＝ふでをもつすがた)と(＝日をくぎる)からできた。

夜

おん ヤ
くん よ・よる

8かく 〔夕・5かく〕〈ゆう〉 ↕ 昼 89

いみ よる。「夜間・夜景・夜明け・夜中・夜空・夜つゆ・深夜・月夜・十五夜」

つかいかた ▼父はざんぎょうで、夜おそく帰る。▼くらい夜道を歩く。▼夜空に星が光っている。▼今夜、サッカーのテレビほうそうがある。

なりたち －－夜 からだのりょうわきにある、わきの下と月のかたちからできた字。

二年

午

おん ゴ
くん —

4かく 〔十・2かく〕〈じゅう〉

午午午午

いみ ❶昼の十二時。「正午・午前・午後」❷ま南。「子午線(＝頭のま上をとおって、ま北とま南をむすぶ線)」

午 つきでない

つかいかた ▼正午の時ほうがなった。▼いつも午前七時におきます。▼午後から、母と買いものに行った。

ちゅうい 「牛」の字とまちがえないこと。

なりたち (＝もちをつくきね)から、→午となった字。

明

おん メイ・ミョウ
くん あかり・あかるい・あかるむ・あからむ・あきらか・あける・あく・あくる・あかす

8かく 〔日・4かく〕〈ひへん〉 ↕ 暗 144

明明明明明明明明

いみ ❶あかるい。「明暗・光明・灯明」❷あきらか。「明白・明細」❸かしこい。「賢*明」❹あきらかにする。「説明・証明」❺夜があける。「夜明け・明日(★あす・みょうにち)」

明

つかいかた ▼明るいえがお。▼くわしく説明する。▼明朝おうかがいします。▼夜が明ける。

なりたち ー ー明 あかりとりのまどと、月をくみあわせた字。

星

おん セイ・*ショウ
くん ほし

9かく 〔日・5かく〕〈ひ〉

星星星星星星星星星

いみ ❶そらのほし。「星空・星座・衛星・火星」❷小さいてん。「星じるし」❸勝負のせいせき。「星取り表・黒星」

星

つかいかた ▼弟が「あっ、流れ星だ」と言った。▼金星のことを、「よいの明星」とも言う。▼むずかしいかん字に星じるしをつける。▼すもうの星取り表。

なりたち ー星 (＝きらきらひかるほし)と生(＝くさの芽)からできた字。

野

おん ヤ
くん の

11かく 〔里・4かく〕〈さとへん〉

野野野野野野野

いみ ❶のはら。「野原・野球・野外・平野」❷しぜんのまま。ひらけていない。「野鳥・野草・野生」❸はんい。「分野・視野」❹みんかんの。「在野」

野

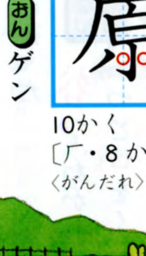
つかいかた ▼広い野原をかけまわる。▼きれいな野ばらがさいている。▼しんせんな野菜。▼科学の分野で賞をもらう。

なりたち 里(＝田畑)と、予(＝のびる)をくみあわせた字。広がった田畑や野原をあらわす。

原

おん ゲン
くん はら

10かく 〔厂・8かく〕〈がんだれ〉



原原原原原原原

いみ ❶のはら。「野原・高原・草原(そうげん・くさはら)・川原(★かわら)(河原)・★海原」❷ものごとのもと。おこり。「原因・原作・原文・原案・原料・原油」



つかいかた ▼広い原っぱであそぶ。▼子馬が草原を走る。▼高原のひんやりした空気。▼じこの原因をしらべる。

なりたち ー ー原 厂(＝がけ)と、(＝いずみ)をあわせた字。

かん字の ちしき

●かん字のかくすう

一つのかん字が、いくつの点や線でできているかしらべてみましょう。「上」という字は、三つの線でできていますね。この数を、かん字の画数といいます。つぎの字の赤い線のところは、一つの線に数えます。

四 九 水 子
女 山 学 糸
夕 切 引 広
国 間 記 直

岩

おん ガン
くん いわ

8かく 〔山・5かく〕〈やま〉

岩岩岩岩岩岩岩岩

いみ 大きな石。いわ。「岩山・岩場・岩石・岩塩・火成岩・よう岩・岩くつ」

つかいかた ▼谷川の**岩かげ**に、小さなかにがいた。▼**岩場**の多い山を、一歩一歩のぼる。▼理科室に、**火成岩**のひょう本がある。▼ふん火した火山から、**よう岩**がながれ出した。

なりたち 山(＝やま)と石(＝いし)をくみあわせた字。「山の石」から「いわ」のいみになった。

谷

おん コク*
くん たに

7かく 〔谷・0かく〕〈たに〉

谷谷谷谷谷谷谷

いみ 山と山のあいだの、ふかくくぼんだところ。たに。「谷間・谷底・谷川・けい谷・きょう谷」

つかいかた ▼**谷川**の水は、とてもつめたかった。▼ふかい**谷底**を、こわごわとのぞいた。▼**きょう谷**にできたダムを、見学に行った。

なりたち 谷(＝わかれてるしるし二つと口をくみあわせたかたち)から、谷→谷となった。

海

おん カイ
くん うみ

9かく 〔シ・6かく〕〈さんずい〉

海海海海海海海海海

いみ うみ。「海水・海水浴・海草・海岸・海外・航海・海辺・日本海・海原★」

つかいかた ▼電車のまどから、**海**が見えてきた。▼ぼくの家は、**海岸**の近くにある。▼**海辺**のりょかんにとまった。▼五月の連休には、**海外**に行く人が多い。

なりたち 毎(＝「マイ」の音が「くらい」いみをもつ)とシ(＝みず)をくみあわせて、「くらい色の水」＝「うみ」をあらわした。

池

おん チ
くん いけ

6かく 〔シ・3かく〕〈さんずい〉

池池池池池池

いみ いけ。「貯水池・電池・古池」

つかいかた ▼にわの**池**でこいをかう。▼雨がふらないので、**貯水池**の水がへった。▼時計の**電池**をとりかえる。

さんこう 「シ」(＝さんずい)は、水のいみをあらわす。

ちゅうい 「地」とまちがえないこと。とくに「電池」にちゅうい。

なりたち 池‐池 水(左)とさそりのかたち(右)をくみあわせてできた字。

公

おん コウ
くん おおやけ*

4かく 〔八・2かく〕〈はち〉 ↕私 375

公公公公



いみ ❶広く多くの人にかんけいすること。「公開・公表・公園・公害・公共」❷国や県、市町村、会社などにかんけいがあること。「公立・公務員・公私」❸かたよらない。「公平」

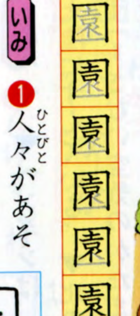
つかいかた ▼**公園**のそうじをする。▼**公害**のない、すみよい町。▼おかしを**公平**に分ける。

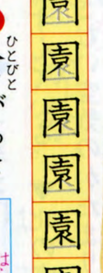
なりたち 八(＝ひらく)とム(＝くち)で、入り口をあけて、中を見せるいみをあらわした字。

園

おん エン
くん その*

13かく 〔口・10かく〕〈くにがまえ〉





いみ ❶人々があそんだりけんぶつしたりする、広いにわ。「公園・庭園・動物園」❷草花や野さいをうえるところ。「菜園・田園・花園」❸きょういくをするところ。「学園・幼ち園」

つかいかた ▼町に**公園**ができた。▼休日には、**動物園**はまんいんになる。▼うつくしい**花園**。

なりたち 袁(＝ゆったりとからだをつつむきもの)と口(＝かこい)をくみあわせた字。

かん字クイズ やぶれることを「敗北」という。なぜ「北」の字がつかわれているのかな？

東

おん トウ
くん ひがし

8かく 〔木・4かく〕〈き〉 ↕西 94

東東東東東東東東

いみ ❶ひがし。「東半球・東西・関東・東洋」❷「東京」のりゃく。「東名高速道路」

つかいかた ▼東の空が明るくなってきた。▼アジアは**東半球**にふくまれる。▼**関東地方**のつゆが明けた。▼**東名高速道路**が、ぼくの町を**東西**に走っている。

なりたち (＝ぼうとふくろをしばったかたち)から、→東となった字。太陽が地平線から出る方角をあらわした字。

西

おん セイ・サイ
くん にし

6かく 〔西・0かく〕〈にし〉 ↕東 94

西西西西西西

いみ ❶にし。「西日・西部・東西・関西」❷ヨーロッパのこと。「西洋・西れき」

つかいかた ▼大きな夕日が**西**の山にしずむ。▼**西日**がまぶしい。▼父は、仕事で**関西**にでかけました。▼**西洋**文明のえいきょうをうける。

ちゅうい 「西」はまちがい。

なりたち →→西 ざるのかたちからできた字。

南

おん ナン・*ナ
くん みなみ

9かく 〔十・7かく〕〈じゅう〉 ↕北 95

南南南南南南南南南

つきでない

いみ みなみ。「南風・南むき・南方・南部・南国・南米・南北・南極」

つかいかた ▼あたたかい**南むき**のへや。▼ペンギンは、**南極大陸**にすんでいる。▼北の寒気団(＝さむい空気のかたまり)が**南下**(＝南へむかっていくこと)してきた。

なりたち →南 あたたかい小屋から芽が出るようすをあらわした字。

北

おん ホク
くん きた

5かく 〔匕・3かく〕〈ひ〉 ↕南 94

北北北北北

いみ ❶きた。「北風・北国・北部・北東・北極・北方・南北・北斗*七星」❷にげる。まける。「敗北」

つかいかた ▼つめたい**北風**がふく。▼犬ぞりで、**北極点**を目ざして走る。▼父と母は、**東北地方**にりょこうにでかけた。▼けっしょうせんで、おしくも**敗北**をきっした(＝まけた)。

なりたち (＝せなかをむけあったふたり)からできた字。

時

おん ジ
くん とき

10かく 〔日・6かく〕〈ひへん〉

時時時時時時時時時時

いみ ❶じかん。とき。「時間・時こく・時代・時★計・時★雨」❷あるとき。そのころ。「当時・時価」❸ばあい。ころあい。「潮時」

つかいかた ▼楽しい**一時**をすごす。▼出発の**時こく**がせまる。▼**当時**の話をきく。▼信号が青の**時**はわたってよい。

なりたち 日(＝太陽)と寺(＝手足をうごかしてはたらく)をくみあわせてできた字。

分

おん ブン・フン・ブ
くん わける・わかれる・わかる・わかつ

4かく 〔刀・2かく〕〈かたな〉

分分分分

いみ ❶わける。わけられたもの。「分割・分類・分解・半分・分数・分校・成分」❷もちまえ。せきにん。「職分」❸ようす。「気分」❹時間・おんど・かくどなどのたんい。ふん。ぶ。❺わきまえている。「分別」

つかいかた ▼ケーキを妹と**分ける**。▼熱が**三十七ど八分**あった。▼**もの分かり**のいい人。

なりたち 八(＝わける)と刀(＝かたな)をくみあわせた字。

週

おん シュウ
くん —

11かく〔⻌・8かく〕〈しんにょう〉

週週週週週週週週週週週

いみ 日曜日から土曜日までの七日間をひとくぎりとする、こよみのたんい。「週間・週刊・週番・週休・週末・今週・先週・来週・次週・毎週」

つかいかた ▼今日から読書週間がはじまった。▼週休二日制の会社。▼一週間のよていをたてる。▼来週から夏休みだ。

なりたち 周(＝ぐるりととりまく)と⻌(＝すすむ)をくみあわせてできた字。

曜

おん ヨウ
くん —

18かく〔日・14かく〕〈ひへん〉

曜曜曜曜曜曜曜曜

いみ ①一週間のそれぞれの日をよぶときにつけることば。「曜日・土曜・日曜・七曜表(＝カレンダー)」②かがやく。「黒曜石(＝黒くてつやのある石)」

つかいかた ▼うっかり曜日をまちがえてしまった。▼水曜日と土曜日に、サッカーのJリーグのしあいがある。

なりたち 翟(＝きじがおばねを高くたてるようす)と日(＝太陽)をくみあわせた字。

今

おん コン・＊キン
くん いま

4かく〔人・2かく〕〈ひとやね〉 ↕昔 181

今今今今

いみ ①いま。げんざい。「今時・今後・今度・今学期・古今(＝むかしからいままで)」②きょう。このごろ。いまの。この。「今日(こんにち・★きょう)・今夜・★今朝・今年(★ことし・こんねん)」

つかいかた ▼今ついたところです。▼今にも雨がふりだしそうだ。▼今度こそがんばるぞ。▼今夜は花火大会があります。

なりたち 亼(＝ものをふたでおさえるかたち)からできた。

答え 無口(ム・口)だから。

元

おん ゲン・ガン
くん もと

4かく〔儿・2かく〕〈にんにょう〉

元元元元

はねる

いみ ①ものごとのおこるところ。もと。「元手・元金・元気・元来・根元」②ものごとのはじめ。「元日・元年」③かしら。「元首・元老」

つかいかた ▼元気を出してがんばろう。▼大きな木の根元で休む。▼せかいの元首(＝その国をおさめている人)があつまる。

なりたち (＝人のからだの上にまるい頭をあらわしたかたち)から、亓→元となった。

間

おん カン・ケン
くん あいだ・ま

12かく〔門・4かく〕〈もんがまえ〉

間間間間間間間

いみ ①あいだ。すきま。「間かく・中間・時間・空間」②へや。また、へやの数をかぞえるときにつかうことば。ま。「客間・居間」③むかしの長さのたんいの一つ。けん。一間は六尺で、やく一・八メートル。

つかいかた ▼前の人との間をつめる。▼発車までに時間がある。▼居間でくつろぐ。

なりたち もとの字は「閒」。門(＝もん)と月(＝つき)をあわせた字。

親

おん シン
くん おや・したしい・したしむ

16かく〔見・9かく〕〈みる〉 ↕子 57

親親親親親親親親親

いみ ①父や母。おや。「親子・両親」②みうち。「親類」③したしい。「親友・親交・親切・親善」④中心になる。「親会社」⑤自分で行う。「親書」

つかいかた ▼かるがもの親子。▼親せきの家へあそびに行く。▼人に親切にする。▼国と国との親善(＝なかよくすること)。

なりたち 亲(＝はもので切った木)と見(＝みる)をくみあわせた字。

かん字クイズ 「用」の字、「冂」の中のたてぼうとよこぼう、どちらを先に書くかな？

父

おん フ
くん ちち

4かく
〔父・0かく〕
〈ちち〉
↕ 母 98

父父父父

いみ　ちちおや。おとうさん。「父母・父子・父親・神父・祖父・お父さん・★叔父・★伯父」

つかいかた　▼こんどの休みに父とつりに行く。▼弟は父親似です。▼日曜日に教会で神父さんのお話をきく。▼ぼくの家には、祖父のしゃしんがかざってあります。

なりたち　（＝石おの）と、それをもつ（＝手）をくみあわせて、→→父となった字。

母

おん ボ
くん はは

5かく
〔母・1かく〕
〈なかれ〉
↕ 父 98

母母母母母

いみ　❶ははおや。おかあさん。「母親・母子・父母・★お母さん・★乳母」❷出身のところ。よりどころ。「母国・母校」❸ものをうみだすもと。「母音（＝はつ音のもとになる音）」

つかいかた　▼母と買いものに出かけた。▼母は保母をしています。▼五年ぶりに母国に帰る。

なりたち　ー　ー母　むねにちぶさのある女の人をあらわした字。

兄

おん ＊ケイ・キョウ
くん あに

5かく
〔儿・3かく〕
〈にんにょう〉
↕ 弟 99

兄兄兄兄兄

いみ　あに。にいさん。「兄弟・義兄（＝けっこんしているあいてのあに。また、姉のおっと）・実兄（＝血のつながったあに）・★兄さん」

つかいかた　▼ぼくには兄が一人います。▼父は兄弟がたくさんいます。▼わたしと兄さんとは、二つちがいです。

なりたち　（＝年上の男のきょうだいをあらわす、あたまの大きい子）からできた字。

答え　よこの２本のぼう。

弟

おん ＊テイ・ダイ・＊デ
くん おとうと

7かく
〔弓・4かく〕
〈ゆみ〉
↕ 兄 98

弟弟弟弟弟弟弟

いみ　❶おとうと。「兄弟」❷でし。「子弟・門弟・弟子」

つかいかた　▼弟の手をひく。▼なかのいい兄弟。▼子弟（＝年のわかいもの）をきょういくする。▼落語家に弟子入りする。

ちゅうい　「第一」などの「第」とまちがえないこと。

なりたち　ー弟　ひもがまきついたぼうの下にノじるしをつけ、ひくい位置をあらわした字。

姉

おん ＊シ
くん あね

8かく
〔女・5かく〕
〈おんなへん〉
↕ 妹 99

姉姉姉姉姉姉姉姉

いみ　あね。「姉むすめ・姉妹・長姉・★姉さん」

つかいかた　▼ぼくには姉と妹がいます。▼四人姉妹の物語です。▼「若草物語」は、外国のの物語です。▼市と姉妹都市（＝したしくつきあうことをやくそくした市と市とのかんけい）になる。

なりたち　もとの字は「姊」。𠂔（＝つるがまきついたぼうの上に一をつけたかたち）と女（＝おんな）をくみあわせた字。

妹

おん ＊マイ
くん いもうと

8かく
〔女・5かく〕
〈おんなへん〉
↕ 姉 99

妹妹妹妹妹妹妹妹

いみ　いもうと。「兄妹・姉妹・弟妹」

つかいかた　▼妹はようち園に通っている。▼たいへん妹思いの兄さん。▼顔もせいかくもよくにた兄妹。▼近所でもひょうばんのなかのよい姉妹です。▼弟妹のめんどうをみる。

なりたち　未（＝まだのびきらないわかいえだ）と女（＝おんな）をくみあわせた字。「わかい女」からいもうとのいみになった。

かん字クイズ　「とびでた矢」はどうなった？

二年

自

おん ジ・シ
くん みずから

6かく 〔自・0かく〕〈みずから〉 ↕他184

自自自自自自

いみ ❶じぶん。「自分・自習・自伝・自活・自己・自覚・自信・自身」❷ひとりでに。「自由・自然」

つかいかた ▼自らの生活をふりかえる。▼自分のことは自分でしよう。▼新しい自転車をかう。▼日本の自然をまもる。

なりたち 鼻のかたちをあらわし、鼻をゆびさして自分をしめすことからできた。

友

おん ユウ
くん とも

4かく 〔又・2かく〕〈また〉

友友友友

いみ ともだち。また、なかがよい。「友人・親友・友情・★友達」

つかいかた ▼友達のおみまいに行った。▼親友の小川くん。▼クラスの友人とキャンプに行った。▼うつくしい友情。

ただしくかこう ○ × ×

なりたち 二人が手と手をくみあわせたかたちからできた字。

体

おん タイ・*テイ
くん からだ

7かく 〔イ・5かく〕〈にんべん〉

体体体体体体体

いみ ❶からだ。「体力・体育・体重」❷かたち。ありさま。「気体・天体・大体・全体・体面」❸みにつける。「体験・体得」❹死体やぶつぞうをかぞえるときにつかうことば。たい。

つかいかた ▼じょうぶな体をつくる。▼文しょうの大体のいみ。▼体さいがわるい。

なりたち もとの字は「體」。豊(=きちんとならべること)と骨(=ほね)をくみあわせた字。

答え なくなった。「失(うしなう)」から。

毛

おん モウ
くん け

4かく 〔毛・0かく〕〈け〉

毛毛毛毛

いみ ❶ひふにはえるけ。「毛布・毛筆・毛皮」❷けのようにほそいもの。「毛細血管」❸しょくぶつやさくもつがはえる。「不毛」❹ひりつのたんいの一つ。一毛は一割の千分の一。

つかいかた ▼かみの毛がのびる。▼毛糸でセーターをあむ。▼毛布をきちんとたたむ。▼羽毛ふとんはかるい。

なりたち (=ほそいけのかたち)から、→毛となった字。

頭

おん トウ・ズ・*ト
くん あたま・*かしら

16かく 〔頁・7かく〕〈おおがい〉

頭頭頭頭頭頭頭

いみ ❶あたま。「頭上・頭痛」❷はじめ。「年頭・先頭・頭文字」❸かしら。「頭取・番頭」❹そのあたり。「店頭・駅頭」❺馬や牛など大きな動物をかぞえることば。とう。

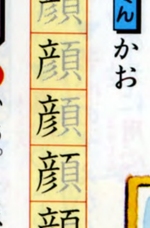
つかいかた ▼かぜで頭がいたい。▼頭上にちゅうい。▼れつの先頭。▼りょかんの番頭さん。

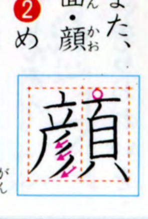
なりたち 頁(=あたま)と豆(=じっと立っている、あしのついた入れ物)をあわせた字。

顔

おん ガン
くん かお

18かく 〔頁・9かく〕〈おおがい〉

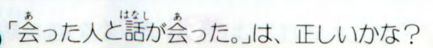




いみ ❶かお。また、かおだち。「顔面・顔色・童顔・★笑顔」❷めんぼく。「顔色」❸いろどり。「顔料」

つかいかた ▼さっと顔色がかわった。▼かわいい横顔。▼顔にどろをぬる(=めいよをきずつける)。▼水で絵の顔料(=えのぐ)をとく。

なりたち もとの字は「顏」。彦(=うつくしい男)と頁(=あたま)をくみあわせた字。



「会った人と話が会った。」は、正しいかな？

首

おん シュ
くん くび

9かく 〔首・0かく〕〈くび〉

いみ ①くび。あたま。「えり首」②はじめ。かしら。「首位・首都・首相・首席」③短歌をかぞえるときにつかうことば。しゅ。「一首」

つかいかた ▼首を長くして(=いまかいまかと)まつ。▼首位とのさはわずかだった。▼短歌を五首作った。

なりたち ―首 かみの毛のはえたあたまをあらわした字。

声

おん セイ・*ショウ
くん こえ・*こわ

7かく 〔士・4かく〕〈さむらい〉

いみ ①こえ。「声楽・歌声・音声・発声・歓*声・大声」②うわさ。ひょうばん。「名声」

つかいかた ▼きれいな声でうたう。▼大声でさけぶ。▼父はいろいろな人の声色(=人の声のまね)ができます。▼地位と名声をえる。

なりたち もとの字は「聲」。声(=石のいたでできた楽器)と殳(=楽器をたたく人)と耳(=みみ)をくみあわせた字。

心

おん シン
くん こころ

4かく 〔心・0かく〕〈こころ〉

いみ ①こころ。「心がけ・心配・本心・安心・感心・決心・熱心・用心・★心地」②しんぞう。「心臓」③まんなか。「中心」

つかいかた ▼心からおれいをいう。▼真心のこもったもてなし。▼苦心のすえかんせいした。▼火の元に用心する。▼こわくて心臓がどきどきした。▼町の中心に広場がある。

なりたち (=しんぞうのかたち)から、→心となった字。

思



おん シ
くん おもう

9かく 〔心・5かく〕〈こころ〉



いみ おもう。かんがえる。「思い出・思い付き・思考・思案・思想」



つかいかた ▼遊園地で、思うぞんぶん楽しんだ。▼思い出にふける。▼つかれて思考力がにぶった。▼思案にくれる(=まよって考えがまとまらない)。▼よい考えを思い付いた。

なりたち ⊗(=あかんぼうのあたま)と心(=こころ)をくみあわせて⊗心→思となった字。

考

おん コウ
くん かんがえる

6かく 〔耂・2かく〕〈おいかんむり〉

いみ ①かんがえる。「考案・選考・思考」②しらべる。「参考・考古学」

つかいかた ▼おもしろいゲームを考え付いた。▼思考力(=考える力)が付く。▼参考書をかいました。

考 = 孝 = 老 =

なりたち ――考 こしのまがった年よりのかたちからできた。

才

おん サイ
くん ―

3かく 〔手・0かく〕〈て〉

いみ ①生まれつきもっているのうりょく。「才能・天才・文才」②としをかぞえるときにつかうことば。さい。「歳」のかわりに小学校でつかう字。

つかいかた ▼かのじょには絵の才能がある。▼山田くんはスポーツの天才だ。▼弟は、五才になります。

なりたち (=川のながれをせきとめるせきのかたち)から→才となった字。

言

おん ゲン・ゴン

くん いう・こと

7かく 〔言・0かく〕〈いう〉

言言言言言言言

いみ ❶ことば。「言葉・言語・方言・格言・伝言・遺言」❷いう。「言論・無言・発言・予言・断言」

つかいかた ▼ていねいな言葉づかい。▼父の伝言を母につたえる。▼母の言いつけをまもる。▼えんりょなく発言してください。▼言論のじゆうをまもる。

なりたち (=するどいはもの)と(=口)をくみあわせて、→→言となった字。

記

おん キ

くん しるす

10かく 〔言・3かく〕〈ごんべん〉

記記記記記記記記記記

いみ ❶かきとめる。かきしるす。かきしるしたもの。「記入・記録・明記・日記・伝記」❷おぼえている。「記おく・暗記」

つかいかた ▼うけつけで名まえを記す。▼毎日、日記をつけています。▼家ぞくで記念写真をとる。▼父は記おく力がとてもいい。

なりたち 己(=ふせたものがおきあがるようす)と言(=ことば)をくみあわせてできた字。

話

おん ワ

くん はなす・はなし

13かく 〔言・6かく〕〈ごんべん〉

話話話話話話話話話話話話話

いみ はなす。はなし。「話題・会話・電話・童話・神話・昔話」

つかいかた ▼今月の目ひょうを話し合う。▼そんな話はきいていません。▼電話のベルがなる。▼お世話になりました。

さんこう 「話した」「話し合う」「お話しになる」には「し」をつける。「話」などにはつけない。

なりたち 舌(=口を大きくあけてしゃべる)と言(=ことば)をくみあわせた字。

書

おん ショ

くん かく

10かく 〔曰・6かく〕〈ひらび〉

書書書書書書書書書書

いみ ❶字をかく。「清書・書記」❷かいたもの。てがみやほん。「書物・書類・図書・読書・投書」❸文字。また、文字のかき方。「書道・かい書」

つかいかた ▼書きぞめのコンクールで入せんした。▼作文を清書する。▼図書室にたくさんの書物がある。▼書道をならう。

なりたち 聿(=ふで)と曰(=者をりゃくした字で、しっかりつけるいみ)をあわせた字。

読



おん ドク・トク・トウ

くん よむ

14かく 〔言・7かく〕〈ごんべん〉

読読読読読読読読読読読読読読

いみ よむ。また、よみとる。「読み物・ろう読・読書・読者・読本(=むかしの国語の教科書)・読点・解読」

つかいかた ▼物語を読む。▼かん字の読み方をおぼえる。▼しゅみは読書です。▼文には句読点(=くぎりの点や丸)をうつ。

なりたち もとの字は「讀」。賣(=きゃくの目をひきとめてうる)と言(=ことば)をくみあわせた字。くぎってよむこと。

聞

おん ブン・*モン

くん きく・きこえる

14かく 〔耳・8かく〕〈みみ〉

聞聞聞聞聞聞聞聞聞聞聞聞聞聞

いみ ❶きく。きこえる。「聞き手・立ち聞き・伝聞」❷ちしき。「見聞」❸うわさ。ひょうばん。「人聞き・風聞・外聞・新聞」

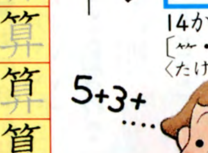
つかいかた ▼校長先生のお話を聞く。▼もの音が聞こえた。▼聞き分けのいい子。▼人聞きのわるいことを言わないでほしい。▼父はまい朝、新聞を二紙読む。

なりたち 門(=とじて中をかくすもん)と耳(=みみ)をくみあわせた字。

国

おん コク
くん くに

8かく〔囗・5かく〕〈くにがまえ〉





いみ ❶くに。「国王・国国・国民・国土・国旗・国際・外国・本国・島国」❷うまれたところ。いなか。「雪国」❸日本のこと。「国語・国文科」

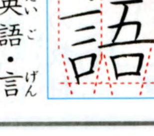
つかいかた ▼せかいの国々となかよくする。▼日本に来る外国人がふえている。▼父は北国の生まれです。▼国語の時間。

なりたち もとの字は「國」。或（＝ぶきでまもる土地）と、囗（＝かこい）をくみあわせた字。

語

おん ゴ
くん かたる・かたらう

14かく〔言・7かく〕〈ごんべん〉



いみ はなす。かたる。また、ことば。「語気・語調・語り手・物語・国語・外国語・英語・言語・反対語・標語」

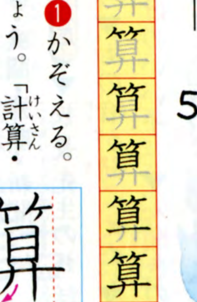
つかいかた ▼友だちとしょうらいのゆめを語り合う。▼外国の物語を読む。▼国語じてんを買ってもらった。▼アメリカ人に英語をならっています。

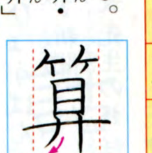
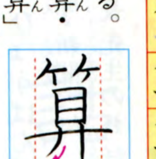
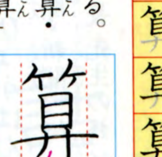
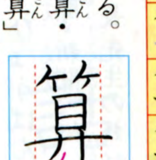
なりたち 吾（＝たがいに話しあう）と言（＝ことば）をくみあわせた字。

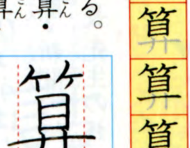
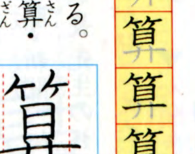
算

おん サン
くん ―

14かく〔⺮・8かく〕〈たけかんむり〉



いみ ❶かぞえる。かんじょう。「計算・暗算・予算・足し算」❷みこみ。「勝算・公算」

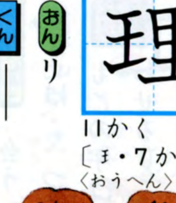
つかいかた ▼ぼくは算数がとくいです。▼こまかく計算をしてみた。▼暗算で答えを出す。▼つぎのしあいには勝算（＝勝てるみこみ）がある。
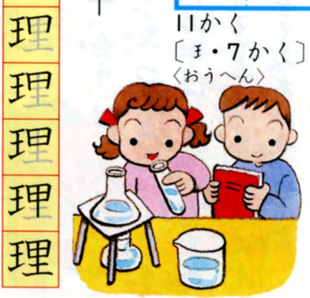
なりたち 竹（＝たけ）と具（＝そろえる）をくみあわせてできた字。そろえてかぞえるといういみをあらわす。

数

おん スウ・*ス
くん かず・かぞえる

13かく〔攵・9かく〕〈ぼくにょう〉





いみ ❶かぞえる。また、かず。「数え歌・数字・数学・算数・人数・点数」❷いくつかの。「数人・数日」

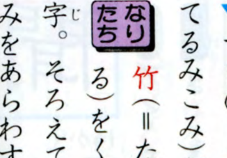
つかいかた ▼さんせいとはんたいの人数を数える。▼算数の時間にかけ算をならった。▼数人ずつでグループになる。▼この町には数々の思い出がある。

なりたち もとの字は「數」。婁（＝じゅずつなぎ）と攵（＝どうさをおこなう）をあわせた字。

理

おん リ
くん ―

11かく〔王・7かく〕〈おうへん〉



いみ ❶ものごとのどうり。すじみち。「理由・理解・理論・理くつ・理想・無理」❷ととのえる。おさめる。「整理・管理・修理・料理」❸自然科学。「理科」

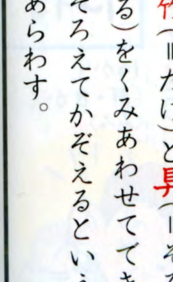
つかいかた ▼ちこくの理由を先生に話す。▼つくえのまわりを整理整とんする。▼理科室でじっけんをする。

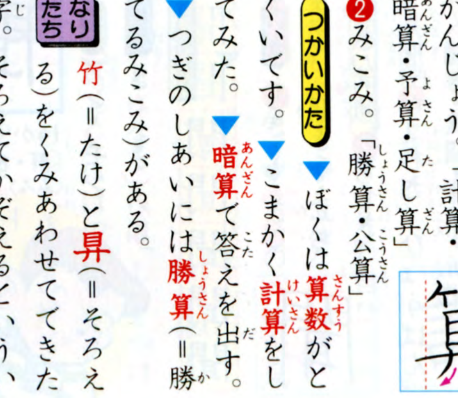
なりたち 王（＝玉）と、里（＝きちんとくぎられた田や畑）をくみあわせてできた字。

科

おん カ
くん ―

9かく〔禾・4かく〕〈のぎへん〉

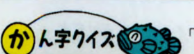




いみ ❶ものごとをくわけしたもの。「科目・科学・理科・内科・外科」❷つみ。「前科」

つかいかた ▼わたしは理科がすきです。▼教科書をかばんに入れる。▼ものもらいができて、眼科の先生にみてもらう。▼前科（＝前におかしたつみ）のある人。

なりたち 斗（＝ものをはかるます）と禾（＝さくもつ）で、「もののくわけ」をいみした字。



二年

社

おん シャ
くん やしろ

7かく 〔ネ・3かく〕〈しめすへん〉

社社社社社社社

いみ ❶おみや。やしろ。「神社」❷人々のあつまり。世の中。「社会」❸かいしゃ。「社員」

つかいかた ▼木立ちの中の古い社。▼神社におまいりをする。▼社会のためにつくした人の伝記を読んだ。▼兄は、きぼうどおり新聞社に入社した。

ちゅうい 「ネ」と「衤(＝衣服)」をまちがえないこと。

なりたち 土(＝つち)と示(＝さいだん)をくみあわせた字。

会

おん カイ・*エ
くん あう

6かく 〔𠆢・4かく〕〈ひとやね〉

会会会会会会

いみ ❶であう。あう。「会見・会話・面会」❷あつまり。「会合・会議・会社・司会・社会」

つかいかた ▼道で友だちと会った。▼えんそう会の会場。▼りょうりのこつを会得する(＝身につける)。

さんこう 「会う」は、人とあう。「合う」は、一つにあわさる。

なりたち もとの字は「會」。亼(＝あわせる)と曽(＝たくさんかさなる)をくみあわせた字。

図

おん ズ・ト
くん *はかる

7かく 〔囗・4かく〕〈くにがまえ〉

図図図図図図図

いみ ❶えがく。また、えがいたもの。「図工・図表・図形・地図・略図」❷ほん。「図書」❸そうだんする。また、はかりごと。「意図・合図」

つかいかた ▼図工の時間に、はん画をつくった。▼かべにかい地図がはってある。▼目と目で合図する。▼市立図書館。

なりたち もとの字は「圖」。啚(＝米ぐらのある土地)と囗(＝かこい)をくみあわせた字。

画

おん ガ・カク
くん ―

8かく 〔田・3かく〕〈た〉

画画画画画画画画

いみ ❶えがく。また、えがいたもの。え。「図画・絵画・画家・画像」❷くぎる。「区画」❸かんがえる。「計画」❹もじをくみたてる点や線。「字画・画数」

つかいかた ▼ゆうめいな画家の画集。▼土地を四つに区画する。▼夏休みの計画をたてる。▼かん字の画数。

なりたち もとは「畫」。聿(＝ふでを手にもつ)と画(＝田のまわりをくぎる)からできた。

工

おん コウ・ク
くん ―

3かく 〔工・0かく〕〈こう〉

工工工

いみ ❶ものをつくること。また、つくる人。「工作・工事・工場・大工・細工・加工・工夫」❷こうぎょう。「工学」

つかいかた ▼工作の時間に、うごくおもちゃを作った。▼道路工事がはじまった。▼原料を加工して製品を作る。▼大工さんが家をたてている。▼日本は工業がさかんです。

なりたち 二まいのいたにぼうをとおしたようすからできた。

作

おん サク・サ
くん つくる

7かく 〔イ・5かく〕〈にんべん〉

作作作作作作作

いみ ❶こしらえる。つくる。また、つくったもの。「作文・作曲・作品・名作・原作」❷はたらき。ふるまい。「動作・作業・作法」

つかいかた ▼校ていに花だんを作る。▼夏休みのことを作文に書く。▼ワープロで文書を作成する。▼すばやい動作。

なりたち イ(＝人)と乍(＝はものできれめをいれるいみ)をくみあわせてできた字。

かん字クイズ 汽車と電車とどうちがう?

楽

おん ガク・ラク
くん たのしい・たのしむ

13かく〔木・9かく〕〈き〉 ↕ 苦 158

楽楽楽楽楽楽楽

いみ ❶たのしい。「ご楽・安楽・苦楽・気楽」❷たやすい。「楽勝」❸おんがく。「楽器・楽団・音楽」

つかいかた ▼テレビゲームで楽しむ。▼一回戦は楽勝だった。▼先生はどんな楽器でも楽々とえんそうする。

なりたち －－樂（楽） 木の上にまゆがかかったようすをあらわした字。

歌

おん カ
くん うた・うたう

14かく〔欠・10かく〕〈けつ〉

歌歌歌歌歌歌歌

いみ うたう。また、うた。「歌声・歌手・歌集・校歌・短歌」

つかいかた ▼しあいにかって、大きな声で校歌を歌った。▼音楽室から、明るい歌声が聞こえる。▼姉さんは、あの歌手のファンです。▼短歌を百首あつめた本。

なりたち －－歌 哥（＝のどから声をだす）と欠（＝からだをかがめる）をあわせた字。

絵

おん カイ・エ
くん ―

12かく〔糸・6かく〕〈いとへん〉

絵絵絵絵絵絵絵

いみ ものの形をえがいたもの。え。「絵画・絵本・絵日記・口絵」

つかいかた ▼クレヨンで絵をかく。▼絵本が大すきな妹。▼夏休みに、毎日絵日記をかいた。▼友だちから絵葉書をもらった。

ちゅうい 「エ」は音読み。くん読みとまちがえないこと。

なりたち もとの字は繪。糸（＝いと）と會（＝よせあわせる）をくみあわせてできた字。

答え 汽車はじょう気の力で、電車は電力をエネルギーとして車輪を動かす。

色

おん ショク・シキ
くん いろ

6かく〔色・0かく〕〈いろ〉

色色色色色色

いみ ❶いろ。いろどり。「着色・変色・色素・色紙（いろがみ・しきし）」❷顔つき。「喜色」❸ものごとのようす。「音色・特色・景色」

つかいかた ▼二十四色の色えんぴつ。▼明るい色調の絵。▼喜色満面（＝顔いっぱいにうれしさがあふれているようす）。▼特色のある新製品が出た。

なりたち －色 ひざまずいたふたりの人をあらわしたかたちからできた。

紙

おん シ
くん かみ

10かく〔糸・4かく〕〈いとへん〉

紙紙紙紙紙紙紙

いみ ❶かみ。「紙しばい・手紙・色紙（いろがみ・しきし）・表紙・半紙」❷しんぶん。「紙面・紙上」

つかいかた ▼紙くずをくずかごにすてる。▼色紙でつるをおる。▼色紙にサインをしてもらった。▼画用紙に絵をかく。▼新聞の紙面に目を走らせる（＝さっと読む）。

なりたち 糸（＝いとのようなほそいすじ）と氏（＝うすいたいらなさじ）をくみあわせた字。

かん字のちしき

● 書きじゅんのきまり

かん字を書いていくじゅんばんを、書きじゅんといいます。書きじゅんには、つぎのようなきまりがあります。

◆上からじゅんに書く。
三　早　京　点　声　走　弓

◆左からじゅんに書く。
川　心　学　歌

◆左と右にわかれているものは、左から書く。
町　村　海　計　切　朝　野

◆たてとよこがまじわっているときには、よこから書く。
十　七　古　大　木　友　午

◆中を先に書く。
小　水　光　当　楽

◆つきぬけるぼうは、あとから書く。
中　牛　半　女　母　海

◆外がわのかこいから書く。
四　田　園　同　肉　聞　風

◆かんむりは、先に書く。
草　花　買　雲　考　答　室

かん字クイズ 「麦秋」とは、1年のうちいつごろ？

黄

11かく 〔黄・0かく〕〈き〉

おん *コウ・オウ

くん き・*こ



いみ きいろ。「黄緑・黄身・黄金・黄土色・硫*黄」

つかいかた ▼赤や黄のチューリップがさいた。▼白いシャツが黄ばんだ。▼いちょうの葉が黄葉（＝黄色にかわること）した。

さんこう 葉が赤くなるのは、「紅葉」という。

なりたち －黄（黄） （＝ひかり）と （＝火矢）をくみあわせ、火矢のきいろい色をいみした。

黒

11かく 〔黒・0かく〕〈くろ〉 ↕白 78

おん コク

くん くろ・くろい

いみ ①くろいいろ。「黒山・黒目・黒星・黒板」②わるいこと。「はら黒い・黒まく」

つかいかた ▼黒い雲が広がってきた。▼黒板に答えを書く。▼日にやけて、まっ黒になった。▼黒山の人だかりだ。▼はら黒い（＝わるい考えをもつ）人。

なりたち －－黒（黒）（＝えんとつのすす）と （＝火）をくみあわせた字。

形

7かく 〔彡・4かく〕〈さんづくり〉

おん ケイ・ギョウ

くん かた・かたち

いみ かたち。また、ようす。「顔形・自由形・形式・正方形・三角形・図形・人形・地形」

つかいかた ▼顔形のととのった人。▼色紙を丸や三角の形に切る。▼かわいい人形を買った。▼山にかこまれたけわしい地形。

さんこう 「型」とつかい分けよう。「大型・体型・模型」

なりたち 彡（＝もよう）と井（＝しかくいわく）をくみあわせて、形→形となった字。

点

9かく 〔灬・5かく〕〈れんが〉

おん テン

くん ―

いみ ①小さいしるし。「点線」②てんすう。「百点」③あるばしょ。げんど。「地点・終点」④ことがら。「欠点」⑤（火を）つける。「点火」⑥しらべる。「点検」⑦しずくをたらす。「点眼」⑧しなものの数を数えるときのことば。

つかいかた ▼点線のところからおる。▼要点をメモする。

なりたち もとの字は「點」。黒（＝くろい）と占（＝うらない）をくみあわせてできた字。

丸

3かく 〔丶・2かく〕〈てん〉

おん ガン

くん まる・まるい・まるめる

いみ ①まるい。まるいもの。「丸薬・丸太」②あることばの上について、「ぜんぶ」をあらわすことば。「丸暗記」

つかいかた ▼日の丸のはたがあがる。▼こねたねん土を丸める。▼砲*丸投げの新記ろくが出た。▼テストの前に、教科書を丸暗記した。

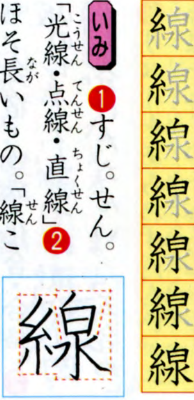
なりたち －－丸 まがったせんと体をまるめた人からできた。

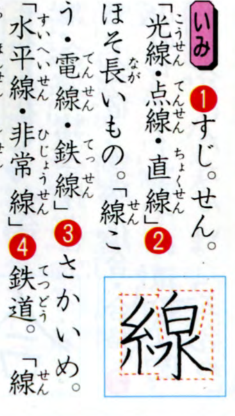
線

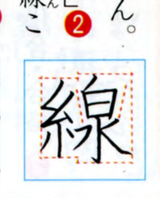
15かく 〔糸・9かく〕〈いとへん〉

おん セン

くん ―



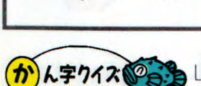




いみ ①すじ。せん。「光線・点線・直線」②ほそ長いもの。「線こう・電線・鉄線」③さかいめ。「水平線・非常線」④鉄道。「線路・本線・支線」

つかいかた ▼運動会の前の日に、校ていに白線をひいた。▼電線が風でゆれている。▼地平線に太陽がしずむ。▼海岸線にそってのびる線路。

なりたち 糸（＝いと）と泉（＝ほそくちいさい）をあわせた字。



直

8かく〔目・3かく〕〈め〉 ↕ 曲 157

おん チョク・ジキ

くん ただちに・なおす・なおる

（一かくで）



いみ ❶まっすぐ。「直線・直進・直角」❷ただしい。ただしくする。「正直・実直・仲直り」❸すぐに。また、じかに。「直前・直感・直接」

つかいかた ▼じょうぎで直線をひく。▼あの人は正直ものだ。▼まちがえた答えを直す。▼直ちにとりかかる。▼直接わたす。

なりたち （＝めとまっすぐなしるし）から、直→直となった字。

角

7かく〔角・0かく〕〈つの〉

おん カク

くん かど・つの

（たてがき）（でない）

いみ ❶つの。「角笛・触*角」❷かど。すみ。「四つ角・三角形・角材・角柱」❸かくど。「直角・えい角」❹すもう。「角界」

つかいかた ▼まがり角にポストがある。▼四つ角を左にまがる。▼直角に交わる二本の直線。▼角界（＝すもうの社会）を代表するよこづな。

なりたち どうぶつのつの のかたちからできた字。

合

6かく〔口・3かく〕〈くち〉

おん ゴウ・ガッ・カッ

くん あう・あわす・あわせる

いみ ❶あう。あわせる。かなう。「会合・集合・合計・合作・合唱・合宿・合成・化合・合格」❷山のちょう上までの道のりを、十に分けたたんい。「五合め」❸りょうをあらわすたんい。一合は一升*の十分の一。

つかいかた ▼クラスで話し合ってきめる。▼合図のふえをふく。▼ふじ山の八合めの小屋。

なりたち 亼（＝かぶせる）と口（＝あな）をくみあわせた字。

答え 岩。「山・石」だから。

計

9かく〔言・2かく〕〈ごんべん〉

おん ケイ

くん はかる・はからう



いみ ❶かぞえる。また、かぞえたもの。「計算・合計・会計・統計」❷数りょうなどをはかる、きかい。「温度計・時計」❸かんがえる。また、はかりごと。「計画・設計」

つかいかた ▼つかったお金の合計を出す。▼かれは計算がはやい。▼旅行の計画をたてる。

なりたち 言（＝ことばのいみ）と十（＝おおくのものをひとつにあつめるいみ）からできた字。

何

7かく〔イ・5かく〕〈にんべん〉

おん *カ

くん なに・なん

いみ はっきりわからないこと。また、わからないことをたずねることば。「何事・何者・何時・何日・何度・何人」

つかいかた ▼何かごようですか。▼ここには何回も来たことがある。▼今、何時ですか。

さんこう 「何時」のように、「なん」と読むことが多い。

なりたち 何－何－何 人がにもつをかつぐかたちからできた字。

答

12かく〔⺮・6かく〕〈たけかんむり〉 ↕ 問 206

おん トウ

くん こたえる・こたえ

いみ こたえる。また、こたえ。「受け答え・口答え・問答・答案・返答・名答・応答・回答・解答」

つかいかた ▼生徒会でしつぎ応答（＝しつもんやいけんにこたえること）をする。

さんこう 「解答」はもんだいの答え。「回答」はといあわせの答え。

なりたち 竹（＝たけ）と合（＝あわせる）をくみあわせた字。竹の入れものに、ぴったりとあうふたをかぶせることのいみ。

かん字クイズ 春分の日、昼と夜とどちらが時間が長い？

電

おん デン
くん ―

13かく 〔雨・5かく〕〈あめかんむり〉



電電電電電電電

いみ ❶いなびかり。「電光」❷でんき。「電線・電車・電話・電波・発電」❸電信・電報・電話のりゃく。「電文・祝電・るす電」❹電車のりゃく。「市電・終電」

つかいかた ▼くらい空に電光(＝いなびかり)が走る。▼祝電(＝いわいの電報)をうつ。

なりたち 𩃬-𩃬-電 雨(＝あめ)と、申(＝ながくのびる)をくみあわせ、いなずまをあらわした。

教

おん キョウ
くん おしえる・おそわる

11かく 〔攵・7かく〕〈ぼくにょう〉

教教教教教教教 （はらう）

いみ ❶おしえる。「教え子・教室・教育・教科書」❷神やほとけのおしえ。「教会・仏教」また、しゅうきょう。

つかいかた ▼駅へ行く道を教えてあげた。▼音楽は、田中先生に教わっています。▼教会でさんび歌をうたう。

なりたち 𢼂-教(教) ××(＝まじえる)と、子(＝子)と攵(＝動作をおこなう)をあわせた字。

知

おん チ
くん しる

8かく 〔矢・3かく〕〈やへん〉

知知知知知知知

いみ ❶しる。また、しらせる。「知識・通知・予知・承知」❷しりあいである。また、しりあい。「知人・旧知」❸かんがえるはたらき。「知恵*・知能・知性」

つかいかた ▼わたしのおじいさんは物知りだ。▼未知(＝まだしられていない)の分野の研究。▼みんなで知恵*をしぼる。

なりたち 矢(＝や)と口(＝くち)をあわせて、矢のようにいいあてるいみをあらわした字。

万

おん マン・*バン
くん ―

3かく 〔一・2かく〕〈いち〉

万万万 （こっちがさき）（つきでない）

いみ ❶千の十ばい。「一万円・一万人」❷たくさんある。すべて。「万人・万事・万国旗・万病・万能・万全・巨*万」

つかいかた ▼球場には、三万人の観客があつまった。▼万事うまくいく。▼あの人は一代で巨万の富をきずいた。▼かぜは万病(＝あらゆる病気)のもと。

なりたち 卍からかわった字で、古い字の「萬」のかわりに使われてきた。

毎

おん マイ
くん ―

6かく 〔母・2かく〕〈なかれ〉

毎毎毎毎毎毎

いみ そのとき、そのとき。いつも。「毎日・毎月・毎年」

つかいかた ▼毎日小鳥にえさをやるのが、わたしのやくめです。▼お父さんは、毎朝犬とさんぽをします。▼毎週、このテレビドラマを見ています。

ただしくかこう ○母×毋 ○毎×毎

なりたち もとの字は「每」。𠂉(＝かんざし)と母(＝はは)をくみあわせてできた字。

回

おん カイ・*エ
くん まわる・まわす

6かく 〔囗・3かく〕〈くにがまえ〉

回回回回回回

いみ ❶まわる。まわす。「回転・回らん」❷もとにもどる。「回復・回収」❸よける。さける。「回り道」❹度数をあらわすことば。かい。「何回」

つかいかた ▼目が回るほどいそがしい。▼こまを回す。▼いきおいよく回転するプロペラ。▼何回も答えをたしかめる。

なりたち ◎(＝ぐるぐるとまわる、うずまきのかたち)からできた字。

半

おん　ハン
くん　なかば

5かく
〔十・3かく〕
〈じゅう〉

半半半半半
たてがさいご



いみ　❶はんぶん。なかば。「半分・半年・半円・半減・半面・後半・半ば」❷かんぜんでない。「半ぱ」

つかいかた　▼夏休みも**半ば**をすぎた。▼このものがたりは、**後半**がおもしろい。▼毎朝**七時半**に家を出る。▼**半ぱ**の数が出た。

ちゅうい　「半ば」を「半かば」と書かないこと。

なりたち　八(＝わける)と牛(＝うし)をくみあわせてできた字。

当

おん　トウ
くん　あたる・あてる

6かく
〔小・3かく〕
〈しょう〉

当当当当当当
ツではない

いみ　❶あたる。あてはまる。「体当たり・手当て・当番・当選・見当・担当・適当」❷あたりまえ。「当然」❸この。その。いま。「当日・当時・当人」

つかいかた　▼ふく引きで三とうに**当たる**。▼今週は、きゅう**食当番**だ。▼**当然**のことをしただけです。▼しあいの**当日**。

なりたち　もとの字は「當」。田と尚をくみあわせてできた。「当」は、このりゃく字。

番

おん　バン
くん　―

12かく
〔田・7かく〕
〈た〉

番番番番番番番
たてがさき

いみ　❶じゅんばん。「番号・番地・番組・当番」❷みはる。「番犬・交番・るす番」

つかいかた　▼さあ、きみの**番**だよ。▼**番号**じゅんにならんでください。▼かけっこはいつも**一番**だ。▼**交番**におまわりさんがいる。▼きょうは弟が**るす番**です。

なりたち　釆(＝四方八方にちらばる)と田(＝た)をくみあわせてできた字。

二年

組

おん　ソ
くん　くむ・くみ

11かく
〔糸・5かく〕
〈いとへん〉

組組組組組組組

いみ　❶くみたてる。つくる。「組み合わせ・組織・番組」❷いっしょのなかま。くみ。「一組み・組合・二組」

つかいかた　▼プラモデルを**組み立てる**。▼会社の**組織**(＝しくみ)をととのえる。▼かれとは同じ**組**のともだちです。▼二人で**組み**になる。

なりたち　糸(＝ひも)と且(＝ものがかさなったようす)をくみあわせた字。

かん字のちしき

●はんたいのいみのかん字

「古い↔新しい」は、はんたいのいみをもつかん字です。これらのかん字が二つくみ合わさってできたことばが、たくさんあります。

前後　強弱　内外　大小　遠近　上下　売買　出入
後先　多少





●ついになるいみのかん字

「親↔子」のように、ついになるいみをもつかん字があります。これらのかん字も、二つがくみ合わさって、一つのことばをつくります。

父母　姉妹　東西　天地　兄弟　男女　南北　晴雨
今昔　山川　春秋　左右　黒白　朝夕　手足　昼夜

二年

交

6かく 〔亠・4かく〕〈なべぶた〉



おん コウ

くん まじわる・まじえる・まじる・まざる・まぜる・＊かう・＊かわす

交交交交交交

いみ ❶まじわる。つきあう。「交通・交差点・交流・交際・外交」❷とりかえる。とりかわす。「交かん・交代・交易」

つかいかた ▼たくさんの人と交わる。▼交通ルールをまもりましょう。▼交差点でじこがあった。▼ピッチャーが交代する。▼「おはよう」と朝のあいさつを交わす。

なりたち (＝人が足をまじわらせたかたち)からできた。

通

10かく 〔辶・7かく〕〈しんにょう〉

おん ツウ・＊ツ

くん とおる・とおす・かよう

通通通通通通通通通通

いみ ❶とおる。ゆききする。「通学・開通・流通・通過」❷しらせる。「通知・通訳・文通」❸広くゆきわたる。「通用・通常・共通」❹とおして。「通夜・通読」❺ものごとにくわしい人。「外国通」❻手紙や書るいを数えることば。つう。

つかいかた ▼大通りを通って学校に通う。▼二人の共通点。

なりたち 甬(＝人が地面をふむ)と辶(＝すすむ)からできた。

道

12かく 〔辶・9かく〕〈しんにょう〉

おん ドウ・＊トウ

くん みち

道道道道道道道道道道道道

いみ ❶みち。「近道・道路・国道・歩道・水道・鉄道・赤道」❷人のまもるべきこと。「道理・道徳」❸やりかた。「じゅう道・道具」❹言う。「報道」

つかいかた ▼道にまよう。▼駅へはこの道が近道です。▼国道は車が多い。▼しごとのあと、道具をかたづける。▼報道じんがたくさんあつまる。

なりたち 首(＝あたま)と辶(＝すすむ)をくみあわせた字。

答え さんま。

場

12かく 〔土・9かく〕〈つちへん〉

おん ジョウ

くん ば

場場場場場場場場場場場場

いみ ❶ばしょ。「会場・工場・入場・市場・波止場」❷ばめん。「第一場」❸とき。「場合」

つかいかた ▼きめられた場所に集合する。▼弟と広場でキャッチボールをする。▼えんそう会の会場についた。▼入場行進のれんしゅうをする。▼雨の場合は遠足は中止です。

なりたち 昜(＝太陽がうつくしくのぼるようす)と土(＝つち)をくみあわせた字。

地

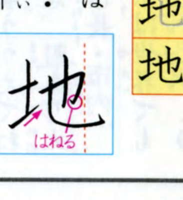
6かく 〔土・3かく〕〈つちへん〉 ↕天 64

おん チ・ジ

くん ―

地地地地地地

いみ ❶じめん。ばしょ。「地球・地図・地面・大地・土地・平地」❷たちば。「地位・境地・★心地」❸うまれつき。「地声・生地」❹かぎられたところ。いなか。「現地・地元・地方」



つかいかた ▼会社で重要な地位につく。▼父は地声が大きい。▼心地よい風。▼★意気地のない人。

なりたち 土(＝つち)と也(＝さそりのかたち)のくみあわせ。

方

4かく 〔方・0かく〕〈ほう〉

おん ホウ

くん かた

方方方方

いみ ❶ほうこう。「方向・方角・前方・遠方・行方」❷あるちいき。「地方・方言」❸四角。「長方形・正方形」❹そのころ。「夕方」❺かんけいのある人。「味方」❻やりかた。「方法・方式」

つかいかた ▼北の方からつめたい風がふく。▼病気が快方(＝よいほう)にむかう。

なりたち (＝田をたがやすどうぐ)に亠(＝とって)をくみあわせて、→方となった字。

かん字クイズ 「強」は弓(ゆみ)の部。では「弱」は?

二年

京

おん キョウ・＊ケイ
くん ―

8かく
〔亠・6かく〕
〈なべぶた〉

京京京京京京京京

いみ ❶国のせいじの中心の都市。みやこ。「東京・上京・帰京」❷京都のりゃく。「京人形・京阪＊神（＝京都・大阪＊・神戸）」❸東京のりゃく。「京浜＊（＝東京と横浜＊）・京葉（＝東京と千葉）」

つかいかた ▼父はきのう、しごとで上京（＝東京へ行くこと）しました。▼京都で京人形を買いました。

なりたち [glyph]（＝たかだいのたてもの）から、[glyph]→京となった字。

市

おん シ
くん いち

5かく
〔巾・2かく〕
〈はば〉

市市市市市

いみ おおきな町。「都市」❷いちば。「市場（いちば・しじょう）・市価」❸地方のせいじをおこなううえでわけたくいきの一つで、町より大きいもの。「市民・市長・市内」

つかいかた ▼東京は世界でもゆびおりの大都市です。▼この通りには、毎日朝市がたちます。▼父は市役所につとめています。

なりたち [glyph]（＝たいら）と[glyph]（＝とまる）をくみあわせて、[glyph]→市となった字。

里

おん リ
くん さと

7かく
〔里・0かく〕
〈さと〉

里里里里里里里

いみ ❶山あいで、人があつまってすんでいるところ。「人里・村里」❷ふるさと。「里帰り・郷里」❸むかしのきょりのたんいの一つ。一里はやく四キロメートル。「一里塚＊」

つかいかた ▼人里はなれたところで、しずかにくらす。▼五年ぶりに、郷里に帰る。

なりたち [glyph]（＝田んぼと土をくみあわせたかたち）からできた字。

家

おん カ・ケ
くん いえ・や

10かく
〔宀・7かく〕
〈うかんむり〉

家家家家家家家家家家

いみ ❶いえ。たてもの。「家屋・家族・家てい・家ちん・本家・家来・家がら」❷せんもんの人。「画家・作家」

つかいかた ▼新しい家をたてる。▼家族そろって、夕ごはんを食べる。▼家具屋さんで、つくえを買ってもらった。▼家ちんをはらう。▼王さまが家来をつれて歩く。▼画家になりたい。

なりたち 宀（＝やね）と豕（＝ぶた）をくみあわせた字。

寺

おん ジ
くん てら

6かく
〔寸・3かく〕
〈すん〉

寺寺寺寺寺寺

いみ てら。「寺院・寺社（＝てらとおやしろ）・古寺・山寺・寺子屋（＝江＊戸時代、子どもに読み書きやそろばんをおしえた、学校のようなところ）」

つかいかた ▼町はずれに、ふるいお寺がある。▼寺がたちならぶ町。▼あちこちの古寺を見て歩く。▼京都へ行って金閣寺を見学する。

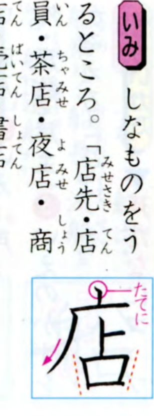
なりたち 止（＝あし）と寸（＝て）のくみあわせからできた字。

店

おん テン
くん みせ

8かく
〔广・5かく〕
〈まだれ〉

店店店店店店店店



いみ しなものをうるところ。「店先・店員・茶店・夜店・商店・売店・書店」

つかいかた ▼この店の店員はしんせつだ。▼やおやの店先で立ち話をしている。▼お寺のまえの茶店に入った。▼駅の売店で新聞をかう。▼にぎやかな商店がいを歩く。

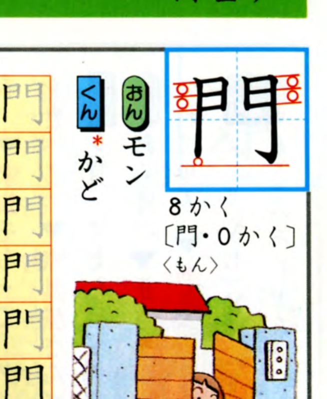
なりたち 广（＝いえのいみ）と占（＝うらないできめるいみ）をくみあわせてできた字。

かん字クイズ ベースボールは「野球」。ではテニスは？

答え 同じ弓の部。

門

おん モン
くん *かど
8かく
〔門・0かく〕
〈もん〉



門門門門門門門門

いみ ❶いえの出入り口。「門番・正門・校門・門松」❷いえ。また、いえがら。「名門」❸なかま。「門下・同門・入門」❹いくつかにわけたもの。「部門・専門」

つかいかた ▼**校門**の前にざっか屋がある。▼はれの**門出**（＝新しい生活をはじめること）をいわう。▼平家の**一門**。

なりたち 門－門－門 とびらをとじたかたちからできた。

室

おん シツ
くん *むろ
9かく
〔宀・6かく〕
〈うかんむり〉

室室室室室室室室室

いみ ❶へや。「室内・教室・図書室・温室」❷ほらあな。「石室」❸いちぞく。「王室・皇室」

つかいかた ▼毎日、**教室**をそうじします。▼**図書室**で本を読む。▼**温室**で、たくさんの花をさいばいする。▼山の**石室**にとまった。

なりたち 宀（＝いえ）と至（＝おくまでとどいてとどまる）をくみあわせた字。いちばんおくのへやのいみをあらわす。

戸

おん コ
くん と
4かく
〔戸・0かく〕
〈と〉

戸戸戸戸

いみ ❶（出入り口の）と。「戸だな・戸口・雨戸」❷いえ。「戸外・戸数・戸主」❸いえのかずをかぞえることば。こ。

つかいかた ▼**戸だな**にコップをしまう。▼**雨戸**をしめて、**戸じまり**をする。▼いい天気なので、**戸外**であそぶ。▼**一戸だて**（＝どくりつしているたてもの）の家にすむ。

なりたち 戸（＝もんの左のとびら）から、戸→戸となった字。

台

おん ダイ・タイ
くん ―
5かく
〔口・2かく〕
〈くち〉

台台台台台

いみ ❶たかいたいらな土地。「台地・高台」❷ものをのせるもの。「鏡台・ふみ台・舞*台」❸もとになるもの。「土台・台紙」❹じどう車などをかぞえることば。「五台」❺数のおおよそのはんい。「九びょう台」

つかいかた ▼**高台**の家。▼**舞台**に立つ。▼土**台**をかためる。

なりたち もとの字は「臺」。土（＝つち）と高（＝高をりゃくしたもの）と至（＝とどく）てできた字。

汽

おん キ
くん ―
7かく
〔氵・4かく〕
〈さんずい〉

汽汽汽汽汽汽汽

そってはね

いみ ゆげ。じょう気。「汽車・汽船・汽笛」

つかいかた ▼夏休みに、**汽車**にのった。▼おじいさんは、大きな**汽船**の船員でした。▼きりの中で、船の**汽笛**がボーッとなった。

さんこう 「汽」とにた「気」は、くうきのいみ。「きしゃ」は「汽車」、「じょうき」は「じょう気」。

なりたち 気（＝いき）と氵（＝みず）をくみあわせた字。



船

おん セン
くん ふね・ふな
11かく
〔舟・5かく〕
〈ふねへん〉

船船船船船船船船船船船

はらう たてに

いみ ふね。「船出・船乗り・船長・汽船・客船・造船」

つかいかた ▼**船**がみなとに入ってきた。▼大きな**客船**にのって、**船旅**に出る。▼**漁船**でにぎわうみなと町。▼赤い**風船**をもった女の子。

さんこう 「船出・船旅」などは、「ふな」と読む。
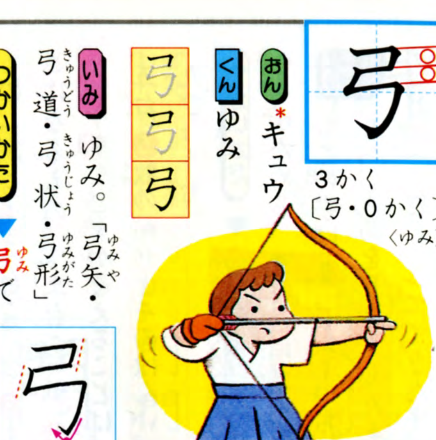
なりたち 㕣（＝くぼみにそって水がながれるようす）と舟（＝ふね）をくみあわせた字。

かん字クイズ ヨーロッパで、人魚のモデルとされた魚は？

弓

おん *キュウ
くん ゆみ

3かく〔弓・0かく〕〈ゆみ〉



いみ ゆみ。「弓矢・弓道・弓状・弓形」

つかいかた ▼弓で矢をいる。▼弓道場で、弓のれんしゅうをする。▼体を弓なりにそらす。▼むすびのいちばんがおわって、弓取式がはじまった。▼日本は、島が弓状につらなってできている。

なりたち (=ゆみのかたち)から→弓となった字。

矢

おん *シ
くん や

5かく〔矢・0かく〕〈や〉

いみ ❶や。「矢印・矢車・矢面・弓矢・一矢」❷はやいことのたとえ。「矢つぎばや」

つかいかた ▼矢印にそって歩く。▼矢車がからからまわる。▼てきの矢面にたつ。▼矢のようなさいそく。

ちゅうい 「失(う)」の字とまちがえないこと。

なりたち (=まっすぐな、やのかたち)から→矢となった字。

刀

おん トウ
くん かたな

2かく〔刀・0かく〕〈かたな〉

いみ かたな。はもの。「小刀(こがたな・しょうとう)・木刀・大刀・短刀・名刀・太刀(★たち)・竹刀(★しない)」

つかいかた ▼刀をこしにさした武士。▼小刀で竹をけずって、竹とんぼを作った。▼ちょうこく刀で、はん木をほる。▼父は毎朝、木刀をふって体をきたえている。

なりたち (=はのそったかたなのかたち)から、→→刀となった字。

牛

おん ギュウ
くん うし

4かく〔牛・0かく〕〈うし〉

いみ うし。「牛にゅう・牛肉・子牛・にゅう牛・水牛」

つかいかた ▼このぼくじょうには、牛や馬がたくさんいる。▼子牛がちちをのんでいる。▼毎朝、牛にゅうをのむ。▼牛肉をやいてたべた。▼にゅう牛からちちをしぼる。

ちゅうい 「午」や「手」とまちがえないこと。

なりたち (=うしのあたま)から→牛となった字。

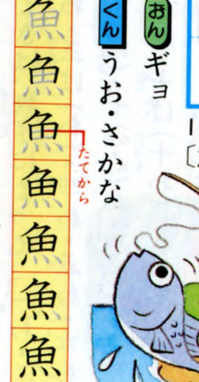
馬

おん バ
くん うま・*ま

10かく〔馬・0かく〕〈うま〉

いみ うま。「馬とび・馬車・竹馬・木馬・乗馬・白馬・けい馬」

つかいかた ▼乗馬クラブに入る。▼馬力のあるトラック。▼竹馬にのる。▼神社に絵馬をおさめる。



なりたち →→→馬 うまのかたちからできた字。

魚

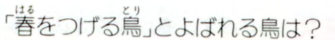
おん ギョ
くん うお・さかな

11かく〔魚・0かく〕〈うお〉

いみ さかな。「魚屋・魚つり・魚市場・金魚・人魚」

つかいかた ▼父と魚つりに出かけた。▼魚市場の見学に行った。▼金魚にえさをやる。▼おじさんは、いろいろな熱帯魚をかっている。▼おぼうさんが、木魚をたたきながらおきょうをあげている。

なりたち →→→魚 さかなのかたちからできた字。

かん字クイズ 「春をつげる鳥」とよばれる鳥は？

答え ジュゴン。げんみつにいうと、魚ではなくほにゅうるい。

鳥

おん チョウ
くん とり

11かく〔鳥・0かく〕〈とり〉

いみ とり。「小鳥・水鳥・わたり鳥・白鳥・野鳥」

つかいかた ▼鳥のように空をとびたい。▼父と、小鳥のすばこを作った。▼つばめはわたり鳥です。▼城のおほりに白鳥がいる。▼きょうから愛鳥週間がはじまった。▼さむくて、鳥はだがたつ。

なりたち →鳥 とりのかたちからできた字。

鳴

おん メイ
くん なく・なる・ならす

14かく〔鳥・3かく〕〈とり〉

いみ ❶こえをだす。なく。「鳴き声・悲鳴」❷おとがする。なる。「共鳴・鳴動」

つかいかた ▼小鳥の鳴き声。▼するどい悲鳴が聞こえた。▼げんかんのブザーを鳴らす。▼耳鳴りがしている。

さんこう 鳥や虫などがなくときにつかう。人の場合は「泣く」。

なりたち 鳥(＝とり)と口(＝くち)をくみあわせて、鳥が「なく」ことをあらわした字。

羽

おん *ウ
くん は・はね

6かく〔羽・0かく〕〈はね〉

いみ ❶はね。つばさ。「羽音・羽衣・羽毛・白羽」❷鳥やうさぎをかぞえることば。「三羽」

つかいかた ▼羽根つきをする。

さんこう 鳥やうさぎを数えるときは、数字によって、「一わ・二わ・三ば(わ)・四わ・五わ・六わ(六ぱ)・七(なな・し)わ・八わ(八ぱ)・九わ・十ぱ(十わ)」となる。

なりたち →羽(羽) 二まいの鳥のはねをあらわした字。

肉

おん ニク
くん ―

6かく〔肉・0かく〕〈にく〉

いみ ❶どうぶつのにく。また、にくにたもの。「肉食・肉屋・牛肉・魚肉・果肉」❷からだ。また、じかに。「肉体・肉声・肉眼」❸もののあつみ。「肉太」❹血のつながり。「肉親」

つかいかた ▼強い肉体をつくる。▼ばいきんは、肉眼(＝人間の目)では見えない。▼肉太の字。

なりたち (＝どうぶつのやわらかいにくのかたち)から、→肉となった字。

米

おん ベイ・マイ
くん こめ

6かく〔米・0かく〕〈こめ〉

いみ ❶こめ。「米屋・米作・米食・白米・げん米」❷アメリカのこと。「米国・南米・北米」

つかいかた ▼米を五合たく。▼今年とれた新米を食べた。▼米国(＝アメリカ合衆国)にりゅう学する学生。

さんこう 八十八才のおいわいを「米じゅ」という。

なりたち 米(＝十のしるしの四方にこめつぶがちらばったかたち)から、米→米となった字。

麦

おん *バク
くん むぎ

7かく〔麦・0かく〕〈むぎ〉

いみ むぎ。「麦わら・麦茶・麦畑・麦ふみ・大麦・小麦・麦芽・麦秋(＝むぎをとりいれるころで、六月ごろ)」

つかいかた ▼麦ごはんに、とろろじるをかけて食べる。▼よくひえた麦茶をのむ。▼見わたすかぎりの麦畑。▼麦わらぼうしをかぶる。

なりたち もとの字は「麥」。來(＝むぎのほのかたち)と夂(＝あし)をくみあわせた字。

二年

茶

9かく 〔艹・6かく〕〈くさかんむり〉

おん チャ・*サ

くん ―



茶茶茶茶茶茶茶茶茶

いみ ❶茶の木。また、その葉をつかったのみもの。「茶畑・茶つみ・茶の間・茶づけ・茶店・緑茶・紅茶・番茶・茶話会」❷茶の湯のこと。「茶道」❸黒みがかった赤黄色。

つかいかた ▼あついお茶をのむ。▼家ぞくが茶の間にあつまる。▼ウーロン茶をのむ。

なりたち もとの字は「荼」。艹(=しょくぶつ)と余(=ゆったりする)をくみあわせた字。

食

9かく 〔食・0かく〕〈しょく〉

おん ショク・*ジキ

くん く-う・*く-らう・た-べる

食食食食食食食食食

いみ ❶たべる。また、たべもの。「食べ物・食事・食料・食品・食物・朝食・給食」❷太陽や月がかける。「日食・月食」

つかいかた ▼食堂で、天どんを食べる。▼虫が食った古い本。▼日食をかんさつした。

なりたち (=あつめてふたをする)と(=こくもつをたくさんもつ)からできた。

活

9かく 〔氵・6かく〕〈さんずい〉

おん カツ

くん ―

活活活活活活活活活

いみ ❶いきる。いかす。「活用・生活」❷さかんにうごく。いきいきしている。「活力・活発・活動・活火山」

つかいかた ▼楽しい学校生活をおくる。▼運動会で活やくした。▼活気のあるクラス。▼活発なふん火をくりかえしている活火山。

なりたち 舌(=いきおいよくうごく)と氵(=みず)をくみあわせてできた字。

答え 10月10日。「朝」の字を分けると「十・日・十・月」となるから。

用

5かく 〔用・0かく〕〈もちいる〉

おん ヨウ

くん もち-いる

用用用用用

いみ ❶ようじ。「用事・用件・私用・所用」❷つかう。「用意・用量・用心・活用・採用・使用・利用」❸はたらき。「作用」❹ひつようなお金やしなもの。「費用」

つかいかた ▼用事をすませる。▼水力を利用して、発電する。▼火の用心。▼手先が器用だ。▼くすりの作用で、ねつが下がった。▼筆を用いる。

なりたち (=長方形のいた)と卜(=ぼう)のくみあわせ。

かん字のちしき

● かん字のできかた

かん字はさいしょは、絵からできました。

川 木 馬 犬

そのあとも、つぎのようにしていろいろなかん字ができました。

■図や記ごうでしめした

上 もとの線より上にある

下 もとの線より下にある

■いみを合わせてできた

明 お日さまと、お月さまが合わさると、明るいから。

■読みといみを合わせてできた

晴 青…読み方 日…いみ

ことばのきまり

● おくりがな

かん字の読みかたをはっきりさせるために、かん字の下につけるかなを、「おくりがな」といいます。

〈おくりがなをつけるかん字〉

通 ●交番の前を通る。 ●ようち園へ通う。

細 ●色紙を細く切る。 ●やさいを細かく切る。

どうさやようすをあらわすかん字のおくりがなは、「通らない・通れば」のように形がかわります。

〈おくりがなをつけないかん字〉

花 ●花を花びんにさす。 ●ばらの花がすきだ。

海 ●青い海でおよぐ。 ●海に近いところにすむ。

ものの名まえをあらわすかん字は、そのかん字の読みだけでいみがわかるので、おくりがなをつけないのがふつうです。

かん字クイズ ある店に4かい行った。何をしに行ったのかな？

前

おん ゼン
くん まえ

9かく 〔刂・7かく〕〈りっとう〉 ↕ 後 132

前 前 前 前 前 前 前 前 前



いみ ❶まえ。まえのほう。「前向き・前後・前進」❷あるときよりまえ。いぜん。「前日・午前・食前・事前・寸前」

はねる

つかいかた ▼学校の前に、小さな公園があります。▼いきおいよく前進する。▼雨は午前中にあがった。

なりたち 歬-前 「セン」という音をもつかたちとリ(=かたな)をくみあわせてできた字。

後

おん ゴ・コウ
くん のち・うしろ・あと・*おくれる

9かく 〔彳・6かく〕〈ぎょうにんべん〉 ↕ 前 132

後 後 後 後 後 後 後 後 後

いみ ❶もののうしろ。「後方・後列」❷のち。あと。「後日・食後・午後」❸おくれる。「後進」

つかいかた ▼父の後ろを歩く。▼食事の後で、ゲームをした。▼明日は晴れ後くもり、午後おそくからは雨でしょう。▼流行後れの洋服。

なりたち 後-後 幺(=ほんのすこし)と夂(=あしをひきずるかたち)と彳(=いく)をくみあわせた字。

内

おん ナイ・*ダイ
くん うち

4かく 〔冂・2かく〕〈どうがまえ〉 ↕ 外 133

内 内 内 内

いみ ❶なか。うちがわ。「内部・案内・体内・以内」❷ひそか。「内祝い・内しょ・内定」

とめる

つかいかた ▼おには外、ふくは内。▼ものがたりの内容をまとめる。▼あたたかい室内に入る。▼内しょばなしをする。▼寺の境内(=しき地の中)をあるく。

なりたち 冂(=おおい)と人(=いれる)をくみあわせて、内↓内となった字。

外

おん ガイ・*ゲ
くん そと・ほか・はずす・はずれる

5かく 〔夕・2かく〕〈ゆう〉 ↕ 内 132

外 外 外 外 外

いみ ❶そと。そとがわ。「外気・外見・場外」❷よそ。はずれたところ。「外国・外出・海外・案外・意外」❸はずれる。また、はずす。「除外」❹べつのもの。「例外」

つかいかた ▼家の外であそぶ。▼けがをして外科に行った。▼父は外出した。▼外のところをさがしてみよう。

なりたち 夕(=つき)とト(=うらなう)をくみあわせた字。

遠

おん エン・*オン
くん とおい

13かく 〔辶・10かく〕〈しんにょう〉 ↕ 近 133

遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠 遠

いみ ❶はなれている。とおい。「遠出・遠足・遠方・遠泳・遠近・望遠鏡」❷したしくない。「敬遠・そ遠」

つかいかた ▼遠くに明かりが見える。▼明日は遠足だ。▼遠りょしないで食べなさい。

さんこう 「オン」の読みは「久遠」などにつかう。

ちゅうい 「とうい」はまちがい。

なりたち 袁(=ゆとりがある)と辶(=すすむ)をあわせた字。

近

おん キン
くん ちかい

7かく 〔辶・4かく〕〈しんにょう〉 ↕ 遠 133

近 近 近 近 近 近 近

いみ ❶ちかい。また、ちかづく。「近道・近所・近海・近日・最近・接近」❷したしい。「近親」

つかいかた ▼近道を通る。▼近所の公園であそぶ。▼旅先で会った人たちに、親近感(=親しみ)をもつ。

ちゅうい 「近づく」が正しい。「近ずく」と書かないこと。

なりたち 斤(=おののはがちかづいたようす)と辶(=すすむ)をくみあわせた字。

二年

多

おん タ
くん おお い

6かく 〔夕・3かく〕〈ゆう〉 ↕少134



多多多多多多

いみ おおい。たくさん。「多数・多少・多年・多大・多分・多発・多量」

つかいかた ▼雲が多くて、星が見えない。▼おまつりの人出が多い。▼多分あしたは雨でしょう。▼多数決できめます。▼まだ多少のこりがあります。▼地しんで多大なそんがいをうけた。

なりたち 夕(=にく)をかさねて、たくさんあることをあらわした字。

少

おん ショウ
くん すく ない・すこ し

4かく 〔小・1かく〕〈しょう〉 ↕多134

少少少少（なかのぼうから）

はねる

いみ ❶すくない。「少数・少量・多少」❷わかい。「少年・幼少」

つかいかた ▼今年は雨が少ない。▼少しおなかがすいた。▼少数意見もたいせつだ。▼元気な少年少女。

さんこう 「小」も「ショウ」と読むが、「小さい」といういみ。

なりたち 小(=小さくけずるいみ)とノ(=けずりとるしるし)をくみあわせてできた字。

古

おん コ
くん ふる い・ふる す

5かく 〔口・2かく〕〈くち〉 ↕新135

古古古古古

いみ ❶ふるい。「古新聞・古本・古木」❷むかし。「古代・古典・古人・古今・古都・太古」

つかいかた ▼古い柱時計。▼つかい古したかばん。▼古新聞をまとめて、ひもでしばる。▼わが国最古のいせきが発見された。▼古代の人たちのすまいのあと。

なりたち 古(=かざりをつけたそせんのあたまのほね)からできた字。

二年

新

おん シン
くん あたら しい・あら た・*にい

13かく 〔斤・9かく〕〈おのづくり〉 ↕古134・旧300

新新新新新新新

とめる

いみ あたらしい。「新年・新人・新品・新聞・新型・新旧・新妻」

つかいかた ▼新しいくつをはく。▼気持ちを新たにする。▼今日から新学期。▼新聞を読む。▼百メートル競走で、世界新記録が出た。

なりたち 立(=するどいはもの)と木(=き)と斤(=おの)をくみあわせた字。「切りたての木」「なまなましい」をあらわす。

太

おん タイ・タ
くん ふと い・ふと る

4かく 〔大・1かく〕〈だい〉 ↕細135

太太太太（わすれずに）

いみ ❶おおきい。「太陽」❷ふとい。「丸太・肉太」❸はなはだしい。「太古」

つかいかた ▼まっ赤な太陽がしずむ。▼太い松の木。▼丸太小屋でくらす。▼太古(=大むかし)の化石。

ちゅうい 「太」と「犬」「大」の字をまちがえないこと。

なりたち 大(=大きいいみ)と二(=かさねるしるし)をくみあわせて、大→太となった字。

細

おん サイ
くん ほそ い・ほそ る・こま か・こま かい

11かく 〔糸・5かく〕〈いとへん〉 ↕太135

細細細細細細細細（たてがき）

いみ ❶ほそい。「細長い」❷小さい。また、こまかい。「細心・細工・細則・細大」❸くわしい。「子細・詳*細」

つかいかた ▼細いゆび。▼病気でやせ細る。▼細かい雨がふる。▼目に見えない細きん。▼細心の注意をはらう。▼子細に(=くわしく)わけを話す。

なりたち →細 糸(=ほそいいと)と囟(=こまかい)からできた字。

強

おん キョウ・*ゴウ
くん つよい・つよまる・つよめる・*しいる

11かく〔弓・8かく〕〈ゆみへん〉 ↕弱 136

いみ ❶つよい。「強気・強敵・強化・強調・強弱・強情」❷むりにする。しいる。「強行・強引・勉強」❸はすうをきりすててできた数につけて、それよりも少し多いことをあらわす。

つかいかた ▼力強いことば。▼強力なみかた。▼強引な意見。▼一トン強の岩。

なりたち もとの字は「強」。弓(=ゆみ)と虽(=まるい虫)をくみあわせてできた字。

弱

おん ジャク
くん よわい・よわる・よわまる・よわめる

10かく〔弓・7かく〕〈ゆみへん〉 ↕強 136

いみ ❶よわい。「弱虫・弱音・弱小・弱点・強弱」❷わかい。「弱年」❸はすうをきりあげてできた数につけて、それよりも少し少ないことをあらわす。「一万円弱」

つかいかた ▼気の弱い妹。▼弱音をはかずにがんばる。▼弱年ながらしっかりしている。▼百人弱が集合した。

なりたち 弓(=ゆみ)と冫(=もよう)を二つくみあわせた字。

長

おん チョウ
くん ながい

8かく〔長・0かく〕〈ながい〉 ↕短 186

いみ ❶ながい。「長身・長短・長期」❷かしら。「長男・校長・市長・議長・駅長」❸すぐれている。「長所・特長」

つかいかた ▼そうのはなは長い。▼兄は、クラスで一ばんの長身だ。▼校長先生のお話を聞く。▼あなたの長所は、とてもまじめなところだ。

なりたち [古字]-[古字]-長 かみをなびかせた老人のかたちからできた字。

高

おん コウ
くん たかい・たか・たかまる・たかめる

10かく〔高・0かく〕 ↕低〈たかい〉 263

いみ ❶たかい。「高山・高原・高低・高温」❷すぐれている。「高級・高価」❸おかねやもののりょう。「生産高」

つかいかた ▼高原の朝は気持ちがいい。▼ひこうきが高度を上げる。▼高級なレストラン。▼自動車の生産高。

なりたち [古字]-[古字]-高 たかい土地にたっている家のかたちからできた字。

広

おん コウ
くん ひろい・ひろまる・ひろめる・ひろがる・ひろげる

5かく〔广・2かく〕〈まだれ〉

いみ ❶ひろい。「広場・広間・広大」❷ひろがる。ひろめる。「広告」

つかいかた ▼広い野原をかけまわる。▼広大な土地。▼大広間で、会ぎをする。▼大売り出しの広告が出る。▼そのうわさは、町じゅうに広まってしまった。

なりたち もとの字は「廣」。广(=やね)と黄(=きいろい光がひろがる)をくみあわせた字。

同

おん ドウ
くん おなじ

6かく〔口・3かく〕〈くち〉 ↕異 354

いみ ❶おなじ。「同時・同様・同点・同級・同意・同感・共同」❷なかま。「一同」

つかいかた ▼まりさんと、せの高さが同じだ。▼その考えには同感だ。▼同級生の山田くん。▼一同(=みんな)元気です。

ちゅうい 「おなし」「おんなじ」とはよまないこと。

なりたち 凡(=しかくいいた)と口(=あな)をくみあわせて、[古字]→同→同となった字。

歩

8かく 〔止・4かく〕〈とまる〉

おん ホ・*ブ・*フ

くん あるく・あゆむ



歩 歩 歩 歩 歩 歩 歩 歩

いみ ❶あるく。「歩道・歩行・歩調・散歩・徒歩・進歩」❷わりあい。「歩合」❸土地のめんせきのたんいの一つ。ぶ。

つかいかた ▼一歩一歩ゆっくり歩く。▼歩道橋をわたった。▼犬をつれて、散歩をする。▼一万円にたいして、二百円の歩合をはらう。▼歩みがおそい。

なりたち ー歩（歩） 左右の足のかたちからできた。

走

7かく 〔走・0かく〕〈はしる〉

おん ソウ

くん はしる

走 走 走 走 走 走 走

いみ はしる。また、にげる。「走者・走行・走り書き・競走・快走・力走・敗走・とう走・だっ走」

つかいかた ▼中村くんは、走るのがはやい。▼うんどう会の百メートル競走で、一とうになった。▼はん人は、車でとう走した（＝にげさった）。

なりたち ー走 人がはしるようすからできた字。

行

6かく 〔行・0かく〕〈いく〉

おん コウ・ギョウ・*アン

くん いく・ゆく・おこなう

行 行 行 行 行 行

いみ ❶いく。「行進・旅行・急行・行方」❷れつ。また、もじのならび。「行列・行数」❸おこない。「行動・行使・実行・横行・孝行・刊行」

つかいかた ▼行く手に、けわしい山がそびえる。▼旅行に行く。▼入場行進をする。▼五行めから読んでください。

なりたち ー行 十字路のかたちからできた字。

来

7かく 〔木・3かく〕〈き〉

おん ライ

くん くる・*きたる・*きたす

来 来 来 来 来 来 来

いみ ❶くる。ちかづく。「来客・来店・来月・往来・伝来」❷あるときからずっと。「元来・以来」❸これから。「将来・未来」

つかいかた ▼もうすぐバスが来る。▼来月、もう一度来てください。▼八月十日以来、雨がふっていない。▼寺の由来（＝いわれ）をしらべる。

なりたち もとの字は「來」。（＝むぎのほのかたち）から、↓来となり、来となった。

帰

10かく 〔巾・7かく〕〈はば〉

おん キ

くん かえる・かえす

帰 帰 帰 帰 帰 帰 帰

いみ かえる。もどる。「帰り道・帰国・帰京・帰宅・帰省・帰港・復帰」

つかいかた ▼母は四時に帰ります。▼父は、ゆうべおそく帰宅した。▼正月には、家族で北海道に帰省（＝ふるさとに帰ること）します。

なりたち もとの字は「歸」。自（＝き・きの音）と止（＝足）と帚（＝ほうき）をくみあわせてできた。「帰」は、このりゃく字。

止

4かく 〔止・0かく〕〈とまる〉

おん シ

くん とまる・とめる

止 止 止 止

いみ ❶とまる。また、とめる。「止まり木・止血・休止・静止・停止・足止め・波止場」❷やめる。「中止・禁止」

つかいかた ▼地しんで時計が止まる。▼かゆみ止めの薬をぬる。▼はんざいを防止しよう。▼雨で遠足が中止になった。▼ここに車を止めることを禁止する。

なりたち （＝あしのかたち）から、→止となった字。

売

おん バイ
くん うる・うれる

7かく 〔士・4かく〕〈さむらい〉 ↕買 140

売 売 売 売 売 売 売

いみ ❶うる。「売り物・売店・売買・商売・発売」❷ひろめる。「売名」

つかいかた ▼花を売る店。▼この本は、よく売れている。▼駅の売店で、ガムを買ってもらった。▼売名行い(＝自分の名を広めるための行動)。

なりたち もとの字は「賣」。士(＝だす)と罒(＝あみでとる)と貝(＝おかねやしなもの)をくみあわせてできた字。

買

おん バイ
くん かう

12かく 〔貝・5かく〕〈こがい〉 ↕売 140

買 買 買 買 買 買 買

いみ 金をはらってもとめる。かう。「買い物・買い手・売買・買収」

つかいかた ▼ノートを三さつ買う。▼母と買い物に行く。▼父の会社は、家具の売買をしている。▼大安売りで、買い手がたくさんあつまった。

なりたち 罒(＝あみ)と貝(＝おかね)をくみあわせた字。あみで物をすくうように、お金や品物をすくいとるといういみ。

引

おん イン
くん ひく・ひける

4かく 〔弓・1かく〕〈ゆみへん〉

引 引 引 引

いみ ❶ひく。ひっぱる。「引き算・引きしお・引力・引用」❷みちびく。「引率・引火」❸しりぞく。「引退」

つかいかた ▼うんどう会で、つな引きをする。▼いもうとの手を引いて、道路をわたる。▼地球には引力がある。▼先生が子どもたちを引率していく。▼引退するせんしゅ。

なりたち 弓(＝ゆみ)と丨(＝まっすぐ)とをくみあわせた字。

切

おん セツ・*サイ
くん きる・きれる

4かく 〔刀・2かく〕〈かたな〉

切 切 切 切

とめる

いみ ❶きる。「切断・切り口」❷さしせまる。ぜひ。「切実・切望・切迫*・親切」❸すべて。「一切」

つかいかた ▼はさみで紙を切る。▼よく切れるほうちょう。▼外国の切手をあつめる。▼これは、みんなの切実なねがいです。▼めんどうなことは、ぼくが一切ひきうけた。

なりたち 七(＝きりとること)と刀(＝かたな)をあわせた字。

二年生のかん字のちゅうい点①

書きじゅんでちゅういしたいものは、

止 ｜ト⺊止
当 ｜⺌⺌当当当
丸 ノ九丸

字体でちゅういしたい字は、

「分」…上がはなれていて、くっついてはいけません。それにたいして「合・今・会・食」は、上がくっついています。
「角」…「用」のように下が出てはいけません。
「声」…上は「土」ではなく、「士」のように下が上よりみじかくなります。
「当」…上はツではなく「⺌」です。
「午」…「牛」のように出てはいけません。
「矢」…「失」のように出てはいけません。
「海」…「母」ではありません。

二年生のかん字のちゅうい点②

読み方とおくりがなにちゅういしたいかん字は、

「明」…メイ(発明)・ミョウ(明日)・あかり(明かり)・あかるい(明るい)・あからむ(明らむ)・あきらか(明らか)・あける(明ける)・あく(明く)・あくる(明くる)・あかす(明かす)。
「交」…コウ(交通)・まじわる(交わる)・まじえる(交える)・まじる(交じる)・まざる(交ざる)・まぜる(交ぜる)。
「細」は、「ほそい」と読むときには「細い」、「こまかい」と読むときには「細かい」。また、ほそる(細る)・こまか(細か)とおくりがなをつけます。
「当」は、「あたる」のときは「当たる」、「あてる」のときには「当てる」となります。

三年生の漢字学習法

三年生では、一～三年で習う漢字を読むこと、一・二年の漢字を文の中で正しく使えるようにすること、三年の新出漢字二百字を少しずつ書くようにすることがねらいです。

①漢字の読み

漢字には、音読みと訓読みがありますが、漢字によって、その読み方はさまざまです。

たとえば、「合」という漢字は、音読みは「ゴウ・ガッ・カッ」、また、「上」の訓読みは「うえ・うわ・かみ・あ―げる・あ―がる。のぼ―る・のぼ―せる・のぼ―す」があります。

これらを機械的に覚えても覚えられるものではありません。それぞれの読みに合う言葉や文を調べたり、作ったりして覚えます。たとえば、「合」なら「集合・合唱・合戦」。

また、読み方にあわせ、送りがなもしっかりと確認しておきましょう。

②漢字の意味

「安」という漢字を「アン・アン」と発音しながら何度も書くだけでは、それほど意味のある学習とはいえません。

この「安」という漢字の意味をとらえなくては、せっかく覚えても使えません。そのために、この漢字を使った熟語を調べたり、作ってみたりすることです。

たとえば、「安心・平安・不安・安住・安物」などがあります。

これらの熟語からは、この「安」という漢字に「やすらか・やすらぐ・落ち着く」といった意味があることがわかります。また、「安物」からは「ねだんがやすい」という意味のあることがわかります。

③漢字の形

「勝」の「力」を「刀」としてしまったり、「飲」の左を「食」としてしまったり、「様」の右下を「水」としてしまったりするあやまりがよくあります。

この漢字はこんな形とかんたんに考えて書いてしまうのではなく、漢字を作っている一つ一つの部分がどんな形かをていねいに見ることが大切です。もう一つは、その漢字が何画でできているかを数えて確かめることが大切です。そうした学習をすることで漢字をあやまって書いてしまうことが少なくなります。






三年生で習う字

悪 144　安 144　暗 144　医 145　委 145　意 145　育 146　員 146　院 146　飲 147　運 147　泳 147　駅 148　央 148　横 148

屋 149　温 149　化 150　荷 150　界 150　開 151　階 151　寒 151　感 152　漢 152　館 153　岸 153　起 153　期 154　客 154

究 154　急 155　級 155　宮 155　球 156　去 156　橋 156　業 157　曲 157　局 157　銀 158　区 158　苦 158　具 159　君 159

係 159　軽 160　血 160　決 160　研 161　県 161　庫 162　湖 162　向 162　幸 163　港 163　号 163　根 164　祭 164　皿 164

仕 165　死 165　使 165　始 166　指 166　歯 166　詩 167　次 167　事 167　持 168　式 168　実 168　写 169　者 169　主 169

守 170　取 170　酒 171　受 171　州 171　拾 172　終 172　習 172　集 173　住 173　重 173　宿 174　所 174　暑 174　助 175

昭 176　消 176　商 176　章 177　勝 177　乗 177　植 178　申 178　身 178　神 179　真 179　深 179　進 180　世 180　整 181

昔 181　全 181　相 182　送 182　想 182　息 183　速 183　族 183　他 184　打 184　対 184　待 185　代 185　第 185　題 186

炭 186　短 186　談 187　着 187　注 188　柱 188　丁 188　帳 189　調 189　追 189　定 190　庭 190　笛 190　鉄 191　転 191

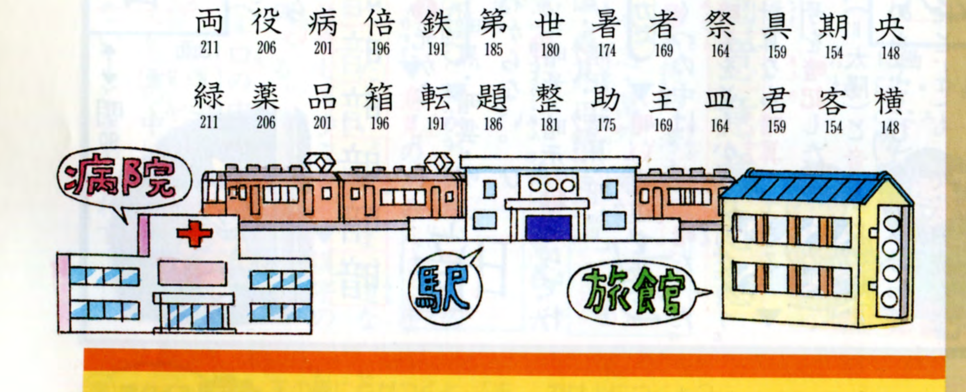
都 191　度 192　投 192　豆 192　島 193　湯 193　登 193　等 194　動 194　童 194　農 195　波 195　配 195　倍 196　箱 196

畑 196　発 197　反 197　坂 198　板 198　皮 198　悲 199　美 199　鼻 199　筆 200　氷 200　表 200　秒 201　病 201　品 201

負 202　部 202　服 202　福 203　物 203　平 203　返 204　勉 204　放 204　味 205　命 205　面 205　問 206　役 206　薬 206

由 207　油 207　有 207　遊 208　予 208　羊 208　洋 209　葉 209　陽 209　様 210　落 210　流 210　旅 211　両 211　緑 211

礼 212　列 212　練 212　路 213　和 213



悪

11画 〔心・7画〕〈こころ〉 ↔ 善 389

おん アク・*オ

くん わるい

いみ ❶正しくない。「悪口・悪気・悪人・悪事・悪意・悪質・善悪」❷おとっている。美しくない。「悪文・悪声」❸にくむ。また、ふゆかいだ。「悪意・悪寒」❹苦しい。「悪戦苦とう」

つかいかた ▼悪人をこらしめる。▼意地悪な人。▼かぜのため、悪寒(=さむけ)がする。

なりたち もとの字は「惡」。亞(=ひくい場所のくぼみ)と心(=こころ)を組み合わせ、下におかれたいやな気持ちをあらわす。

安

6画 〔宀・3画〕〈うかんむり〉 ↔ 危 360

おん アン

くん やすい

いみ ❶心配がない。「安心・安全・平安・不安」❷たやすい。「安易」❸ねだんやかちがひくい。「安値・安価」

つかいかた ▼たいしたけがではないと聞いて安心した。▼台風で、不安な一夜をすごす。▼安易(=いいかげん)な考え。▼安い品物をさがす。

なりたち 宀(=いえ)と女(=おんな)を組み合わせた字。女が家の中でおちついてすわっているようすをあらわす。

暗

13画 〔日・9画〕〈ひへん〉 ↔ 明 90

おん アン

くん くらい

いみ ❶光がない。くらい。「暗黒・暗雲・明暗」❷わからない。ひそかに。「暗号・暗示」❸そらでおぼえる。「暗記・暗算・暗唱」

つかいかた ▼暗い夜道を歩く。▼どうくつの中は、真っ暗だった。▼この暗号をとくかぎは何だろう。▼この計算なら暗算でできる。▼電話番号を暗記した。

なりたち 日(=太陽)と音(=口の中にものをふくむ)を組み合わせて、中にとじこもって、日光がささないことをあらわす。

医

7画 〔匸・5画〕〈かくしがまえ〉

おん イ

くん ―

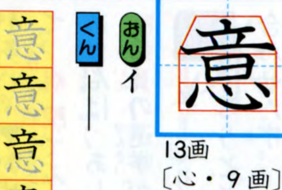
いみ 病気やけがをなおす。また、それをする人。「医学・医者・医師・医院・校医・女医・名医・外科医・歯科医」

つかいかた ▼気分が悪くなったので、医務室へ行った。▼ぼくのおじは医者です。▼校医の先生にみてもらう。▼わたしは、女医さんにかかっています。

なりたち もとの字は「醫」。殹(=しまいこんでかくす)と酉(=さけつぼ)を組み合わせ、さけつぼに入れた薬草をあらわした字。

委

8画 〔女・5画〕〈おんな〉



おん イ

くん ―

いみ ❶まかせる。「委員・委任・委託*」❷くわしい。「委細」

つかいかた ▼わたしと山本くんが、学級委員にえらばれた。▼会議に出席できないので、すべてのけんりを議長に委任した。▼委細(=こまかいこと)は、お会いしたときにお話しします。

ちゅうい 「季」の字とまちがえないこと。

なりたち 禾(=ほがたれているいね)と女(=おんな)を組み合わせてできた字。

意

13画 〔心・9画〕〈こころ〉

おん イ

くん ―

いみ ❶気持ち。考え。「意図・意志・意外・意向・意識・意見・用意・決意・同意」❷わけ。「意味・意義・大意・文意」

つかいかた ▼かれは強い意志の持ち主だ。▼意見のある人は、手を上げてください。▼せまい道なので、注意して歩こう。▼漢字の意味を調べる。

なりたち 音(=口の中にものをふくむ)と心(=こころ)で、いろいろなかんがえを心の中にしまって、外に出さないことをあらわす。

育

8画 〔月・4画〕〈にくづき〉

おん イク
くん そだつ・そだてる

育育育育育育育育



いみ 動植物が大きくなる。せわをしてりっぱにする。「育成・発育・保育・体育・教育」

つかいかた ▼赤んぼうがすくすく育つ。▼ベランダで、ゴムの木を育てる。▼次は体育の時間です。▼今年は雨つづきで、いねの生育がわるい。

なりたち 𠫓-育 𠫓(=あかんぼうがあたまを下にしてうまれる)と⺼(=にく)を組み合わせた字。あかんぼうにくがついてそだつこと。

員

10画 〔口・7画〕〈くち〉

おん イン
くん ―

員員員員員員員員員員

いみ ❶人やもののかず。「員数・定員・人員・満員」❷人。「会員・全員・役員・店員・委員・係員」

つかいかた ▼このエレベーターは定員八名です。▼出発前に、人員(=ひとの数)をかぞえる。▼家族全員で旅行する。▼親切な店員のおねえさん。

なりたち 〇-員-員 〇(=まる)と鼎(=三本あしのうつわ)で、まるいものをかぞえること。のちに人の数をかぞえるいみになった。

院

10画 〔阝・7画〕〈こざとへん〉

おん イン
くん ―

院院院院院院院院院院



いみ ❶大きな建物。「寺院」❷びょういん。「病院・入院・退院」❸学校・役所などのそしきの名の下につけることば。「大学院・参議院」❹上皇や法皇。「後白河院」

つかいかた ▼京都には古い寺院が多い。▼かぜをひいたようなので、病院でみてもらう。▼おばあさんは、あした退院だ。▼衆議院議員の選挙があった。

なりたち 阝(=もりあげた土)と完(=ぐるりとかこむ)を組み合わせた字。

飲

12画 〔食・4画〕〈しょくへん〉

おん イン
くん のむ

飲飲飲飲飲飲飲飲飲飲飲飲

いみ のむ。また、のみもの。「飲み物・飲用・飲食・飲料水」

つかいかた ▼のどがかわいたので、水を飲む。▼何か飲み物をあげましょうか。▼このあたりは、飲食店が多いのでべんりです。▼この川の水は、みんなの飲料水としてつかわれます。

なりたち 酓-歙-歙-飲(飲) 酓(=さけのたる)と欠(=口をあけた人)を組み合わせてできた字。

運

12画 〔⻌・9画〕〈しんにょう〉

おん ウン
くん はこぶ

運運運運運運運運運運運運

いみ ❶はこぶ。「運送・運ぱん・運輸」❷めぐる。また、うごかす。「運転・運行・運動」❸めぐりあわせ。「運命・幸運」

つかいかた ▼重い荷物を運ぶ。▼父はつねに、車の安全運転を心がけている。▼運動会で、リレーの選手になった。▼あの人は、ほんとうに運のいい人だ。

なりたち 軍(=まわる)と⻌(=すすむ)を組み合わせた字。円をえがいてぐるぐるまわることから、「はこぶ」いみになった。

泳

8画 〔氵・5画〕〈さんずい〉

おん エイ
くん およぐ

泳泳泳泳泳泳泳泳

いみ およぐ。「泳法・水泳・遠泳・力泳・平泳ぎ・背泳ぎ」

つかいかた ▼プールで五十メートルを泳ぐ。▼五月の空に、こいのぼりが泳いでいる。▼学校でおこなわれる水泳大会に出場する。▼ぼくは、クロールより平泳ぎのほうがとくいだ。▼この川は遊泳禁止です。

なりたち 氵(=みず)と永(=ながく)を組み合わせた字。水の上に長くうかいていることから、およぐことをあらわす。

三年

駅

14画　〔馬・4画〕〈うまへん〉

おん エキ
くん ―

駅駅駅駅駅駅駅駅駅駅駅駅駅駅

いみ ❶昔、かい道にあった馬ののりつぎ場。「宿駅」❷電車や列車が止まるところ。「駅長・駅弁・停車駅・東京駅」

つかいかた ▼テレビで駅伝競走を見る。▼駅前で、ぐうぜんおばさんに会った。▼父は駅弁がすきだ。▼駅ビルで買い物をする。

なりたち もとの字は「驛」。馬(=うま)と睪(=わるいことをした人をつぎつぎとしらべる)を組み合わせた字。馬をのりつぎ休んだりする宿場をあらわす。

央

5画　〔大・2画〕〈だい〉

おん オウ
くん ―

央央央央央

いみ まんなか。「中央」

つかいかた ▼広場の中央にふん水がある。▼市の中央には、にぎやかな通りがある。▼湖の中央部にある小さな島で、キャンプをした。▼地図を見ると、パナマ運河は中央アメリカにあります。

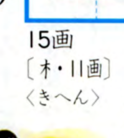
なりたち 央ー央ー央　大の字に立った人の首のところに、Hじるしをつけた字。頭と体のあいだのいみから、「まんなか」のいみをあらわす。

横

15画　〔木・11画〕〈きへん〉　↕縦 380

おん オウ
くん よこ

横横横横横横横横横横横横横横横





いみ ❶左右の方向。よこ。「横波・横顔・横断・横転」❷わがまま。気まま。「横暴・横着・横行」❸正しくない。「横領」

つかいかた ▼横顔がすてきな人。▼横断歩道は手をあげてわたろう。▼横丁のとうふ屋さんに、おつかいに行く。▼横暴(=わがままでらんぼう)な人。

なりたち 横ー横(横)と木(=木)と黄(=四方にひろがる光)で、左右にはみ出たよこ木をあらわす。

答え　点をつければいい。「水→氷」だから。

三年

屋

9画　〔尸・6画〕〈しかばね〉

おん オク
くん や

屋屋屋屋屋屋屋屋屋

いみ ❶すまい。家。「屋内・家屋」❷やね。「屋根・屋上」❸商売をする家、または、人。「屋号・八百屋・お天気屋」

つかいかた ▼地しんで、古い家屋がこわれた。▼デパートの屋上にあるペットショップに行く。▼屋根の上にアンテナをたてる。▼まりこさんはがんばり屋だ。

なりたち 尸(=上からたれたぬの)と至(=行きどまり)を組み合わせた字。屋根でおおわれた家をあらわす。

温

12画　〔氵・9画〕〈さんずい〉

おん オン
くん あたたか・あたたかい・あたたまる・あたためる

温温温温温温温温温温温温

いみ ❶あたたかい。また、あたたかさ。「温暖・温室・温泉・温度・体温・気温・水温」❷おだやか。やさしい。「温厚・温和・温情」

つかいかた ▼温めた牛乳を飲む。▼温室で美しい花をそだてる。▼体温計で熱をはかる。▼かれは温厚な性格だ。▼このあたりは、気候が温和だ。

なりたち もとの字は「溫」。氵(=みず)と𥁕(=さらの上に物を入れてふたをしたようす)を組み合わせてできた字。

漢字の知しき

●反対の意味の漢字

「強↔弱」「遠↔近」などは、たがいに反対の意味をもつ漢字ですが、これらの漢字が組み合わさって、一つのことばになる場合があります。

- 遠近(遠いことと近いこと)
- 寒暑(寒さと暑さ)
- 強弱(強いことと弱いこと)
- 去来(行ったり来たりすること)
- 苦楽(苦しみと楽しみ)
- 軽重(軽いことと重いこと)
- 集散(集まることと散ること)
- 終始(始めから終わりまで)
- 勝負(勝ち負け)
- 深浅(深いことと浅いこと)
- 生死(生きることと死ぬこと)
- 長短(長いことと短いこと)
- 内外(内と外)
- 悲喜(悲しみと喜び)
- 明暗(明るさと暗さ)

漢字クイズ　出ないと「田」、上に出ると「由」、下に出ると「甲」、上下に出ると？

三年

三年

化

おん カ・*ケ
くん ばける・ばかす

4画 〔匕・2画〕〈ひ〉

いみ ほかのものにかわる。また、かえる。ばける。「化石・化学・化しょう・進化・変化・退化・民主化」

つかいかた ▼きつねに化かされたようだ。▼お化けやしきで、こわい思いをした。▼消化のいいものを食べる。▼博物館で、きょうりゅうの化石を見た。

なりたち -化 亻(=立っている人)と匕(=むきをかえた人)を組み合わせ、形をかえることをあらわした字。

荷

おん *カ
くん に

10画 〔艹・7画〕〈くさかんむり〉



いみ ❶にもつ。「荷車・荷物・入荷・初荷・出荷」❷になう。「負荷」❸にもつを数えることば。か。「一荷」

つかいかた ▼港で、荷あげ作業を行う。▼大きな荷物を運んだ。▼ダンボール箱を、トラックの荷台につみこむ。▼やさいを市場へ出荷する。▼かたの荷がおりる(=せきにんなどがなくなる)。

なりたち 艹(=植物)と何(=人がかたの上に水平にもつをかつぐかたち)を組み合わせた字。

界

おん カイ
くん —

9画 〔田・4画〕〈た〉

たてがさき

いみ ❶さかいめ。くぎり。「境界・限界」❷あるはんい。社会。「業界・世界・政界」

つかいかた ▼この川が、となりの市との境界だ。▼もう限界だというところまでがんばった。▼世界の平和をいのる。▼きりがはれて、視界がひらけた。

なりたち -界 田(=たんぼ)と介(=人があいだに入って二つにわけること)を組み合わせ、たんぼのくわけをあらわした字。

開

おん カイ
くん ひらく・ひらける・あく・あける

12画 〔門・4画〕〈もんがまえ〉 ↕閉 407

いみ ❶あける。ひらく。また、ひらける。「開花・開閉・開放・公開・満開・未開」❷始める。「開会・開始・開業・開店」

つかいかた ▼まどを大きく開けて、空気を入れかえる。▼さくらの花が満開です。▼試合開始まで、あと五分です。▼この店は、明日開店です。

なりたち -開 門(=もん)と幵(=左右に同じようにならぶようす)を組み合わせた字。同じようにひらくこと。

階

おん カイ
くん —

12画 〔阝・9画〕〈こざとへん〉

いみ ❶かいだん。だん。「階段・音階」❷身分などの上下。くらい。「階級」❸へやのかさなり。「階下・地階・二階」



つかいかた ▼駅の階段をのぼる。▼正しい音階でうたう。▼二階のベランダから、通りを見おろした。▼デパートの地階で、食料品を買った。

なりたち 阝(=もりあげた土)と皆(=ならべそろえる)を組み合わせた字。一だん一だんつみ上げたかいだんをあらわす。

寒

おん カン
くん さむい

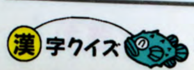
12画 〔宀・9画〕〈うかんむり〉 ↕暑 174

いみ ❶さむい。「寒空・寒暖計・寒波・寒流・防寒」❷さびれている。さびしい。「寒村」❸冬のいちばんさむいとき。「寒中・大寒」

ななめに

つかいかた ▼ゆうべはとても寒かった。▼寒波におそわれた。▼けさはとくに寒気がきびしい。▼山あいの寒村。▼寒中おみまい申し上げます。

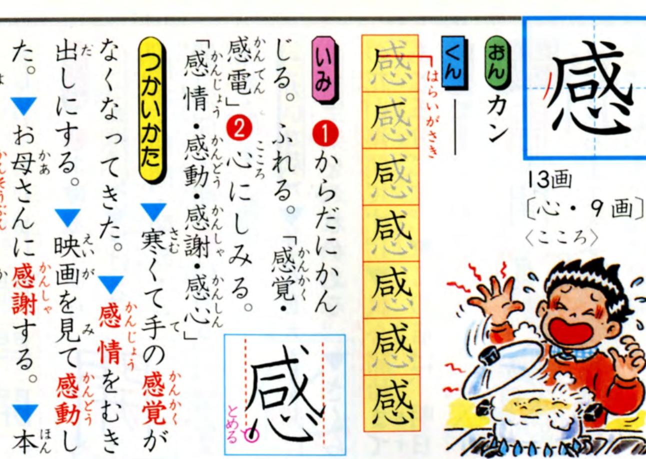
なりたち -寒 宀(=やね)と茻(=れんがや石)と廾(=りょう手)と仌(=こおり)を組み合わせた字。



お皿からノが出た。それはなんだ？

答え 申。

感



おん カン
くん ―
13画〔心・9画〕〈こころ〉

いみ ❶からだにかんじる。ふれる。「感覚・感電」❷心にしみる。「感情・感動・感謝・感心」

つかいかた ▼寒くて手の感覚がなくなってきた。▼感情をむき出しにする。▼映画を見て感動した。▼お母さんに感謝する。▼本を読んで感想文を書く。▼あなたの意見に全く同感です。

なりたち 咸（＝強いしげきをあたえる）と心（＝こころ）を組み合わせ、外からのしげきで、心をうごかされることをあらわす。

漢

おん カン
くん ―
13画〔氵・10画〕〈さんずい〉

いみ ❶昔、中国にあった国。また、中国の古いよび名。「漢字・漢詩・漢和辞典・漢文」❷おとこ。「悪漢・暴漢」

つかいかた ▼漢字のテストをする。▼兄の漢和辞典をかりてひく。▼祖母は漢方薬（＝中国から伝わった医学で使う薬）をのんでいる。▼悪漢（＝わるもの）をこらしめる。

なりたち 氵（＝みず）と莫（＝かわいた土）を組み合わせた字。かわいた川のこと。のちに中国のよび名につかわれた。

漢字の知しき

● 漢字の点画

漢字を組み立てている点や線のことを、点画といいます。

おもな点画には、次のようなものがあります。筆順や習字の学習の基本となりますので、おぼえておきましょう。

名前	点画	例
横画	一	車・軍
点	丶	単・密
縦画	丨	引・刊
折れ	㇆	囲・因
右はらい	㇏	分・交
曲がり	し	見・礼
左はらい	ノ	友・反
反り	㇂	風・式

館

おん カン
くん ―
16画〔食・8画〕〈しょくへん〉

いみ 大きな建物。やかた。「館長・図書館・博物館・美術館・会館・開館・旅館」

つかいかた ▼体育館に全員集合する。▼図書館でしずかに読書をしました。▼坂の上に古い洋館があります。▼大きな旅館にとまった。

なりたち 館-館（館） 食（＝たべもの）と官（＝役人があつまる家）を組み合わせた字。役人が食事をする大きなたてものをあらわす。

岸

おん ガン
くん きし
8画〔山・5画〕〈やま〉

いみ 水ぎわ。きし。「岸べ・川岸・海岸・沿岸・対岸・両岸」

つかいかた ▼船を岸につける。▼岸辺にうちよせる波の音が聞こえる。▼岸べきで船を見送る。▼川岸のやなぎの木の緑色があざやかだ。▼父と海岸をさんぽした。▼対岸までのきょりは、およそ百メートルだ。▼船で向こう岸にわたる。

なりたち 山（＝やま）と厈（＝厂のかたちにきりたったようなきし（べ））を組み合わせた字。

起

おん キ
くん おきる・おこる・おこす
10画〔走・3画〕〈そうにょう〉

いみ ❶たつ。おきる。また、おこす。「起立・起床＊・早起き」❷はじまる。また、はじまり。「起点・起源・起工」

つかいかた ▼あしたは早く起きよう。▼何か事件が起こったのか、通りに人だかりがしている。▼「起立、礼」。▼東京駅を起点にする鉄道の線。▼人類の起源。

なりたち 走（＝足をうごかす）と己（＝おきあがるようす）を組み合わせてできた字。

期

おん キ・*ゴ
くん ―
12画〔月・8画〕〈つき〉



期期期期期期期期

いみ ❶とき。「期間・期日・期限・長期・時期・延期」❷めあてをつける。あてにする。「期待・予期」

つかいかた ▼かりた本は、期日までに返そう。▼会を延期する。▼一学期が終わると、夏休みだ。▼期待したとおりのできばえだった。

さんこう 「ゴ」の音は、「最期・末期」などだけにつかわれる。

なりたち 其(＝四角くきちんとしたようす)と月(＝つき)を組み合わせた字。

客

おん キャク・*カク
くん ―
9画〔宀・6画〕〈うかんむり〉

客客客客客客客客

いみ ❶たずねてきた人。まねかれた人。「客間・来客」❷商売のあいて。「客席・客船・観客・乗客・旅客」

つかいかた ▼家にお客さまをむかえる。▼映画館の客席は、ほぼ満席だった。▼ごうか客船で、世界一周をしてみたい。▼乗客の安全を第一に考える。

なりたち 宀(＝家)と各(＝足がつかえてとまる)を組み合わせた字。

究

おん キュウ
くん *きわめる
7画〔穴・2画〕〈あなかんむり〉



究究究究究究究

いみ ❶どこまでもしらべる。きわめる。「究明・研究・追究」❷ゆきつく。おわり。「究極」

つかいかた ▼学問を究める。▼火事の原因を究明する。▼人生の究極の目的について考えた。

さんこう 部首はふつう「穴(あなかんむり)」の部。「空」も同じ。

なりたち 穴(＝あな)と九(＝おくの行きどまり)を組み合わせた字。あなのおくまでさぐりもとめることをあらわす。

急

おん キュウ
くん いそぐ
9画〔心・5画〕〈こころ〉

急急急急急急急急急

いみ ❶いそぐ。「急用・至急」❷はやい。「急行・急流・急速」❸はげしい。けわしい。「急降下・急角度」❹とつぜん。「急死・急変」❺さしせまる。「緊*急・応急」

つかいかた ▼急いで家に帰った。▼急行列車が小さな駅を通過した。▼急な坂道をかけのぼる。▼山の天気は急変することが多い。▼救急車のサイレンの音が聞こえた。

なりたち 刍(＝人をおいかける)と心(＝こころ)を組み合わせた字。

級

おん キュウ
くん ―
9画〔糸・3画〕〈いとへん〉

級級級級級級級級級

いみ ❶学校で、同じ学年の生徒をいくつかに分けたもの。組。クラス。「学級・同級」❷くらいのじゅんじょ。「高級・進級・等級・階級」

つかいかた ▼学級委員にえらばれる。▼あの人は、姉の同級生だ。▼わたしたちは、三年生に進級した。▼水泳のテストで、三級になった。

なりたち 糸(＝いと)と及(＝おいかけてつかまえる)を組み合わせてできた字。

宮

おん キュウ・*グウ・*ク
くん みや
10画〔宀・7画〕〈うかんむり〉

宮宮宮宮宮宮宮宮宮宮

いみ ❶天皇のすまい。ごてん。「宮中・宮内庁」❷こう族。「宮家」❸神社。やしろ。「宮司・神宮」

つかいかた ▼宮中で、外国のお客さまをむかえて、ばんさん会(＝ごうかな夕食の会)がもよおされた。▼まるで宮殿*のような家。▼お宮の森で遊ぶ。▼赤ちゃんを、お宮まいりにつれていく。

なりたち 宀(＝やね)と呂(＝たてもののある場所をしめす)を組み合わせ、王さまのすむごてんをあらわした字。

三年

球

おん キュウ
くん たま

11画〔王・7画〕〈おうへん〉

いみ まるい形のもの。たま。「球形・球根・球場・電球・送球・野球・投球・庭球・地球」

つかいかた ▼速い球を投げるピッチャー。▼庭に、チューリップの球根を植える。▼ぼくは、サッカーも野球もすきだ。▼月は地球のまわりをまわる。

なりたち 王(=玉)と、求(=からだにまいてしめる動物のけがわ)を組み合わせた字。中心にむけてひきしまったうつくしいたまをあらわす。

去

おん キョ・コ
くん さる

5画〔ム・3画〕〈む〉

いみ ①すぎさる。いってしまう。「去年・去来・死去・退去・過去」②とりのぞく。「除去」

つかいかた ▼時間の過ぎ去るのは早い。▼去年の冬はあたたかかった。▼過去の、いろいろなできごとを思い出す。▼市役所の人たちが、道路のしょうがい物を除去した。

なりたち ー去 ふたつきのくぼんだ入れ物から、「ひっこむ」→「いってしまう」のいみになった。

橋

おん キョウ
くん はし

16画〔木・12画〕〈きへん〉

いみ かけわたして、人や乗り物が通れるようにしたもの。はし。「橋げた・石橋・鉄橋・陸橋・つり橋」

つかいかた ▼長いつり橋をわたる。▼電車が鉄橋をわたる。▼歩道橋の上から、車の流れを見る。▼さん橋をわたって上陸する。

なりたち ー橋ー橋と 木(=木)と 喬(=家のやねのりょうはしがまがっているようす)で、まん中がそりかえった「はし」をあらわす。

三年

業

おん ギョウ・*ゴウ
くん *わざ

13画〔木・9画〕〈き〉

いみ ①仕事。つとめ。「業務・職業・休業・産業・事業・作業」②学問。「卒業・授業」③行い。「早業」④むくいをうける原因となる行い。「自業自得(=自分の悪い行いによるむくいをうけること)」

つかいかた ▼すぐれた業績をのこす。▼始業のベルが鳴る。▼今日は授業さんかんの日です。

なりたち ーー業 でこぼこの台をあらわした字で、すんなりといかないしごとのことをいみする。

曲

おん キョク
くん まがる・まげる

6画〔日・2画〕〈ひらび〉 ↕直 114

いみ ①まがる。まげる。また、正しくない。「曲線・曲折・曲解」②変化がある。「曲芸・曲技」③音楽のふし。また、作品。「名曲・作曲」④しばい。「戯*曲」

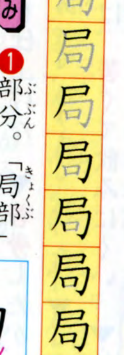
つかいかた ▼曲がり角に、ジュースのはん売機がある。▼水族館で、いるかの曲芸を見た。▼休みの日に、ステレオで世界の名曲を聞く。

なりたち ーー曲 まがったものさしのかたちからできた字。

局

おん キョク
くん ―

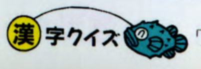
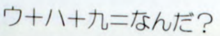
7画〔尸・4画〕〈しかばね〉



いみ ①部分。「局部」②役所や会社で仕事をわけた区分。「局長・薬局」③ごやしょうぎの勝負。「対局」④ありさま。「時局・結局」

つかいかた ▼局地的(=地いきがかぎられているようす)な大雨がふる。▼重大な局面をむかえる。▼しょうぎの名人戦の対局が行われる。

なりたち 尸(=まがって入りくんだ線)と口(=せまいわく)を組み合わせてできた字。こまかくわかれたくぎりをあらわす。

漢字クイズ ウ+ハ+九=なんだ?

三年

銀

14画 〔金・6画〕〈かねへん〉

おん ギン

くん ―

銀銀銀銀銀銀銀

いみ ❶白くてうつくしい、つやのある金ぞく。ぎん。しろがね。「銀山・銀紙・銀貨」❷白くかがやいているようす。「銀世界」❸おかね。「銀行」

つかいかた ▼オリンピックで、銀メダルをとる。▼銀紙につつまれたチョコレート。▼ゆうべの雪で、一面の銀世界だ。

なりたち 金(＝金属)と艮(＝目のまわりにほりこんだもの)を組み合わせ、いつまでもくさらない「ぎん」をあらわした字。

区

4画 〔匚・2画〕〈かくしがまえ〉

おん ク

くん ―

区区区区（ひとつづきにかく）

いみ ❶くぎる。さかい。また、くぎり。「区分・区別・区域・区画・区間・地区」❷大きな都市をいくつかに分けたくぶん。「区役所」

つかいかた ▼さかいめに木を植えて、土地を区切る。▼区画整理が行われた田畑。▼駅伝競走で、もっとも長い区間を走る。▼区民のための公園ができた。

なりたち 區－區－區(区) 匚(＝わく)と、口(＝せまいくぎり)三つを組み合わせた字。

苦

8画 〔艹・5画〕〈くさかんむり〉 ↕楽 110

おん ク

くん くるしい・くるしむ・くるしめる・にがい・にがる

苦苦苦苦苦苦苦苦

いみ ❶つらい。また、くるしむ。「苦痛・苦心・苦労・苦戦・苦学・病苦・暑苦しい」❷にがい。「苦味」❸いやだ。「苦手・苦情・苦言」

つかいかた ▼苦心して、自由研究を仕上げた。▼苦労したかいがあって、うまくいった。▼この薬は、苦くて飲みにくい。▼鉄ぼうは苦手だ。▼今夜はとてもね苦しい。

なりたち 艹(＝植物)と古(＝かたくかわく)を組み合わせた字。にがい草をあらわす。

三年

具

8画 〔八・6画〕〈はち〉

おん グ

くん ―

具具具具具具具具

いみ ❶そなわる。「具備・具体」❷どうぐやしなもの。「家具・器具・道具・雨具・用具」

つかいかた ▼係員の説明は、具体的でわかりやすかった。▼絵の具で絵をかく。▼工作の道具をかたづける。▼雨がふりそうなので、雨具の用意をした。

なりたち 鼎＋廾－具－具 たべものをそろえて、りょう手でさしだすようすをあらわしたかたちからできた字。

君

7画 〔口・4画〕〈くち〉

おん クン

くん きみ

君君君君君君君（つきでる）

いみ ❶国をおさめる人。「君主・主君」❷友だちや目下の人をよぶときにつかうことば。「諸君」

つかいかた ▼主君の命令にしたがう。▼「君たちはどこの生徒ですか?」と、知らない人に聞かれた。▼中山君とは、なかのいい友だちだ。

なりたち 君－君－君 ヨ(＝手)と｜(＝ぼう)と口(＝くち)を組み合わせた字。めいれいをして、人々をまとめる人をあらわす。

係

9画 〔亻・7画〕〈にんべん〉

おん ケイ

くん かかる・かかり

係係係係係係係係係

いみ ❶つながる。かかわる。「関係」❷あることをうけもつ人。かかり。「係員・案内係」

つかいかた ▼事件に関係のある人が、取り調べられた。▼あの家とは、親せき関係にある。▼父は教育関係の仕事をしています。▼入り口で、係員の説明を聞く。▼わたしは図書係にえらばれた。

さんこう ❷のいみのときには、「り」を送らない。

なりたち 亻(＝人)と系(＝糸をつなぐこと)を組み合わせた字。

軽

12画〔車・5画〕〈くるまへん〉 ↕重 173

おん ケイ
くん かるい・*かろやか

いみ ❶めかたが少ない。「軽量」❷ていどが小さい。「軽傷」❸てがる。また、みがる。「軽装・軽快・気軽」❹見下げる。あなどる。「軽べつ・軽視」❺考えがあさい。「軽薄*・軽率」

つかいかた ▼幸い、軽いけがでよかった。▼軽装で出かけた。▼軽快なマーチ。▼軽率な行動。

なりたち もとの字は「輕」。車(=くるま)と巠(=まっすぐ)を組み合わせ、まっすぐ、かろやかに走る戦車をあらわす。

血

6画〔血・0画〕〈ち〉

おん ケツ
くん ち

いみ ❶ち。「血液・血圧・鼻血・出血・貧血・採血・献*血」❷親子・兄弟(姉妹)などのつながり。「血縁*・血族」❸いきおいがさかんなようす。「血気」

つかいかた ▼ひざをすりむいて、血が出た。▼父は少し血圧が高い。▼血気さかんな若者たち。

ちゅうい 「皿」とまちがえやすい。

なりたち ―― ― 血 神にささげるどうぶつのちを、せの高いさらに入れたかたちからできた字。

決

7画〔氵・4画〕〈さんずい〉

おん ケツ
くん きめる・きまる

いみ ❶きめる。きまる。「決定・決戦・決心・決意・決断・決着・採決・判決・解決」❷切れる。こわれる。「決壊*」

つかいかた ▼みんなで決めたことは守ろう。▼遠足は十月三日に決まった。▼委員会の活動方針を決定する。▼決死のかくごで戦場にのぞむ。▼ていぼうが決壊した(=こわれた)。

なりたち 夬(=コの字形にえぐるようす)と氵(=みず)を組み合わせた字。

研

9画〔石・4画〕〈いしへん〉

おん ケン
くん *とぐ

いみ ❶ものごとの本当のすがたを見きわめる。「研究」❷とぐ。みがく。「研磨*」

つかいかた ▼おじさんは、地しんの研究をしています。▼先生は来週、研修会に行かれる予定です。▼母は、切れにくくなった包丁を研いでいる。

なりたち 石(=いし)と开(=二つのものをみがいて、高さをそろえたようす)を組み合わせた字。石をといて、たいらにすることをあらわす。

県

9画〔目・4画〕〈め〉

おん ケン
くん ―

いみ 国をおさめるために分けた、くぎりの一つ。けん。「県道・県庁・県立・県境・近県」

つかいかた ▼この県は、りんごの産地として有名だ。▼父は県立高校の先生です。▼最近は、県外からの観光客が多い。▼県営サッカー場でしあいをした。

なりたち ―縣(県) 𥄉(=くびを切って高いところからぶらさげること)と系(=ひもでつなぐ)を組み合わせた字。

漢字の知しき

● 数えまちがえやすい画数

漢字の画数を数えるとき、点や直線はすぐにわかりますが、おれまがった線の場合は、一画か二画か、まぎらわしいものがたくさんあります。

次の画は、一画に数えるものです。

固 場 予 発 直 号

飛 気 氏 女 幼 級

庫

おん コ・*ク
くん ——

10画〔广・7画〕〈まだれ〉

庫庫庫庫庫庫庫

いみ ものをしまっておく、たてもの。くら。「倉庫・車庫・書庫・金庫・宝庫・冷蔵庫・庫裏(=寺の台所)」

つかいかた ▼港のそばに倉庫が立ちならんでいる。▼金庫にお金をしまう。▼学級文庫の本をかりて読んだ。

なりたち 庫ー庫 广(=いえ)と、車(=くるまのかたち)からできた字。せんそうにつかう車やぶきをしまっておくたてものをあらわす。

湖

おん コ
くん みずうみ

12画〔氵・9画〕〈さんずい〉

湖湖湖湖湖湖湖

いみ みずうみ。「湖水・湖岸・湖面・湖底・湖上・火口湖」

つかいかた ▼湖にボートがうかんでいる。▼湖岸に、みやげ物店がのきをならべている。▼鏡のような湖面を、月がてらしている。▼琵琶湖は日本で一番大きな湖だ。

なりたち 氵(=みず)と胡(=牛のあごをおおってたれさがっている皮)を組み合わせた字。大地におおいかぶさって広がる大きな水たまりをあらわす。

向

おん コウ
くん むく・むける・むかう・むこう

6画〔口・3画〕〈くち〉

向向向向向向

いみ ❶ある方にむく。「向上・方向・動向・内向・表向き」❷むき。おもむき。「意向・趣*向」

つかいかた ▼ゴールに向かって、走りつづけた。▼向こうから、近所のおばさんがやってきた。▼学力がめきめき向上した。▼雨は一向にやむけはいがない。

ちゅうい 「何」とまちがえやすい。

なりたち 向ー向ー向 宀(=やね)と口(=あな)を組み合わせた字。

幸

おん コウ
くん さいわい・*さち・しあわせ

8画〔干・5画〕〈ひる〉

幸幸幸幸幸幸

いみ しあわせ。さち。「幸福・幸運・不幸・多幸」

つかいかた ▼大雨がふったが、幸い、こう水にはならなかった。▼幸せな一生をおくる。▼幸運の女神。▼不幸なできごと。▼海の幸にめぐまれた所。

なりたち 幸ー幸ー幸 「手かせ」というむかしの手じょうのかたちからできた字。これをかけられるきけんから、うんよくのがれることをあらわす。

港

おん コウ
くん みなと

12画〔氵・9画〕〈さんずい〉

港港港港港港港

いみ 船や飛行機が、出発したりついたりするところ。みなと。「港町・港外・港内・出港・帰港・漁港・空港」

つかいかた ▼ここは昔から、港町としてさかえた。▼漁船が入港してきた。▼空港のロビー(=まちあい室)で会いましょう。

なりたち 氵(=みず)と巷(=村を通っている道)を組み合わせた字。船の通る道をあらわす。のちに船のあつまる場所である「みなと」のいみになった。

号

おん ゴウ
くん ——

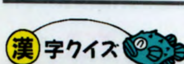
5画〔口・2画〕〈くち〉

号号号号号

いみ ❶さけぶ。「号令・号泣」❷あいず。しるし。「記号・信号」❸じゅんじょをあらわす数字や、乗り物などの名の下につけることば。「号外・番号・こだま号」❹よび名。「年号」

つかいかた ▼先生の号令で、出発した。▼信号が、赤から青に変わった。▼番号じゅんにならぶ。▼学級新聞の五号を出す。▼新幹線ひかり号に乗る。

なりたち 口(=くち)と丂(=まがっててるようす)を合わせた字。



一十タ+リ=なんだ?

答え 死。

根

おん コン
くん ね

10画 〔木・6画〕〈きへん〉

根根根根根根根根根根

いみ ❶草木の、ね。❷ものごとのおこり。もと。「根本・根底」❸たえしのぶ力。「根性・根気」

つかいかた ▼大根をきざんで、みそしるに入れる。▼根も葉もない(=よりどころのない)うわさ。▼君とぼくの考えは、根本的に同じだ。▼根気強くがんばる。

なりたち 木(=き)と艮(=一か所にとどまりうごかない)を組み合わせた字。一か所にとどまってぬけない木のねをあらわす。

祭

おん サイ
くん まつる・まつり

11画 〔示・6画〕〈しめす〉

祭祭祭祭祭祭祭祭祭祭祭

いみ 神や先ぞをまつる。また、大きなもよおし。まつり。「祭日・祭礼・祭典・文化祭」

つかいかた ▼夏祭りで、おみこしをかつぐ。▼雪祭りの会場に、雪のちょうこくがならんでいる。▼あしたは祭日で、学校は休みです。▼町の文化祭が行われている。

なりたち ―祭 月(=にく)と又(=手)と示(=祭だん)を組み合わせた字。祭だんやそなえ物をきよめてまつることをあらわす。

皿

おん ―
くん さら

5画 〔皿・0画〕〈さら〉

皿皿皿皿皿

いみ あさくて、たいらなうつわ。また、それにもったりょうりを数えることば。さら。「大皿・小皿・灰皿・一皿」

つかいかた ▼食事の後、皿洗いの手つだいをした。▼大皿にもった料理を、小皿に取り分ける。▼目を皿のようにして(=目を見開いて)、まちがいをさがす。

ちゅうい 「血」とまちがえやすい。

なりたち ―皿 さらのかたちからできた字。

仕

おん シ・ジ*
くん つかえる

5画 〔イ・3画〕〈にんべん〉

仕仕仕仕仕

いみ ❶つかえる。「給仕・奉*仕」❷…する。「仕送り・仕上げ・仕おさめ・仕切り・仕度」

つかいかた ▼とのさまに仕える。▼奉*仕活動で、公園のそうじをする。▼自分の仕事にせいをだす。▼夏休みの宿題の工作を、一日で仕上げた。▼富士山の形の仕かけ花火が美しい。

ちゅうい 「任」とまちがえやすい。

なりたち 士(=まっすぐに立つ)と亻(=人)を組み合わせてできた字。

死

おん シ
くん しぬ

6画 〔歹・2画〕〈かばねへん〉 ↕生 73

死死死死死死

いみ ❶命がおわる。しぬ。「死去・死者・死亡・死体・生死・犬死に」❷命がけである。「死守・死力・必死・決死」

つかいかた ▼かわいがっていた小鳥が死んだ。▼人間の生死にかかわる重大な問題。▼けいさつで、死因を調べている。▼試合で、死力をつくしてたたかう。

なりたち ―死 歺(=ばらばらになったほね)と匕(=人)を組み合わせてできた字。

使

おん シ
くん つかう

8画 〔イ・6画〕〈にんべん〉

使使使使使使使使

いみ ❶物やお金をつかう。「使用・使役・使命・行使」❷つかわす。また、つかいの人。「使者・使節・大使・天使」

つかいかた ▼今月は、小づかいを使いすぎた。▼クラブ活動で、体育館を使用する。▼天使のようなやさしいほほえみ。▼外国に使者を送った。▼文化使節として、三人の音楽家がやって来た。

なりたち 吏(=しごとをきちんとする)と亻(=人)を組み合わせてできた字。

始

8画〔女・5画〕〈おんなへん〉 ↔ 終 172

おん シ

くん はじ**める**・はじ**まる**

いみ はじめる。はじまる。また、はじまり。「始発・始業・始動・終始・開始・始末・始終・年始・原始時代」

つかいかた ▼**始発電車**に間に合うように家を出る。▼**試合開始**のサイレンが鳴る。▼**原始時代**の生活をそうぞうする。

さんこう 「始め」は、しはじめの「動作」をさし、「初め」は、ものごとのはじめの「時」をさす。

なりたち 女（＝おんな）と台（＝しごとをはじめる）を合わせた字。

指

9画〔扌・6画〕〈てへん〉

おん シ

くん ゆび・さ**す**



いみ ❶手や足のゆび。「指輪・指切り・親指」❷さししめす。「指図・指名・指令・指揮・指導・指定・指示・指摘*・目指す・名指し」

つかいかた ▼友だちと**指切り**げんまんをした。▼父の**指差す**ほうに、山の頂上が見えてきた。▼先生に**指名**されて、研究の発表をした。

なりたち 扌（＝手）と旨（＝「シ」という音をあらわす）を組み合わせた字。まっすぐにのびて、ものをさす「ゆび」をあらわす。

歯

12画〔歯・0画〕〈は〉

おん シ

くん は

いみ 動物の、は。また、それににたもの。「歯医者・歯ごたえ・歯科・乳歯・虫歯・永久歯・義歯・歯車」

つかいかた ▼毎日、**歯**をみがこう。▼**歯医者**で、**虫歯**をぬいてもらった。▼**歯ごたえ**のない弱いあいて。

なりたち → 齒（歯）
止（＝とめる。「シ」の音もあらわす）と（＝まえば）で、ものをかんでとめるまえばをあらわす。

詩

13画〔言・6画〕〈ごんべん〉

おん シ

くん ―

いみ 心につよく感じたことを短いことばであらわした、リズムのある文章。「詩人・詩集・詩情・詩歌・漢詩」

つかいかた ▼すきな**詩**を朗読する。▼たん生いわいに**詩集**をもらった。▼**漢詩**のふるさと、中国のしぜんをうつしたビデオを見た。

さんこう 「詩歌」は「シイ」と読む。

なりたち - 詩
（＝ことば）と（＝手ですすめる、または手をとめる）を組み合わせた字。

次

6画〔欠・2画〕〈けつ〉

おん ジ・*シ

くん つ**ぐ**・つぎ

いみ ❶つぎの。二ばんめの。「次女・次点・次回」❷順番。「目次・席次・二次」

つかいかた ▼校内マラソンで、ぼくは小川君に**次いで**二位だった。▼**次**の電車は八時ちょうどです。▼この話のつづきは**次回**にしましょう。▼式場には、式の**次第**（＝じゅんじょ）が書いてある。

なりたち - - 次
二（＝ならべる）と（＝からだをかがめたようす）を組み合わせた字。

事

8画〔亅・7画〕〈はねぼう〉

おん ジ・*ズ

くん こと

いみ ことがら。また、しごと。「事件・事故・事情・記事・無事・火事・用事・食事・行事・家事・従事・事務・仕事・工事」

つかいかた ▼**百科事典**で、江*戸時代のことを調べた。▼**火事**に気をつけよう。▼**食事**のしたくを手つだう。▼四月は、何かと**行事**の多い月だ。▼**仕事**がはかどる。

なりたち - - 事
やくにんが竹のぼうで計算するようすをあらわし、「しごと」や「やくめ」をあらわす。

持

9画 〔扌・6画〕〈てへん〉

おん ジ

くん もつ

いみ ❶手ににぎる。もつ。「持参・所持」❷もちこたえる。たもつ。「持続・保持・支持」

つかいかた ▼おみまいにくだものを持って行く。▼とても気持ちのいい朝だ。▼この自転車の持ち主はだれですか。▼勉強は、持続することが大切だ。▼かれは、百メートル競走の世界記録を保持(=持ちつづけること)している。

なりたち 扌(=手)と寺(=手の中にじっととめる)を組み合わせた字。手の中にもつこと。

式

6画 〔弋・3画〕〈しきがまえ〉

おん シキ

くん ―

てんはさいご　そってはね

いみ ❶きまったやりかた。「形式・格式」❷ぎしき。「式場・式服・開会式・成人式」❸計算のしかたを、数字と記号であらわしたもの。「数式」

つかいかた ▼明日は、小学校の入学式だ。▼形式にとらわれない。▼卒業生が式場に入場する。▼数式をとく。

なりたち 弋(=田や畑をたがやすときなどにつかった、さきのわれたぼう)と工(=しごと)を組み合わせた字。

実

8画 〔宀・5画〕〈うかんむり〉

おん ジツ

くん み・みのる

いみ ❶草木の、み。また、みのる。「果実・結実」❷なかみ。「実質・充実」❸ほんとうの。「実際・実情・実力・実績・実験・実現・真実・確実・現実」❹まごころ。「実直・誠実」

つかいかた ▼実りの秋になった。▼練習で実力をやしなう。▼決めたことをすぐ実行する。

なりたち もとの字は「實」。宀(=いえ)と毌(=いっぱいものがつまっているようす)と貝(=たからもの)を組み合わせた字。

写

5画 〔冖・3画〕〈わかんむり〉

おん シャ

くん うつす・うつる

ひとつづきに　はねる

いみ 字や絵をうつしとる。「写生・写真・写実・複写・試写会・模写・映写」

つかいかた ▼先生が黒板に書いた文字を、ノートに写し取る。▼花だんにさいたチューリップの花を写生する。▼遠足の写真を、アルバムにはった。▼外国の名画を模写(=まねてうつすこと)する。

なりたち もとの字は「寫」。宀(=やね)と舄(=かささぎという鳥)を組み合わせた字。ほかのばしょにうつることをあらわす。

者

8画 〔耂・4画〕〈おいかんむり〉

おん シャ

くん もの



いみ 人やものごと。「あわて者・若者・学者・医者・読者」

つかいかた ▼母は、けっこうあわて者です。▼まんがの主人公が、悪者をやっつけた。▼かぜをひいたので、お医者さんにみてもらった。▼兄は、学者になりたいそうだ。▼その小説の作者はだれですか。

なりたち 者(者) たきぎがこんろの上でもえているかたちからできた字。

主

5画 〔丶・4画〕〈てん〉 ↕従 380

おん シュ・*ス

くん ぬし・おも

ななめに

いみ ❶自分がつかえている人。あるじ。「地主・主人・主君」❷中心になる。おもな。「主演・主役・主食」❸自分。「主観・主張」

つかいかた ▼今日の主なニュース。▼げきの主役にえらばれた。▼日本人の主食は米です。▼物語の主題を考える。▼自分の意見を主張する。

なりたち 主 ろうそくたての上で、じっともえている火をあらわした字。

守

おん シュ・ス

くん まもる・*もり

6画〔宀・3画〕〈うかんむり〉

守守守守守守

いみ がいをうけないようにまもる。「守備・守護・守りふだ・死守・保守・留守・子守」

つかいかた ▼寒さから身を**守る**。▼神社で、お**守り**のふだをもらう。▼みんな出かけたので、ひとりで**留守**番をする。▼**子守歌**を歌う。

さんこう 「ス」の読みは、「留守」だけにつかう、とくべつな読み。

なりたち 宀(＝いえ)と寸(＝手)を合わせ、家の中にかこいこんでまもることをあらわした字。

取

おん シュ

くん とる

8画〔又・6画〕〈また〉

取取取取取取取取

いみ 自分のものにする。とる。「取材・取得・取捨・命取り・書き取り」

つかいかた ▼小づつみを**受け取る**。▼学級新聞の**取材**のために、一年生に話を聞く。▼すもう大会のための**取組表**をつくる。▼庭の**草取り**をする。



さんこう 「採る」は、「いくつかの中からえらびとる」意味。

なりたち ー取 (＝耳)と (＝手)を組み合わせた字。

漢字の知しき

●画数をまちがえやすい漢字

総画数を数えまちがえやすい漢字をしめしました。

- 二画 九・力・刀・七
- 三画 子・女・夕・万・久・己・弓
- 四画 水・切・区・氏・収・不・比
- 五画 北・母・号・写・世・以・包
- 六画 糸・考・衣・印・成・伝・至
- 七画 局・似・序・良・防・否・臣
- 八画 長・門・芽・述・承・版・延
- 九画 係・乗・飛・逆・限・退・派
- 一〇画 紙・馬・旅・脈・能・留・陛
- 一一画 強・鳥・球・祭・第・液・率
- 一二画 遊・葉・満・過・属・貿・極
- 一三画 遠・新・業・農・漢・節・置
- 一四画 鳴・様・緑・際・態・複・誤
- 一五画 選・養・編・潔・質・暴・蔵
- 一六画 館・機・衛・興・奮・築・縦
- 一七画 謝・績・厳・優・覧・縮・講
- 一八画 曜・験・織・簡・臨・難・職
- 一九画 識・臓・鏡・願・警

酒

おん シュ

くん さけ・さか

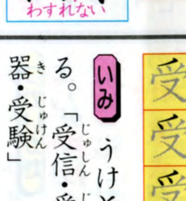
10画〔酉・3画〕〈ひよみのとり〉

酒酒酒酒酒酒酒

いみ さけ。「酒屋・酒造・あま酒・清酒・飲酒・梅酒」

つかいかた ▼父は**お酒**がすきだ。▼**酒屋さん**におつかいに行った。▼**造り酒屋**には、**酒蔵**が立ちならんでいた。▼神社の茶店で、**あま酒**をのんだ。▼**日本酒**は、米からつくられる。▼祖母は毎年、**梅酒**をつくっている。





わすれない

なりたち 氵(＝水)と酉(＝さけつぼ)を組み合わせた字。つぼの中のしるをしぼってつくったさけをあらわす。

受

おん ジュ

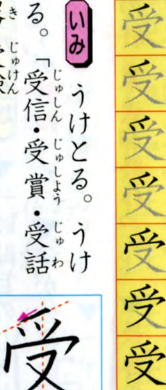
くん うける・うかる

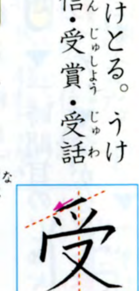
8画〔又・6画〕〈また〉

受受受受受受受

いみ うけとる。うける。「受信・受賞・受話器・受験」

つかいかた ▼ぼくの投げるボールを、父がミットで**受ける**。▼姉は入学試験に**受かった**。▼**受付**で名前を言う。▼あの人は、ノーベル賞を**受賞**した学者です。▼兄は、**受験勉強**でいそがしい日々をおくっている。





なりたち ー受 (＝ふね)と (＝手)を組み合わせた字。手から手にうけとることをあらわす。

州

おん シュウ

くん *す

6画〔川・3画〕〈かわ〉

州州州州州州

いみ ❶海や川のそこに、土やすながつもってできた陸地。「中州・三角州」❷地方。「本州・信州・九州」❸大陸「五大州」

つかいかた ▼**三角州**をデルタともいう。▼父は**九州**の出身です。▼青函*トンネルをぬけて、**本州**にわたる。▼**五大州**のうち、いちばん広いのはアジアだ。

なりたち ーー州 川の中にすながたまって、島ができたようすからできた字。

三年

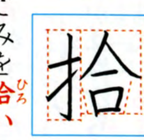
拾

おん ＊シュウ・＊ジュウ
くん ひろう

9画〔扌・6画〕〈てへん〉 ↕ 捨 377



拾拾拾拾拾拾拾拾拾



いみ ❶ひろう。「拾得物・命拾い」❷おさめる。「収拾」

つかいかた ▼校庭のごみを**拾い集める**。▼交番に、**拾得物**（＝**拾**った物）をとどける。▼**収拾**（＝おさまり）のつかない事態。

さんこう 証書などで数字の「十」のかわりにもつかわれる。

ちゅうい 「捨」とまぎらわしい。

なりたち 扌（＝手）と合（＝あつめる）を組み合わせた字。ちらばったものをひろったり、あつめたりすることをあらわす。

終

おん シュウ
くん おわる・おえる

11画〔糸・5画〕〈いとへん〉 ↕ 始 166

終終終終終終終終終終終

終（ななめに）

いみ おしまいになる。おえる。「終止・終点・終業・終結・終始・終了＊・終生・終日」

つかいかた ▼一時間目のじゅぎょうが**終わっ**た。▼父が仕事を**終え**て、家に帰ってきた。▼一学期の**終業式**が**終わっ**た。▼**最終**の電車に間に合った。▼バスはもうすぐ**終点**につく。

なりたち 糸（＝いと）と冬（＝作物をたくわえる一年のおわりのきせつ）を組み合わせた字。糸まきにたくわえた糸のたまのこと。

習

おん シュウ
くん ならう

11画〔羽・5画〕〈はね〉

習習習習習習習習習習習

習

いみ ❶まなぶ。けいこする。「習字・習得・予習・復習・学習・練習」❷ならわし。「習慣・習性・風習」

つかいかた ▼図書室で**自習**をした。▼くり返し漢字の**練習**をする。▼夏休みに、早ね早起きの**習慣**をつけよう。

なりたち 習-習（習）羽（＝はね）と白（＝鳥がはねをくりかえしうごかすことをあらわす。かさねる）を組み合わせた字。

答え 注ぐ。

三年

集

おん シュウ
くん あつまる・あつめる・＊つどう

12画〔隹・4画〕〈ふるとり〉 ↕ 散 243

集集集集集集集集集集集集

集

いみ 一か所によりあう。あつまる。「集合・集会・集中・集団・集結・収集・採集・密集」

つかいかた ▼何があったのか、人が**より集まっ**ていた。▼**集合場所**は校庭です。▼姉は、**詩集**を読んでいる。▼歌とお話の**集い**がもよおされた。

なりたち 雧-雧（集）木（＝木）のえだに隹（＝とり）がたくさんむれているようすをあらわした字。「雧」がりゃくされて「集」になった。

住

おん ジュウ
くん すむ・すまう

7画〔亻・5画〕〈にんべん〉

住住住住住住住

住（ななめに）

いみ すむ。また、すまい。「住所・住居・住宅・住民・移住・安住」

つかいかた ▼長く**住ん**でいた家から、新しい家にひっこした。▼中村君のお兄さんは、**住みこみ**の店員をしている。▼同じ町内の**住民**が、集会場に集まった。▼**住所**と電話番号を書きこむ。▼新しい**住宅**が立ちならぶ町。

なりたち 主（＝ろうそくたての上でじっともえている火）と亻（＝人）を組み合わせた字。

重

おん ジュウ・チョウ
くん ＊え・おもい・かさねる・かさなる

9画〔里・2画〕〈さと〉 ↕ 軽 160

重重重重重重重重重

重

いみ ❶めかたが多い。おもい。「重力・体重」❷ひどい。「重病」❸たいせつである。「重要・貴重品・尊重」❹かさねる。「二重・重複（じゅう・ちょう ふく）」

つかいかた ▼**重い**荷物を持つ。▼**体重**が少しふえた。▼**重要**な仕事が、**重なっ**た。▼ボランティアで、**貴重**な体験をした。

なりたち 東-𡈼東-重 𡈼（＝人が立つ）と東（＝つきぬけるようす）を組み合わせた字。

漢字クイズ「水の皮」ってなにかな？

宿

11画　〔宀・8画〕〈うかんむり〉

おん　シュク

くん　やど・やどる・やどす

宿宿宿宿宿宿

いみ　❶一時そこにとどまる。やどる。また、やど。「宿屋・宿舎・宿場・合宿」❷まえからの。「宿命・宿願」

つかいかた　▼とつぜんの雨で、雨宿りをした。▼今日は宿題が出なかった。▼家族で民宿にとまる。▼二人は、宿命（＝昔からきまっている運命）のライバル（＝きょうそう相手）といわれている。

なりたち　宀（＝やね）とイ（＝人）と百（＝ふとんにふたりの人がねている）を組み合わせた字。

所

8画　〔戸・4画〕〈と〉

おん　ショ

くん　ところ

所所所所所所

いみ　❶ばしょ。ところ。「台所・近所・住所・場所・長所・研究所・名所」❷…するもの。…するところ。「所持・所有」

つかいかた　▼しずかな所で休む。▼ここはさくらの名所です。▼市が所有している土地。

さんこう　「所」は、場所をささないときはかな書きにする。「思わずわすれるところだった。」

なりたち　戸（＝と）と斤（＝おの）を組み合わせた字。木を切ることから、場所のいみにかわった。

暑

12画　〔日・8画〕〈ひ〉　↕寒 151

おん　ショ

くん　あつい

暑暑暑暑暑暑暑

いみ　気温が高い。あつい。「暑中見まい・残暑・寒暑・避*暑」

つかいかた　▼今年の夏は、毎日暑い日がつづく。▼今夜もむし暑くなりそうだ。▼暑中見まいのはがきを出した。▼いつまでも残暑がきびしい。▼夏休みに避*暑地に行った。

さんこう　「熱い」も「厚い」も「あつい」とよむが、意味がちがう。

なりたち　日（＝太陽）と者（＝こんろでたきぎをもやすようす）を組み合わせた字。

助

7画　〔力・5画〕〈ちから〉

おん　ジョ

くん　たすける・たすかる・*すけ

助助助助助助

いみ　力をかす。たすける。「助力・助言・助手・助長・救助・補助・内助」

つかいかた　▼妹の宿題を助けてやる。▼急に雨がふってきたが、友だちのかさに入れてもらったので助かった。▼先生に、クラブ活動の助言をしていただく。▼うちの小鳥の名前はピー助だ。

なりたち　且（＝物をつみかさねたようす）と力（＝ちから）を合わせた字で、力をくわえてたすけることをあらわした字。

三年生の漢字の注意点①

書きじゅんで注意しておきたい漢字。

医　一 丆 三 至 矢 医

曲　丨 冂 巾 由 曲 曲

登　フ タ ダ 癶 癶 登 登

放　丶 亠 方 方 放 放

世　一 十 廾 丗 世

字体として気をつけておく漢字としては、次のものがあります。

「庭」は「壬」であって、「王」ではない。

「皮」の上は、「广」。「波」も同じ。

「筆」の下は、「聿」とたてぼうがつき出る。

「仕」の右がわは「士」で、「土」とならないように。

「館」の左がわは「食」とならないように注意。

「岸」の中は「千」ではなく、「干」で、上下ともまっすぐな横ぼう。

「族」の中は「矢」。

三年生の漢字の注意点②

漢字の使い方で注意したいもの。

「キュウ」という音読みのある漢字は、「究・急・級・宮・球」。

「究」は「研究」などきわめるという意味。「急」は「急行」のようにいそぐの意味。「級」は「学級・上級」など、くらいやクラスの意味。

「宮」は、ごてんやおみやの意味。

「球」は、ボールのようなまるい形の意味として使います。

「暑」は、気温が高いときに使い、それに対して、「熱」はそのものの温度が高いときに使います。

〔送りがなで注意する漢字〕

「助」…「たすける」「たすかる」。

「全」…「まったく」。

「代」…「かわる・かえる」。

「仕」…「つかえる」。

「苦」…「くるしい・くるしむ・にがい・にがる」。

「決」…「きめる・きまる」。

昭

おん　ショウ

くん　—

9画　〔日・5画〕〈ひへん〉

昭昭昭昭昭昭昭昭昭



いみ　❶あきらかにする。❷てりかがやく。

つかいかた　▼「昭和」は、「平成」の前の年号だ。▼わたしの父と母は、昭和生まれです。▼日本の南極観測は、昭和基地でおこなわれている。▼北海道には、昭和新山という山がある。

なりたち　日(=太陽)と召(=「ショウ」の音をあらわし、手をぐるりとまわしてまねくこと)を組み合わせた字。光をぐるぐるとまわして、すみずみまでてらすことをあらわす。

消

おん　ショウ

くん　きえる・けす

10画　〔氵・7画〕〈さんずい〉

消消消消消消消消消消

いみ　きえる。けす。なくなる。「消印・消火・消失・消毒・消防・立ち消え・解消・消費・消息」

つかいかた　▼あかりが消える。▼水をかけて、たき火を消す。▼赤い消防自動車。▼これは消化のよい食べ物です。▼傷口を消毒しましょう。▼計画は立ち消えになった。

なりたち　氵(=みず)と肖(=こまかく小さい)を組み合わせた字。水の流れがほそくなり、なくなることをあらわす。

商

おん　ショウ

くん　*あきなう

11画　〔口・8画〕〈くち〉

商商商商商商商商商商商

いみ　❶物を売り買いする。あきなう。「商売・商人・商業・商社・商談・商品」❷わりざんの答え。しょう。

つかいかた　▼日用雑貨を商っている店。▼この通りには、大きな商店が立ちならんでいる。▼商業の発達した都市。

なりたち　冂+辛+口-啇-商　冂(=高い台)と辛(=「ショウ」の音をあらわす)と口(=口)を組み合わせた字。

章

おん　ショウ

くん　—

11画　〔立・6画〕〈たつ〉

章章章章章章章章章章章

いみ　❶書きつらねた文。「文章」❷詩・文などの一まとまり。「序章・第一章・第一楽章」❸しるし。「校章・記章・勲*章」

つかいかた　▼わかりやすい文章を書く。▼物語の第一章を、朗読してください。▼ぼくのぼうしには、校章がぬいつけてあります。

なりたち　章-章　音(=おんがく)と十(=まとめること)を組み合わせた字。おんがくのひとくぎりをあらわす。

勝

おん　ショウ

くん　かつ・*まさる

12画　〔力・10画〕〈ちから〉　↕負 202

勝勝勝勝勝勝勝勝勝勝勝勝

いみ　❶相手をまかす。かつ。「勝利・勝敗・勝負・連勝・優勝・楽勝・決勝」❷すぐれる。「名勝・景勝」

つかいかた　▼兄に、うでずもうではじめて勝った。▼ぼくの兄は、テニス大会で優勝した。▼有名な景勝地(=けしきがすばらしい所)をおとずれる。

なりたち　朕(=ふねをもちあげる)と力(=ちから)を組み合わせた字。力を入れてもちあげることから、「かつ」いみになった。

乗

おん　ジョウ

くん　のる・のせる

9画　〔ノ・8画〕〈の〉　↕降 370

乗乗乗乗乗乗乗乗乗

いみ　❶のりものにのる。「乗車・乗客・乗降」❷つけこむ。「便乗」❸かけあわせる。「乗法・乗除」

つかいかた　▼駅前からバスに乗る。▼弟を自転車に乗せる。▼列車が急に止まったので、乗客がよろけた。▼相手のすきに乗じてせめこんだ。

なりたち　-乘(乗)　人が両足をひらいて、木にのぼっているかたちからできた字。

植

12画〔木・8画〕〈きへん〉

おん ショク

くん うえる・うわる

いみ ❶草木をうえる。「植木・植林・田植え・移植」❷人をうつりすまわせる。「植民地」

つかいかた ▼クラス全員で、校庭にいちょうの木を植える。▼はじめて田植えのてつだいをした。▼温室にはめずらしい植物がある。▼昔、インドはイギリスの植民地だった。

なりたち 木（＝き）と直（＝目をまっすぐにむけること）を組み合わせた字。木をまっすぐに立てることをあらわす。

申

5画〔田・0画〕〈た〉

おん ＊シン

くん もうす

いみ 目上の人に、いう。のべる。「申告・申請＊・内申・上申・答申」

つかいかた ▼明日うかがうと母が申しております。▼どうも申しわけありませんでした。▼サッカーチームに、入会の申しこみをした。▼お父さんは、税金の申告に行った。

なりたち -申 𦥑（＝両手）と｜（まっすぐのばすしるし）を組み合わせた字。手でまっすぐのばすといういみをあらわす。

身

7画〔身・0画〕〈み〉

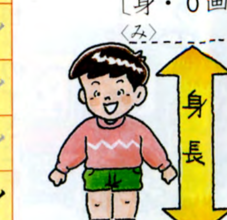
おん シン

くん み

いみ ❶からだ。「身体・身長・心身・終身・全身」❷じぶん。「身勝手・身内・身辺・単身・自身」❸なかみ。「刀身」❹地位や立場。「立身」

つかいかた ▼魚の切り身。▼かけっこのスタートで、身がまえる。▼三年生になって、身長がのびた。▼正月に身内が集まった。▼身分をわきまえる。

なりたち --身 女の人のおなかの中に、あかちゃんが入っているかたちからできた字。



神

9画〔ネ・5画〕〈しめすへん〉

おん シン・ジン

くん かみ・＊かん・＊こう

たてぼうがさき

いみ ❶天地をおさめるもの。かみ。「神話・神宮・神主・神殿＊」❷心のはたらき。心。「神経・精神・失神」

つかいかた ▼神にいのる。▼神社に神主さんがいる。▼神々しい（＝とうとくておごそかな）女神のすがた。▼兄は運動神経がいい。▼強い精神力を持つ。

なりたち -神(神) 示（＝かみさまをまつる祭だん）と申（＝いなずま）を組み合わせた字。

真

10画〔目・5画〕〈め〉

おん シン

くん ま

いみ ❶まこと。ほんとう。「真心・真相・真意・真価・真実」❷しぜんのまま。まじりけのない。「★真っ赤・★真っ青・純真」❸ちょうど。「真南・真冬・真正面」

つかいかた ▼真心のこもったあいさつをする。▼事件の真相が知りたい。▼みんなで写真をとった。

なりたち ト-眞-眞(真) ト（＝さじ）で鼎（＝三本あしのうつわ）に、すきまなくいっぱい入れることをあらわす。

深

11画〔氵・8画〕〈さんずい〉

↕浅 255

おん シン

くん ふかい・ふかまる・ふかめる

まげてとめ

いみ ❶ふかい。また、ふかさ。「深海・深山・深林・水深」❷ていどがふつうより多い。「深呼吸・深刻・深夜」

つかいかた ▼深い海の底。▼秋も深まったある日、見知らぬ人がたずねてきた。▼深呼吸をする。▼友情を深める。▼おおみそかは、深夜まで起きていた。

なりたち 氵（＝水）と罙（＝あなのおくふかく手を入れて、火をさがすこと）を組み合わせ、ひじょうにふかいことをあらわす。

進

11画 〔辶・8画〕〈しんにょう〉 ↔退 331

おん シン
くん すすむ・すすめる



いみ ❶すすむ。「進行・進路・進出・前進・直進」❷のぼる。また、よくなる。「進学・進級・進歩・進化」❸さしあげる。「進物・進呈*・寄進」

つかいかた ▼科学技術がどんどん進む。▼話を先に進めましょう。▼選手の入場行進が始まる。▼姉は、中学に進学した。▼生物の進化について学ぶ。

なりたち 隹(=とり)と辶(=すすむ)を組み合わせて、とりがとぶようにはやくすすむことをあらわす。

世

5画 〔一・4画〕〈いち〉

おん セイ・セ
くん よ

ひだりのたてぼうがさき

いみ ❶よの中。せけん。「世の中・世間・世界・世話・世論(よろん・せろん)・出世」❷ある時期。時代。「世代・世紀・時世」

つかいかた ▼世の中のうつりかわりは早い。▼世間の目を気にすることはない。▼わかい世代に人気のある作家。▼世界地図で日本の位置を調べる。

なりたち －世 十を三つならべてできた字。むかしは、三十年を一くぎりとして一世といった。

ことばのきまり

●文の中のふ号の使いかた

文を書くときに使うふ号には、次のようなものがあります。

- 。(句点)—文の終わりに使う。
- 、(読点)—文中の意味のくぎりに使う。
- ・(中点・中黒)——ことばをならべるときに使う。
- 「」(かぎ)—人が言ったことばをしめす。また、文中で特に注意させたいことばをしめす。
- ( )(かっこ)——注などをつけるときに使う。
- ?(疑問ふ)—疑問を表すときに文の終わりに使う。使いすぎはよくない。
- …(てんてん)—言いかけてとちゅうでやめたとき。
- 々(くり返しふ号)—上と同じ漢字をくりかえすとき。

整

16画 〔攵・12画〕〈ぼくにょう〉

おん セイ
くん ととのえる・ととのう

とめる

いみ きちんとそろえる。正しくする。ととのう。「整理・整とん・整列・整備・整然・整数・調整・修整」

つかいかた ▼きちんと身なりを整える。▼引き出しの中を整理する。▼校庭に整列して、先生のお話を聞く。

ちゅうい 送りがなに気をつける。

なりたち 束(=引きしめる)と攵(=動作の記号)と正(=ただしくする)を組み合わせた字。きちんとただすことをあらわす。

昔

8画 〔日・4画〕〈ひ〉 ↔今 96

おん *セキ・*シャク
くん むかし

いみ ずっと以前。むかし。「昔話・昔風・昔日・一昔・今昔」

つかいかた ▼昔、このあたりは海だったそうだ。▼小さいときに母から聞いた昔話を、思い出す。▼一昔(=十年ぐらい)前、このへんは田んぼだった。▼「今昔物語集」は、たくさんの話を集めた昔の本です。

なりたち －－昔 (=つみかさねる)と日(=ひにち)を組み合わせて、むかしをあらわす。

全

6画 〔人・4画〕〈ひとやね〉

おん ゼン
くん まったく

いみ ❶すべて。すっかり。「全員・全校・全国・全身・全力・全勝・全体・全部・全然」❷かけたところがない。「完全・安全・健全・万全」

つかいかた ▼外国人のことばが全くわからない。▼クラス全員で、先生のお見まいに行く。▼家まで全力で走って帰る。▼よばれたのに、全然気がつかなかった。

なりたち (=あつめて囲う)と工(=工作)を組み合わせて、かけたところがないようにそろえることをあらわした字。

三年

相

おん ソウ・*ショウ
くん あい

9画〔目・4画〕〈め〉

相 相 相 相 相 相 相 相 相



いみ ❶たがいに。ともに。「相手・相性・相談」❷ようす・すがたや顔かたち。「真相・人相・手相」❸大臣。「首相・外相」

つかいかた ▼妹を相手に、テレビゲームをした。▼先生に相談する。▼おじさんに手相をみてもらう。▼事件の真相にせまる。

なりたち 目-𣏟-相-相 (=目)と 木(=木)を組み合わせた字。むかいの木を見ることから、むきあうことをあらわす。

送

おん ソウ
くん おくる

9画〔辶・6画〕〈しんにょう〉

送 送 送 送 送 送 送 送 送

つきでない

いみ ❶物をとどける。「送付・放送・運送・輸送・郵送・発送」❷人をみおくる。「送別」

つかいかた ▼送りがなに注意しよう。▼校内放送が始まる。▼転校する友だちの送別会をひらく。▼外国に出張に行く父を、空港に見送りに行った。

さんこう 「物を人にあげる」ときは「贈*る」とかく。

なりたち 关(=物をりょう手でもって、ささげる)と 辶(=すすむ)を組み合わせた字。

想

おん ソウ・*ソ
くん ―

13画〔心・9画〕〈こころ〉

想 想 想 想 想 想 想

とめる

いみ 思いめぐらす。また、その考え。「想像・空想・予想・思想・感想・理想・回想・構想・愛想(あいそ・あいそう)」

つかいかた ▼自分のしょうらいについて、あれこれ想像する。▼物語を読んで、空想にふける。▼ぼくの予想どおり、赤組が勝った。▼感想文を書く。

なりたち 相(=あるもののすがた)と 心(=こころ)を組み合わせた字。すがたを思いうかべることから、「思う」「考える」のいみをあらわす。

三年

息

おん ソク
くん いき

10画〔心・6画〕〈こころ〉

息 息 息 息 息 息 息

とめる

いみ ❶いき。「息切れ・ため息・鼻息」❷いきる。「生息・消息」❸やすむ。「安息・休息・息ぬき」❹こども。「息女・子息・息子★」❺ふえるもの。「利息」

つかいかた ▼バス停まで走ったら、息切れがした。▼日曜日に、休息をとる。▼登山家が、ヒマラヤで消息をたった。▼「ご子息はお元気ですか」と、父がよその人に聞いた。

なりたち 自(=はな)と 心(=しんぞう)を組み合わせた字。

速

おん ソク
くん はやい・はやめる・*すみやか

10画〔辶・7画〕〈しんにょう〉

速 速 速 速 速 速 速

いみ ❶はやい。すみやか。「速達・速記・速報・速球・早速・急速」❷はやさ。「速度・速力・高速・時速・風速・快速」

つかいかた ▼手紙を速達で出した。▼山田君は足が速い。▼最大風速五十メートルの台風。▼速やかに決断を下す。

ちゅうい 「朝早い」など、時間がはやいときは「早」を使う。

なりたち 束(=木のえだをしばる)と 辶(=すすむ)で、歩はばをつめて歩くことをあらわす。

族

おん ゾク
くん ―

11画〔方・7画〕〈かたへん〉

族 族 族 族 族 族 族

これがさき
つきでない

いみ 同じそせんからでたなかま。「家族・一族・親族・皇族・貴族・民族」

つかいかた ▼家族そろって食事をする。▼お祝いごとがあって、親族が集まる。▼民族の祭典といわれている。▼オリンピックは、民族の祭典といわれている。▼水族館でらっこを見た。

なりたち 㫃-𣃔-族 㫃(=はた)と 矢(=矢)を組み合わせた字。はたの下に、同じしゅるいのものをあつめてまとめることをあらわす。

他

おん タ
くん ―

5画 〔亻・3画〕〈にんべん〉 ↕自 100

いみ 自分いがいの人や、ほかのもの。「他人・他国・他社・他日・他界・他方・他殺・他者・自他・その他」

つかいかた ▼他人の意見もよく聞こう。▼その話は、他日(=ほかの日)あらためてしましょう。▼かれは、自他ともにみとめる実力者だ。▼入学式を前に、えんぴつ、ノート、その他の学用品をそろえる。

なりたち もとの字は「佗」。亻(=人)と它(=どくへび)を組み合わせた字。

打

おん ダ
くん うつ

5画 〔扌・2画〕〈てへん〉

つきでない

いみ ❶たたく。うつ。「打者・打球・打順・打席・打率・打楽器・安打・代打・連打」❷あることばの上につけて、意味を強めることば。「打ち消す・打開」

つかいかた ▼するどい打球をとばす。▼打楽器をえんそうする。▼行きづまったじょうたいを、なんとか打開したい。▼話し合いを打ち切る。

なりたち 扌(=手)と丁(=うちつける)を組み合わせた字。とんとんと、うつどうさをあらわす。

対

おん タイ・*ツイ
くん ―

7画 〔寸・4画〕〈すん〉

いみ ❶むかいあう。「対岸・対面・対立・対談・対決・対策・対象・敵対・反対」❷こたえる。「対応・応対」❸ひとそろい。「対句・一対」

つかいかた ▼反対の人が多くて、とりやめになった。▼十年ぶりに対面する。▼試合は二対一で勝った。▼一対の花びん。

なりたち もとの字は「對」。丵(=二つで一組みになる楽器をかける台)と寸(=手)を組み合わせてできた字。

待

おん タイ
くん まつ

9画 〔彳・6画〕〈ぎょうにんべん〉

いみ ❶まつ。「待合室・待機・待望・期待」❷もてなす。「接待・招待・優待」

つかいかた ▼夏休みが待ちどおしい。▼駅の待合室で、友だちに会った。▼待望の一点をゴールした。▼リレーの選手として、みんなに期待される。▼たんじょう会に招待された。

ちゅうい 「持」とまちがえやすい。

なりたち 待 彳(=おこなう)と寺(=手足の動作)を組み合わせた字。

代

おん ダイ・タイ
くん かわる・かえる・よ・*しろ

5画 〔亻・3画〕〈にんべん〉

そってはね

いみ ❶かわる。かわりになる。「代理・代表・代用・交代」❷はらうお金。「代金・身の代金」❸ある期間。「代代・明治時代・古代・十代・現代」

つかいかた ▼父の代わりに、ぼくが出席した。▼オリンピックの代表にえらばれる。▼代金をまとめてはらう。

なりたち 代 弋(=くい)をたてて亻(=人)のかわりをさせることをあらわした字。

第

おん ダイ
くん ―

11画 〔竹・5画〕〈たけかんむり〉

いみ ❶数の上につけて、順序をあらわすことば。「第一・第一人者・第一巻」❷試験。「落第・及*第」❸もののじゅんじょ。「次第」

つかいかた ▼健康が第一です。▼かれは、日本のテニス界の第一人者だ。▼落第しないようにがんばる。▼卒業式の式次第。

ちゅうい 「弟」とまちがえやすい。

なりたち 第 竹(=竹)と弟(=くいにまきついてのぼっていく植物のつる)を組み合わせた字。

題

18画〔頁・9画〕〈おおがい〉

おん ダイ

くん ―

いみ ❶詩・歌・文章などの内ようをあらわすみじかいことば。みだし。「題名・題目・題字」❷内ようの中心になることがら。「題材・議題・話題・主題」❸考えるようにあたえられたことがら。「問題・宿題・課題」

つかいかた ▼作文の題材をさがす。▼では本題に入りましょう。▼算数の問題をとく。

なりたち 是(＝まっすぐのびる)と頁(＝あたま)を組み合わせた字。つき出たひたいをあらわす。

炭

9画〔火・5画〕〈ひ〉

おん タン

くん すみ

いみ ❶ねんりょうにつかう、すみ。「炭火・消し炭・木炭」❷石たんのこと。「炭田・炭鉱・石炭」❸元素の一つで、たん素。「炭水化物」

つかいかた ▼炭火でさんまをやくとおいしい。▼昔はここも、炭鉱の町としてにぎわっていました。▼ものをもやすと、炭酸ガスがでる。

なりたち 𡵂-炭 山(＝山)と厂(＝がけ)と火(＝火)を組み合わせた字。山から出てきたもえる石(＝石炭)をあらわす。

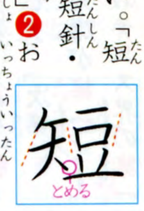
短

12画〔矢・7画〕〈やへん〉 ↕長 136

おん タン

くん みじかい

いみ ❶みじかい。「短歌・短期・短縮・短針・短文・長短・手短」❷おとっている。「短所・一長一短」



つかいかた ▼えんぴつが短くなった。▼短期間で泳ぎをおぼえた。▼弟は、少し短気なところがある。▼だれにでも、短所(＝欠点)はある。

ちゅうい 「短かい」と、「か」を送らないこと。

なりたち 矢(＝みじかい直線)と豆(＝食べものを入れる足のみじかいうつわ)を組み合わせた字。

談

15画〔言・8画〕〈ごんべん〉

おん ダン

くん ―

いみ 話をする。ものがたる。また、話。「談話・相談・会談・対談・美談・面談・雑談・講談・座談会」

つかいかた ▼首相が談話を発表した。▼友だちに相談する。▼あしたから、個人面談が始まる。▼座談会のテープから、原こうにまとめる。▼ひろし君は、よくじょう談を言ってみんなをわらわせる。

なりたち 言(＝ことば)と炎(＝火がさかんにもえあがる)を組み合わせた字。さかんにしゃべることをあらわす。

着

12画〔羊・6画〕〈ひつじ〉 ↕発 197

おん チャク・*ジャク

くん きる・きせる・つく・つける

いみ ❶からだにつける。きる。「着物・着用・上着」❷くっつく。くっつける。「着色・付着・接着・愛着」❸ゆきつく。「着席・着任・着陸・到*着」❹きまりがついておちつく。「着実・決着」❺ものごとをはじめる。「着手・着工」❻数につけて、着物の数やとうちゃく順をあらわすことば。

つかいかた ▼礼服を着用する。▼着席する。▼決着がつく。

なりたち もとの字は「著」。くっつき、はなれないことをあらわす。

漢字の知しき

● 音読み・訓読み

漢字には、音読みと訓読みの、二通りの読みかたがあります。一つの読みかたをおぼえたら、別の読みかたも調べましょう。

漢字	音読み	訓読み
悪	悪人	いじ悪
育	教育	育ちざかり
運	運動会	大玉運び
泳	水泳	ひら泳ぎ
温	温度計	温かい
曲	作曲	曲がり角
使	大使	まほう使い
習	学習	習い事
神	神社	神様
庭	校庭	うら庭
板	ねんど板	まな板
氷	氷山	氷水
表	時間表	表げんかん
物	動物	買い物
命	生命	命がけ

漢字クイズ 羊が大きいのはどんなふうに見えるかな？

注

おん チュウ
くん そそぐ
8画〔氵・5画〕〈さんずい〉

注注注注注注注注



いみ ❶流れこむ。そそぐ。「注水・注入・注射」❷集中する。「注意・注目」❸たのむ。「注文」❹ときあかす。「注釈*」

ななめに

つかいかた ▼コップに水を注ぐ。▼病院で、インフルエンザの予防注射をうけた。▼ちこくしないように、注意された。▼みんなの注目を集める。▼注文しておいた本がとどいた。

なりたち シ(＝水)と主(＝一か所にいつづけるあるじ)を組み合わせた字。

柱

おん チュウ
くん はしら
9画〔木・5画〕〈きへん〉

柱柱柱柱柱柱柱柱柱



いみ やねなどをささえている材木。はしら。また、それににたもの。「門柱・支柱・電柱・円柱・火柱・大黒柱」

ななめに

つかいかた ▼古い家に、黒光りする太い柱が立っている。▼ガスばくはつで、大きな火柱が上がった。▼門柱に表札をかける。

なりたち ‐柱 木(＝木)と、主(＝ろうそくたての上で、じっとしてもえるあかり)を組み合わせた字。じっと立っている木をあらわす。

丁

おん チョウ・*テイ
くん ―
2画〔一・1画〕〈いち〉

丁丁

いみ ❶町をいくつかにわけたくぶん。「二丁目・横丁」❷てあつい。「丁重・丁ねい」❸とうふや料理などを数えることば。「一丁」❹本の紙の一まい。「落丁」❺ものごとの四番め。甲*・乙*・丙*の次。てい。

つきでない

つかいかた ▼ぼくの家は、横丁を入ったつきあたりにある。▼とうふを一丁買った。

なりたち ‐丁 たいらな板に、まっすぐくぎをうったかたちからできた。

答え 美しく見える。

三年

帳

おん チョウ
くん ―
11画〔巾・8画〕〈きんべん〉

帳帳帳帳帳帳帳帳帳帳帳

いみ ❶はりめぐらすまく。「どん帳」❷ちょうめん。「帳面・通帳・手帳・記帳・日記帳」

はねる

つかいかた ▼りっぱなどん帳(＝ぶ台のまく)が上がった。▼大切なことは、しっかり手帳に書きとめよう。▼今までのことは、全部帳消しにする(＝なかったことにする)。

ちゅうい 「張」とまちがえやすい。

なりたち 巾(＝ぬの)と長(＝長くのびたかみの毛)で、長くのばしたぬのをあらわす。

調

おん チョウ
くん しらべる・*ととのう・*ととのえる
15画〔言・8画〕〈ごんべん〉

調調調調調調調調調

いみ ❶しらべる。「調査」❷ととのえる。つりあい。「調合・調節・調和・調整」❸ようす。「口調・格調・好調・単調」❹音のふし。しらべ。「長調」

つかいかた ▼ことばの意味を、辞典で調べる。▼部屋全体の調和を考えて、かべ紙をえらぶ。▼からだの調子がよい。

なりたち ‐‐調 言(＝ことば)と、周(＝たんぼにきちんとうえられた作物)を組み合わせた字。

追

おん ツイ
くん おう
9画〔辶・6画〕〈しんにょう〉

追追追追追追追追追

いみ ❶おいかける。「追求・追い風」❷おいはらう。「追放」❸さかのぼる。「追想・追憶*」❹くわえる。「追加・追記・追認」

つかいかた ▼幸せを追求する。▼校内からいじめを追放する。▼母は、わかいときの追想(＝昔を思い出すこと)にふけっている。▼料理の注文を追加した。

なりたち 𠂤(＝ものをつみかさねたようす)と辶(＝すすむ)を組み合わせた字。人のあとをついてすすむことをあらわす。

漢字クイズ サッカーの試合は「ク目ハ」だった。さて、どういうこと？

三年

三年

定

8画〔宀・5画〕〈うかんむり〉

定定定定定定定定

おん テイ・ジョウ

くん さだめる・さだまる・*さだか

いみ ❶きめる。きまっている。「定員・定刻・定食・定説・特定・決定・仮定・指定・測定・予定・三角定規・品定め」❷しずめる。しずまる。「平定・安定」

つかいかた ▼運動会は、予定どおりに行う。▼ねらいを定める。▼うわさを否定する。▼案の定(=思ったとおり)雨になった。

なりたち 定-定 宀(=いえ)と正(=人)を組み合わせて、人が家の中に止まるようすをあらわす。

庭

10画〔广・7画〕〈まだれ〉

庭庭庭庭庭庭庭庭庭庭

おん テイ

くん にわ

いみ ❶にわ。「庭園・庭石・庭木・庭先・中庭・校庭」❷家のなか。「家庭」

つかいかた ▼父は、庭木の手入れをしている。▼庭に草花を植える。▼校庭で、サッカーの練習をする。▼お客さんを、家庭料理でもてなした。▼上田さんのお姉さんは、アルバイトで家庭教師をしているそうだ。

なりたち 广(=いえ)と廷(=たいらにならしたにわ)を組み合わせてできた字。

笛

11画〔⺮・5画〕〈たけかんむり〉

笛笛笛笛笛笛笛笛笛笛笛

おん テキ

くん ふえ

いみ ふえ。「縦笛・横笛・口笛・汽笛・警笛・鼓*笛隊」

つかいかた ▼音楽室から、笛の音が聞こえてきます。▼口笛をふきながら、上きげんで歩く。▼遠くから、船の汽笛が聞こえた。▼するどい警笛を鳴らして、車が走りぬけた。

ちゅうい 「苗*」とまちがえやすい。

なりたち 竹(=たけ)と由(=ほそいあなからぬけ出す)を組み合わせた字。竹のくだのあなからふいてならすふえをあらわす。

鉄

13画〔金・5画〕〈かねへん〉

鉄鉄鉄鉄鉄鉄鉄

おん テツ

くん ——

いみ ❶金ぞくのてつ。「鉄道・鉄橋・鉄柱・鉄材・鉄骨・鉄板」❷てつのようにかたいこと。「鉄則」❸「鉄道」のりゃく。「地下鉄・私鉄」

つかいかた ▼兄は鉄ぼうがとくいです。▼勝負の鉄則(=守らなければならないきまり)。▼父は、毎朝地下鉄で会社に通っています。

なりたち もとの字は「鐵」。金(=金属)と𢦏(=切る)と呈(=まっすぐ)で、まっすぐにものを切る金属の「てつ」をあらわした。

転

11画〔車・4画〕〈くるまへん〉



転転転転転転転

おん テン

くん ころがる・ころげる・ころがす・ころぶ

いみ ❶まわる。ころがる。ころぶ。「回転・運転・転落・自転車」❷うつる。かわる。「転居・転校・転地・移転」

つかいかた ▼妹がスケートで何回も転んだ。▼子犬が転げるように走ってくる。▼弟は、新しい自転車をほしがっている。▼引っ越*すので、転校することになった。

なりたち 轉-轉(転) 車(=くるまのかたち)と叀(=まるくまわる)を組み合わせた字。

都

11画〔阝・8画〕〈おおざと〉

都都都都都都都

おん ト・ツ

くん みやこ

いみ ❶国の中心になっている町。みやこ。「首都」❷大きな町。「都会」❸東京都のりゃく。「都営」❹すべて。「都合・都度」

つかいかた ▼日本の首都は東京です。▼ようやく都会の生活になれてきた。▼近くに都立高校がある。▼わたしは都営アパートに住んでいる。▼その日は、都合が悪い。▼京の都。

なりたち 者(=火をつよくする)と阝(=町)を組み合わせ、人々があつまる大きな町をあらわす。

三年

度

おん ド・*ト・*タク
くん *たび

9画
〔广・6画〕
〈まだれ〉

度度度度度度度

いみ ①ものごとのていど。また、それを表すたんい。「温度・角度・高度・速度・程度・三十度」②回数を表すことば。「度数・今度・何度」③きまり。「制度」④人がらのようす。「度胸・態度」⑤ものさし。「尺度・度量衡*」

つかいかた ▼けさの気温は**十度**だった。▼**度重なる**失敗。▼運動も、**度**をこすとよくない。

なりたち 庶(＝庶のりゃく字)と又(＝手)を組み合わせた字。手で長さをはかることをあらわす。

投

おん トウ
くん な**げる**

7画
〔扌・4画〕
〈てへん〉

投投投投投投投

いみ ①なげる。「投手・投球」②さしだす。「投票・投書・投資」③あきらめる。「投降」④とまる。「投宿」⑤あたえる。「投薬」

つかいかた ▼あの**投手**はいい球を**投げる**。▼新聞の読者らんに**投書**する。▼ヘリコプターで、物資を**投下**する。▼試合を**投げて**(＝あきらめて)はいけない。

なりたち 扌(＝手)と殳(＝えの長いやりを立てるようす)を組み合わせて、やりがつき立つようになげることをあらわす。

豆

おん トウ・ズ
くん まめ

7画
〔豆・0画〕
〈まめ〉

豆豆豆豆豆豆豆

いみ ①まめ。とくに、だいず。「豆乳・大豆・黒豆・枝豆・納豆・小豆」②小さいもの。「豆電球・豆本・豆台風」

つかいかた ▼節分に**豆まき**をする。▼わたしは毎日**豆乳**を飲んでいる。▼父は**豆腐***がすきだ。▼クリスマスツリーに、赤い**豆電球**をつける。

なりたち 豆－豆－豆 たべものを入れるふたのついたせの高いうつわをあらわしたかたちからできた字。

答え 息子。

島

おん トウ
くん しま

10画
〔山・7画〕
〈やま〉

島島島島島島島

いみ まわりを水でかこまれた土地。しま。「島国・島民・群島・列島・小島・無人島」

つかいかた ▼むこうに小さな**島**が見える。▼日本は**島国**です。▼夏休みに、**無人島**へ行ってキャンプ生活を送った。▼海につき出た**半島**。

ちゅうい 「鳥」とまちがえやすい。

なりたち 鳥(＝鳥)と山(＝やま)を組み合わせた字。わたり鳥がやすむ小さな山、つまり「しま」をあらわした。

湯

おん トウ
くん ゆ

12画
〔氵・9画〕
〈さんずい〉

湯湯湯湯湯湯湯

いみ ①熱した水。ゆ。「湯気・熱湯・重湯」②ふろ。「湯船・湯治・銭湯・湯上がり」

つかいかた ▼やかんの**お湯**がわいた。▼ふきんを**熱湯**で消どくする。▼**湯気**で、めがねが白くくもった。▼父といっしょに、**銭湯**に行く。▼**湯上がり**に、冷たい牛乳を飲む。

なりたち 氵(＝みず)と昜(＝太陽がいきおいよくあがること)を組み合わせた字。じょうきをふきあげている「ゆ」をあらわす。

登

おん トウ・ト
くん のぼ**る**

12画
〔癶・7画〕
〈はつがしら〉

登登登登登登登

てんがさき

いみ ①高い所にあがる。「登山」②行く。「登校」③高い地位につく。「登用」④あらわれる。「登場」⑤書類にのせる。「登録」

つかいかた ▼家族で富士山に**登**った。▼ぼくはしょうらい、**登山家**になりたい。▼妹と**登校**する。▼新人選手を**登用**する。

なりたち 𤼵－𤼵－登 癶(＝りょう足でふんばるかたち)と豆(＝そなえものの入れもの)と廾(＝りょう手)を組み合わせた字。

漢字クイズ 十＋目＋一＋八＝なんだ?

等

12画 〔⺮・6画〕〈たけかんむり〉

おん トウ

くん ひとしい

等 等 等 等 等 等 等 等



いみ ❶差がない。同じ。「等分・等辺・平等・対等・等身大・均等」❷くらい。じゅんじょ。「等級」❸…など。「等等」

つかいかた ▼テープを等しい長さに切る。▼おかしを三人で等分に分ける。▼二人を等分に見る。▼かけっこで一等になった。▼えんぴつ、ボールペン等、筆記用具をわすれないこと。

さんこう 「など」とはよまない。

なりたち 竹（＝そろったたけ）と寺（＝てら）を組み合わせた字。

動

11画 〔力・9画〕〈ちから〉 ↕ 静 253

おん ドウ

くん うごく・うごかす

動 動 動 動 動 動 動 動

いみ うごく。うごかす。「動作・動向・動物・自動車・行動・運動・移動・活動・感動」

つかいかた ▼列車が動き出した。▼テーブルを動かす。▼こんどの日曜日は、動物園に行く予定です。▼自信をもって行動しよう。▼映画を見て感動した。

なりたち 重（＝人のおもさが地めんにかかる）と力（＝ちから）を組み合わせた字。足で地めんをふむうごきをあらわす。のちに、ひろく「うごく」いみになった。

童

12画 〔立・7画〕〈たつ〉

おん ドウ

くん *わらべ

童 童 童 童 童 童 童 童

いみ 小さい子ども。わらべ。「童話・童画・学童・児童・童歌」

つかいかた ▼弟に童話を読んで聞かせる。▼午後から児童会があります。▼わたしのかいた絵が、童画展に入賞した。▼日本各地の童歌をあつめる。

なりたち －－童 辛（＝するどいはもの）と目（＝目）と東（＝つきとおす）と土（＝つち）から、はものて目をつかれた人のように、ものごとがわからない子をあらわす。

農

13画 〔辰・6画〕〈しんのたつ〉

おん ノウ

くん ―

農 農 農 農 農 農 農 農

いみ 田畑をたがやし、こくもつや、やさいを作ること。「農業・農村・農家・農民・農場・農薬・農耕・農地」

つかいかた ▼農業のさかんな地方。▼農作業にせいを出す。▼見わたす限りの広い農場。▼農薬の安全性について考える。

なりたち －－－農 林（＝はやし）と辰（＝かいがら）で、林をやき、かいがらで土をたがやすことをあらわした字。

波

8画 〔氵・5画〕〈さんずい〉

おん ハ

くん なみ

波 波 波 波 波 波 波 波

はらいがさき　つきだす

いみ なみ。なみだつ。また、なみのような動き。「波音・波間・風波・津*波・防波堤*・電波・音波・余波・★波止場」

つかいかた ▼高い波がおしよせる。▼波うちぎわで遊ぶ。▼ここは山かげなので、電波がとどきにくい。▼波乱（＝へんか）にとんだ人生。

なりたち 氵（＝水）と皮（＝毛皮をななめにかぶる）を組み合わせた字。水めんがななめにかたむいてかぶさるなみをあらわす。

配

10画 〔酉・3画〕〈とりへん〉

おん ハイ

くん くばる

配 配 配 配 配 配 配 配

いみ ❶ならべる。くみあわせる。「配列・配合」❷わりあてる。くばる。「配達・配給・配布・配役・配分・気配り・心配・手配」

つかいかた ▼文字の配列を考えて書く。▼もうけを、全員で公平に分配する。▼新聞配達のお★兄さんが来た。▼おじは、ホテルの支配人です。▼おかしを配る。

なりたち －－配 酉（＝さけつぼ）と卩（＝人がひざまずいているすがた）を組み合わせた字。

倍

10画 〔亻・8画〕〈にんべん〉

おん バイ
くん —



倍倍倍倍倍倍倍倍倍倍

いみ ある数を二つ合わせた数。ばい。また、ある数を何度もくわえること。「三倍・四倍・倍加・倍増」

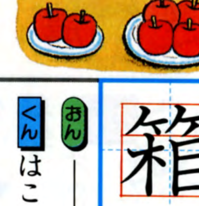
つかいかた ▼この町の人口は十年で倍増した。▼このけんび鏡の倍率（＝レンズで見る像と実物とのわりあい）は四百倍です。▼母は人一倍目がいい。

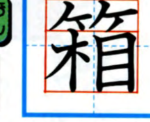
なりたち イ（＝人）と音（＝切りはなすこと）を組み合わせた字。二つに切ると二倍になるので「ばい」のいみをあらわす。

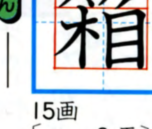
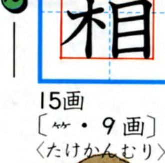
箱

15画 〔竹・9画〕〈たけかんむり〉

おん —
くん はこ






いみ いれもの。はこ。「箱庭・木箱・筆箱・本箱・重箱・薬箱・玉手箱・百葉箱・宝石箱」

つかいかた ▼あつ紙で、大事な物をしまう箱を作った。▼小鳥の巣箱を木にかける。▼重箱におせち料理（＝正月の料理）をつめる。▼救急箱にはいろいろな薬が入っている。

なりたち 竹（＝たけ）と相（＝むかいあう）で竹かごのことをあらわした字。のちにものを入れる「はこ」をあらわすようになった。

畑

9画 〔田・4画〕〈た〉

おん —
くん はた・はたけ

いみ ❶水をはらずに作物を作る土地。はたけ。「畑作・田畑・茶畑・畑仕事」❷専門。「畑ちがい」

つかいかた ▼一面に、緑の田畑が広がっている。▼畑の作物をとり入れる。▼おかの上に広い花畑があった。▼畑ちがい（＝専門外）の研究をする。

なりたち 火（＝ひ）と田（＝た）を組み合わせた字。草をやいてひりょうにし、そこにたねをまいたりするはたけをあらわす。日本でつくられた字。

発

9画 〔癶・4画〕〈はつがしら〉 ↕着 187

おん ハツ・*ホツ
くん —

いみ ❶矢・だん丸などをはなつ。はれつする。「発火・連発」❷出かける。たつ。「発車・出発」❸うまれる。おこる。おこす。「発生・発芽・発電・発作」❹明らかになる。明らかにする。「発明・発見・発表」❺はじめる。「発売・発行」❻さかんになる。すすむ。「発展・発育・発達」

つかいかた ▼交通事こが多発する。▼活発な議論をする。

なりたち もとの字は「發」。癶（＝左右にばっと開く）と弓（＝ゆみ）を組み合わせた字。

反

4画 〔又・2画〕〈また〉

おん ハン・*ホン・*タン
くん そる・そらす

いみ ❶ぎゃく。さかさま。「反対・反面」❷はねかえす。「反射・反応・反映」❸くりかえす。「反復」❹さからう。そむく。「反乱・反発・反抗・反則」❺そる。「反り身」❻土地の広さや布の長さを表すたんい。たん。「反物」

つかいかた ▼一日の行いを反省する。▼何度も反復練習する。

なりたち うすい布を手でおして、そらせるようすをあらわした字。

ことばのきまり

●送りがなのつけかた

漢字の読みかたをはっきりさせるために、漢字のあとにそえるかなを、送りがなといいます。送りがなには、次のようなきまりがあります。

きまり1 形のかわることばは、かわる部分から送る。

例 ある・く→歩く　つよ・い→強い

ただし 「しい」で終わる形容詞は「しい」を送る。

例 かなし・い→悲しい

ただし 読みあやまるおそれのあることばは、一字前から送る。

例 おそわ・る→教わる（「教える」とくべつする）　うごか・す→動かす（「動く」にしたがう）

きまり2 形のかわらないことばは、ふつうは送りがなを送らない。

例 花 草 鳥 氷 印 光 話

坂

7画 〔土・4画〕〈つちへん〉

おん *ハン　くん さか

いみ かたむいている道。さか。「坂道・上り坂・下り坂」

つかいかた ▼急な坂をかけあがったので、息が切れた。▼長い坂道を、自転車でゆっくりとくだっていった。▼学校に着くまでに、上り坂が二つもあります。▼とうげの向こうは、急な下り坂です。

なりたち 坂－坂　土（＝つち）と、反（＝そりかえる）を組み合わせた字。ななめにかたむいた土地をあらわす。

板

8画 〔木・4画〕〈きへん〉



おん ハン・バン　くん いた

いみ 木を平たく切ったもの。いた。また、平たいもの。「看板・鉄板・板前・板の間」

つかいかた ▼まな板の上で、野菜をきざむ。▼板にくぎを打つ。▼黒板に字を書く。▼強い風のため、あちこちの店の看板がこわれた。▼鉄板で肉や野さいをやいた。▼兄は板前さんの仕事にあこがれている。

なりたち 木（＝き）と反（＝たれたぬのを手でそりかえらせること）を組み合わせた字。

皮

5画 〔皮・0画〕〈けがわ〉

おん ヒ　くん かわ

いみ ❶動物や植物の表面をおおうもの。「皮ふ・皮下・毛皮・表皮・樹皮・脱*皮」❷ものごとの、目に見える表面のこと。「皮相」

つかいかた ▼みかんの皮をむいて食べる。▼海水よくに行ったので、皮ふがまっ黒にやけた。▼友だちに皮肉（＝欠点などを遠まわしにせめること）を言われた。

なりたち 皮－皮－皮　（＝あたまのついたどうぶつのかわ）と又（＝手）を組み合わせた字。

三年

悲

12画 〔心・8画〕〈こころ〉　↕喜 227

おん ヒ　くん かなしい・かなしむ

いみ ❶つらくてなきたいような気持ちになる。かなしむ。「悲運・悲観・悲鳴・悲劇」❷あわれみ。「悲願・慈*悲」

つかいかた ▼悲しみにしずむ（＝かなしい状態におちこむ）。▼ものすごい熱さに悲鳴をあげる。▼悲願の初優勝をとげた。

なりたち 非（＝二本の鳥のはねが左右にひきさかれるかたち）と心（＝こころ）を組み合わせた字。心がひきさかれることをあらわし、「かなしい」ことをいみする。

美

9画 〔羊・3画〕〈ひつじ〉

おん ビ　くん うつくしい

いみ ❶きれいだ。うつくしい。「美人・美化・優美」❷よい。りっぱだ。「美点・美談」❸おいしい。「美味」❹ほめる。「賛美」

つかいかた ▼美しい花がさいた。▼きみの美点は正直なところだね。▼この料理は、とても美味だ（＝とてもおいしい）。

なりたち 美－美－美　羊（＝ひつじ）と大（＝大きい）を組み合わせた字。かたちのよい大きなひつじのすがたがうつくしいことをあらわす。

鼻

14画 〔鼻・0画〕〈はな〉

おん *ビ　くん はな

いみ 動物の、はな。「鼻先・鼻血・鼻紙・鼻歌・目鼻・耳鼻科」

つかいかた ▼鼻がむずむずする。▼母が鼻歌をうたいながら、料理をしている。▼わたしの家から駅までは、目と鼻の先（＝すぐ近く）です。▼かれは、目鼻だちがととのっている。

なりたち 自（＝かおのまん中にあるはなのかたち）と畀（＝「ヒ」の音をもつ）を組み合わせた字。同じ音の「泌」（＝せまいところからしるを出す）のいみをかりた。

三年

筆

おん ヒツ
くん ふで
12画〔⺮・6画〕〈たけかんむり〉

筆筆筆筆筆筆

いみ ❶文字や絵をかくどうぐ。「筆箱・毛筆・鉛*筆」❷文字。また、文章。「達筆・自筆・筆談・絶筆」❸字を書く。「筆者・筆記・筆順・代筆」

つかいかた ▼きのう、色鉛筆を買ってもらった。▼父は達筆(＝字がじょうずなこと)です。▼ぼくは、この本の筆者の考えにさんせいです。

なりたち 竹(＝たけ)と聿(＝手にふでをもつようす)を組み合わせた字。

氷

おん ヒョウ
くん こおり・*ひ
5画〔水・1画〕〈みず〉

氷氷氷氷氷

ななめに　わすれずに

いみ ❶水がひえてかたまったもの。こおり。「氷河・氷山・樹氷・流氷・氷雨」❷水がひえてかたまる。「氷点下」

つかいかた ▼北の海に流氷がやってきた。▼雪山の樹氷がきれいだ。▼氷雨(＝秋のつめたい雨)がふる。

ちゅうい 「永」とまちがえやすい。

なりたち 冫水－冰(氷)は、もとの字「冰」。冫(＝こおりのわれめ)と水(＝みず)を組み合わせた字。

表

おん ヒョウ
くん おもて・あらわす・あらわれる
8画〔衣・2画〕〈ころも〉 ↔裏 414

表表表表表表表表

いみ ❶そとがわ。おもて。「表面・表紙・地表」❷あらわす。「表現・表示・表情・表明・公表・発表」❸一目でわかるように書いたもの。「図表・年表」

つかいかた ▼天気がよいので、表で遊ぶ。▼図表に表す。

ちゅうい 「表す」「現す」「著す」をくべつして使うこと。

なりたち 衣毛－表 と 衣(＝毛) 毛(＝きもの)で、毛皮のきものをおもてにしてきるいみをあらわす。

秒

おん ビョウ
くん —
9画〔禾・4画〕〈のぎへん〉

秒秒秒秒秒秒秒秒秒

はねる

いみ 時間・角度などのたんい。一秒は一分の六十分の一。「秒読み・秒針」

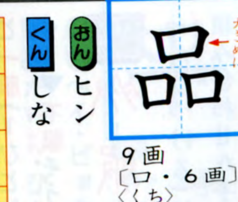
つかいかた ▼五十メートルを何秒で走れますか。▼ロケット打ち上げの秒読みが始まった。▼音速は、ふつう秒速三百四十メートルです。

なりたち 禾(＝いね)と少(＝小さい)を組み合わせた字。いねのほさきのほそいところをいみする。ここから、時間の小さなたんいをあらわした。

病

おん ビョウ・*ヘイ
くん *やむ・やまい
10画〔疒・5画〕〈やまいだれ〉

病病病病病病病



いみ からだのぐあいが悪いこと。びょうき。「病気・病弱・病欠・病苦・病人・病院・急病・看病・仮病」

つかいかた ▼病気がすっかり治った。▼母が病にたおれたので、父と看病した。▼駅前に、大きな病院ができた。▼かりた本をなくしたことを気に病む(＝心配する)。

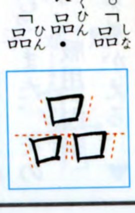
なりたち 疒丙－病 疒(＝ねている病人)と丙(＝りょう足がつっぱるかたち)を組み合わせた字。

品

おん ヒン
くん しな
9画〔口・6画〕〈くち〉

大きめに

品品品品品品品品品



いみ ❶しなもの。「品物・作品・商品・食品・製品」❷せいしつ。「品種・品性・気品」

つかいかた ▼いろいろな品物の中から、品質のよいものをえらぶ。▼新しい商品の説明を聞く。▼とても品のいいおばあさんに会った。▼いねの品種改良にとりくむ。

なりたち 口口口－品 口(＝口)を三つならべてできた字。いろいろなしなもののいみをあらわした。

漢字クイズ 級－及＋冬＝なんだ？

負

9画 〔貝・2画〕〈こがい〉 ↔ 勝 177

おん フ

くん まける・まかす・おう



いみ ❶ひきうける。身にうける。「負担・負傷」❷あらそいにやぶれる。まける。「勝負」

つかいかた ▼少しでも親の負担を軽くしたい。▼弟を背負って、公園まで行く。▼サッカーの試合で、おしくも負けた。▼勝負が決まったとき、勝った人も負けた人もないた。

なりたち ⺈(＝人)と貝(＝お金やたからもの)を組み合わせた字。人がたからものをせおうことをあらわす。

部

11画 〔阝・8画〕〈おおざと〉

おん ブ

くん ―

いみ ❶全体をいくつかにわけた一つ一つ。くぶん。「部分・部品・部門・部首・部長・全部・部屋★」❷本や新聞を数えることば。「部数」

つかいかた ▼はがきの一部分が雨でよごれて読めない。▼「部」の部首は「阝」だ。▼兄は中学のサッカー部に入っている。▼発行部数の多い雑誌。

なりたち 咅(＝ふくれる、二つにわける)と阝(＝おかや村)を組み合わせてできた字。くぶんするいみをあらわす。

服

8画 〔月・4画〕〈つきへん〉

おん フク

くん ―

いみ ❶身につけるもの。ふく。「服装・服地・洋服・衣服・和服・制服」❷したがう。「服従・不服」❸薬や茶などを飲む。また、その数を数えることば。「服用・内服」

つかいかた ▼服を着かえる。▼食後に薬を服用する。▼ちょっと一服(＝ひと休みすること)しよう。▼不服そうな顔。

なりたち 𠬝(＝人)と月(＝ふね)を組み合わせた字。人がたりつける(＝ぴったりつける)と手をぴ...

福

13画 〔ネ・9画〕〈しめすへん〉

おん フク

くん ―

いみ さいわい。しあわせ。「福引き・福祉*・幸福・祝福」

つかいかた ▼商店街の福引き。▼かのじょは、とても幸福な人生を送った。▼姉の成人の日を、家族みんなで祝福した。▼母は福祉*施*設で、ボランティア(＝無料ほうし)活動をしています。

なりたち 畐-畐 示-福-福(福) 畐(＝さけが入ったとっくり)と示(＝祭だん)からできた字。

物

8画 〔牛・4画〕〈うしへん〉

おん ブツ・モツ

くん もの

いみ ❶しなもの。もの。「物価・品物・食物・買い物・着物・植物・産物・荷物・果物★」❷ものごと。「物知り・物語・禁物」

つかいかた ▼ひ災地に送る品物をそろえる。▼年々物価が高くなる。▼「イソップ物語」を読む。▼鉄橋を貨物列車が通る。

さんこう 「物悲しい・物静か・物めずらしい」などの「物」は、調子をととのえるためのことば。

なりたち 牛(＝うし)と勿(＝はっきりしない)を組み合わせた字。

平

5画 〔干・2画〕〈ひる〉

おん ヘイ・ビョウ

くん たいら・ひら

いみ ❶ひらたい。たいら。「平屋・平野・水平」❷おだやか。「平和・平気」❸ひとしい。「平等・平均・公平」❹ふつう。「平常・平日」

つかいかた ▼見わたすかぎりの緑の平野。▼世界平和のためにつくしたい。▼明日は、平常どおりの授業です。▼もうかったお金を、平等に分けた。▼平行な二直線を引く。

なりたち 亏-平 うき草が、水面にたいらにうかんだかたちをあらわした字。

三年

返

おん　ヘン

くん　かえす・かえる

7画
〔辶・4画〕
〈しんにょう〉



返返返返返返返

いみ　もとにもどす。かえす。「返送・返答・返品・返礼・恩返し」

つかいかた　▼友だちにかりた本を返す。▼母は、ぼくのなまけぐせにあきれ返っている。▼名前をよばれたので、大きな声で返事をした。▼返信用のふうとうに、切手をはって出す。▼「つるの恩返し」の本を読んだ。

なりたち　反(=もとにもどる)と辶(=すすむ)を組み合わせた字。来た方向へ歩いてもどることをあらわす。

勉

おん　ベン

くん　—

10画
〔力・8画〕
〈ちから〉

勉勉勉勉勉勉勉勉勉勉

いみ　一生けん命にする。はげむ。「勉強・勉学・勤勉」

つかいかた　▼よく勉強したおかげで、テストの点数がよかった。▼あの人はとても勤勉な(=よくはげむ)人だ。▼勉学の道にはげむ。

なりたち　免(=せまいところからむりにぬけでること)と力(=ちから)を組み合わせた字。思いきり力をこめて、なにかをやりとげることをあらわす。

放

おん　ホウ

くん　はなす・はなつ・はなれる

8画
〔攵・4画〕
〈ぼくにょう〉

放放放放放放放放

（このかくがさき）

いみ　❶自由にする。にがす。「放流・放牧・解放・放課後」❷遠くへやる。はなつ。「放送・放映・放水・追放」❸そのままにしておく。「放置・放任」

つかいかた　▼かっていた小鳥を大空に放した。▼川に魚を放流する。▼学校放送に耳をかたむける。▼駅前に放置自転車が多い。

なりたち　方(=りょうがわにえののびたすき)と攵(=どうさをあらわす記号)を組み合わせた字。のびのびとのばすこと。

三年

味

おん　ミ

くん　あじ・あじわう

8画
〔口・5画〕
〈くちへん〉

味味味味味味味味

いみ　❶食べ物のあじ。「味覚・風味」❷おもしろみ。あじわい。「意味・興味・趣*味」❸なかま。「味方・一味」

つかいかた　▼料理をよく味わって食べる。▼しお、さとうなどの調味料。▼漢字の意味を考える。▼わたしが今興味があるのは、サッカーです。▼味方のおうえん。

なりたち　口(=くち)と未(=まだのびきらない、ほそくこまかいえだ)を組み合わせた字。口でこまかくあじわうことをあらわす。

命

おん　メイ・*ミョウ

くん　いのち

8画
〔口・5画〕
〈くち〉

命命命命命命命命

いみ　❶いのち。「命取り・命がけ・命ごい・生命・寿*命」❷言いつける。めいれい。「命令・使命」❸めぐりあわせ。「運命」❹名づける。「命名」

つかいかた　▼命を大切にする。▼あたえられた使命をはたす。▼運命にしたがう。

なりたち　亼(=あつめる)と口(=口)と人(=人)を組み合わせた字。人をあつめて、口でつたえること。とくに神や王のいいつけ。

面

おん　メン

くん　*おも・*おもて・*つら

9画
〔面・0画〕
〈めん〉

面面面面面面面面面

いみ　❶かお。「顔面・泣きっ面」❷かおにかぶるもの。「仮面」❸ものの表。「地面・水面・画面・表面」❹むき。方向。「正面・側面」❺図形の外がわの平らな部分。「面積」

つかいかた　▼ボールが顔面にあたってしまった。▼池の水面に水すましがいる。▼正面を向いてすわる。

なりたち　𦣻(=あたま)と□(=外がわをかこむ線)を組み合わせて、かおをあらわす。



問

11画 〔口・8画〕〈くち〉 ↕答 115

おん モン
くん とう・とい・とん

いみ ❶ききただす。「問答・問題・質問・疑問・学問・難問」❷人をたずねていく。「訪問」

つかいかた ▼むずかしい問題にちょうせんする。▼先生に質問する。▼疑問な点を問いただす。▼設問の意味がよくわからなかった。▼あしたは家庭訪問の日だ。▼問屋から布地を安く買った。

なりたち 門(=とじたもん)と口(=くち)を組み合わせた字。心の中にかくれていることを、ことばでさぐり出すことをあらわす。

役

7画 〔彳・4画〕〈ぎょうにんべん〉

おん ヤク・*エキ
くん ―

いみ ❶やくめ。つとめ。「役員・役所・役場・役目・役人・兵役」❷やくだてる。使う。「使役・労役」❸役げきで、はいゆうの受け持ち。「役者・子役」

つかいかた ▼役目をりっぱにはたす。▼父は市役所の職員だ。▼社会に役立つ人になりたい。▼演技のうまい子役。

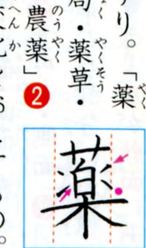
なりたち 殳(=ほこを手にもってしごとをする)と彳(=いく)を組み合わせた字。遠くに行って仕事をすることをあらわす。

薬

16画 〔艹・13画〕〈くさかんむり〉

おん ヤク
くん くすり

いみ ❶くすり。「薬品・薬用・薬局・薬草・薬屋・薬指・農薬」❷はげしい化学変化をおこすもの。「火薬」



つかいかた ▼かぜぎみで薬を飲んだ。▼白い粉薬。▼苦労がいい薬になった(=身のためになった)。▼花火の火薬のにおい。

なりたち 艹(=草や木などの植物)と楽(=すりつぶす)を組み合わせてできた字。植物の実や根をすりつぶしてつくったくすりをあらわす。

由

5画 〔田・0画〕〈た〉

おん ユ・ユウ・*ユイ
くん *よし



いみ ❶わけ。いわれ。「由来・理由・由緒*」❷そこを通る。「経由」❸思いのまま。「自由」

つかいかた ▼ちこくの理由を聞かれた。▼町名の由来を調べる。▼ハワイを経由して(=通って)、アメリカ本土に行く。▼わたしたちが自由に遊べる場所がもっとほしい。

なりたち 酒などを入れる、口のついたつぼをあらわした字。

油

8画 〔氵・5画〕〈さんずい〉

おん ユ
くん あぶら

いみ もえやすい液体。あぶら。「油絵・油紙・油田・石油・重油・給油」

つかいかた ▼つばきの実から油をとる。▼石油ストーブに火をつける。▼タンカーで原油を運ぶ。▼やさしい問題でも、油断しないようにしよう。

さんこう 「あぶら汗」は「油汗」とは書かない。「脂*汗」と書く。

なりたち 氵(=水)と由(=口のほそいつぼ)で、つぼから出る水、のちにあぶらをあらわした。

有

6画 〔月・2画〕〈つき〉 ↕無 278

おん ユウ・*ウ
くん ある

いみ ❶ある。「有名・有力・有志・有料・有利・有効・有益・有数・有線・有能・有望」❷もつ。「所有・私有・国有・特有」

つかいかた ▼有名な作家の本を読む。▼しょうらい有望な選手が入団した。▼品物のきずの有無を調べる。▼これは父の会社が所有しているビルです。

なりたち -有 (=手でわくをつくる)と(=にく。のちに、あやまって月のかたちになった)を合わせた字。

遊

おん ユウ・*ユ
くん あそぶ

12画 〔辶・9画〕〈しんにょう〉



遊遊遊遊遊遊遊

いみ ❶あそぶ。「遊園地・遊覧船・物見遊山」❷自由に動き回る。「遊牧・遊泳」❸旅に出る。「遊学・外遊」

つかいかた ▼みんなで楽しく遊ぶ。▼遊園地は人でいっぱいだ。▼波が高いので、遊泳禁止になった。▼大臣が外遊する(=外国に旅行する)。

なりたち 㫃(=はた)と子(=こども)と辶(=すすむ)を組み合わせた字。ぶらぶらとあるきまわることから、「あそぶ」いみになった。

遊 はねる

予

おん ヨ
くん —

4画 〔亅・3画〕〈はねぼう〉

予予予予

いみ あらかじめ。まえもって。「予期・予告・予習・予算・予約・予想・予言・予測・予備・予定・予報」

つかいかた ▼予期しないできごとがおこった。▼来月行うテストの予告をする。▼あしたのじゅぎょうの予習をする。▼新幹線のきっぷを予約する。▼インフルエンザの予防をする。

なりたち ―予 まるいわをずらすかたちからできた字。

予

羊

おん ヨウ
くん ひつじ

6画 〔羊・0画〕〈ひつじ〉

羊羊羊羊羊羊

いみ ひつじ。「羊毛・牧羊・綿羊・子羊・羊小屋・羊飼い」

つかいかた ▼羊の群れが移動している。▼空にうかんだ羊雲。▼羊毛を外国から輸入する。▼毛織物の原料は綿羊の毛です。▼子羊が、羊小屋の中でねている。▼羊の肉を使ったジンギスカン料理を食べた。

なりたち ―羊 ひつじのあたまのかたちからできた字。

羊 つきでない

洋

おん ヨウ
くん —

9画 〔氵・6画〕〈さんずい〉

洋洋洋洋洋洋洋

いみ ❶ひろびろとした海。「洋上・太平洋」❷世界を東と西に分けたもの。「東洋・西洋」❸西洋のこと。「洋食・洋服・洋画」

つかいかた ▼ヨットで太平洋を横断する。▼母が買ってくれた新しい洋服を着る。▼ぼくは、和食より洋食のほうが好きだ。▼姉は洋裁をならっている。

なりたち 氵(=みず)と羊(=「ヨウ」の音をあらわす)を組み合わせてできた字(この羊は「ひつじ」のいみではない)。

洋 つきでない

葉

おん ヨウ
くん は

12画 〔艹・9画〕〈くさかんむり〉



葉葉葉葉葉葉葉

いみ ❶木や草の、は。「葉桜・葉脈・紅葉(こう・もみじ)・青葉・若葉・かれ葉」❷数につけて紙や写真など、うすいものを数えることば。「一葉」

つかいかた ▼かれ葉が風にまう。▼庭の落ち葉をはき集める。▼あざやかな若葉の色。▼言葉づかいに気をつける。▼山の木々が紅葉して美しい。

なりたち ―葉 艹(=草)と枼(=木の上の三まいのは)を組み合わせた字。

葉

陽

おん ヨウ
くん —

12画 〔阝・9画〕〈こざとへん〉

陽陽陽陽陽陽陽

いみ ❶たいよう。日。「陽光・太陽・落陽」❷明るい感じや積極的なけいこうをもつもの。「陽気」❸電気やじしゃくのプラスの極。「陽極」

つかいかた ▼東の空から太陽がのぼる。▼まゆみさんは、陽気なせいかくだ。▼ツベルクリン反応で、陽性だといわれた。

なりたち 阝(=おか)と昜(=日がかがやいて高くあがるようす)を組み合わせた字。日のあたる明るいおかのこと。また、明るくかがやく太陽をあらわす。

陽

様

おん ヨウ
くん さま

14画 〔木・10画〕〈きへん〉

様様様様様様様

いみ ①ようす。ありさま。「様相・様子・同様・異様・一様」②ずがら。「模様」③名まえなどの下につけて、そんけいの気持ちを表すことば。「女王様・山田様」

つかいかた ▼何かおこりそうな様子だ。▼きれいな模様の布。▼弟も兄と同様に背が高い。

さんこう 「…のようだ」というときはかな書き。

なりたち もとの字は「樣」。木と羊（＝「ヨウ」という音をもつ）と永（＝ながく流れる水）からできた。

落

おん ラク
くん おちる・おとす

12画 〔艹・9画〕〈くさかんむり〉

落落落落落落

いみ ①おちる。おとす。「落ち葉・落下・落選・落第」②新しくできる。「落成」③むらざと。「村落・集落」

つかいかた ▼きのうさいふを落としてしまった。▼落ち着いて考えよう。▼大岩が落下してきた。▼おしくも落選した。▼新しいビルが落成した（＝できあがった）。

なりたち 艹（＝草）と洛（＝おりる）が合わさって、「草の葉がたれ下がる」から「おちる」いみになった字。

流

おん リュウ・*ル
くん ながれる・ながす

10画 〔氵・7画〕〈さんずい〉

流流流流流流

いみ ①ながれる。ながれ。ながす。「流域・流星・海流・急流・電流・島流し」②ひろまる。「流行・流布」③よどみない。「流ちょう」④なかま。「流派」⑤等級。「一流」

つかいかた ▼町の中を川が流れている。▼流れ星にねがいをかける。▼流行の洋服を買う。

なりたち －流　（＝水）と　（＝あかんぼうがうまれるときにながれ出る水）を組み合わせた字。

旅

おん リョ
くん たび

10画 〔方・6画〕〈かたへん〉

旅旅旅旅旅旅旅

いみ たび。「旅行・旅館・旅費・旅券・旅人・船旅」

つかいかた ▼旅先から家に手紙を書く。▼家族で旅行する。▼兄は修学旅行に行っている。▼温泉旅館にとまった。▼大型旅客機が発着する国際空港。

なりたち －－旅　と　（＝はた）と　（＝ふたりの人）を組み合わせてできた字。人々が、はたの下でれつをつくってすすんでいくことをあらわす。

両

おん リョウ
くん —

6画 〔一・5画〕〈いち〉

両両両両両両

いみ ①ふたつ。ふたつともに。「両方・両者・両親」②電車・列車・自動車など。また、その数を数えることば。「車両」

つかいかた ▼ハンバーグもコロッケも両方ともすきだ。▼両手でねん土をこねる。▼勉強とスポーツを両立させる。▼両親と旅行する。▼八両連結の客車。

なりたち －－兩（両）　右と左がつりあっているてんびんばかりのかたちからできた字。

緑

おん リョク・*ロク
くん みどり

14画 〔糸・8画〕〈いとへん〉

緑緑緑緑緑緑緑

いみ 青と黄の間の色。みどり。「緑色・緑地・緑茶・新緑・葉緑素・緑青（＝銅のさび）」

つかいかた ▼木の葉の緑が、目にしみる。▼見わたす限り、緑地が広がっている。▼家族そろって、新緑の山に登る。▼黄緑色のクレヨン。

なりたち －綠（緑）と　（＝糸）と　（＝竹の皮をはぐようす）で、皮をはいだ青竹のようなみどり色にそめた糸のことをあらわした字。

三年

礼

おん レイ・*ライ
くん ―

5画〔ネ・1画〕〈しめすへん〉



礼 礼 礼 礼 礼（たてぼうがさき）

いみ ❶れいぎ。「無礼・失礼」❷ぎしき。「礼服・朝礼・祭礼」❸おじぎ。「目礼・礼賛」❹感謝する心。「礼状・礼金・謝礼」

つかいかた ▼てはこれで失礼します。▼朝礼で校長先生のお話を聞く。▼だまって目礼をかわす。▼おせわになった人に礼状を書く。

なりたち もとの字は「禮」。示(=祭だん)と豊(=おそなえをうつわにもったようす)を組み合わせた字。神をまつること。

列

おん レツ
くん ―

6画〔刂・4画〕〈りっとう〉

列 列 列 列 列 列

いみ ❶いくつもつづいてならぶ。また、つらなっているもの。「列席・列車・列記・日本列島・行列・前列・後列・整列」❷多くの。「列国」

つかいかた ▼ホームに列車が入る。▼一列になって行進する。▼行列の先頭は一年生だ。▼校庭に出て整列する。

なりたち 歹(=ほね)とリ(=かたな)を組み合わせてできた字。せぼねなどをかたなで切りはなしてならべることをあらわす。

練

おん レン
くん ねる

14画〔糸・8画〕〈いとへん〉



練 練 練 練 練 練

いみ ❶わざをねる。きたえる。「練習・練達・訓練・試練・熟練・洗練・老練」❷こねる。

つかいかた ▼何ごとにつけうまくなるには、日ごろの練習が大切だ。▼学校で、ひなん訓練をした。▼試練をのりこえて、夢をかなえた。▼こなを練って、うどんをつくる。

なりたち 練-練(練)と糸(=糸)柬(=よいものをえらぶ)で、生糸をよい質のものにすることをあらわす。

路

おん ロ
くん じ

13画〔⻊・6画〕〈あしへん〉

路 路 路 路 路 路 路

いみ みち。すじみち。「路面・路地・道路・空路・水路・線路・家路・進路・迷路・理路」

つかいかた ▼夕ぐれの道を家路につく。▼広い道路がのびている。▼飛行機は、長いゆうどう路からかっそう路に入った。▼路地のおくにある家。▼路上では遊ばないこと。

なりたち ⻊(=足)と各(=じゃまな石をころがしながらすすむこと)を組み合わせた字。れんらくのためのよこみちをあらわす。

和

おん ワ・*オ
くん *やわらぐ・*やわらげる・*なごむ・*なごやか

8画〔口・5画〕〈くち〉

和 和 和 和 和 和

いみ ❶おだやか。「温和・平和・日和」❷なかよくする。「和解」❸ほどよくする。「中和・調和」❹日本の。「大和・和紙」❺たしざんの答え。わ。

つかいかた ▼平和な日本をきずく。▼会は和やかなふんいきだった。▼和服を美しく着こなす。▼和尚さんのお話をきく。

なりたち 禾(=あわのほがしなやかにたれたようす)と口(=まるいくち)を組み合わせた字。かどばらないことをあらわす。

ことばの知しき

●ことばがさかだちすると
「花火」ということばの上下の漢字を入れかえると、「火花」というべつのことばができます。このようなことばを集めてみました。

〈意味がにていることば〉
運命―命運　育成―成育
平和―和平　分配―配分
船出―出船　弱気―気弱

〈意味がつづくことば〉
花火の火花　客船の船客
年数は数年　身長は長身
名曲の曲名　曜日は日曜
年少の少年　相手の手相

〈意味に関連があることば〉
女王―王女　王国―国王

〈意味の関係がうすいことば〉
色気―気色　外野―野外
出家―家出　力走―走力
身分―分身　長所―所長

四年生の漢字学習法

◆

四年生では、一～四年で習う漢字を読むこと、一～三年の漢字を書き、文中で使えるようにすること、四年の新出漢字二百字を少しずつ書くようにすることを目標にしています。

漢字の中には、同じ訓読みでも意味のちがう漢字があります。たとえば、「直す・治す」のように、同じ訓読みでも表す意味がちがうものを、同訓異字といいます。

こうした同訓異字の漢字は、その漢字の意味をしっかり知って、使い分けられるようにしなくてはなりません。

「冷める」の「冷」は「冷水・寒冷・冷蔵庫」のように「つめたい・ひやす」などの意味があります。したがって、「湯が冷める」などのように使います。

それに対して「覚める」の「覚」は「感覚・知覚・味覚」などの熟語が作れる漢字で、「感づく・はっきりわかる」などの意味があり、「目が覚める」などのように使います。

また、「治す」の「治」は「治安・全治」などの熟語ができます。「おさめる・おさまる・なおす」などの意味で使われています。とくに、病気やけがを「なおす」場合に使います。

それに対して、「直す」の「直」には「直通・直面・直線・直前」などの熟語があります。「まっすぐ・じかに・すぐに」などの意味で使われます。「機械を直す。」「くせを直す。」などと使います。ただし、「直す」は「病気を直す。」と書いてもまちがいではありません。

さらに、漢和辞典を使っての、次のような学習も大切です。

今まで学習した漢字を部首で分類してみましょう。

たとえば、「くさかんむり」の漢字「草・花・荷・英」。「きへん」の漢字「機・械・札・標・材」。「ごんべん」の漢字「課・説・訓・議」。そして、それぞれの「部首」がどんな意味の漢字に使われているかを考え、その「部首」の意味を理解します。



四年生で習う字

愛216 案216 以216 衣217 位217 囲217 胃218 印218 英219 栄219 塩219 億220 加220 果220 貨221

課221 芽221 改222 械222 害222 街223 各223 覚223 完224 官224 管224 関225 観225 願226 希226

季226 紀227 喜227 旗227 器228 機228 議228 求229 泣229 救229 給230 挙230 漁230 共231 協231

鏡231 競232 極232 訓232 軍233 郡233 径233 型234 景234 芸234 欠235 結235 建235 健236 験236

固236 功237 好237 候237 航238 康238 告238 差239 菜240 最240 材240 昨241 札241 刷241 殺242

察242 参242 産243 散243 残243 士244 氏244 史244 司245 試245 児246 治246 辞246 失247 借247

種247 周248 祝248 順248 初249 松249 笑249 唱250 焼250 象250 照251 賞251 臣251 信252 成252

省252 清253 静253 席254 積254 折254 節255 説255 浅255 戦256 選256 然256 争257 倉257 巣257

束258 側258 続258 卒259 孫259 帯260 隊260 達260 単261 置261 仲261 貯262 兆262 腸262 低263

底263 停263 的264 典264 伝264 徒265 努265 灯265 堂266 働266 特266 得267 毒267 熱267 念268

敗268 梅268 博269 飯269 飛269 費270 必270 票271 標271 不271 夫272 付272 府272 副273 粉273

兵273 別274 辺274 変274 便275 包275 法275 望276 牧276 末276 満277 未277 脈277 民278 無278

約278 勇279 要279 養279 浴280 利280 陸280 良281 料281 量281 輪282 類282 令282 冷283 例283

歴283 連284 老285 労285 録285

愛

おん アイ
くん ―

13画
〔心・9画〕
〈こころ〉

いみ ❶かわいがる。いとしく思う。「愛情・愛犬・愛児」❷このむ。「愛読・愛用・愛唱・愛好」❸たいせつにする。「愛国・愛着・愛護」

使い方 ▼みんなに愛される人間になりたい。▼うちの愛犬ポチ。▼父が愛用している時計。▼これは姉の愛読書です。

なりたち －愛 旡(＝むねをつまらせて、うしろにのけぞるようす)と 心(＝こころ)と 夊(＝足をひきずる)を組み合わせてできた字。

案

おん アン
くん ―

10画
〔木・6画〕
〈き〉

いみ ❶考える。「案出・考案・思案・議案・名案・提案」❷考え。下書き。「文案・草案」

使い方 ▼ぼくは、山口さんの案に賛成です。▼テストは案外かんたんだった。▼ゆうべおそくまで起きていた弟は、案の定ねぼうした。▼広告の文案(＝文章の下書き)を考える。

注意 部首は「木」の部。

なりたち 安(＝家の中におちつく)と木(＝き)を組み合わせた字。つくえのことをあらわす。

以

おん イ
くん ―

5画
〔人・3画〕
〈ひと〉

いみ あることばの上について、「…より」のいみを表すことば。「以上・以下・以内・以外・以前・以後・以来」

使い方 ▼クラスの三分の二以上が賛成した。▼五才以下の子どもは無料です。▼一週間以内にお返事いたします。▼かれと会うのは卒業以来だ。▼かのじょとは以前からの知り合いだ。

なりたち －以 (＝まがったぼう)と 人(＝手)を組み合わせてできた字。

衣

おん イ
くん ＊ころも

6画
〔衣・0画〕
〈ころも〉

いみ 身につけるもの。「衣服・衣料・衣類・衣装・衣食住(＝着る物と食べ物とすまい)・白衣・法衣・衣がえ(＝季節によって衣類をかえること)」

使い方 ▼衣服を整理する。▼衣類に虫がつく。▼脱＊衣場で服をぬいでから、湯船に入る。▼白衣のかんごふさん。▼衣装をとりかえる。▼衣がえの季節。

なりたち －－衣 きもののえりの形からできた字。

位

おん イ
くん くらい

7画
〔イ・5画〕
〈にんべん〉

いみ ❶みぶん。くらい。「地位・即位・王位・品位・気位」❷ものごとのていどやじゅん番。「順位・首位・単位」❸場所。「位置・水位・方位」❹数を表すけた。「十の位」

使い方 ▼気位の高い人。▼マラソンで上位に入賞した。▼公園は駅の南に位置している。▼じしゃくで方位を調べる。

なりたち －位 (＝人)と 立(＝しっかりと立つ)を組み合わせた字。人の立ついちをあらわす。

囲

おん イ
くん かこむ・かこう

7画
〔口・4画〕
〈くにがまえ〉

いみ まわりをとりまく。かこむ。また、まわり。「包囲・周囲・胸囲・範＊囲」

使い方 ▼家のまわりをへいで囲む。▼囲いのあみがやぶれて、にわとりがにげた。▼池の周囲をジョギングする。▼身体検査で胸囲をはかる。

なりたち －－圍(囲) 韋(＝まわりをまわっているようす)と 囗(＝かこむ)を組み合わせた字。まわりをかこむいみ。

胃

9画〔月・5画〕〈にくづき〉

おん イ

くん ―

胃胃胃胃胃胃胃胃胃

いみ 食道の下に続いているふくろで、食べたものをこなすところ。いぶくろ。「胃腸・胃弱・胃液・胃病・胃痛」

使い方 ▼このところ胃の調子が悪い。▼父は胃腸がじょうぶなのがじまんだ。▼この薬は胃弱の人によくきく。▼おばは、長い間胃病になやまされている。

なりたち [古字]→胃 [古字](=まるいいぶくろに、たべたこくもつがちらばるようす)と月(=からだ)を組み合わせた字。

印

6画〔卩・4画〕〈ふしづくり〉

おん イン

くん しるし

印印印印印印





いみ ❶しるしをつける。しるし。「印象・矢印・目印」❷はんこ。「印かん・なつ印・調印・消印」❸版でする。「印刷」

使い方 ▼わすれないように印をつける。▼印象的なドラマ。▼署名して実印をおしてください。▼学校新聞を印刷する。

なりたち [古字]→印 [古字](=手)と卩(=ひざまずいた人)を組み合わせた字。手でおさえてひざまずかせることから、おしてしるしをつけるいみになった。

ことばの知しき

● **音が同じことば**

音が同じで、意味がちがうことばを、同音異義語といいます。

- いがい
  - 意外…思いがけないこと。
  - 以外…それよりほか。
- じき
  - 時期…とき。季節。
  - 時機…ちょうどよいとき。
- きょうそう
  - 競争…勝ち負けをあらそうこと。
  - 競走…走る速さをあらそうこと。
- きょうどう
  - 共同…いっしょに何かをすること。
  - 協同…力を合わせてすること。
- しょうすう
  - 小数…一より小さい数。
  - 少数…数が少ないこと。
- せいねん
  - 成年…一人前の年令。
  - 青年…わかもの。

英

8画〔艹・5画〕〈くさかんむり〉

おん エイ

くん ―

英英英英英英英英

いみ ❶すぐれている。「英雄*・英気・英断・英才」❷イギリス。「英国・英語・英会話・英文」

使い方 ▼英雄*といわれた人々の伝記を読む。▼英才教育を受ける。▼中学になると英語の授業があります。▼姉は英会話教室に通っている。▼日本のむかし話を英訳する。

なりたち 艹(=植物)と央(=まん中)を組み合わせた字。まん中がくぼんだ花のことで、「美しい」のいみをあらわす。

栄

9画〔木・5画〕〈き〉

おん エイ

くん さかえる・*はえ・*はえる

栄栄栄栄栄栄栄栄栄

いみ ❶勢いがさかんになる。さかえる。「栄華*・栄転・繁栄」❷ほまれ。「栄誉*・栄光・栄冠*」❸さかんにする。「栄養」

使い方 ▼この町は商業の中心地として長く栄えた。▼おじはニューヨーク支店に栄転した。▼勝利の栄光をこの手につかむ。▼栄養のバランスを考えて食事をとる。

なりたち もとの字は「榮」。[古字](=まわりをかがり火でとりまく)と木(=き)を組み合わせた字。

塩

13画〔土・10画〕〈つちへん〉

おん エン

くん しお

塩塩塩塩塩塩塩塩塩塩塩塩塩

いみ 海水などからとる、白くてしおからい味がするもの。しお。「塩分・塩田・食塩・岩塩」

使い方 ▼すもうの力士が塩をまく。▼海の水は塩からい。▼魚の塩焼きは、父の大好物だ。▼食塩で味付けする。▼少し塩分のとりすぎです。

なりたち もとの字は「鹽」。[古字](=地上に点々と見える白いかたまり)と監(=「からい」といういみをもち、「カン→エン」という音をもつ)を組み合わせた字。

四年

億

おん オク
くん —

15画 〔亻・13画〕〈にんべん〉

億億億億億億億億

いみ ❶一万の一万倍の数。「一億円」❷ひじょうに多いこと。「億万長者」

使い方 ▼この町の予算は、数十億円にのぼります。▼このビルを建てるのに、約三億円かかりました。▼開業以来の入場者数が、一億人をこえた。▼億万長者になることをゆめ見る。

なりたち イ(＝人)と意(＝あれこれ考えて、むねがいっぱいになる)を組み合わせた字。考えられるかぎりの大きな数のこと。

加

おん カ
くん くわえる・くわわる

5画 〔力・3画〕〈ちから〉

加加加加加



いみ ❶つけくわえる。また、えいきょうをあたえる。「増加・追加・加算・加法・加減乗除・加工・加熱」❷なかまに入る。くわわる。「加入・加盟・参加」

使い方 ▼おふろの湯加減をみる。▼原料を加工して製品にする。▼話し合いに参加する。▼サッカーチームに加わる。

なりたち 力(＝うでに力をこめるようす)と口(＝くち)を組み合わせた字。いきおいをたすけることをあらわす。

果

おん カ
くん はたす・はてる・はて

8画 〔木・4画〕〈き〉

果果果果果果果果

いみ ❶くだもの。「果実・果樹園・果物」❷しとげる。また、原因によってうまれたもの。「結果・因果・効果・成果」

使い方 ▼母は毎年、いろいろな果実酒をつくっている。▼あたえられた使命を果たす。▼努力した結果、みごとに合格した。▼薬の効果で熱が下がった。▼果てしなく続く海。

なりたち 木にまるい実がなるようすからできた字。 ー果ー果

貨

おん カ
くん —

11画 〔貝・4画〕〈こがい〉

貨貨貨貨貨貨貨

いみ ❶お金。「金貨・銀貨・通貨・外貨・貨幣*」❷品物。「貨物・貨車・雑貨・百貨店」

使い方 ▼その国の通貨(＝現在使われているお金)と両がえする。▼昔にくらべて、貨幣*の価値がさがった。▼長い貨物列車がふみきりを通った。▼雑貨屋で買い物をする。

なりたち 化(＝すがたをかえる)と貝(＝お金)を組み合わせた字。いろいろなものにかえることができるお金のことをあらわす。

課

おん カ
くん —

15画 〔言・8画〕〈ごんべん〉

課課課課課課課

いみ ❶わりあてる。また、わりあて。「課税・課題・課目・課外・課程・日課・学課・正課・放課後」❷役所や会社などの仕事のくぶん。「課長・会計課」

使い方 ▼音楽コンクールの課題曲を練習する。▼父は朝の体そうが日課だ。▼おじは、この四月から課長になった。▼放課後、学芸会の衣しょうを作った。

なりたち 言(＝ことば)と果(＝くだものが実をむすぶこと)を組み合わせた字。

芽

おん ガ
くん め

8画 〔艹・5画〕〈くさかんむり〉

芽芽芽芽芽芽芽

いみ ❶草や木の、め。「新芽・発芽・麦芽」❷ものごとのおこり。きざし。「芽生え」

使い方 ▼みずみずしい木の新芽。▼ひまわりの種が芽を出した。▼種をまいてから発芽まで、ちょうど一週間かかった。▼両国のあいだに、ようやく平和が芽生えてきた。

なりたち 艹(＝植物)と牙(＝二つのものがかみ合う)を組み合わせた字。二まいのしんめがかみあっている草木の「め」のこと。

四年

改

おん カイ

くん あらた**める**・あらた**まる**

7画 〔攵・3画〕〈ぼくにょう〉

いみ ❶新しくする。かえる。「改良・改選・改善・改正・改造・改築・改名・改革・改心・改修・改行」❷調べる。「改札口」

使い方 ▼悪いところは、すなおに改めよう。▼あの家は、今改築中です。▼いねの品種改良にとりくむ。▼駅の改札口で待ち合わせる。

注意 「あらためる」を「新ためる」と書かないこと。

なりたち 己(=はっと起きる)と攵(=動詞の記号)からできた字。

械

おん カイ

くん ―

11画 〔木・7画〕〈きへん〉

てんをわすれずに　そってはね

いみ しかけ。また、どうぐ。「機械・器械・機械化」

使い方 ▼工場に新しい機械が運びこまれた。▼かんたんな器械で実験する。▼器械体操の選手。

注意 「機械」と「器械」を使いわけること。「機械」は、おもに動力装置をつけたもの。「器械」は、しくみのかんたんなもの。

なりたち 木(=き)と戒(=武器を両手にもって、用心のためにかまえること)を組み合わせた字。自由をうばう「かせ」をあらわす。

害

おん ガイ

くん ―

10画 〔宀・7画〕〈うかんむり〉 ↕ 益 290

いみ ❶きずつける。「害虫・殺害・危害」❷じゃまになる。「障害・ぼう害」❸わざわい。「災害・損害・被*害・公害・冷害・水害」

使い方 ▼いねの害虫をたいじする。▼工事に障害(=じゃまになるもの)がおこった。▼てい防をきずいて水害を防ぐ。▼利害関係のないつきあい。

なりたち 害 宀(=かぶせる物)と古(=頭)を組み合わせた字。頭に物をかぶせて前に進めなくするといういみ。

街

おん ガイ・*カイ

くん まち

12画 〔行・6画〕〈ぎょうがまえ〉

いみ まちの大通り。また、まち。「街頭・街道・街灯・街路・市街・住宅街」

使い方 ▼街灯がいっせいにともった。▼秋になると、街路樹のいちょうの葉が黄色くなる。▼昔の街道ぞいの古い町なみ。▼アーケードの商店街がつづく。▼街角で、びらをもらった。

なりたち 行(=みち)と圭(=土をもりあげたようす)を組み合わせた字。くぎられた場所に町の家がならぶようすをあらわす。

各

おん カク

くん *おのおの

6画 〔口・3画〕〈くち〉

いみ めいめい。ひとりひとり。それぞれ。「各自・各地・各所・各国・各種・各位・各個」

使い方 ▼弁当は各自持ってくるように。▼各地の明日の天気をお伝えします。▼世界各国の選手が参加する、国際大会。▼福引きの景品を各種とりそろえる。

なりたち 各 夂(=人の足)が口(=四角い石)につかえることから、「一つ一つ」「それぞれ」といういみをあらわす。

覚

おん カク

くん おぼ**える**・さ**ます**・さ**める**

12画 〔見・5画〕〈みる〉

ツとかく

いみ ❶感じる。「感覚・知覚・視覚・味覚」❷はっきりわかる。さとる。「自覚・不覚・先覚者」❸明らかになる。「発覚」

使い方 ▼漢字は正しく覚えましょう。▼この風景には、見覚えがある。▼赤ちゃんが目を覚ました。▼寒さで指先の感覚がない。▼四年生であることを自覚して、下級生の手本になる。

なりたち もとの字は「覺」。𦥯(=おしえる者とまなぶ者がまじわる家)と見(=みる)を合わせた字。

漢字クイズ 口が四つも入る大きな物といえば？

答え 粉(こな)になる。

完

おん カン
くん —

7画 〔宀・4画〕〈うかんむり〉

完完完完完完完

いみ ❶おわる。やりとげる。できあがる。「完結・完了*・完成・完投」❷かけたところがない。「完全・完備・完勝・完敗」

使い方 ▼連続テレビドラマが完結した。▼校内マラソン大会で完走することができた。▼理科室には実験の道具が完備されている。▼五対〇で完勝した。

なりたち 宀(＝やね)と元(＝まるい頭)を組み合わせた字。どこもかけたところがないように、まるくとりかこむことをあらわす。

官

おん カン
くん —

8画 〔宀・5画〕〈うかんむり〉



官官官官官官官官

いみ ❶役所。政府。「官庁・官舎」❷役人。また、役目。「教官・試験官・外交官」❸からだのはたらきをする部分。「器官」

使い方 ▼官製はがきでクイズに応募*する。▼左官屋さんがかべをぬっている。▼試験官がテスト用紙を配った。▼大きくなったら外交官になりたい。▼胃も腸もからだの器官です。

なりたち 宀(＝やね)と𠂤(＝人やものがたくさん集まっているようす)を組み合わせた字。

管

おん カン
くん くだ

14画 〔⺮・8画〕〈たけかんむり〉

管管管管管管管

いみ ❶中にあなのあいている、ほそ長いもの。くだ。「鉄管・血管・気管・水道管・試験管・管楽器」❷とりしまる。「管理・管内・保管」

使い方 ▼細い二本のガラス管を、ゴム管でつなぐ。▼血管がすけて見える白いはだ。▼試験管に薬品を入れる。▼管理のいきとどいたマンション。▼宝石を金庫に保管しておく。

なりたち 竹(＝たけ)と官(＝まわりをまるくとりまく)を組み合わせた字。

関

おん カン
くん せき

14画 〔門・6画〕〈もんがまえ〉

関関関関関関関

つきでない　とめる

いみ ❶出入りをとりしまる所。出入り口。「関所・税関・難関・玄関*」❷しくみ。しかけ。「関節・機関」❸かかわる。「関係・関連・関心」

使い方 ▼昔、このとうげに関所があった。▼台風で交通機関がみだれた。▼親子の関係を大事にする。▼政治に関心をもつ。

なりたち もとの字は「關」。門と𢇇(＝あなにひもをとおして、つづり合わせること)を組み合わせた字。

観

おん カン
くん —

18画 〔見・11画〕〈みる〉

観観観観観観観

いみ ❶よく見る。ながめる。「観光・観衆・観戦・観点・観賞・観劇・観測・観察・観客」❷ものの見方。「主観・客観・楽観・悲観」❸ありさま。「景観・外観」

使い方 ▼朝顔の観察ノートをつける。▼観光バスで旅行に行く。▼もっと客観的にものごとを見よう。▼空きかんやごみは景観をそこねる。

なりたち もとの字は「觀」。雚(＝口をそろえて鳴く水鳥)と見(＝みる)を組み合わせた字。

ことばの知しき

●訓が同じことば

訓が同じで意味がちがうことばを、同訓異義語といいます。使い分けに気をつけましょう。

- あつい｛熱いお茶を飲む。／夏の暑い日。／厚い本。
- かわる｛選手が代わる。／気が変わる。
- たつ｛人が立つ。／家が建つ。
- つく｛ユニフォームにどろが付く。／電車が駅に着く。
- なおす｛病気を治す。／きげんを直す。
- なく｛鳥が鳴く。／妹が泣く。
- はじめ｛年の初め。／始めと終わり。
- はやい｛朝早く起きる。／スピードが速い。

漢字のちしき 「信」の暗記法。「イ(ひと)の言うこと信じる気持ち」

四年

願

19画 〔頁・10画〕 〈おおがい〉

おん ガン
くん ねがう

願 願 願 願 願 願 願

いみ のぞみたのむ。ねがう。「願い事・願望・願書・念願・志願・悲願・出願・宿願」

使い方 ▼修学旅行に出かけたみんなの無事を願う。▼願い事がかないますように。▼入学願書を提出する。▼おじいさんとおばあさんは、念願の海外旅行に出かけた。

なりたち 原(＝まるいいずみ)と頁(＝あたま)を組み合わせた字。まるいあたまをあらわし、一心に考えるといういみになった。

希

7画 〔巾・4画〕 〈はば〉

おん キ
くん ―



希 希 希 希 希 希 希

いみ ❶めずらしい。すくない。まれ。「希少価値・希代・希薄*」❷ねがう。もとめる。「希望」

使い方 ▼これは希少価値(＝ひじょうに少なくまれであるため、ねうちのあること)のある工芸品です。▼最後まで希望をすてずにがんばろう。

なりたち ‐希 (＝糸を組み合わせる)と (＝ぬの)を組み合わせた字。織ったぬののすきまが小さいことから、「まれ」のいみとなった。

季

8画 〔子・5画〕 〈こ〉

おん キ
くん ―



季 季 季 季 季 季 季

いみ 春・夏・秋・冬のそれぞれの時期。きせつ。「季節・季語・季刊・四季・春季・夏季・秋季・冬季・雨季」

使い方 ▼雨の多い季節になった。▼俳句にはふつう、季語(＝季節の感じを表すことば)が一つよみこまれている。▼四季おりおりの花がさきみだれる、山のお花畑。▼冬季オリンピック大会が開幕した。

注意 「委」とまちがえないこと。

なりたち 禾(＝こくもつのほ)と子(＝こ)を組み合わせた字。

四年

紀

9画 〔糸・3画〕 〈いとへん〉

おん キ
くん ―

紀 紀 紀 紀 紀 紀 紀

いみ ❶書きしるす。「紀行文」❷きまり。「校紀・風紀」❸年代。「紀元・二十一世紀」

使い方 ▼紀行文(＝旅行したときに感じたことがらなどを書いた文章)を読む。▼風紀(＝世の中のきりつ)がみだれる。▼七世紀ごろに建てられたお寺。▼ピラミッドは、紀元前二千五百年ごろにさかんにつくられた。

注意 「記」とまちがえないこと。

なりたち 糸(＝いと)と己(＝まがった目じるし)を組み合わせた字。

喜

12画 〔口・9画〕 〈くち〉 ↕悲 199

おん キ
くん よろこぶ

喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜

いみ ❶うれしく思う。また、よろこび。「喜色・喜喜・歓*喜・喜怒*哀*楽」❷楽しい。おもしろい。「喜劇」

使い方 ▼母の喜ぶ顔が目にうかぶ。▼野球大会で勝って、みんな大喜びだ。▼雨天中止で、遠足はぬか喜びに終わった。▼わたしの大好きな喜劇役者。

なりたち ‐‐喜 (＝台のついたうつわにうずたかく食べ物をもる)と (＝口)を組み合わせた字。

旗

14画 〔方・10画〕 〈かたへん〉

おん キ
くん はた



旗 旗 旗 旗 旗 旗 旗

いみ 目じるしやかざりに使う、はた。「旗手・軍旗・校旗・反旗・国旗・手旗信号」

使い方 ▼大きな旗をふっておうえんする。▼旗手を先頭に入場行進が始まった。▼どうも味方の旗色(＝勝負のようす)が悪い。▼校旗が風にはためく。

なりたち ‐‐旗 と (＝はた)と (＝四角い形をした、こくもつのからをのぞく道具)を組み合わせた字。四角い形をしたはたのこと。

四年

器

おん キ
くん *うつわ

15画 〔口・12画〕〈くち〉




いみ ❶いれもの。うつわ。また、どうぐ。「食器・花器・器物・器械・器材・器官・計器・楽器・武器」❷才能。能力。「器用・器量・大器」

使い方 ▼いろいろな器具を使って実験する。▼石器時代に使っていた石おの。▼姉は手先が器用だ。▼大政治家になる器量(＝才能)がある。▼こんど入った選手は、大器と言われている。

なりたち もとの字は「器」。口(＝くち)を四つと犬(＝いぬ)で、いろいろなうつわをあらわした字。

機

おん キ
くん *はた

16画 〔木・12画〕〈きへん〉






いみ ❶しくみ。しかけ。「機械・機関・機構・機織り」❷ものごとのきっかけ。ちょうどよいとき。「機会・動機・好機・転機」❸はたらき。「機能・機知・機転」❹だいじなこと。「機密」❺ひこうき。「機内」

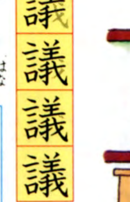
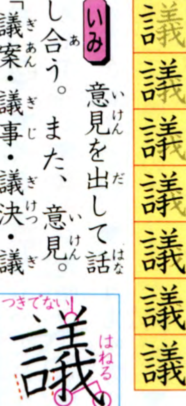
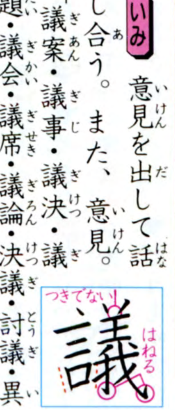
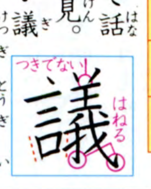
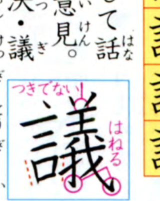
使い方 ▼織女星は、機織り星ともいう。▼夏休みは、体をきたえる良い機会だ。▼かれは、機転のきく人です。

なりたち 木(＝き)と幾(＝こまかいこと)を組み合わせた字。こまかいしかけのこと。

議

おん ギ
くん —

20画 〔言・13画〕〈ごんべん〉

いみ 意見を出して話し合う。また、意見。「議案・議事・議決・議題・議会・議席・議論・決議・討議・異議・抗*議」

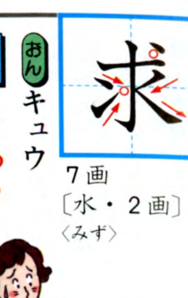
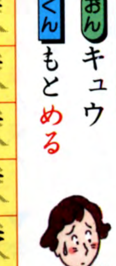
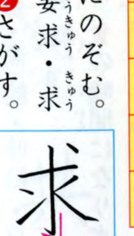
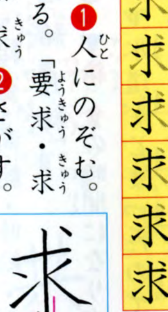
使い方 ▼かれを議長にすいせんしよう。▼意見がまとまらず、会議が長びいた。▼大事なことは、みんなで協議して決める。▼なにやら不思議な音がする。

なりたち 言(＝ことば)と義(＝きちんとしてかっこうがよい)を組み合わせた字。きちんとしてけじめのある話をすること。

求

おん キュウ
くん もとめる

7画 〔水・2画〕〈みず〉

いみ ❶人にのぞむ。もとめる。「要求・求刑*・請*求」❷さがす。「求人・求職・追求・探求」

使い方 ▼おたがいが要求をゆずらず、あらそいになった。▼正しい答えを求める。▼新聞に求人広告が出ている。▼会社は、利益を追求する。

なりたち 求 動物の毛皮の形から、ひもで中心に向けてしばって着るということをあらわす。

泣

おん *キュウ
くん なく

8画 〔氵・5画〕〈さんずい〉

いみ なみだをながしてなげく。なく。「泣き言・感泣・号泣」

使い方 ▼赤ちゃんが泣いている。▼泣き言をいう。▼妹は泣き虫だ。▼苦労した末の成功に、うれし泣きした。▼犬と少年の愛情物語に感泣した(＝心にふかく感じて泣いた)。

注意 「鳴く」は、鳥・虫・けものなどが声を出すこと。

なりたち 目から氵(＝水)が立(＝流れる)ことをあらわした字。なくことをいみする。

救

おん キュウ
くん すくう

11画 〔攵・7画〕〈ぼくにょう〉

とめる

いみ たすける。「救助・救出・救命・救護・救済・救援*・救急車・救世主」

使い方 ▼川でおぼれそうになったところを、あやうく救われた。▼そうなん者を救出する。▼救急車がサイレンを鳴らしながら走っていく。▼ほう帯は救急箱の中です。

注意 「救急車」を「急救車」と書かないこと。

なりたち 求(＝ひきしめる)と攵(＝動詞の記号)を合わせた字。

漢字のちしき 「参」の暗記法。「ムかしの子大きくなると彡(さん)人でお宮参り」

給

おん キュウ　くん —

12画〔糸・6画〕〈いとへん〉

給給給給給給給

いみ ❶あたえる。くばる。「給食・給水・給油・給仕・配給・補給・支給・供給」❷ちんぎん。「給料・給金・高給・時給・日給・週給・月給」

使い方 ▼給食の時間になりました。▼水道がとまったので、給水車が来た。▼今日は、姉の初めての給料日です。

なりたち 糸(＝いと)と合(＝かけめをふさぐ)を組み合わせた字。たりないところをつぎたすことをあらわす。

挙

おん キョ　くん あげる・あがる

10画〔手・6画〕〈て〉

挙挙挙挙挙挙挙

いみ ❶もちあげる。また、とりあげる。「挙手・選挙」❷行う。また、ふるまい。「挙行・挙動・挙式・一挙・快挙」❸ならべたてる。「列挙」❹のこらず。みな。「挙国・大挙」

使い方 ▼犯人のしょうこが挙がった。▼委員を選挙で決める。▼疑問点を列挙する。▼住民が大挙して役所におしかけた。

なりたち もとの字は「擧」。與(＝手をそろえ、力を合わせて動かす)と手(＝て)を組み合わせた字。

漁

おん ギョ・リョウ　くん —

14画〔氵・11画〕〈さんずい〉

漁漁漁漁漁漁漁

いみ 魚や海そうなどをとる。「漁業・漁場・漁期・漁港・漁船・漁村・漁師・出漁・豊漁・大漁・不漁・禁漁区」

使い方 ▼漁業のさかんな地方。▼漁船が港に入ってきた。▼水あげ高の多い漁港。▼海と山にはさまれた漁村。▼きょうは大漁だ。▼十一月から翌年の三月までは、禁漁です。

なりたち 氵(＝水)と魚(＝さかな)を組み合わせた字。魚をとることをあらわす。

共

おん キョウ　くん とも

6画〔八・4画〕〈はち〉



共共共共共共

いみ ともに。いっしょに。「共通・共有・共感・共鳴・共犯・共存・共演・共学・共同」

使い方 ▼力を合わせて共にがんばろう。▼わたしの両親は共働きです。▼みんなに共通の話題。▼この井*戸は、二つの村が共同で使っています。▼男女共学の中学へ進む。▼友だちの考えに共鳴する。

なりたち 両手で品物をささげもつようすからできた字。

協

おん キョウ　くん —

8画〔十・6画〕〈じゅう〉

協協協協協協協

いみ 力をあわせる。「協力・協定・協同・協会・協調・協議・協奏曲」

使い方 ▼みんな協力して町をきれいにする。▼国と国とが協定を結ぶ。▼かれは、協調性にとぼしい性格だ。▼重要な問題は全員の協議で決める。▼バイオリンの協奏曲を聞いた。

なりたち 十(＝ひとまとめ)と劦(＝たくさんの力を合わせる)を組み合わせた字。力を一つに合わせることをあらわす。

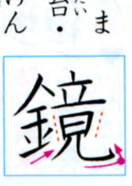
鏡

おん キョウ　くん かがみ

19画〔金・11画〕〈かねへん〉

鏡鏡鏡鏡鏡鏡鏡

いみ ❶かがみ。また、レンズ。「鏡台・三面鏡・望遠鏡・けんび鏡・そう眼鏡・★眼鏡」❷てほん。もはん。



使い方 ▼鏡に顔をうつす。▼望遠鏡で遠くを見る。

参考 ❷の意味のときは、ふつう「鑑*・鑒*」という字を書く。

なりたち 金(＝銅)と竟(＝物のさかいめ)を組み合わせた字。青銅をよくみがいた、明暗のさかいめがはっきりうつるかがみをあらわす。

漢字のちしき 「例」の暗記法。「ものすごいイ(ひと)の行列例えようもない」



競

おん キョウ・ケイ
くん *きそう・*せる

20画〔立・15画〕〈たつ〉

競競競競競競競競競

いみ くらべる。きそう。あらそう。きそう。「競争・競走・競技・競馬・競泳・競売」

使い方 ▼百メートル**競走**で一位になった。▼サッカーの試合を見に**競技場**に行く。▼テレビで**競馬**の中けいを見た。▼各国の選手がわざを**競う**。▼ゴール前の**競り合い**で勝った。

なりたち 竸-競 誩(=人が何かを言うこと)を二つ組み合わせて、言いあらそうことをあらわした字。

極

おん キョク・*ゴク
くん *きわめる・*きわまる・*きわみ

12画〔木・8画〕〈きへん〉

極極極極極極極極極

一かくでかく　はねる

いみ ❶きわまる。はなはだしい。「極力・極言・極大・極小・極端・極点・極度・極上・極寒・積極・消極」❷はて。「極東・南極・北極」

使い方 ▼**極力**(=できるだけ)努力してみます。▼**極上**の(=一番よい)品物。▼感**極まって**(=感げきのあまり)泣き出した。▼**極地**をたんけんする。

なりたち 木(=き)と亟(=きわまる)を組み合わせ、もっとも高いところのむな木をあらわす。

訓

おん クン
くん —

10画〔言・3画〕〈ごんべん〉

訓訓訓訓訓訓訓訓訓

いみ ❶おしえる。また、おしえ。「教訓・訓練・訓話・訓示」❷くん読み。「音訓」

使い方 ▼今日は学校で**防災訓練**がありました。▼朝礼で、校長先生の**訓話**を聞いた。▼「人に親切に」が、わが家の**家訓**です。▼漢字の読みには、音読みと**訓読み**がある。

なりたち 言(=ことば)と川(=むずかしい問題をほぐす)を組み合わせた字。ものごとのすじを通してせつめいするといういみ。

軍

おん グン
くん —

9画〔車・2画〕〈くるま〉

軍軍軍軍軍軍軍軍軍

いみ ❶へいたい。また、ぐんたい。「軍医・軍勢・軍事・軍歌・軍港・軍人・軍隊・軍服・海軍・陸軍・空軍」❷たたかい。「軍記・軍備・軍縮」

使い方 ▼**軍隊**が行進する。▼この港は昔、**軍港**として栄えた。▼すもうの行司が、さっと**軍配**を上げた。▼**軍記物語**(=いくさや武士の物語)を読む。

なりたち 𠂤-軍 冖(=外がわをとりかこむ)と車(=くるま)を組み合わせた字。

郡

おん グン
くん —

10画〔阝・7画〕〈おおざと〉

郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡

つきでる

いみ 都道府県の中の市以外の地いきをいくつかにわけた区画。「郡部・郡内・郡下・白川郡」

使い方 ▼この**郡内**の米のとれ高を調べる。▼**郡下**には、町が五つと、村が七つあります。▼**白川郡**に伝わる、古い民話を集めた本が出た。

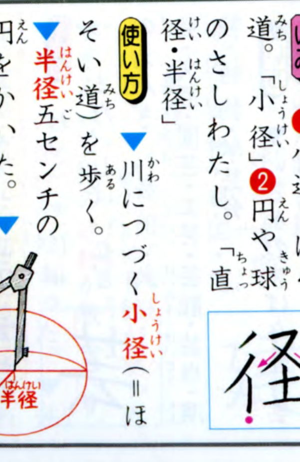
注意 「群」とまちがえないこと。

なりたち 君(=間に立って、まるくまとめる人)と阝(=村)を組み合わせた字。都のまわりにある村や町をあらわす。

径

おん ケイ
くん —

8画〔彳・5画〕〈ぎょうにんべん〉



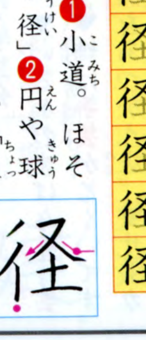
径径径径径径径径

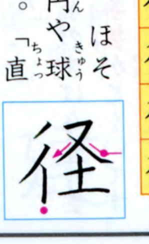
いみ ❶小道。ほそ道。「小径」❷円や球のさしわたし。「直径・半径」

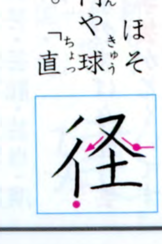
使い方 ▼川につづく**小径**(=ほそい道)を歩く。▼**半径**五センチの円をかいた。▼**直径**の約三・一四倍が円周です。











なりたち もとの字は「徑」。彳(=行く)と巠(=台の上にまっすぐたて糸をはる)を組み合わせた字。二地点をむすぶ近道をあらわす。

漢字のちしき 「兵」の字の中の「斤」は、「断」の「斤」と同じもの(235ページ参照)。

四年

型

9画 〔土・6画〕〈つち〉

おん ケイ

くん かた

型型型型型型型型型

いみ ①物のもとになる形。また、それににせたもの。「型紙・木型・小型・大型・新型・血液型・原型・体型・流線型・模型」②てほん。「典型的」

使い方 ▼洋服の型紙を切る。▼大型バスが家の前にとまった。▼型通りのあいさつ。▼おじはまじめで、典型的な学者タイプです。

注意 「形」と使いわけること。

なりたち 刑（＝小刀でわくの形をきざむ）と土（＝つち）を合わせた字。

景

12画 〔日・8画〕〈ひ〉

おん ケイ

くん ―

景景景景景景景景

いみ ①けしき。「景観・景勝・風景・夜景・光景・遠景・近景・背景・絶景・景★色」②ありさま。「情景・景気」

使い方 ▼のどかな山里の風景に、しばらく見とれる。▼あの山の上からの夜景は最高です。▼事件の背景をさぐる。▼あの人はいつでも、景気のいいことばかり言っている。

なりたち 日（＝太陽）と京（＝高いおかにたてた家）を組み合わせた字。

芸

7画 〔艹・4画〕〈くさかんむり〉

おん ゲイ

くん ―

芸芸芸芸芸芸芸

いみ わざ。ぎじゅつ。また、しばいなどのえんぎ。「芸術・武芸・文芸・園芸・工芸・芸能・芸当・演芸・曲芸・学芸会」

使い方 ▼いるかのすばらしい芸を見た。▼姉は手芸がとくいです。▼民芸品をあつかう店。▼サーカスの曲芸に見とれた。▼学芸会で主役に選ばれた。

なりたち もとの字は「藝」。むかしは埶（＝人が植物をうえてそだてる）と書き、のちに艹がつき、形のにている「藝」の字となった。

欠

4画 〔欠・0画〕〈けつ〉

おん ケツ

くん かける・かく

欠欠欠欠

いみ かける。不足する。「欠席・欠点・欠航・欠員・欠勤・欠乏*・補欠・出欠・病欠」

使い方 ▼茶わんを落として欠いてしまった。▼かれは気が短いのが欠点だ。▼かぜで欠席する人がふえた。▼メンバーの一人が欠ける。▼ぼくは補欠だけれど、あしたの試合はがんばるぞ。

なりたち ー ー ー欠 人が口を開けてかがんでいるようすからできた字。

結

12画 〔糸・6画〕〈いとへん〉

おん ケツ

くん むすぶ・*ゆう・*ゆわえる

結結結結結結結結結結結結

いみ ①ゆわえる。つなぐ。「結合・連結」②一つにかたまる。また、まとめる。「結実・結成・結集・結社・団結」③おわる。「結局・結果・結末・結論・完結・終結」

使い方 ▼くつのひもをしっかり結ぶ。▼野球のチームを結成する。▼実験の結果をまとめる。▼物語の結末を考える。

なりたち 糸（＝いと）と吉（＝ふたをした入れ物）を組み合わせた字。ひもで入れ物の口をむすぶことをあらわす。

建

9画 〔廴・6画〕〈えんにょう〉

おん ケン・*コン

くん たてる・たつ

建建建建建建建建建

にょうがあと





いみ 家などを新しくつくる。「建築・建設・建造・建物・建国・建立・再建」

使い方 ▼新しい体育館が建った。▼まるい屋根の建物が教会です。▼ダムの建設が始まった。▼法隆*寺は七世紀の初めに建立されたお寺です。

参考 「たてもの」は「て」を送らず「建物」と書く。

なりたち 聿（＝ふでをまっすぐ手で立てる）と廴（＝すすむ）を組み合わせた字。

四年

四年

漢字のちしき 「斤」は「おの」を表し、「兵」のもとの意味は「武器」（233ページ参照）。

健

おん ケン
くん すこ*やか
11画〔イ・9画〕〈にんべん〉

いみ ❶じょうぶである。すこやか。「健康・健在・健全・健勝・強健・保健」❷ふつう以上である。「健闘*・健忘」

使い方 ▼健康には気をつけよう。▼いなかの祖父母は健在です。▼みなさまのご健勝をおいのりします。▼けがをしたので保健室に行った。▼赤ちゃんが健やかに育つ。

なりたち イ(＝人)と建(＝からだをまっすぐに立てて歩く)を組み合わせた字。

験

おん ケン・*ゲン
くん ―
18画〔馬・8画〕〈うまへん〉

いみ ❶たしかめる。ためす。「試験・実験・経験・体験」❷ききめ。「霊*験」

使い方 ▼来週、国語の試験があります。▼姉は、受験勉強中です。▼理科室で、実験道具をそろえる。▼いろいろなことを経験する。▼今回はきちょうな体験をしました。

なりたち もとの字は「驗」。馬(＝うま)と僉(＝物をよせ集めてまとめる)を組み合わせた字。馬をのりくらべてためすこと。

固

おん コ
くん かためる・かたまる・かたい
8画〔囗・5画〕〈くにがまえ〉

いみ ❶しっかりと動かないようにする。また、そのようす。かたい。「固定・固体・固形燃料・強固・確固」❷ゆうずうがきかない。「がん固」❸もとからの。「固有」

使い方 ▼雪を固めて雪だるまをつくる。▼固い決意をもって試合にのぞむ。▼はぐれないように固まって行動する。▼地しんでたおれないように、家具を固定した。▼日本固有の文化。

なりたち 古(＝頭のほね)と囗(＝かこい)を組み合わせた字。

功

おん コウ・*ク
くん ―
5画〔力・3画〕〈ちから〉

いみ ❶てがら。「功績・功名・功労・成功・年功」❷ききめ。「奏功」❸よいおこない。「功徳」

使い方 ▼医学の進歩に大きな功績を残す。▼文化功労賞を受賞する。▼ロケットの打ち上げに成功する。▼テレビの功罪(＝よいところと悪いところ)について話し合う。

なりたち 工(＝上下両面にあなをあけること)と力(＝どりょく)を組み合わせて、なしとげた仕事と、そのできばえをあらわす。

好

おん コウ
くん この*む・すく
6画〔女・3画〕〈おんなへん〉

いみ ❶このむ。すきである。「好意・好学・好奇*心・好物・同好」❷このましい。よい。「好感・好機・好評・好調・好転・良好・格好・友好」

使い方 ▼母はあまい物を好む。▼何でも好ききらいなく食べよう。▼なっ豆は父の好物です。▼人の好意を無にしないように。▼新製品の売れ行きは好調です。

なりたち ―好 女(＝女)が子(＝こども)をかわいがる形からできた字。

候

おん コウ
くん *そうろう
10画〔イ・8画〕〈にんべん〉

いみ ❶ようす。「天候・気候・時候」❷まちうける。「候補」❸さぐる。「斥*候」❹「ある」「いる」をていねいに言うときに使う。「そうろう」。

使い方 ▼このところ、悪天候がつづく。▼市会議員に立候補する。▼優勝候補のチーム。▼昔は候文(＝文末を「…候」でむすぶ文体)で手紙を書いた。

なりたち イ(＝人)と侯(＝弓矢のまとをねらいうかがっている武士)を組み合わせた字。

漢字のちしき 「戦」の「戈」は、とびぐち(武器)の形からできた。

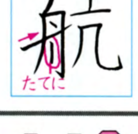
航

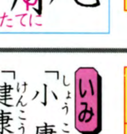
10画 〔舟・4画〕〈ふねへん〉

おん コウ
くん ―



航航航航航航航







いみ 船や飛行機で、進む。「航海・航行・航路・出航・欠航・来航・帰航・運航・航空便」

使い方 ▼長い航海の無事をいのった。▼フェリーの出航時間は八時ちょうどです。▼きりのため、飛行機が欠航した。▼出張中の父から、航空便の絵葉書が来ました。

なりたち 舟(＝ふね)と亢(＝まっすぐに立っている人のくび)を組み合わせて、ふねがならんでまっすぐ進むことをあらわした字。

康

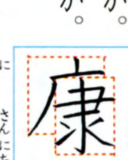
11画 〔广・8画〕〈まだれ〉

おん コウ
くん ―

康康康康康康康







いみ ❶やすらか。「小康」❷すこやか。「健康」

使い方 ▼病人はここ二、三日小康状態(＝少しよくなりかけたようす)をたもっています。▼健康にはじゅうぶん注意しよう。▼健康しんだんをうける。

なりたち [古字]－[古字]－康 [古字](＝糸まきのしんぼうを両手でささえる)と[古字](＝いねのもみがら)を組み合わせた字。かたいすじの入ったもみがらで、じょうぶをいみする。

告

7画 〔口・4画〕〈くち〉

おん コク
くん つげる

告告告告告告告

いみ つげる。知らせる。「告白・告示・告別式・布告・密告・予告・報告・警告・広告・忠告・告げ口」

使い方 ▼時を告げるかねの音。▼かくしていたことを、すべて告白した(＝うちあけた)。▼新聞に広告を出す。▼こんなことになるのなら、母の忠告を聞いておけばよかった。

なりたち [古字]－[古字]－告(告) 牛の角にぼうをしばる形からできた字。きけんをしらせるいみをもつ。

差

10画 〔工・7画〕〈こう〉

おん サ
くん さす

差差差差差差差

いみ ❶じょうたいやせいしつのちがい。くべつ。また、二つの数の間のひらき。「差別・差異・大差・小差・落差・差額・時差・誤差」❷さす。「★差し支える」

使い方 ▼わたしと妹の身長の差は十センチです。▼二位に大差をつけてゴールインする。▼カーテンのすき間から日が差す。

なりたち [古字]－差 [古字](＝ほ先がたれたいね)と[古字](＝左手でささえる)を組み合わせ、そろわないことをあらわす。

ことばの知しき

●ことば遊び

ことばを使ってする遊びが、昔からたくさん伝わっています。みなさんも、「しりとり」や「早口ことば」や「クイズ」や「なぞなぞ」などは、やったことがあるでしょう。ここでは、あることばを各句の始めにならべる(＝折りこむ)、「折り句」という遊びをしょうかいしましょう。

いちばんかんたんなのは、名前を折りこむものです。

いい人で
ちからが強く
かおもいい
わらいがおが
とっても
しびれる
おとこの中の男

自分でも作ってみましょう。

(この辞典の編集長)

ことばの知しき

●意味のにていることば

意味がほぼ同じことばや、よくにていることばを、類義語といいます。意味がほとんど同じことばは、同意語とか、同義語ということもあります。

これらのことばは、意味がにているといっても、どんな場合にも同じように使えるとはかぎりません。ちがいを考えて使いましょう。

- 意外…思っていたことと実際のことがひどくちがうこと。
- 案外…ものごとのていどが、思っていた以上であること。
- 不安…おそろしさや心配などで心がおちつかないこと。
- 心配…どうだろうかと気にすること。

悪人／悪者　衣料／衣服　外国／海外

四年

菜

おん サイ
くん な

11画〔艹・8画〕〈くさかんむり〉

いみ ①やさい。「菜食・菜園・野菜・白菜」②おかず。「総菜」

使い方 ▼一面に菜の花がさきみだれている。▼しんせんな野菜をたくさん食べましょう。▼家庭菜園で、トマトやきゅうりを作った。▼この旅館の名物は山菜料理です。▼総菜屋さんでコロッケを買った。

なりたち 艹（＝植物）と采（＝つみとる）を組み合わせた字。つみとって食べるための草のことをあらわす。

最

おん サイ
くん もっと・も

12画〔曰・8画〕〈ひらび〉

いみ いちばんの。もっとも。「最善・最高・最低・最後・最初・最期・最悪・最愛・最新・最古・最中・最終・最大・最多・最小・最良・最近・★最寄り」

使い方 ▼何事にも最善をつくす。▼今日は最高の一日だった。▼文章を最初から読み直した。▼最新の流行をとりいれた洋服。▼日本で最も高い山は富士山だ。

なりたち 曰（＝おおいかぶせる）と取（＝つかみとる）を組み合わせた字。

材

おん ザイ
くん —

7画〔木・3画〕〈きへん〉



いみ ①げんりょう。また、物をつくるための木。「材料・教材・資材・題材・取材・材木・材質」②ちえや、そのはたらき。才能。「人材・適材適所」

使い方 ▼カレーを作る材料をそろえる。▼ここは木材を積み出す港です。▼作文の題材をさがす。▼ゆうしゅうな人材（＝役にたつ人）を集める。

なりたち 木（＝き）と才（＝流れをたち切ってとめるせき）を組み合わせた字。たち切った木のこと。

四年

昨

おん サク
くん —

9画〔日・5画〕〈ひへん〉

いみ 一つ前の日・月・年など。「昨日（さくじつ・★きのう）・昨年・昨晩・昨夜・昨年度・昨今・一昨日・一昨年」

使い方 ▼昨日はおまねきにあずかり、ありがとうございました。▼昨年中は大変おせわになりました。▼昨夜からの雨で、川が増水している。▼昨今の冷えこみはこたえますね。▼父は一昨日から旅行に出ています。

なりたち 日（＝ひ）を乍（＝つみ重ねる）ことをあらわし、「きのう」のいみになった。

札

おん サツ
くん ふだ

5画〔木・1画〕〈きへん〉



いみ 木や紙などでつくった、ふだ。「札束・千円札・名札・荷札・正札・入札・落札・改札・出札・検札・表札」

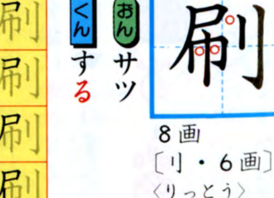
使い方 ▼千円札を出しておつりをもらった。▼一年生が、胸に大きな名札をつけている。▼切り札は最後までとっておこう。▼駅の改札口のところで待ち合わせる。▼訪問先の表札をたしかめる。

なりたち 木（＝き）とし（＝おさえてとめる）を組み合わせた字。木のふだをあらわす。

刷

おん サツ
くん する

8画〔刂・6画〕〈りっとう〉



いみ ①版を使ってする。「印刷・手刷り・木版刷り・刷り物・色刷り・縮刷版・増刷」②わるいところをあらためる。「刷新」

使い方 ▼版画を刷る。▼二色刷りの年賀状を作った。▼学年便りを印刷する。▼新聞の縮刷版（＝小さくちぢめて印刷したもの）で調べる。▼国の政治を刷新する（＝すっかりあらためる）。

なりたち 帍（＝よごれをふきとること）と刂（＝かたな）を組み合わせた字。

漢字のちしき 「飯田（いいだ）」の「いい」は、昔の日本語で「米をむしたもの」。

殺

おん サツ・*サイ・*セツ
くん ころす

10画 〔殳・6画〕〈るまた〉

殺 殺 殺 殺 殺 殺 殺

とめる

ハエコロリ

いみ ❶いのちをうばう。ころす。「殺人・殺害・殺気・殺虫剤・*殺生」❷なくす。「相殺」

使い方 ▼息を殺してじっと見つめる。▼殺生(=生き物をころすこと)はやめなさい。▼殺人犯がたいほされた。▼貸したお金は、この本の代金で相殺(=貸し借りなしにすること)しよう。

なりたち もとの字は「殺」。㐅(=かりとること)と朮(=もちあわ)と殳(=動詞の記号)を組み合わせた字。

察

おん サツ
くん ―

14画 〔宀・11画〕〈うかんむり〉

察 察 察 察 察 察 察

でる

いみ ❶調べて明らかにする。「観察・考察・警察・診察」❷おしはかる。「察知・明察・推察」

使い方 ▼植物の観察ノートをつける。▼日本文化の特質について考察する。▼ひろったさいふを警察にとどけた。▼大臣が工場を視察した。▼敵の作戦をすばやく察知する。

なりたち 宀(=いえ)と祭(=そなえ物をする場所をすみずみまできよめる)て、家をすっかりきれいにすることをあらわした字。

参

おん サン
くん まいる

8画 〔厶・6画〕〈む〉

参 参 参 参 参 参 参 参

いみ ❶おまいりする。また、目上の人に会う。「参拝・参けい・参道・参上・持参」❷くわわる。「参加・参列・参会」❸くらべ合わせる。「参考・参照」❹まける。「降参」

使い方 ▼神社にお参りする。▼参考書を買った。▼会議に参加する。▼この暑さには参った。

なりたち 三つの玉のかんざしをさした女と彡のもようからできた字。
→ 参(参)

産

おん サン
くん うむ・うまれる・*うぶ

11画 〔生・6画〕〈うまれる〉

産 産 産 産 産 産 産

いみ ❶子をうむ。うまれる。「産卵・産院・安産・出産・産毛」❷物をつくりだす。「産地・産出・産業・産物・生産・国産」❸ざいさん。「財産・遺産」

使い方 ▼にわとりがたまごを産む。▼赤ちゃんの産毛。▼このあたりは米の産地として有名だ。▼一代で財産をきずく。▼旅行の★土産に名産品を買った。

なりたち 产(=くっきりと切れめのあること)と生(=うまれる)を組み合わせた字。

散

おん サン
くん ちる・ちらす・ちらかす・ちらかる

12画 〔攵・8画〕〈ぼくにょう〉 ↕集 173

散 散 散 散 散 散 散

いみ ❶ちらばる。ちらす。わかれる。まとまらない。「散在・散乱・散布・発散・分散・散水・散会・解散」❷気のむくまま。「散歩」

使い方 ▼さくらの花が散り始めた。▼部屋の中が散らかっている。▼消毒液を散布する。▼国会が解散になる。▼ぼくは毎日、犬を散歩につれていく。

なりたち もとの字は「散」。㪚(=あさ)の実や皮をばらばらにするようすと攵(=動詞の記号)を組み合わせた字。

残

おん ザン
くん のこる・のこす

10画 〔歹・6画〕〈かばねへん〉

残 残 残 残 残 残 残

てんをわすれずに
つきでない そってはね

いみ ❶あまる。のこる。「残額・残金・残業・残暑・残高・名★残」❷むごい。「残酷・*無残」

使い方 ▼夏休みも残り少なくなってきた。▼わたしはいつも、給食を残さず食べます。▼優勝できなかったのは残念だった。▼父は残業の時間がへった。▼動物を傷つけるなんて残酷*だ。

なりたち もとの字は「殘」。戔(=はものて切って小さくする)と歹(=ほね)を合わせて、はもので切り取ったほねの切れはしのこと。

漢字のちしき 「少年」「少女」の「少」は「わかい」の意味で、「すくない」ではない。

士

おん シ
くん ―

3画 〔士・0画〕〈さむらい〉

いみ ❶さむらい。「武士・兵士」❷(男の)ひと。「力士・名士・文士・博士(はくせ・はかせ)★・航海士」

使い方 ▼げきで武士の役をやる。▼チームの士気がもり上がってきた。▼力士たちの土俵入りを見る。▼兄は物知りで博士と言われている。▼上田さんのおじいさんは、文学博士だ。▼ぼくは、宇宙飛行士になりたい。

なりたち 士―士 まっすぐに立った木のぼうの形からできた字。

氏

おん シ
くん うじ*

4画 〔氏・0画〕〈うじ〉



いみ ❶同じ血すじの人。また、みょうじ。「氏族・氏神・源氏・氏名」❷なまえの下につけて、人をうやまう気持ちを表すことば。「大野氏」

使い方 ▼明日から氏神様のお祭りです。▼住所・氏名をはっきり書いてください。▼小川氏の功績をたたえる会を開きます。

注意 「民」とまちがえないこと。

なりたち 氏―氏 食物を取り分けるさじの形からできた字。

史

おん シ
くん ―

5画 〔口・2画〕〈くち〉

いみ れきし。「史上・史実・史跡*・歴史・世界史・文学史」

使い方 ▼映画史上最多の観客を集めた作品。▼史実(＝昔、実際にあったこと)にもとづいて書かれた小説。▼自分の町の歴史を調べる。

注意 「央」や「吏*」とにている。

なりたち 史―史―史 中(＝きろくをしるした竹のふだを入れるつつ)と又(＝手)を組み合わせた字。

四年

司

おん シ
くん ―

5画 〔口・2画〕〈くち〉

いみ 中心となってとりはからう。つかさどる。「司会・司書・司令・上司・宮司・行司」

使い方 ▼お楽しみ会の司会者(＝先に立って会をうまく進めていく係)になった。▼図書室の司書の先生に、本の相談をした。▼行司は軍配を東に上げた。

注意 「同」「可」とにている。

なりたち 司―司 ㇏(＝人)と口(＝あな)を組み合わせた字。人が小さなあなからのぞくことをあらわす。

試

おん シ
くん こころみる・ためす*（てんをわすれずに）

13画 〔言・6画〕〈ごんべん〉

そってはねる

いみ やってみる。ためす。また、しけんのこと。「試合・試作・試運転・試写会・試食・試着・試練・試案・試金石・試験・口頭試問・入試・追試」

使い方 ▼何度試みても、うまくできない。▼あすは野球の試合がある。▼試験では、ミスをしないよう、落ち着いて。

なりたち 言(＝ことば)と式(＝ぼうを使って仕事をする)を組み合わせた字。人や物を使って、仕事をやらせてみること。

ことばの知しき

● 反対の意味のことば

たがいに反対の意味をもつことばを、反対語といいます。反対語には、次のようなものがあります。

〈漢字の一字だけが反対になる〉

長所↔短所　起点↔終点
最初↔最後　出席↔欠席
登校↔下校　当選↔落選
多量↔少量　上品↔下品
高地↔低地　発車↔停車

〈打ち消しのことばを使う〉

安心↔不安　幸福↔不幸
完結↔未完　有料↔無料
必要↔不要　有名↔無名
幸運↔不運　入用↔不用

〈熟語どうしが反対の意味を表す〉

安心↔心配　健康↔病気
自然↔人工　弱小↔強大
成功↔失敗　生産↔消費
戦争↔平和　勝利↔敗北

四年

漢字のちしき 「題」はもともと「ひたい(額)」という意味(247ページ参照)。

児

おん ジ・*ニ
くん ―

7画 〔儿・5画〕〈にんにょう〉

児 児 児 児 児 児 児



いみ 子ども。おさない者。また、わかもの。「児童・育児・愛児・園児・男児・女児・幼児・小児科・球児」

使い方 ▼保母さんが、園児をならばせている。▼母は無事、女児を出産しました。▼幼児のための童話の絵本。▼高校球児（＝野球をする少年）。

なりたち －－児（兒） 頭のほねがまだ合わさらない子どものすがたからできた字。

治

おん ジ・チ
くん おさめる・おさまる・なおる・なおす

8画 〔氵・5画〕〈さんずい〉

治 治 治 治 治 治 治 治



いみ ❶せいじをとる。国をおさめる。しずめる。「政治・統治・自治・治安・治水」❷病気をなおす。「治療・*全治」

使い方 ▼国民のことを考えた政治を行う。▼悪者を退治する。▼かぜを治す。▼痛みが治まる。▼全治二週間といわれたけがが、一週間で治った。

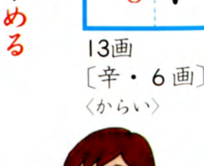
なりたち 氵（＝水）と台（＝ことばや動作をくわえる）を組み合わせて、川の流れを調節するといういみをあらわした字。

辞

おん ジ
くん *やめる

13画 〔辛・6画〕〈からい〉

辞 辞 辞 辞 辞 辞 辞





いみ ❶ことば。「辞典・辞書・祝辞・式辞・答辞・訓辞」❷わかれ。いとまごい。「辞去・辞世」❸やめる。ことわる。「辞意・辞職・辞退・辞任」

使い方 ▼ことばの意味を辞典で調べた。▼開会の辞をのべる。▼首相が辞意を表明した。▼体調が悪いので、出場を辞退する。

なりたち もとの字は「辭」。𤔔（＝もつれた糸をきちんとそろえる）と辛（＝罪人に入れずみをするはもの）を組み合わせた字。

四年

失

おん シツ
くん うしなう

5画 〔大・2画〕〈だい〉 ⇅得 267

失 失 失 失 失

いみ ❶なくす。「失望・失明・失業・失意・失格・失礼・失念・流失・焼失・過失・損失・遺失物」❷あやまち。しくじり。「失火・失言・失敗」

使い方 ▼希望を失ってはいけない。▼駅で友人を見失った。▼失礼します。▼一度の失敗であきらめるな。

なりたち －－失 𠂇（＝手）の中の物が、↓（＝するりとおちる）ことをあらわした字。

借

おん シャク
くん かりる

10画 〔亻・8画〕〈にんべん〉 ⇅貸 332

借 借 借 借 借 借 借

いみ つかわせてもらう。かりる。「借用・借金・借家・借地・拝借・貸借」

使い方 ▼図書室から本を借りる。▼ぜひあなたの助けを借りたい。▼お言葉にあまえて、しばらく借用します。▼借家ですが、もう二十年住んでいます。

注意 「貸す」と「借りる」を区別しよう。

なりたち 亻（＝人）と昔（＝日数をかさねる）を組み合わせた字。

種

おん シュ
くん たね

14画 〔禾・9画〕〈のぎへん〉

種 種 種 種 種 種 種

いみ ❶植物のたね。「種油・種子・菜種」❷もとになるもの。「火種・特種」❸なかま。「種類・種別・種目・人種・品種」

使い方 ▼畑に菜の花の種をまく。▼火種（＝火をおこすもとの火）をたやすな。▼なしの品種改良が進んで、ますますおいしくなった。▼運動会で、三つの種目に参加しました。

なりたち 禾（＝作物）と重（＝人が上から重みをかけること）を組み合わせた字。たねをあらわす。

四年

漢字のちしき 部首「頁」は「頭部」を表し、「ひたい」を表す「題」にもついている。

周

8画〔口・5画〕〈くち〉

おん シュウ
くん まわり

周周周周周周周周



いみ ①まわり。「周囲・周辺・周遊・円周・十周年」②ひろくゆきわたる。ゆきとどく。「周知・周到*」

使い方 ▼池の周りを歩く。▼お城の周囲に、水をたたえたほりがある。▼開校四十周年の記念日。▼それは周知（＝広くしれわたっていること）の事実です。

なりたち 周（古字）‐周（古字）‐周　田（＝田の中にいっぱい米があるようす）と口（＝かこい）を組み合わせた字。

祝

9画〔ネ・5画〕〈しめすへん〉

おん シュク・*シュウ
くん いわう

祝祝祝祝祝祝祝祝祝

はねる

いみ めでたいこととしてよろこぶ。「祝電・祝日・祝福・祝辞・祝賀会・祝言」

使い方 ▼姉は、中学校入学のお祝いに自転車を買ってもらった。▼みなさんの前途*を祝福します。▼卒業式に市長さんから祝辞をいただく。▼優勝の祝賀パレードがあった。

なりたち 祝（古字）‐祝（古字）‐祝（祝）　示（＝祭だん）と、兄（＝人がひざまずく形）を組み合わせた字。

順

12画〔頁・3画〕〈おおがい〉 ↕逆299

おん ジュン
くん —

順順順順順順順順順順順順

いみ ①じゅんばん。「順番・順位・順路・順序・順延・筆順・手順」②したがう。おとなしい。「順応・従順」③ものごとがうまくはこぶ。「順調・順当・不順」

使い方 ▼一年生から順番にならぶ。▼駅までの道順を聞かれた。▼運動会は雨天順延です。▼仕事は順調に進んでいる。

なりたち 川（＝かわ）と頁（＝あたま）を組み合わせた字。水が川すじを流れるように、道にしたがって進むことをあらわす。

初

7画〔刀・5画〕〈かたな〉

おん ショ
くん はじめ・はじめて・はつ・*うい・*そめる

初初初初初初初

これがさき　つきでない

いみ ものごとのはじめ。はじめての。「初日・初夏・初期・初代・初歩・初心・初級・当初・最初・初雪・初日・初荷・初陣*」

使い方 ▼三年生のとき、初めて飛行機にのった。▼あしたは、大ずもうの初日です。▼先生に質問されて、最初に手をあげた。▼きのう、初雪がふった。▼お正月に書き初めをする。

注意 「初」と「始」を区別すること。

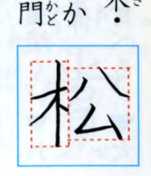
なりたち 刀（＝かたな）でネ（＝きもの）を切ることをあらわした字。

松

8画〔木・4画〕〈きへん〉

おん ショウ
くん まつ

松松松松松松松松



いみ まつ。「松並木・松葉・松林・松原・松かざり・松風・松竹梅・門松・若松」

使い方 ▼庭にみごとな松の木がある家。▼美しい松並木が続く街道。▼松竹梅はめでたいものとして、祝いごとに使われる。▼デパートの入り口に、大きな門松がかざられた。

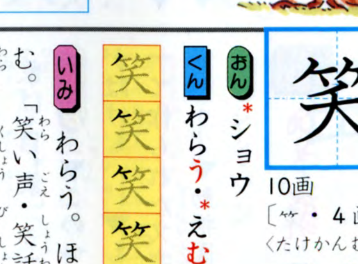
なりたち 木（＝き）と公（＝中のものをすっかり見せる）を組み合わせた字。葉のすきまからむこうが見えるまつの木をあらわす。

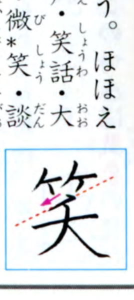
笑

10画〔⺮・4画〕〈たけかんむり〉

おん *ショウ
くん わらう・*えむ

笑笑笑笑笑笑笑笑笑笑

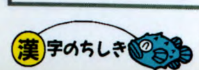




いみ わらう。ほほえむ。「笑い声・笑話・大笑い・苦笑・微*笑・談笑・一笑・冷笑・笑顔★」

使い方 ▼妹は、笑いじょうごだ。▼わたしのお母さんは、いつもやさしい笑みをうかべている。▼欠点をつかれて、思わず苦笑した。▼せっかくの提案を一笑に付された（＝笑って問題にされなかった）。

なりたち もとの字は「咲」。口（＝くち）と笑（＝細い竹）からできた。口をすぼめてわらうといういみ。



漢字のちしき 「上海」は、中国の市の名で、シャンハイと読む。

唱

おん ショウ
くん となえる

11画 〔口・8画〕〈くちへん〉

いみ ふしをつけて言う。うたう。また、人の先に立って言う。「唱歌・唱和・合唱・独唱・輪唱・愛唱・復唱・暗唱・提唱」

使い方 ▼おばあさんは毎朝、念仏を唱えています。▼学校の代表として、合唱コンクールに出場した。▼「かけ算の九九」は、全部暗唱できます。▼「戦争反対」を唱える。

なりたち 口(＝くち)と昌(＝はっきりとよくわかるようにものをいう)を組み合わせた字。

焼

おん *ショウ
くん やく・やける

12画 〔火・8画〕〈ひへん〉

いみ もやす。やける。「焼失・焼香*・燃焼・全焼・延焼・類焼・夕焼け・日焼け」

使い方 ▼お母さんが目玉焼きを作っている。▼庭でごみを焼く。▼焼きたてのパンを食べる。▼火の消し忘れが原因で火事になり、となりの家が全焼しました。▼西の空が夕焼けで真っ赤です。▼まっ黒に日焼けする。

なりたち もとの字は「燒」。火(＝ひ)と堯(＝高くのぼる)を組み合わせた字。

象

おん ショウ・ゾウ
くん ―

12画 〔豕・5画〕〈いのこ〉



いみ ❶ものの形。すがた。「気象・対象・現象・印象」❷かたどる。「象形」❸熱帯にすむ、長い鼻をもった動物。ぞう。「象げ・巨*象」

使い方 ▼このへんは気象の変化がはげしい。▼ものの形をかたどって作られた文字を、象形文字という。▼動物園でインド象を見た。

なりたち ー象 動物のぞうの形からできた字。

照

おん ショウ
くん てる・てらす・てれる

13画 〔灬・9画〕〈れんが〉

いみ ❶てらす。「照射・照明・日照」❷てらしあわす。「照合・参照・対照」

使い方 ▼夕日に山の木々が照りはえる。▼このところ日照りつづきだ。▼人前に出ると照れる。▼明るい照明。▼かれらは対照的(＝性質のちがいが非常にめだつようす)な性格だ。

なりたち 昭ー照 昭(＝半円をえがいて右から左へ光がてらすこと)と灬(＝火)を組み合わせた字。

賞

おん ショウ
くん ―

15画 〔貝・8画〕〈こがい〉

ツではない

いみ ほめる。また、ほうび。「賞状・賞品・賞金・賞賛・賞味・受賞・入賞・観賞・鑑*賞・一等賞・特賞」

使い方 ▼校長先生に賞状をいただいた。▼クイズを当てて賞品をもらう。▼マラソンで三位に入賞しました。▼きくの花を観賞する(＝見て楽しむ)。

注意 「覚」とまちがえないこと。

なりたち 尚(＝「ショウ」という音をあらわす)と貝(＝お金や品物)を組み合わせた字。

臣

おん シン・ジン
くん ―

7画 〔臣・0画〕〈しん〉

たてぼうがさき

いみ 主君につかえる人。けらい。「臣下・臣民・大臣・家臣・重臣・忠臣」

使い方 ▼作文コンクールで文部大臣賞をもらう。▼忠実な家臣をもった殿*様。▼手がらをたてて、重臣(＝重い役目のけらい)としてとりたてられる。

注意 「巨*」とまちがえないこと。

なりたち ー臣 うつむいた人の目の形からできた字。どれいのことで、のちにけらいのいみとなった。

漢字のちしき 「北京」は、中国の首都で、ペキンと読む。

信

おん シン
くん ―

9画〔イ・7画〕〈にんべん〉 ↔疑 361

信信信信信信信信信

いみ ❶うたがわない。しんじる。「信用・信条・信者・信念・信心・迷信・確信・自信」❷まこと。「信義」❸たより。あいず。「信号・通信・音信・電信」

使い方 ▼リーダーの言うことを信じる。▼あの人は信用できる。▼自信をもつ。▼信義(=やくそくをまもり、つとめをはたすこと)にあつい人。▼最新の通信機器。

なりたち イ(=人)と言(=はっきりと口にだしていう)を組み合わせてできた字。

成

おん セイ・*ジョウ
くん なる・なす

6画〔戈・2画〕〈ほこづくり〉

成成成成成成

ひだりはらいがさき
てんをわすれずに

いみ できあがる。まとまった、できている。「成功・成育・成長・成年・成果・成績・成分・成立・完成・合成・形成・構成・達成・作成・落成」

使い方 ▼漢字の成り立ちを調べる。▼失敗は成功のもと。▼ねがいが成就する(=かなう)。▼国語の成績がめきめき上がった。▼ぼくは賛成です。▼落成式。

なりたち もとの字は「成」。戊(=おの)と丁(=うちたたいてまとめかためる)を組み合わせた字。手をかけてまとめあげること。

省

おん セイ・ショウ
くん *かえりみる・はぶく

9画〔目・4画〕〈め〉

省省省省省省省省省

いみ ❶ふりかえって考える。かえりみる。「反省・自省・内省」❷へらす。はぶく。「省略」❸たずねる。「帰省」❹国の仕事をする役所。「文部省・外務省」

使い方 ▼自分の行いを省みる。▼運動会の係の反省会をひらく。▼むだを省く。▼省略の多い話。▼帰省客で道路がこんでいる。

なりたち 少(=小さくする)と目(=め)を合わせた字。目を細めてじっと見ることが、数をへらすいみにも使われるようになった。

四年

清

おん セイ・*ショウ
くん きよい・きよまる・きよめる

11画〔氵・8画〕〈さんずい〉

清清清清清清清清清清清

いみ ❶にごりがない。けがれがない。「清流・清酒・清水★・清音・清潔・清純・清書」❷しまつする。「清算」

使い方 ▼清らかな流れで口をすすぐ。▼夏は清りょう飲料水(=さっぱりとする飲み物)がよく売れる。▼身のまわりを清潔にたもつ。▼作文を清書する。▼借金を清算(=かしかりを計算して、しはらいをすませること)する。

なりたち 氵(=水)と青(=きよくすんでいる)を合わせた字。

静

おん セイ・*ジョウ
くん しず・しずか・しずまる・しずめる

14画〔青・6画〕〈あお〉 ↔動 194

静静静静静静静静静静静静静静

つきでる

いみ ❶動かない。「静止・静養・安静」❷しずかにする。「静観・静粛*・冷静」

使い方 ▼大病をした後なので、一か月ぐらいの静養が必要だ。▼つかれから来た病気ですから、少し安静にしていれば治ります。▼森の中は静かだった。▼台風が去って波も静まった。▼冷静になってもう一度話し合おう。

なりたち 争(=あらそい)をやめ、青(=しずかなすみきったようす)になることをあらわした字。

文字の知しき

●日本の文字

わたしたちは現在、漢字・ひらがな・かたかな・ローマ字と算用数字(=アラビア数字)の、五種類もの文字を使っています。これは、世界でもめずらしい例です。

①漢字
漢字は、中国で生まれた表意文字(=一字一字が意味を表す字)で、日本に伝えられたのは、今から千六百年ぐらい前のことだといわれています。

②ひらがな
平安時代に、漢字をくずして作られたもので、表音文字(=発音だけを表す字)です。

③かたかな
これも平安時代に、漢字の一部をとって作られた表音文字です。

④ローマ字
ヨーロッパで発達した文字です。

四年

席

おん セキ
くん ―

10画 〔巾・7画〕〈はば〉

席席席席席席席

いみ ❶すわる場所。ざせき。また、会場。「席順・座席・出席・着席・空席・客席・打席・指定席・末席・欠席」❷地位。順位。「主席・首席・席次」

使い方 ▼座席のベルトをしめる。▼では出席をとります。▼映画館で空席をさがす。▼客席は満員だ。▼かぜのため欠席した。

なりたち 广(＝「庶」をりゃくしたもの)と巾(＝ぬの)を組み合わせた字。下にしく、ぬのやむしろのことをあらわす。

積

おん セキ
くん つむ・つもる

16画 〔禾・11画〕〈のぎへん〉

積積積積積積積

いみ ❶集めてかさねる。また、つみかさねる。「積雪・積雲・積年・集積・山積」❷もののかさ。広さ。「体積・容積・面積」❸かけ算の答え。せき。

使い方 ▼車に荷物を積みこむ。▼旅行の費用を毎月積み立てる。▼長方形の面積を求める。▼積極的な性格の人。

注意 「績」とまちがえないこと。

なりたち 禾(＝作物)と責(＝借金がつもって心がいたむ)を組み合わせた字。

折

おん セツ
くん おる・おり・おれる

7画 〔扌・4画〕〈てへん〉

折折折折折折折

いみ ❶おる。おれる。まがる。「骨折・曲折・右折」❷わける。「折半」❸そのとき。「時折」

使い方 ▼色紙でつるを折る。▼兄は、スキーで足を骨折した。▼光は水の中に入ると、屈*折する。▼利益を折半する(＝半分にわける)。▼折を見て、おうかがいいたします。

なりたち 折　屮屮(＝木が二つに切られたようす)と斤(＝おの)を組み合わせた字。

四年

節

おん セツ・*セチ
くん ふし

13画 〔⺮・7画〕〈たけかんむり〉

節節節節節節節

いみ ❶もののつぎめ。ふし。「節穴・関節・末節」❷きせつのかわりめ。「節分・節句・季節・時節・当節」❸ほどよくする。「節度・節約・節水・調節」❹心をかえない。「節操・忠節」❺文章・歌・楽ふなどのくぎり。「文節・小節」❻歌の調子。

使い方 ▼節くれだった手。▼雨の季節。▼お金を節約する。

なりたち 竹(＝たけ)と即(＝ひざをまげ、食べようとしている人)で、竹のふしをあらわした字。

説

おん セツ・*ゼイ
くん とく

14画 〔言・7画〕〈ごんべん〉

説説説説説説説

いみ ❶ときあかす。教えきかす。「説明・説教・説得・解説・演説・力説・遊説」❷意見。主ちょう。「学説・論説」❸ものがたり。「説話・伝説・小説」

使い方 ▼政治家が全国を遊説する(＝演説して回る)。▼先生にくわしく解説してもらう。▼新しい学説が出る。▼仏の教えを説く。

注意 「設」とまちがえないこと。

なりたち もとの字は「說」。言(＝ことば)と兌(＝きものを体からときはなす)を組み合わせた字。

浅

おん *セン
くん あさい

9画 〔氵・6画〕〈さんずい〉 ↕深 179

浅浅浅浅浅浅浅 てんをわすれずに　そってはね

いみ ❶あさい。「浅瀬*」❷量・ていどが少ない。また、色がうすい。「浅学・浅手・浅黒い」

使い方 ▼この川は浅いので歩いてわたれる。▼遠浅の海でしおひがりをする。▼考えが浅はかだ。▼あの人は日本に来て、まだ日が浅い。▼父は、浅黒い顔をしています。

なりたち もとの字は「淺」。氵(＝水)と戔(＝ほこでけずって小さくする)を組み合わせた字。水が少なく、あさいことをいみする。

四年

漢字のちしき 「相」は、「木」には関係なく、「目」の部にはいっている(253ページ参照)。

戦

おん セン
くん ＊いくさ・たたかう

13画 〔戈・9画〕〈ほこづくり〉

いみ たたかう。あらそう。また、たたかい。「戦争・戦火・戦乱・戦車・戦後・戦力・戦術・休戦・接戦・苦戦・敗戦・作戦・観戦」

使い方 ▼死力をつくして戦う。▼戦争に反対をする。▼接戦をものにする。▼プロ野球の試合を球場で観戦した。▼戦いは味方の勝ち戦だった。

なりたち 戰-戦(戦) 單(=ちりをはたくどうぐ)と戈(=ほこ)を組み合わせてできた字。

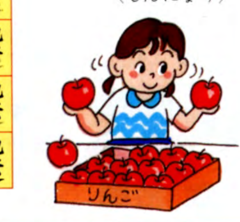
選

おん セン
くん えらぶ

15画 〔辶・12画〕〈しんにょう〉

いみ えらびだす。「選挙・選手・選者・選考・選定・選外・選評・選集・選ばつ・入選・人選・当選・落選」

使い方 ▼学級委員に選ばれた。▼選挙で役員を決める。▼オリンピックの代表選手。▼どちらか一方を選択＊する。▼コンクールで絵が入選した。



なりたち もとの字は「選」。巽(=多くの人や物を集めそろえる)と辶(=動作をあらわすしるし)を組み合わせた字。

然

おん ゼン・ネン
くん ―

12画 〔灬・8画〕〈れんが〉

いみ ❶そのとおりである。そのまま。「当然・必然・未然・自然・天然」❷ほかのことばのあとにつけて、…のようす。「平然・公然・純然・全然・同然・整然・断然・歴然・学者然」

使い方 ▼自然を大切にしよう。▼全然知らない話。▼この鳥は天然記念物に指定されている。▼かれは学者然(=学者らしいようす)としている。

なりたち 肰(=もえあがる)と灬(=火)を組み合わせた字。

四年

争

おん ソウ
くん あらそう

6画 〔亅・5画〕〈はねぼう〉

いみ あらそう。「争議・争点・争乱・競争・戦争・論争・闘＊争」

使い方 ▼争いごとがたえない。▼兄と言い争いをする。▼先を争って出口にさっとうする。▼友だちと、どちらが早く宿題をしあげるか競争した。▼地球上から戦争をなくしたい。▼果てしなく論争がつづく。

なりたち 爭-爭-争(争) まん中にある物を手でとりあうようすからできた字。

倉

おん ソウ
くん くら

10画 〔人・8画〕〈ひとやね〉

いみ ものをしまっておく建物。くら。「倉庫・米倉・穀倉地帯・船倉」

使い方 ▼うす暗い倉の中に入ってみた。▼倉庫から荷物を運び出す。▼米倉に米を運び入れている。▼船倉(=船の底にある、にもつをつみ入れる倉)に、品物をつみこんだ。

なりたち 倉(=食をりゃくしたもの)と口(=四角いところ)を組み合わせて、食りょうをしまっておく小屋をあらわした字。

巣

おん ＊ソウ
くん す

11画 〔⺍・8画〕〈つ〉

いみ 鳥や虫・獣などの、す。すみか。「巣箱・古巣・営巣・空き巣・巣くつ・病巣」

使い方 ▼つばめが巣を作る。▼小鳥の巣箱を作った。▼姉は大学を卒業して、実社会に巣立った。▼近ごろ空き巣ねらいが多いので注意してください。

なりたち 巢-巣(巣) 𠙴(=鳥がすの中にいる形)と木(=木)を組み合わせた字。高い木の上にかけられた鳥のすをあらわす。

四年

束

7画〔木・3画〕〈き〉

おん ソク
くん たば

束束束束束束束

いみ ❶ひとまとめにしてしばる。また、まとめてしばったもの。「花束・札束」❷動けないようにする。また、とりきめ。「束縛*・約束」❸たばねたものを数えることば。「一束・三束」

使い方 ▼古新聞を束にする。▼きれいな花束をもらう。▼友だちとの約束を守る。▼人の自由を束縛*するな。

なりたち 束－束 ○(=たばねるひも)と 木(=木)を組み合わせてできた字。

側

11画〔亻・9画〕〈にんべん〉

おん ソク
くん かわ

側側側側側側側

いみ ❶物の一面。いっぽう。「側面・左側・両側・片側・裏側」❷そば。かたわら。「側近」

使い方 ▼この駅のかいだんは、左側通行になっている。▼道の両側に、高いビルが立ちならんでいる。▼へいの外側で話し声がする。▼この道路は、工事で片側通行だ。▼側近(=身近につきしたがう人)に相談する。

なりたち 亻(=人)と則(=食器のそばにナイフをつけるようす)を組み合わせた字。

続

13画〔糸・7画〕〈いとへん〉

おん ゾク
くん つづく・つづける

続続続続続続続

いみ つづいている。「続出・続発・続行・続編・持続・永続・相続・存続・勤続・連続」

使い方 ▼朝から雨がふり続いている。▼ご飯を食べたら、物語の続きを読もう。▼校門から生徒が続々と出てくる。▼このまま試合を続行します。

なりたち もとの字は「續」。糸(=いと)と賣(=金や品物を取り引きして、方々に動かすこと)を組み合わせた字。糸でつなぎ、つぎつぎにつづくことをあらわす。



卒

8画〔十・6画〕〈じゅう〉

おん ソツ
くん ―

卒卒卒卒卒卒卒

いみ ❶おわる。「卒業・卒園・新卒」❷とつぜん。「卒倒*」

使い方 ▼兄は来年、中学校を卒業します。▼姉は平成五年三月卒です。▼日射病になって卒倒*した(=急にいしきがなくなってたおれた)。

注意 「率」とまちがえないこと。

なりたち 十＋衣－衣－卒 十(=じゅう)と衣(=きもの)を組み合わせた字。上着を着て十人ずつ引きつれられる兵士をあらわす。

孫

10画〔子・7画〕〈こへん〉

おん ソン
くん まご

孫孫孫孫孫孫孫

いみ 子どもの子ども。むすめやむすこの子ども。まご。また、血すじを受けつぐ者。「子孫・子子孫孫・ひ孫」

使い方 ▼おばあさんが、孫のお守りをしています。▼親せきのうちに、初孫(はつまご・ういまご)が生まれました。▼このざいさんは、子孫の代までのこしたい。

なりたち 子(=こ)と系(=つながったほそい糸)を組み合わせた字。自分の子どもの子どもであるまごをあらわす。

漢字の知しき

●まちがえやすい部首

「板(木へん)」や「続(糸へん)」などの字の部首はすぐわかりますが、字によっては、どの部首に入るのかわかりにくいものもあります。

相…目の部　炭…火の部　麦…麦の部　化…匕の部　思…心の部　和…口の部　高…高の部　才…手の部　来…木の部　寺…寸の部　放…攵の部　毎…毋の部　所…戸の部　昼…日の部　聞…耳の部

買…貝の部　岩…山の部　夏…夂の部　死…歹の部　画…田の部　右…口の部　意…心の部　考…耂の部　業…木の部　売…士の部　東…木の部　勉…力の部　医…匚の部　名…口の部　問…口の部

四年

帯

10画 〔巾・7画〕〈はば〉

おん タイ

くん おびる・おび

いみ ❶着物を着るとき、こしのあたりにまいてしめる細長い布。また、それににた布。おび。「帯どめ・包帯・眼帯」❷身につける。もつ。「けい帯・世帯」❸あたり。場所。「地帯・熱帯」

使い方 ▼帯をしめる。▼けい帯電話を使う。▼重い任務を帯びて出張する。▼熱帯魚が泳ぐ。

なりたち 帯-帯(帯) 卌(＝ひもをものに通した形)と巾(＝たれたぬの)を組み合わせた字。

隊

12画 〔阝・9画〕〈こざとへん〉

おん タイ

くん —

いみ 何人かの集まり。まとまり。「隊列・隊長・隊員・隊商・楽隊・縦隊・横隊・兵隊・軍隊・部隊」

使い方 ▼隊列を組んで行進する。▼楽隊が行進曲をえんそうしながら通って行く。▼飛行機が五機、編隊をくんで飛ぶ。▼そうさく隊の救助活動。

なりたち もとの字は「隊」。阝(＝もりあげた土)と㒸(＝ふとって重いぶた)で重い土の山をあらわす。のちに、人の集まりのいみになった。



達

12画 〔⻌・9画〕〈しんにょう〉

おん タツ

くん —

いみ ❶とどく。いたる。「到*達・配達・速達」❷つたえる。「伝達・通達」❸すぐれる。「達人・達者・達筆・発達・上達」❹なしとげる。「達成」

使い方 ▼郵便屋さんが、手紙を配達する。▼かれは剣*道の達人です。▼毎日こつこつがんばるのが、上達の近道です。

なりたち 達 ⻌(＝すすむ)と大(＝ゆとりがある)と羊(＝ひつじ)を組み合わせた字。

四年

単

9画 〔ツ・6画〕〈つ〉 ↕複 344

おん タン

くん —

いみ ❶一つ。「単価・単身・単数・単線・単独」❷ものごとのきじゅんになるひとまとまり。「単位・単語・単元」❸こみいっていない。「単純・単調・簡単」

使い方 ▼単価の安い品物をそろえたお店。▼父は、単身ふにんで北海道へ行った。▼簡単に説明してください。

なりたち 單(単) まるいうちわのような「はたき」の形からできた字。

置

13画 〔罒・8画〕〈あみがしら〉

おん チ

くん おく

いみ すえつける。おく。「位置・安置・配置・処置・放置・設置」

使い方 ▼荷物をゆかに置く。▼かさを電車の中に置き忘れた。▼床の間にかざってある置物。▼学校は公園の南に位置しています。▼放置自転車をとりのぞく。▼学校の中に公衆電話を設置する。

なりたち 置 罒(＝あみ)と直(＝まっすぐに見る)を組み合わせた字。鳥をとるあみを、まっすぐに立てておくことをあらわす。

仲

6画 〔亻・4画〕〈にんべん〉

おん *チュウ

くん なか

いみ ❶なか。なかつぎ。「仲買・仲秋・仲介*」❷人と人とのあいだがら。なか。「仲間・仲よし・仲裁」

使い方 ▼父は、知り合いの仲介*で車を買った。▼村上さんとは仲のいい友だちです。▼動物も植物も、みんな地球上の同じ仲間だ。▼けんかの仲裁に入る。

なりたち 亻(＝人)と中(＝なか)を組み合わせて、人と人とのあいだがらをあらわした字。「中」は「チュウ」という音もあらわす。

漢字のちしき 「力」には、「つとめる、努力する」という意味がある。

貯

12画 〔貝・5画〕〈かいへん〉

おん チョ
くん —

いみ たくわえる。ためる。「貯金・貯蔵・貯水池・貯蓄*」

使い方 ▼貯金箱にお金を入れる。▼貯金通帳を母にあずかってもらう。▼災害にそなえて食料を貯蔵する。▼日照りが続いて、貯水池の水がだんだんへってきた。▼ダムの貯水量を定期的に調べる。

なりたち 貯-貯 宁(=四角いわく)に貝(=お金や品物)をつめこんで、たくわえることをあらわした字。

兆

6画 〔儿・4画〕〈にんにょう〉

おん チョウ
くん *きざす・*きざし

いみ ❶ものごとがおこりそうな前ぶれ。きざし。「兆候・前兆・吉*兆」❷数の単位。一億の一万倍。「一兆・五兆円」

使い方 ▼大地震*の予兆と見られる小さな地震*が連続して起こる。▼茶柱が立つのは吉*兆(=よい前ぶれ)だという。▼春の兆し。▼一兆円の予算を組む。

なりたち 兆-兆 かめのこうらや、動物のほねがわかれてできたひびの形からできた字。

腸

13画 〔月・9画〕〈にくづき〉

おん チョウ
くん —

いみ 胃に続く、細長いくだのような消化器。食べ物をこなし養分をとるはたらきをする。小腸と大腸にわけられる。「腸液・胃腸・大腸・小腸・十二指腸」

使い方 ▼父は、腸の病気で入院している。▼ぼくは胃腸がじょうぶだ。▼断腸の思い(=はらわたがちぎれるような苦しい思い)をする。

なりたち 月(=にく)と昜(=長くのびる)を組み合わせた字。長くのびたはらわたをあらわす。

低

7画 ↕高137 〔亻・5画〕〈にんべん〉

おん テイ
くん ひくい・ひくめる・ひくまる

いみ 高さ・ねだん・音・位などが、ひくい。また、おとっていること。「低音・低下・低空・低気圧・低学年・最低・高低・低級・低調・低俗*」

使い方 ▼ひそひそと低い声でささやき合う。▼ヘリコプターが低空で飛ぶ。▼チームの出足は、ちょっと低調だ。

なりたち 低-低 亻(=人)と氐(=つみあげた土のそこ)を組み合わせて、せのひくい人をあらわす。

底

8画 〔广・5画〕〈まだれ〉

おん テイ
くん そこ

いみ ❶もののいちばん下。そこ。「底辺・底面・船底・海底」❷おくにひそんでいるもの。「底力・底冷え」



使い方 ▼水がきれいなので、川底までよく見える。▼食料が底をついた(=なくなった)。▼海底にもぐる。▼決勝戦で底力をはっきする。

なりたち 广(=いえ)と氐(=つみかさねたものの下のほう)を組み合わせた字。建物のいちばん下の部分のことをあらわす。

停

11画 〔亻・9画〕〈にんべん〉

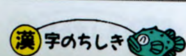
おん テイ
くん —

いみ とどまる。とまる。やめる。「停止・停車・停電・停留所・停戦・停はく・停たい・調停」



使い方 ▼車はふみきりで一時停止した。▼この電車は、次の駅で三分間停車します。▼近くにかみなりが落ちたため、停電した。▼バス停には四、五人の人がならんでいた。

なりたち 亻(=人)と亭(=高い建物)と丁(=ささって動かないくぎ)を組み合わせた字。人がじっととまること。



「力」は、人名で「つとむ」とも読む(261ページ参照)。

的

8画 〔白・3画〕〈しろ〉

おん テキ
くん まと

いみ ❶めあて。もくひょう。「的中・的確・目的」❷ほかのことばの下につけて、「…のような」「…ふう」のいみを表す。「私的・公的・劇的・民主的・形式的・自動的・封*建的」

使い方 ▼矢はみごとに的のまん中にあたった。▼的はずれな意見。▼ねらいが的中する。▼ドアが自動的に開く。▼形式的なあいさつ。

なりたち 白(=しろ)と勺(=一部分をとりだす)を組み合わせた字。

典

8画 〔八・6画〕〈はち〉



おん テン
くん —

いみ ❶本。書物。「辞典・百科事典・仏典・古典・教典・聖典」❷きそく。手本。「典型」❸ぎしき。「式典・祭典」

使い方 ▼ことばの意味を、国語辞典で調べる。▼母は古典文学をよく読む。▼姉は典型的(=その特ちょうをよく表している)な文学少女です。

なりたち 典-典 冊(=字を書いた竹のふだ)と丌(=本がおかれたつくえ)を組み合わせて、本がおかれたつくえをあらわす。

伝

6画 〔亻・4画〕〈にんべん〉



おん デン
くん つたわる・つたえる・つたう

いみ ❶つたえる。つたわる。「伝言・伝令・伝導・伝来・伝統・遺伝・宣伝」❷いいつたえ。また、人の一生をつたえる文章。「伝説・伝承・伝記」

使い方 ▼母の伝言を父に伝える。▼駅伝のランナーが目の前を走り去った。▼この地方に残る伝説。▼「ヘレン・ケラー伝」を読んでいる。

なりたち もとの字は「傳」。亻(=人)と專(=ころがる)を組み合わせた字。

徒

10画 〔彳・7画〕〈ぎょうにんべん〉

おん ト
くん —

いみ ❶あるく。「徒歩・徒競走」❷むだ。「徒労」❸何ももたない。「徒手体操」❹でし。なかま。「生徒・信徒・徒弟制度」

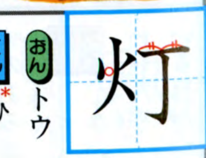
使い方 ▼学校まで徒歩で十五分です。▼今までの苦心は徒労(=むだなほねおり)に終わった。▼母は昔、徒手体操の選手でした。▼中学生になったら生徒手帳をもらいます。

なりたち 彳(=行く)と土(=つち)と止(=あし)を組み合わせ、陸地をあるくことをあらわした字。

努

7画 〔力・5画〕〈ちから〉





おん ド
くん つとめる

いみ 力いっぱいがんばる。つとめる。はげむ。「努力」

使い方 ▼努めて家の手伝いをする。▼みんなと仲良くするように努める。▼努力したかいがあって、成績が上がった。▼前向きに(=積極的に)努力する。

注意 「努める」「勤める」「務める」を使い分けること。

なりたち 奴(=どれい)と力(=ちから)を組み合わせた字。ねばり強く力をつくしてがんばることをあらわす。

灯

6画 〔火・2画〕〈ひへん〉



おん トウ
くん *ひ

いみ ともしび。あかり。「灯火・灯油・灯台・灯ろう・灯明・電灯・走馬灯・街灯・消灯」

使い方 ▼みさきの先に、白い灯台が見える。▼灯油がきれたので買いに行った。▼仏だんに灯明をあげる。▼家々の電灯がともる。▼病院の消灯時間がせまってきた。

なりたち 火(=ひ)と丁(=とめておく)を組み合わせた字。いつも同じところにおいておく、あかりのことをあらわす。

漢字のちしき 「信」には、「のびる、のばす」という意味がある。

堂

おん ドウ
くん —

11画 〔土・8画〕〈つち〉

いみ ❶神やほとけを祭る建物。また、大きな建物。「本堂・講堂・食堂・殿*堂・礼拝堂・公会堂・国会議事堂」❷りっぱ。「堂堂」

使い方 ▼このお寺には、古いお堂がある。▼卒業式は講堂で行います。▼デパートの食堂でお昼を食べた。▼自分の考えを堂々とのべる。

なりたち 尚(=まどから空気が高くたちのぼる)と土(=つち)を組み合わせた字。広くて高い台の上にたてたごてんをあらわす。

働

おん ドウ
くん はたらく

13画 〔イ・11画〕〈にんべん〉

いみ 仕事をする。はたらく。「働き手・働き盛り・労働」

使い方 ▼いっしょうけんめい働く。▼あの人はとても働き者だ。▼この農場では、働き手が不足している。▼父は今、働き盛りだ。▼社会科で、労働のたいせつさを学んだ。

なりたち イ(=人)と動(=うごく)を組み合わせた字。人が動きまわってはたらくことをあらわす。「動」は「ドウ」という音をあらわす。日本で作られた字。

特

おん トク
くん —

10画 〔牛・6画〕〈うしへん〉



いみ ふつうでないこと。とくべつ。「特別・特定・特色・特技・特有・特長・特急・独特」

使い方 ▼この点には特に気をつけてください。▼これは、きみのために特別に作ったプレゼントです。▼特大のホームランを打つ。▼特急列車に乗った。▼独特の味のある話し方。

なりたち 牛(=牛)と寺(=一か所に動かないでいること)を組み合わせた字。むれの中でじっとしている目だつ種牛をあらわす。

四年

得

おん トク
くん える・*うる

11画 〔彳・8画〕〈ぎょうにんべん〉 ↕失 247

いみ ❶手に入れる。「得点・得票・獲*得・所得・拾得・取得」❷もうけ。りえき。「損得・得失・得策」❸さとる。わかる。「得意・会得・習得・修得・説得・納得」

使い方 ▼味方が得点をあげる。▼書物から知識を得る。▼あわてずに気ながにまつのが得策だ。▼ぼくは体育と国語が得意だ。▼しぶる父を説得する。

なりたち 彳(=行く)と㝵(=お金をひろって手に入れる)を組み合わせた字。

毒

おん ドク
くん —

8画 〔母・4画〕〈なかれ〉



いみ からだがいになるもの。どく。「毒薬・毒虫・毒矢・毒蛇*・消毒・有毒・無毒・害毒・中毒」

使い方 ▼このきのこは毒があって食べられない。▼熱湯をかけて布を消毒した。▼有毒なガスがたちこめる。▼夏は、食中毒がおこりやすい。▼さい害にあって、気の毒な人たち。

なりたち 主(=草がめを出したようす)と母(=子どもをうむ)を組み合わせた字。からだによくない草のことをあらわす。

熱

おん ネツ
くん あつい

15画 〔灬・11画〕〈れんが〉 ↕冷 283

いみ ❶温度が高い。あつい。「熱気・熱帯・熱湯・熱風・加熱・過熱」❷心をうちこんでやる。はげしい。「熱中・熱血・熱心・熱意・情熱」❸熱を出す病気。「発熱・高熱・熱病」

使い方 ▼ゲームに熱中する。▼先生の話を熱心に聞く。▼かぜで高熱が出た。

なりたち 埶(=人がすわって植物をそだてるいみをもつが、ここでは音をあらわすだけ)と灬(=火)を組み合わせた字。

四年

漢字のちしき 「信」は、人名で「のぶ」とも読む(265ページ参照)。

念

おん ネン　くん ―

8画〔心・4画〕〈こころ〉

いみ ❶思う。思い。「念願・念頭・断念・雑念・専念・無念・信念・残念」❷心にとなえる。「念仏」❸心をくばる。たしかめる。「念入り・入念」

使い方 ▼兄は**念願**がかなって、大学に入学した。▼自分の**信念**をつらぬく。▼家族で**記念写真**をとる。▼一心に**念仏**をとなえる。▼準備体操を**入念**に行う。

なりたち 今(＝中にふくむ)と心(＝こころ)を組み合わせて、心の中の考えをあらわした字。

敗

おん ハイ　くん やぶれる

11画〔攵・7画〕〈ぼくにょう〉

いみ ❶まける。「敗北・敗戦・敗軍・敗者・敗因・勝敗・全敗」❷うまくいかない。「失敗」

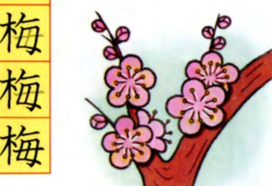
使い方 ▼決勝戦でおしくも**敗れる**。▼チームは二回戦で**敗退**してしまった。▼試合は、十対〇と、**完敗**だった。▼**勝敗**にこだわらず、堂々とたたかう。▼**失敗**は成功のもと。

なりたち 貝(＝二つにわれたかい)と攵(＝動詞の記号)を組み合わせた字。二つにわれてだめになることをあらわす。

梅

おん バイ　くん うめ

10画〔木・6画〕〈きへん〉



いみ ❶うめ。また、うめの実。「梅林・紅梅・白梅・梅酒・梅干し・梅肉」❷うめの実のなるころ。「梅雨(ばいう・つゆ)★・入梅」

使い方 ▼庭の**梅**の花がほころんだ。▼おにぎりの中に**梅干し**が入っていた。▼**梅林**に**梅見**に行った。▼**梅雨前線**が本州にいすわっている。

なりたち 木(＝き)と毎(＝つぎつぎと子をうむ母親)を組み合わせた字。たくさんの実がなるうめの木をあらわす。

博

おん ハク・*バク　くん ―

12画〔十・10画〕〈じゅう〉

いみ ひろい。ひろまる。「博学・博愛・博士(はくし・はかせ)★・博識・博物館・博覧会」

使い方 ▼先生は**博学**な(＝広いちしきを持った)方だ。▼おじは医学**博士**(＝医学の学位を持っている人)だ。▼たかし君は、こん虫**博士**(＝こん虫にくわしい人)と言われている。▼映画が好評を**博す**(＝ひょうばんがよい)。

なりたち 十(＝あつめる)と尃(＝たいらにひろがる)を組み合わせた字。

飯

おん ハン　くん めし

12画〔食・4画〕〈しょくへん〉



いみ ごはん。また、食事。「飯ごう・麦飯・赤飯・朝飯(あさはん・あさめし)」

使い方 ▼キャンプで**飯ごう**すいさんをした。▼**にぎり飯**をほおばる。▼初めて**ご飯**をたいた。▼**赤飯**をたいてお祝いした。▼そんなことは**朝飯前**(＝かんたんなこと)だ。▼**夕飯**までに帰ります。

なりたち 食(＝食べ物)と反(＝ばらばらになる)を組み合わせた字。米がばらばらのじょうたいににえた食べ物のことで、ごはんをあらわす。

飛

おん ヒ　くん とぶ・とばす

9画〔飛・0画〕〈とぶ〉

いみ 空をゆく。とぶ。「飛球・飛行機・飛行船・飛躍*・飛び火・飛び石」

使い方 ▼大空を鳥が**飛んで**いる。▼シャボン玉を**飛ばす**。▼**飛行機**のパイロットになりたい。▼**飛び火**して、山火事がどんどん大きくなる。▼話が**飛躍***(＝じゅんじょをふまず、はなれたところに飛ぶこと)しすぎる。

なりたち 飛 ― 飛　鳥がはねを左右に開いてとんでいるすがたからできた字。

四年

費

おん ヒ

くん *ついやす・*ついえる

12画 〔貝・5画〕〈こがい〉

費費費費費費費

いみ ❶お金や物や時間などを、使いへらす。「消費・空費・浪*費」❷あることに使うお金。ひよう。「費用・国費・私費・自費・学費・旅費・経費・出費」

使い方 ▼ばく大なお金と時間を費やして、工事は完成した。▼旅行の費用を積み立てる。▼私費(=自分のお金)で留学する。▼出費がかさむ。

なりたち 弗(=まとまったものを左右に分けること)と貝(=お金)を組み合わせた字。

必

おん ヒツ

くん かならず

5画 〔心・1画〕〈こころ〉

必必必必必



いみ かならず。きっと。「必要・必勝・必死・必至・必読・必然・必需品」

使い方 ▼かれは約束を必ず守る男だ。▼強い選手が必ずしも勝つとはかぎらない。▼キャンプに必要な物をそろえる。▼神社で必勝をいのる。▼必死にがんばる。▼このままでは敗戦は必至だ。

注意 送りがなに気をつけること。

なりたち – 必 木のえだにあて木をして、動かないようすからできた字。

漢字の知しき

●同じ意味の仲間、読みの仲間

漢字は、その一部分で意味を表しています。たとえば、「泳」の字の「氵」は、水に関係があることを表しています。

氵(さんずい)…海・池・油・波・湖・泳・港・注・流・液・河

扌(てへん)…手に関係がある。技・折・投・招・指・持・拾

木(きへん)…木に関係がある。札・机・村・枝・松・板・林

宀(うかんむり)…家に関すること。安・宇・守・宅・完・家

また、漢字は、部首や、それ以外の部分で、読みを表しています。

●清・晴・静・精…青が「セイ」という読みを表し、「きよくすんでいる」という意味も表す。

●反・板・坂・飯・版…反が「ハン」という読みを表し、「そりかえる」という意味も表す。

票

おん ヒョウ

くん —

11画 〔示・6画〕〈しめす〉

票票票票票票票

いみ ❶ふだ。とくに、せんきょに使うふだ。「伝票・投票・開票・票決」❷ふだを数えることば。「一票」

使い方 ▼宅配便の伝票に、受け取りのはんこをおす。▼きょうは、市長選挙の投票日だ。▼学級委員の選挙で、大川さんに一票を入れた。

なりたち – 票 こまかい火のこがとびあがるようすから、ひらひらした「ふだ」をあらわした字。

標

おん ヒョウ

くん —

15画 〔木・11画〕〈きへん〉

標標標標標標標

いみ ❶しるし。めじるし。「標札・標識・標記・標題・商標・道標」❷めあて。「標語・目標」❸てほん。「標準・標本」

使い方 ▼交通標識を見落とさないように。▼火災予防の標語を考える。▼夏休みの目標を大きな紙に書いてはった。▼ぼくの身長は学年の標準より高い。▼こん虫の標本をつくった。

なりたち 木(=き)と票(=こまかくて小さい火のこが高くまいあがる)を組み合わせた字。

不

おん フ・ブ

くん —

4画 〔一・3画〕〈いち〉



不不不不

いみ 下につづくことばのいみを、うちけすことば。…でない。「不便・不幸・不満・不運・不用・不意・不和・不快・不作・不通・不服・不明・不自由・不注意・不可能・不器用・不用心」

使い方 ▼交通が不便な土地。▼予算が不足しています。▼不意に(=とつぜん)声をかけられておどろいた。▼不思議な話。

なりたち – – 不 ふっくらとふくれた花のがくの形からできた字。

漢字のちしき 「自」は、人の鼻の絵からできた字、もとの意味は「鼻」。

夫

おん フ・*フウ
くん おっと

4画〔大・1画〕〈だい〉 ↔妻 311

いみ ❶おっと。「夫妻・夫婦・夫人」❷おとこ。また、ある仕事をする人。「農夫・水夫・鉱夫」

使い方 ▼おばの夫は、わたしにとっておじにあたる。▼総理大臣夫妻が、外国訪問の旅に出かけた。▼結婚して夫婦になる。▼「キュリー夫人」の伝記を読む。

参考 「くふう」を「工夫」とも書く。

なりたち -夫 大の字に立っている人の頭に、まげか、かんむりをつけたようすからできた字。

付

おん フ
くん つける・つく

5画〔亻・3画〕〈にんべん〉



いみ ❶つける。つく。「付着・付加・付記・付録」❷あたえる。「寄付・交付・付与*」

使い方 ▼自分の持ち物に目印を付ける。▼病人に付きそう。▼あの人はとても付き合いがいい。▼受付で面会を求める。▼ざっしの付録が楽しみだ。▼共同ぼ金に寄付する。

なりたち -付 (=手)をのばして、(=人の体)にぴたりとつけるようすからできた字。

府

おん フ
くん —

8画〔广・5画〕〈まだれ〉

いみ ❶地方公共団体の一つ。京都府と大阪*府。「府立・府知事・府議会」❷役所。「政府・幕府」❸みやこ。「首府」

使い方 ▼わたしのおばは京都府に住んでいる。▼全国から都道府県の代表が集まる。▼新しい政府がたんじょうした。▼日本の首府、東京。

なりたち 广(=いえ)と付(=ぴったりくっつける)を組み合わせた字。ものをいっぱいつめこんでおく、くらのことをあらわす。

四年

副

おん フク
くん —

11画〔刂・9画〕〈りっとう〉

いみ ❶おもなものにつきそう。「副賞・副題・副食物・副作用・副産物・副読本」❷おもなもののつぎ。「副議長・副知事」

使い方 ▼おじは、副業(=おもな仕事のほかにする仕事)として、植木を育てています。▼優勝者には賞状のほかに、副賞として百万円がおくられます。▼児童会の副会長に選ばれた。

注意 「福」とまちがえないこと。

なりたち 刂(=かたな)と畐(=とっくり)を組み合わせた字。

粉

おん フン
くん こ・こな

10画〔米・4画〕〈こめへん〉



いみ 物を細かくくだいたもの。こな。「粉雪・粉薬・粉末・製粉・金粉・小麦粉」

使い方 ▼さらさらとした粉雪のスキー場ですべった。▼すぎの花粉が風にとばされてしまう。▼じゃがいもからでん粉をとる。▼この絵には、金粉が使われている。▼小麦粉でパンを作る。

注意 「紛*(=まぎれる)」とまちがえないこと。

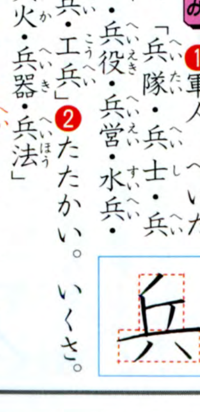
なりたち 米(=こくもつ)と分(=小さくくだく)を合わせた字。

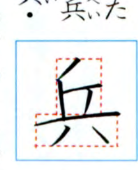
兵

おん ヘイ・*ヒョウ
くん —

7画〔八・5画〕〈はち〉

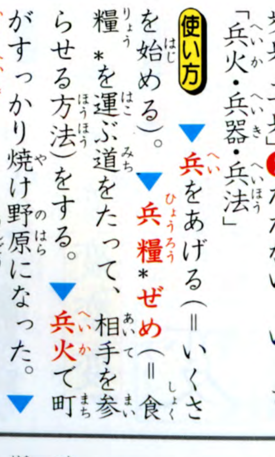






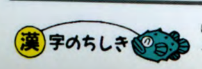
いみ ❶軍人。へいたい。「兵隊・兵士・兵力・兵役・兵営・水兵・歩兵・工兵」❷たたかい。いくさ。「兵火・兵器・兵法」

使い方 ▼兵をあげる(=いくさを始める)。▼兵糧*ぜめ(=食糧*を運ぶ道をたって、相手をこまらせる方法)をする。▼兵火で町がすっかり焼け野原になった。▼核*兵器をなくす運動をする。



なりたち -兵 (=おの)と(=両手)を組み合わせてできた字。

四年



漢字のちしき 鼻や息の中に「自」があるのは、「自」のもとの意味が「鼻」だから。

別

7画 〔刂・5画〕〈りっとう〉

おん ベツ

くん わかれる

別別別別別別別

いみ ❶わかれる。「別居・送別・死別」❷ほかの。ちがう。「別人・別名・別便・別室・別世界・別冊」❸くべつする。「区別・特別・識別」

使い方 ▼転校する友だちの送別会を開いた。▼日に焼けて別人のように黒くなった。▼新年号の別冊ふろく。▼特別変わったことはありません。▼色のちがいを識別する。

なりたち 刂(＝かたな)で另(＝かんせつのほね)をばらばらにわけるようすをあらわした字。

辺

5画 〔辶・2画〕〈しんにょう〉

おん ヘン

くん あたり・べ

辺辺辺辺辺

いみ ❶図形を形づくっている直線。「一辺・底辺」❷ほとり。あたり。「海辺・岸辺・周辺・身辺・近辺」❸かたいなか。「辺境・辺地」

つきでない

使い方 ▼三角形の二辺の和は他の一辺より大きい。▼頂点から底辺に垂直な直線を引く。▼海辺の町。▼辺りを見回す。▼辺境の地(＝人里はなれた所)。

なりたち もとの字は「邊」。臱(＝小鼻のはし)と辶(＝すすむ)を組み合わせた字。

変

9画 〔夂・6画〕〈すいにょう〉

おん ヘン

くん かわる・かえる

変変変変変変変変変

いみ ❶ふつうでない。「変人・変則・変死」❷ちがったものになる。かわる。また、かえる。「変化・変形・変色・変転・変動・変更*」❸ふつうでないできごと。「政変・事変・異変」

使い方 ▼体の具合が変だ。▼信号が赤から青に変わる。▼姉はかみ型を変えた。▼山の上は気温の変化がはげしい。

なりたち もとの字は「變」。䜌(＝もつれる)と攵(＝動作のしるし)を組み合わせた字。

四年

便

9画 〔亻・7画〕〈にんべん〉

おん ベン・ビン

くん たより

便便便便便便便便便

いみ ❶つごうがよい。べんり。「便利・便乗・不便・簡便」❷たより。また、たよりや人・物を運ぶ手段。「便せん・郵便・航空便・宅配便」❸つうじ。べん。「便所・便通・大便・小便」

つきでない

使い方 ▼この辺は商店街に近いので、買い物に便利です。▼転校した友だちから便りがとどいた。▼病院で検便をした。

注意 「使」とまちがえないこと。

なりたち イ(＝人)と更(＝ぴんとかたくはる)を組み合わせた字。

包

5画 〔勹・3画〕〈つつみがまえ〉

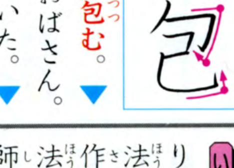
おん ホウ

くん つつむ

包包包包包



いみ くるむ。まわりをかこむ。「包囲・包装・包帯・内包」



使い方 ▼箱を包装紙で包む。▼ふろしき包みをさげたおばさん。▼いなかから小包がとどいた。▼いつの間にか、敵に包囲された。▼プレゼントを包装する。▼足に包帯をまく。▼よくきれる包丁。

注意 「小包」は「み」を送らない。

なりたち 包 おかあさんのおなかの中に、つつまれるようにして赤んぼうが入っている形からできた字。

法

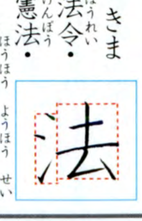
8画 〔氵・5画〕〈さんずい〉

おん ホウ・*ハッ・*ホッ

くん ―

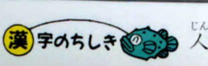
法法法法法法法法

いみ ❶おきて。きまり。「法律・法則・法令・法規・法案・法度・憲法・作法」❷やりかた。「方法・用法・製法・加法・減法」❸ほとけの道。「法師・法事・法要・仏法」



使い方 ▼法律にしたがってくらす。▼国会で法案が成立した。▼解決の方法をさがす。▼ブラウスの寸法をはかる。▼母は親せきの法事で出かけた。

なりたち もとの字は「灋」。氵(＝水)と廌(＝めずらしい動物)と去(＝ひっこめる)を組み合わせた字。



人名で一～十、千、万を「かず」とも読む。それはすべて数字だから。

望

11画〔月・7画〕〈つき〉

おん ボウ・*モウ

くん のぞむ



望望望望望望望

いみ ❶遠くを見る。「望遠鏡・展望」❷ねがう。ねがい。のぞみ。「望外・希望・願望・野望・欲望・熱望・絶望・有望・失望・待望・本望」❸人気。「人望」

使い方 ▼望遠鏡で月を見る。▼希望をすてない。▼どんなときでも、大望(=大きなのぞみ)をいだく。▼山田君は人望がある。

なりたち 人が遠くをのぞみ見るようすからできた字。

牧

8画〔牛・4画〕〈うしへん〉

おん ボク

くん *まき

牧牧牧牧牧牧牧牧

いみ ❶牛や馬を放しがいにする。「牧場(ぼくじょう・まきば)・牧草・牧畜*・放牧・遊牧」❷おしえみちびく。「牧師」

使い方 ▼牧場を見学に行く。▼馬がのんびり牧草を食べている。▼高原の牧歌的な(=そぼくて、のどかな)風景をえがいた絵。▼草原に牛が放牧されている。▼教会で牧師さんの話を聞く。

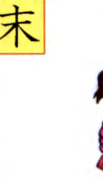
なりたち 牛(=牛)と攵(=動詞の記号)を組み合わせた字。牛を飼うことをあらわす。

末

5画〔木・1画〕〈き〉

おん マツ・*バツ

くん すえ



末末末末末

いみ ❶先の方。いちばんはし。「末端*」❷おわり。「末席・末筆・末期・末路・結末・週末・始末・学期末・末子」❸こな。「粉末」

使い方 ▼二本のひもの末端*を結ぶ。▼週末は家族で旅行する。▼苦心の末、完成した。▼粉末のスープのもと。

注意 「未」とまちがえないこと。

なりたち 木ー末ー末 しるしをつけて、木のこずえのはしであることをしめした形からできた字。

満

12画〔氵・9画〕〈さんずい〉

おん マン

くん みちる・みたす

満満満満満満満

いみ ❶いっぱいになる。みちたりる。「満開・満期・満員・満身・満点・満天・満足・満腹・満面・満塁*・満満・円満・不満」❷誕生日からつぎの誕生日までを一年とした年れいの数え方。

使い方 ▼潮が満ちてきた。▼バケツにいっぱい水を満たす。▼満員電車に乗る。▼兄は、きのうで満十五才になった。

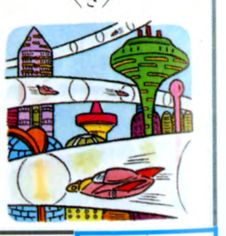
なりたち もとの字は「滿」。氵(=水)と㒼(=全体をおおうこと)を組み合わせた字。

未

5画〔木・1画〕〈き〉

おん ミ

くん ―



未未未未未

いみ 物事ができあがっていないことをあらわすことば。まだ…しない。「未開・未知・未決・未定・未来・未満・未然・未完成・未解決・未成年」

使い方 ▼未開の地を探検する。▼式の日取りは未定です。▼明るい未来をゆめみる。▼運転士の機転で、事故を未然に防いだ。

注意 「末」とまちがえないこと。

なりたち まだのびきらない木の部分の形からできた字。

脈

10画〔月・6画〕〈にくづき〉

おん ミャク

くん ―

脈脈脈脈脈脈脈

いみ ❶血が流れるくだ。また、血が流れるときの動き。血管。「脈拍*・動脈・静脈」❷つながってつづいているもの。「山脈・鉱脈・水脈・文脈」❸のぞみ。

使い方 ▼脈をとる。▼高い山脈がうねうねと続く。▼金の鉱脈が発見された。▼この商談には、まだ脈(=のぞみ)がある。

なりたち 月(=からだ)と𠂢(=水がこまかくわかれて流れるようす)を組み合わせた字。からだ中に流れる血管をあらわす。

漢字のちしき 「幸」には「(天子が)行く」という意味がある。

四年

民

おん ミン
くん *たみ

5画 〔氏・1画〕〈うじ〉



民民民民民

いみ いっぱんの人。こくみん。「民衆・民家・民族・民話・民芸品・国民・市民・人民・農民・民主主義・民間放送」

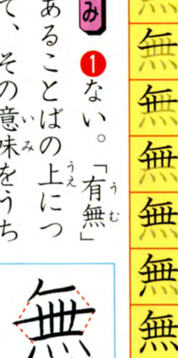
使い方 ▼お祭りに、美しい**民族衣装**で輪になっておどる人々。▼おばあさんの語る**民話**を聞いた。▼**国民**の代表として代議士は、政治を行う。

なりたち 𠇍-民-民 はりで目をつかれた形からできた字。どれいのことで、支配される人々をあらわす。

無

おん ム・ブ
くん ない

12画 〔灬・8画〕〈れんが〉 ↕有 207





無無無無無無無

いみ ❶ない。「有無」❷あることばの上につけて、その意味をうちけすことば。「無害・無益・無事・無数・無言・無礼・無気力・無関係・無関心」

使い方 ▼あまり**無理**をすると、体に毒だよ。▼みんな**無事**で、ほんとうによかった。▼ぼくは、その事件とは**無関係**です。

なりたち 𣎳-𣞤-無-無 たもとにかざりをつけておどる人の形からできた字。

約

おん ヤク
くん ―

9画 〔糸・3画〕〈いとへん〉

約約約約約約約

いみ ❶やくそく。「約束・予約・公約・解約・規約・条約」❷かんたんにする。ちぢめる。「約分・約数・要約・公約数」❸むだをはぶく。「節約」❹およそ。だいたい。「約半分」

使い方 ▼**約束**を守る。▼切ぷを**予約**する。▼切ぷを**解約**する(=けい約をとりけす)。▼文章を**要約**する。▼**約**半数が反対だ。

なりたち もとの字は「約」。糸(=いと)と勺(=目立つようにとりあげる)を組み合わせた字。

勇

おん ユウ
くん いさむ

9画 〔力・7画〕〈ちから〉

勇勇勇勇勇勇勇

いみ 元気があって、くじけない。「勇気・勇敢・勇士・勇者・勇壮*・武勇」

使い方 ▼決勝戦の朝、**勇ん**で家を出た。▼父にはげまされて**勇気**がわいてきた。▼**勇名**(=勇があるという、ひょうばん)をとどろかせる。▼川でおぼれかけた子を助けた**勇かん**な人。

なりたち 甬(=足ぶみをする)と力(=ちから)を組み合わせた字。力にあふれた足ぶみのことから、「ふるいたつ」のいみになった。

要

おん ヨウ
くん *いる

9画 〔襾・3画〕〈にし〉





要要要要要要要

いみ ❶だいじな点。「要点・要素・要所・要件・要領・要約・要因・重要・主要」❷もとめる。入り用だ。「要求・要望・要員・所要・必要・需*要」

使い方 ▼文章の**要点**(=最もたいせつなところ)をまとめる。▼**要領**のいい(=ものごとをさばくのがうまい)人。▼給料の引き上げを**要求**する(=強く求める)。

なりたち 𦥑-要(要) と𦥑(=両手)(=せぼね)を組み合わせた字。

養

おん ヨウ
くん やしなう

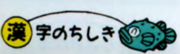
15画 〔食・6画〕〈しょく〉

養養養養養養養

いみ ❶動物をかう。また、そのためのえいよう。「養育・養護・養成・養子・養蚕・養生・養分・栄養・休養・静養」❷心を豊かにする。「教養・修養」

使い方 ▼体力を**養う**。▼強い選手を**養成**する。▼病後なので、温泉で**養生**する。▼**栄養**のある食べ物。▼本を読んで、**教養**を身につける。

なりたち 羊(=おいしいひつじのにく)と食(=食べ物)を組み合わせた字。


漢字のちしき 「幸子」は「さちこ」だけでなく「ゆきこ」とも読む(277ページ参照)。

浴

10画 〔氵・7画〕〈さんずい〉

おん ヨク

くん あびる・あびせる

いみ ❶水や湯をからだにかける。あびる。「浴室・浴場・入浴・海水浴・水浴び」❷うける。こうむる。

使い方 ▼あせをかいたので、シャワーを浴びる。▼臨海学校では、入浴時間がきめられている。▼海水浴に行く。▼いっぱいに日を浴びて、ひまわりがさきほこっている。▼かれの発言は、みんなから非難を浴びた。

なりたち 氵(＝水)と谷(＝水の出るくぼみ)を組み合わせた字。

利

7画 〔刂・5画〕〈りっとう〉

おん リ

くん *きく

いみ ❶するどい。また、頭がきれる。「鋭*利・利発・利口」❷役にたつ。つごうがよい。「利用・利害・権利・便利」❸もうけ。りえき。「利益・利息・利子・有利」❹たくみに動く。「左利き」

使い方 ▼利発な(＝かしこい)子ども。▼図書館をよく利用する。▼勝利をおさめる。▼砂利を積んだトラックが走る。▼よく気の利く人。

なりたち 禾(＝いね)を刂(＝はもの)で切ることをあらわした字。

陸

11画 〔阝・8画〕〈こざとへん〉

おん リク

くん ―

いみ 地球の上で、水におおわれていない所。おか。「陸地・陸上・陸路・陸橋・大陸・上陸・着陸・離*陸」

使い方 ▼さんまが陸あげされる(＝陸にあげられる)。▼兄は、高校で陸上部に入っています。▼陸橋をわたる。▼台風が九州に上陸しそうだ。▼飛行機が無事着陸した。



なりたち 阝(＝おか)と坴(＝土が高くもり上がって、広がっているようす)を組み合わせた字。

良

7画 〔艮・1画〕〈こんづくり〉

おん リョウ

くん よい

いみ すぐれている。よい。「良好・良質・良心・良書・良薬・善良・改良・優良・不良」

使い方 ▼ぼくたちは仲の良い友だちだ。▼ちょうど良いところに来たね。▼体調はいたって良好です。▼この辺りの海では、良質のこんぶがとれる。▼機械を改良して特許を取る。

なりたち －良 いねやむぎのつぶを、水であらってきれいにするようすからできた字。

料

10画 〔斗・6画〕〈とます〉

おん リョウ

くん ―

いみ ❶代金。手当。「料金・送料・給料・有料・無料・入場料」❷もとになるもの。ざいりょう。「材料・原料・燃料・肥料・資料・食料・料理」

使い方 ▼入場料をはらって会場に入る。▼カレーを作る材料をそろえる。▼かべ新聞を作るための資料を集める。▼この水は飲料としては適しません。

注意 「科」とまちがえないこと。

なりたち 米(＝こめ)と斗(＝米をはかるます)を組み合わせた字。

量

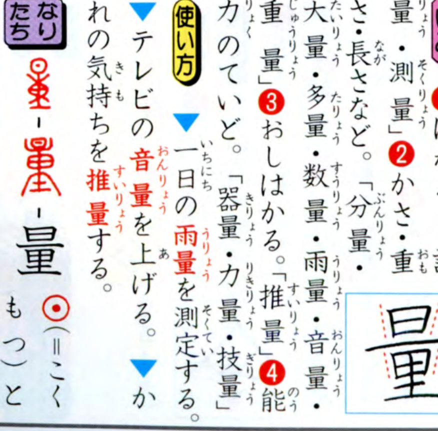
12画 〔里・5画〕〈さと〉

おん リョウ

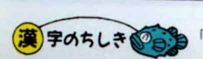
くん はかる

いみ ❶はかる。「計量・測量」❷かさ・重さ・長さなど。「分量・大量・多量・数量・雨量・音量・重量」❸おしはかる。「推量」❹能力のていど。「器量・力量・技量」

使い方 ▼一日の雨量を測定する。▼テレビの音量を上げる。▼かれの気持ちを推量する。



なりたち －量 ◎(＝こくもつ)と(＝重をりゃくした形)を組み合わせて、こくもつの重さをはかることをあらわした字。



漢字のちしき 「親」には「近い」という意味があり、人名で「ちか」と読むこともある。

輪

おん リン
くん わ

15画〔車・8画〕〈くるまへん〉

いみ ❶車のわ。また、わの形をしたもの。「車輪・五輪・年輪」❷物のまわり。「輪かく」❸順番にする。「輪唱・輪作・輪読」❹花を数えることば。りん。「梅一輪」

使い方 ▼指でOKの印の**輪**をつくる。▼弟が**三輪車**で遊んでいる。▼大根を**輪切り**にする。▼画用紙に顔の**輪かく**をかく。▼**一輪ざし**に花をかざった。

注意 「輸」とまちがえないこと。

なりたち 車(=くるま)と侖(=じゅんじょよくならぶ)からできた。

類

おん ルイ
くん ―

18画〔頁・9画〕〈おおがい〉

いみ ❶にている。「類似・類型・類推・類句・類語・類人猿*」❷なかま。「種類・親類・人類・鳥類・衣類・分類」❸かかわる。「類焼」

使い方 ▼**類**を見ない不思議なできごと。▼必要な**書類**をととのえる。▼**親類**の人が集まる。▼**類焼**をまぬがれた。

なりたち もとの字は「類」。米(=多くの植物の代表)と犬(=多くの動物の代表)と頁(=あたま)を組み合わせて、たくさんのものをくわけすることをあらわす。

令

おん レイ
くん ―

5画〔人・3画〕〈ひとやね〉



いみ ❶いいつけ。「令状・命令・指令・辞令」❷きまり。「条令・法令」❸あることばの上につけて、そんけいの意味を表すことば。「令嬢*・令息」❹よい。りっぱな。「令名」

使い方 ▼大声で**号令**をかける。▼**法令**にしたがう。▼**ご令息**(=息子さん)はお元気ですか。

なりたち 令-令-令 亼(=おおいの下にあつめる)と卩(=ひざまずく人)を組み合わせた字。

冷

おん レイ
くん つめ**たい**・ひ**える**・ひ**や**・ひ**やす**・ひ**やかす**・さ**める**・さ**ます**

7画〔冫・5画〕〈にすい〉

↕ 熱267・暖395

いみ ❶ひえる。つめたい。「冷害・冷気・冷水・冷凍*・冷房*・冷蔵庫」❷思いやりがないこと。また、落ち着いていること。「冷笑・冷淡*・冷静」

使い方 ▼けさはひどく**冷えこん**だ。▼熱いお湯を**冷ます**。▼外の**冷気**にふれる。▼**冷房***のきいた部屋。▼もう少し**冷静**に話し合おう。▼みんなに**冷やかさ**れて、赤くなった。▼**冷たい**水を飲む。

なりたち 冫(=こおり)と令(=清くすみきる)を組み合わせた字。

例

おん レイ
くん たと**える**

8画〔亻・6画〕〈にんべん〉

いみ ❶あるものごとににたことがら。たとえ。れい。「例文・例外・例題・前例・用例」❷ふだんの。いつもの。「例会・例年」

使い方 ▼**例えば**、こんなとき、きみならどうする。▼**例文**を読んで、問いに答えなさい。▼何事にも**例外**はある。▼あまり**前例**のないできごと。

なりたち 亻(=人)と列(=きりさいてならべる)を組み合わせた字。同じような人やものを、いくつもならべることをあらわす。

歴

おん レキ
くん ―

14画〔止・10画〕〈とまる〉





いみ ❶とおりすぎる。「歴史・歴代・歴任・歴戦・学歴・来歴・経歴・職歴」❷はっきりしている。「歴然」

使い方 ▼**歴史**の本を読む。▼**歴戦**の(=戦いの経験を積んだ)勇士。▼**歴然**とした(=はっきりとした)しょうこがある。

なりたち 歴-歴(歷) 厂(=やね)と秝(=いね)と止(=足)を組み合わせて、足で歩いて、作物をつぎつぎと取り入れることをあらわした字。

漢字のちしき 「正」の部首の「止」は、足の形をえがいた字。

連

おん レン

くん つらなる・つらねる・つれる

10画〔辶・7画〕〈しんにょう〉

連 連 連 連 連 連 連

いみ ❶ならびつづく。つらなる。「連結・連山・連続・連発・連名・連想・連絡」❷つれていく。また、つれ。なかま。「連行・連中・連盟」

使い方 ▼遠くに高い山が連なっている。▼通りにそって商店がのきを連ねている。▼連日三十度をこす暑さだ。▼今度の連休には、家族で旅行します。

なりたち 車(=くるま)と辶(=すすむ)を組み合わせて、車が何台もつらなってすすむことをあらわす。

四年生の漢字の注意点①

書き順でまちがえやすい漢字。

以　臣　希　飛　必　成　典

字体で気をつけておく漢字には、次のものがあります。「達」の「幸」は「幸」とならないように注意しましょう。「録」の右側は「緑」の右側と同じ。下が「水」とならないように。「初」の左側は「衤」(ころもへん)。「福」「祝」の左側とはちがいます。「残」「議」「機」「械」の右側は「𢦏」「義」「幾」「戒」として一画わすれることが多いので注意しましょう。

四年生の漢字の注意点②

「未」と「末」は、たいへんにています。「未」は「未来」のように、「まだ…しない」という意味、「末」は「週末・年末」のように、終わりとか末の意味。

「周(周囲)」と「週」、「令(命令)」と「冷」、「票(投票)」と「標(目標)」、「列」と「例(例文)」、「付(付近)」と「府(京都府)」など、にた漢字の使い方に注意しましょう。

「量」の訓は、「はかる」です。ほかに、「はかる」の訓のある漢字には「図」「計」「測」があります。「図」は「どうしたらよいかと考えくふうすること」、「計」は「物を数えること」、「測」は「長さ・広さなどをはかること」、「量」は「目方やりょうをはかること」の意味で使います。「目方を量る。ますで量る。」

老

おん ロウ

くん おいる・*ふける

6画〔耂・2画〕〈おいかんむり〉 ↕若 378

老 老 老 老 老 老

いみ ❶としをとる。「老人・老体・老年・老後・老眼」❷古くなる。「老化」❸経験を積む。「老練・老熟・老巧*」

使い方 ▼バスで、老いた祖母を気づかう。▼老人に席をゆずった。▼老後(=年を取ってから)の生活。▼老化した建物をとりこわした。▼老練な(=経験を積んでなれている)職人。

なりたち →老 年よりがこしをまげてつえをつく形からできた字。

労

おん ロウ

くん ―

7画〔力・5画〕〈ちから〉

労 労 労 労 労 労 労

いみ ❶ほねをおってはたらく。つとめる。「労働・労力・労役・苦労・勤労・功労」❷つかれる。つかれ。「過労・疲*労」❸いたわる。また、ねぎらう。「慰*労」

使い方 ▼苦労して研究を完成させた。▼母が過労(=働きすぎてつかれること)でたおれた。▼町内会の慰*労会(=ほねおりをねぎらう会)があった。

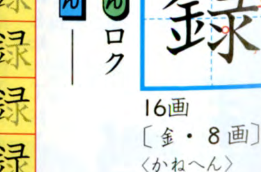
なりたち もとの字は「勞」。炏(=火をはげしくもやすこと)と力(=ちから)を組み合わせた字。

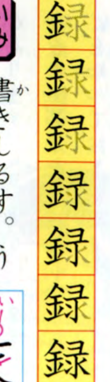
録

おん ロク

くん ―

16画〔金・8画〕〈かねへん〉





つきでない

いみ 書きしるす。うつしとる。また、そうしたもの。「録音・録画・記録・登録・収録・目録・付録・議事録」

使い方 ▼運動会のようすをビデオに録画する。▼発表の内容を記録する。▼母が住所録を見て、手紙のあて名を書いている。

なりたち もとの字は「錄」。金(=銅)と彔(=ものの外がわをはぎとる)を組み合わせた字。青銅でつくったうつわの表面をけずって文字をかくことをあらわす。

◆五年生の漢字学習法

五年生では、一～五年で習う漢字を読むこと、一～四年の漢字を文中で正しく使えるようにすること、五年の新出漢字百八十五字を少しずつ書くようにすることがめあてです。

書くときは、送りがなや仮名づかいにも気をつけるようにします。

漢字の左側は「へん」、右側は「つくり」とよばれます。例えば、「別」の右側の「刂」は、「りっとう」という名前のついているつくりです。

「りっとう」のつく漢字を集めてみましょう。

「刊・判・制・則・別」などがあります。それぞれの漢字の意味を考えてみましょう。「刊」は「干」が「カン」という音読みを表し、「刀で版木をほる」という意味から、書物を出版する意味で使われます。「刊行・新刊・月刊・週刊・朝刊」。

「判」は「半」が「ハン」という音を表し、「刀で半分にする」ということから、「区別する・見分ける・さばく」などの意味で使われます。「判決・判定・判明」。

「制」は左側の「⿱𠂉巿」がえだの出た木を表し、それを刀で切り、形を整えるという意味から、「つくる・おさえる・とり決める」などの意味で使われます。「制作・制止・制度」。

「則」は、昔、木や竹に刀できざみをつけてものさしにしたところから「決まり」の意味で使われます。「規則・校則・原則・法則・反則」。

「別」は、骨を刀で切り分けるということから、「わかれる・はなれる」の意味として使われます。「区別・特別・送別」。

このように「りっとう」の意味を知ることで、その漢字のできかたや意味を理解することができます。六年生で「劇・創・刻・割」などの「りっとう」のつく漢字を学習しますが、その意味をおおよそ考えることができるでしょう。

また、「復・複」の右側は共通しています。そして、この二つには「フク」という音が共通しています。それは右側の「复」が音を表すからです。また、「職・織・識」という、同じ部分をもち、似た音をもった字があります。このように、漢字には音を表す部分をもったものもあることを知っておきましょう。



五年生で習う字

圧 288　移 288　因 288　永 289　営 289　衛 289　易 290　益 290　液 290　演 291　応 291　往 291　桜 292　恩 292
可 293　仮 293　価 293　河 294　過 294　賀 294　快 295　解 295　格 295　確 296　額 296　刊 296　幹 297　慣 297
眼 297　基 298　寄 298　規 298　技 299　義 299　逆 299　久 300　旧 300　居 300　許 301　境 301　均 301　禁 302
句 302　群 302　経 303　潔 303　件 303　券 304　険 304　検 304　限 305　現 305　減 306　故 306　個 306　護 307
効 307　厚 307　耕 308　鉱 308　構 308　興 309　講 309　混 309　査 310　再 310　災 310　妻 311　採 311　際 311
在 312　財 312　罪 312　雑 313　酸 313　賛 313　支 314　志 314　枝 314　師 315　資 315　飼 315　示 316　似 316
識 316　質 317　舎 317　謝 317　授 318　修 318　述 318　術 319　準 319　序 320　招 320　承 320　証 321　条 321
状 321　常 322　情 322　織 322　職 323　制 323　性 323　政 324　勢 324　精 324　製 325　税 325　責 325　績 326
接 326　設 326　舌 327　絶 327　銭 327　祖 328　素 328　総 328　造 329　像 329　増 329　則 330　測 330　属 330
率 331　損 331　退 331　貸 332　態 332　団 332　断 333　築 333　張 333　提 334　程 334　適 335　敵 335　統 335
銅 336　導 336　徳 336　独 337　任 337　燃 337　能 338　破 338　犯 338　判 339　版 339　比 340　肥 340　非 340
備 341　俵 341　評 341　貧 342　布 342　婦 342　富 343　武 343　復 343　複 344　仏 344　編 344　弁 345　保 345
墓 345　報 346　豊 346　防 346　貿 347　暴 347　務 347　夢 348　迷 348　綿 348　輸 349　余 349　預 349　容 350
略 351　留 351　領 351

圧

おん アツ
くん —
5画 〔土・2画〕〈つち〉

いみ おす。おさえつける。「圧力・水圧・気圧・血圧・電圧・圧勝・圧政・圧死・圧迫*・重圧・威*圧・弾*圧・圧倒*的」

使い方 ▼海底では水圧がとても高い。▼低気圧が近づいて、天候は下り坂です。▼父は血圧が高いのを気にしている。▼決勝戦の重圧をはねのけて、みごと圧勝した。▼圧縮した空気をボンベにつめる。

なりたち もとの字は「壓」。厭(＝上からかぶせて外へ出られないようにする)と土(＝つち)を組み合わせた字。土をかぶせて出られないようにおさえつけることをあらわす。

移

おん イ
くん うつる・うつす
11画 〔禾・6画〕〈のぎへん〉







いみ ❶場所をかえる。「移動・移転・移住・移植」❷ときがたつ。「推移」

使い方 ▼つくえといすの位置を移動する。▼父の会社が、工場を海外に移転した。▼ブラジルに移住した人が里帰りした。▼松の木をうら庭に移植した。▼時代の推移(＝うつりかわり)を見守る。

参考 「場所を移る」「湖に山が映る」「写真に写る」というように、三つの「うつる」を使いわけること。

なりたち 禾(＝作物)と多(＝おおい)を組み合わせた字。いねのほが風にふかれてなびくことから、横へずれて動くことをあらわす。

因

おん イン
くん よ*る
6画 〔口・3画〕〈くにがまえ〉



いみ ❶ものごとのおこるもと。おこり。「因果・原因・勝因・敗因・起因」❷もとのままにしたがう。「因習」

使い方 ▼事件との因果関係を明らかにする。▼事故の原因を調べる。▼勝因は、チームワークの良さにある。▼不注意に因る事故をなくそう。▼因習(＝昔からのならわし)にとらわれず、新しいやり方で行う。

注意 「困」とまちがえないこと。

なりたち 口(＝ふとん)と大(＝手足をひろげた人)を組み合わせた字。ふとんをしいて、その上に人が手足をひろげてのっていること。下地となるものがあるということ。

永

おん エイ
くん ながい
5画 〔水・1画〕〈みず〉

いみ いつまでもつづくようす。「永遠・永久・永続・永世・永住」

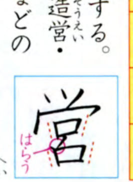
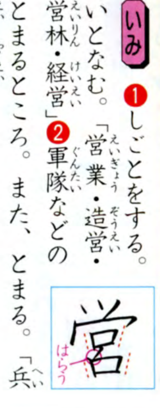
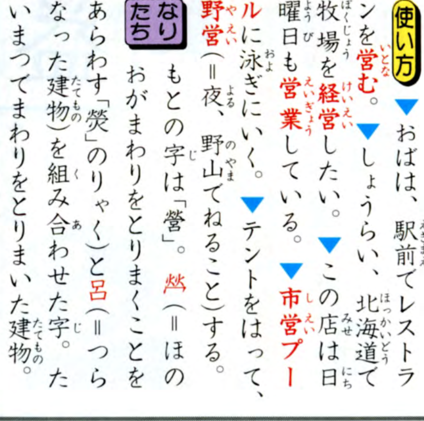
使い方 ▼永い間の苦労が、ようやくむくわれた。▼おじ一家はカナダに永住することになった。

参考 永字八法＝「永」の字にすべてふくまれている、文字を書くときのきほんとなる八つの書き方。⇩四三〇ページ

なりたち 水の流れがえだわかれして、どこまでもずっと長く続いていくようすをあらわした字。

営

おん エイ
くん いとなむ
12画 〔ツ・9画〕〈つ〉

いみ ❶しごとをする。いとなむ。「営業・造営・営林・経営」❷軍隊などのとまるところ。また、とまる。「兵営・野営」

使い方 ▼おばは、駅前でレストランを営む。▼しょうらい、北海道で牧場を経営したい。▼この店は日曜日も営業している。▼市営プールに泳ぎにいく。▼テントをはって、野営(＝夜、野山でねること)する。

なりたち もとの字は「營」。𤇾(＝ほのおがまわりをとりまくことをあらわす「熒」のりゃく)と呂(＝つらなった建物)を組み合わせた字。たいまつでまわりをとりまいた建物。

衛

おん エイ
くん —
16画 〔行・10画〕〈ぎょうがまえ〉

いみ まもる。また、まもる人。「護衛・防衛・自衛・衛生・衛星・衛兵・守衛・門衛」

使い方 ▼町の人々は、自衛のために立ち上がった。▼つゆどきは、とくに衛生に注意しましょう。▼月は、地球の衛星(＝わく星のまわりをまわっている星)である。▼夜間は、守衛さんが工場内を見まわっています。

なりたち 口のしるしの場所を、足でまわっているようすと、行(＝行く)を組み合わせた字。

五年

易

8画　〔日・4画〕〈ひ〉　↕難 400

おん　エキ・イ
くん　やさしい

いみ　❶たやすい。てがるだ。「容易・安易」❷かわる。とりかえる。「貿易・交易」❸うらない。「易者・易学」

使い方　▼今度のテストは、わりあい易しかった。▼登山を安易に考えてはいけない。▼この問題は、容易には解けない。▼わが国の貿易額は、年々のびている。▼いつも同じ場所に易者（＝うらないをする人）が出ている。

注意　「場」や「陽」の右がわは「易」ではない。

なりたち　[古い字形]ー[古い字形]ー易　[古い字形]（＝やもり）と彡（＝もよう）を組み合わせた字。

益

10画　〔皿・5画〕〈さら〉　↕害 222

おん　エキ・*ヤク
くん　―

いみ　❶ためになる。よい。「益虫・益鳥・有益・無益・公益」❷もうけ。とく。「利益・損益・純益・収益」

使い方　▼世の中の益になる研究をする。▼鳥には、つばめのような益鳥もいる。▼先生から有益なお話を聞いた。▼無益なあらそいはやめよう。▼利益の一部を寄付する。▼仏さまの御利益がありますように。▼バザーの収益は十万円にのぼった。

なりたち　[古い字形]-[古い字形]（益）　[古い字形]（＝水の形を横にしたもの）と皿（＝さら）を組み合わせた字。水があふれるようす。

液

11画　〔氵・8画〕〈さんずい〉



おん　エキ
くん　―

いみ　水のようなもの。しる。「液体・液化・液状・血液・胃液・注射液」

使い方　▼液体の洗ざいを使って、セーターを洗った。▼金属にも、水銀のように液状のものがある。▼わたしの血液型はA型です。▼胃液や腸液を消化液という。▼かぶと虫やくわがた虫は、くぬぎの樹液が好きだ。▼母が乳液をつけている。

参考　「液体」は、「気体・固体」と組みになって使われることば。

なりたち　氵（＝水）と夜（＝間かくをおいて同じものがあること）を組み合わせてできた字。水が一定の間かくをおいてたれること。

五年

演

14画　〔氵・11画〕〈さんずい〉

おん　エン
くん　―

いみ　❶のべる。「演説・演題・講演」❷おこなう。する。「演技・演奏・演劇・演芸・演出・実演・上演・公演」❸じっさいにやってみる。「演習」

使い方　▼立候補者の演説に耳をかたむける。▼げきで、おひめ様の役を演じた。▼体そうのみごとな演技。▼ピアノを演奏する。▼手打ちそばの実演を見た。▼開演は夕方六時です。▼本番を前に、予行演習をしっかりやった。

なりたち　氵（＝水）と寅（＝まっすぐのびる）を組み合わせた字。長くのびることから、いつまでも長くひきのばすことをあらわす。

応

7画　〔心・3画〕〈こころ〉



おん　オウ
くん　―

いみ　❶はたらきかけにこたえる。うけいれる。「応答・応戦・応急・応接・応募*・反応・対応・呼応」❷ふさわしい。「応分・相応」

使い方　▼味方のチームを応えんする。▼お客さんに応対する。▼むずかしい応用問題を解く。

参考　「反応」「順応」などは、「ノウ」と読む。

なりたち　もとの字は「應」。广（＝おおい）と亻（＝人）と隹（＝鳥）を組み合わせてできた雁は、人がむねに鳥をだくことをあらわす。應は、それに心をつけて、人のよびかけを心で受けとめるいみをあらわす。

往

8画　〔彳・5画〕〈ぎょうにんべん〉　↕復 343

おん　オウ
くん　―

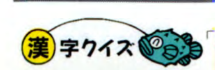
いみ　❶行く。「往復・往来・往路・往診*」❷むかし。「往時・往年」❸ときどき。たまに。「往往」

使い方　▼自転車で、公園と家を往復した。▼この通りは、車の往来がはげしい。▼往路（＝行きの道）は、追い風がふくマラソンコース。▼往年（＝むかし）の名選手。▼そういうまちがいは往々にしてある。

注意　「住」「注」とにている。

なりたち　[古い字形]ー[古い字形]ー往　王（＝大きく広がる）と止（＝足）と彳（＝行く）を組み合わせた字。どんどん前へ進むことをあらわす。

五年



桜

おん オウ*　くん さくら

10画〔木・6画〕〈きへん〉

桜桜桜桜桜桜

いみ 植物の、さくら。「桜色・桜湯・桜貝・桜月夜・桜前線・山桜・夜桜・葉桜・観桜」

使い方 ▼校庭の桜が満開になった。▼親せきの結婚式で、桜湯(＝塩づけの桜の花を入れた飲み物)をごちそうになった。▼母は桜もちが好きです。▼山のあちらこちらに、山桜が見える。▼首相主催*の観桜会(＝桜の花を楽しむ会)が開かれた。

なりたち もとの字は「櫻」。木(＝き)と嬰(＝女が首にさげる貝のかざり。とりまくといういみをふくむ)を組み合わせた字。花が木全体をとりまいてさく木のこと。

恩

おん オン　くん ―

10画〔心・6画〕〈こころ〉

恩恩恩恩恩恩恩



いみ めぐみ。なさけ。「恩人・恩師・恩情・恩義・恩愛・恩給・恩恵*・報恩・大恩・謝恩会」

使い方 ▼人から受けた恩をわすれないように。▼命を助けられたつるが恩返しに来る民話を読んだ。▼かのじょはわたしの命の恩人です。▼恩師を囲んで、同級会が開かれた。▼人類は自然の恩恵*(＝めぐみ)を受けている。▼姉は、卒業式のあとの謝恩会に出席した。

注意 「思」とまちがえないこと。

なりたち 因(＝めぐむ)と心(＝こころ)を組み合わせた字。人から受けたありがたい気持ちをあらわす。

漢字の知識

●形の変わる部首

部首の中には、漢字の中の位置によって、形が変わるものがあります。

- 人
  - 人(ひと)……人・以
  - イ(にんべん)……仏・休・体
  - 𠆢(ひとやね)……今・会・全
- 刀
  - 刀(かたな)……切・券・分
  - 刂(りっとう)……判・則・利
- 心
  - 心(こころ)……志・急・応
  - 忄(りっしんべん)……情・性・快
  - ⺗(したごころ)……慕*
- 水
  - 水(みず)……氷・泉・永
  - 氵(さんずい)……海・潮・湖
  - 氺(したみず)……求・泰*
- 火
  - 火(ひ)……灰・災・炭
  - 火(ひへん)……灯・焼・燃
  - 灬(れんが・れっか)……熱・点
- 肉
  - 肉(にく)……肉
  - 月(にくづき)……肥・能・育

答え 承る。

可

おん カ　くん ―

5画〔口・2画〕〈くち〉　↕否 404

可可可可可

いみ ❶よいとみとめる。「可決・可否・認可・許可」❷できる。「可能・可燃性・不可能」

使い方 ▼国会で法案が可決された。▼そのことの可否は別として、ともかくやってみるべきだ。▼兄は、自転車で通学することをようやく許可された。▼実現の可能性について考えてみよう。

なりたち 可―可　丂(＝つかえておれまがったかぎ)と口(＝口)を組み合わせた字。のどになにかがつかえることをあらわし、いろいろあったすえに、どうにかまとめるといういみになった。

仮

おん カ・ケ*　くん かり

6画〔イ・4画〕〈にんべん〉

仮仮仮仮仮仮





いみ ❶一時のまにあわせ。かり。「仮設・仮定・仮説・仮名*」❷にせ。いつわり。「仮病・仮装・仮面」

使い方 ▼仮に、歩いて行くとすると、どのくらいかかるの？▼授業中に火事が起きたと仮定して、避難*訓練をする。▼仮説を立てて実験する。▼かれは、仮病をつかって学校を休んだ。▼運動会の仮装行列に参加する。

なりたち もとの字は「假」。イ(＝人)と叚(＝おおいをかぶる)を組み合わせてできた字。おめんをかぶって、うわべをとりつくろうようすをあらわした字。

価

おん カ　くん あたい*

8画〔イ・6画〕〈にんべん〉

価価価価価価価価

いみ ❶ねだん。「価格・物価・特価・代価・高価」❷ねうち。「価値・真価・評価・声価」

使い方 ▼商品の価格が安定する。▼物価が上昇*する。▼売れ残りの品物を定価の三割引きで売る。▼この本は、一度は読むに価します。▼この作品は、海外からも高い評価をうけた。▼チーズや牛乳などの乳製品は栄養価が高い。

なりたち 價―價(価)　亻(＝人)と襾(＝おおいかくす)と貝(＝お金)を組み合わせた字。商人がつけたねだんをあらわす。

漢字クイズ 表に出た人は何を作ったかな？

河

8画 〔氵・5画〕〈さんずい〉

おん カ　くん かわ

いみ 大きなかわ。「河川・河口・山河・大河・運河・氷河・銀河・河原」

使い方 ▼あちらこちらで、河川(=大小さまざまな川)の改修工事が行われている。▼河口に大きな港が発達している。▼大部分が氷河におおわれたグリーンランド島。▼銀河(=天の川)が美しくかがやく。

参考 「河(かわ)」は、「川」よりもずっと大きな場合に使う。

なりたち 氵(=水のながれ)と丁(=かぎ形にまがる)を組み合わせた字。直角にまがって流れるかわのいみで、黄河のことをあらわす。

過

12画 〔辶・9画〕〈しんにょう〉

おん カ　くん すぎる・すごす・*あやまつ・*あやまち

いみ ❶うつりゆく。すぎる。「過程・過去・通過・経過」❷ふつうのていどをこす。「過度・過熱・過激・過敏*」❸あやまち。「過失・大過」

使い方 ▼あれから、もう五年の年月が過ぎた。▼過去をふりかえる。▼電車は今、湖のほとりを通過しています。▼過度の運動は、かえって健康をそこなう。▼自分の実力を過信してはいけない。▼過ちをくり返さないように。

なりたち 咼(=自由に動く関節の形)と辶(=進む)を組み合わせてできた字。ゆとりがあってらくらくと通ることをあらわす。

賀

12画 〔貝・5画〕〈こがい〉

おん ガ　くん —

いみ よろこびの気持ちを表す。いわう。「賀正・賀状・参賀・年賀状・謹*賀新年・祝賀会」

使い方 ▼元日の朝、年賀状を読むのは楽しい。▼「謹*賀新年」とは、つつしんで新しい年をいわうという意味です。▼市制三十周年の祝賀会が開かれた。




なりたち 加(=上にのせる)と貝(=お金や品物)を組み合わせた字。お金や品物を高くつみ上げることから、物をおくっていわうこと。

快

7画 〔忄・4画〕〈りっしんべん〉

おん カイ　くん こころよい

いみ ❶気持ちがよい。こころよい。「快晴・快適・快感・快挙・快勝・快楽・痛快・不快・愉*快」❷病気がなおる。「快復・快方・全快」❸はやい。「快走・快速・軽快」

使い方 ▼快い風がほおにあたる。▼今日は雲一つない快晴だ。▼相手を○点におさえて快勝した。▼病気が快方に向かう。▼快速電車が通過した。▼マラソンランナーが、軽快な足どりで競技場に帰ってきた。

なりたち 忄(=心)と夬(=開く)を組み合わせてできた字。心を開くことから、気持ちのよいことをあらわすようになった。

解

13画 〔角・6画〕〈つのへん〉

おん カイ・*ゲ　くん とく・とかす・とける

いみ ❶ばらばらにする。「解体・解散・分解」❷とりのぞく。自由にする。「解禁・解消・解決・解放・解毒」❸わかるようにする。また、答え。「解説・解答・理解・誤解・正解」

使い方 ▼自転車を分解して修理する。▼くつのひもが解けた。▼あゆつりが解禁になった。▼人じちを解放する。▼むずかしい問題を解く。▼答えは解答用紙に書きなさい。▼それはとんでもない誤解です。

なりたち 角(=つの)と牛(=うし)と刀(=かたな)を組み合わせた字。刀で、牛の角や体をばらばらに切りわけることをあらわす。

格

10画 〔木・6画〕〈きへん〉

おん カク・*コウ　くん —

いみ ❶きまり。きそく。さだめ。「規格・合格・格式」❷地位。ていど。「資格・格調・人格・品格・価格・本格的」❸形。「格好・体格・骨格」❹手でうつ。「格闘*」

使い方 ▼入学試験に合格した。▼格式を重んじる。▼格調の高い文章を書く。▼すなおな性格の人。▼格好のいい人。▼格闘*の末、犯人をつかまえた。

なりたち 木(=木)と各(=足がかたい石につかえてとまる)を組み合わせた字。つかえになって、物の進行をとめるぼうをあらわす。

漢字クイズ 「皮」に「石」をあてたらどうなる？

確

おん カク
くん たしか・たしかめる

15画 〔石・10画〕〈いしへん〉

つきでる

いみ しっかりしている。たしか。「確実・確定・確信・確認・確立・確率・正確・明確」

使い方 ▼それは確かな情報ですか。▼辞書をひいて、意味を確かめる。▼あすの十時、確実におとどけします。▼念のため、もう一度確認します。▼あしたは、雨のふる確率が高いそうだ。▼かれは、つねに的確な指示を出す。

なりたち 石(＝いし)と隺(＝「カク」という音をあらわし、いみとは関係がない)を組み合わせてできた字。石のようにかたくてはっきりしていることをあらわす。

額

おん ガク
くん ひたい

18画 〔頁・9画〕〈おおがい〉



とめる

いみ ❶ひたい。おでこ。❷ぶんりょう。金銭のたか。「金額・多額・残額・総額」❸絵や写真を入れてかけるもの。「額ぶち」

使い方 ▼ハンカチで額のあせをふく。▼大した金額ではありませんが、寄付します。▼かかった費用は、全額お支払*いします。▼絵を額ぶちに入れてかざる。

注意 「顔」とまちがえないこと。

なりたち 客(＝かたいものに当たってとまる)と頁(＝あたま)を組み合わせた字。頭のうち、とくにかたくてこつんとものを受けとめるひたいのことをあらわす。

刊

おん カン
くん ―

5画 〔刂・3画〕〈りっとう〉

いみ 本や新聞を世に出す。出版する。「刊行・発刊・増刊・新刊・朝刊・夕刊・月刊・週刊」

使い方 ▼子ども向けの雑誌が創刊された。▼雑誌の増刊号を買いに行く。▼新刊の本(＝新しく出版された本)を買ってもらった。▼父が夕刊を読んでいる。▼あしたは新聞の休刊日だ。▼この週刊誌は、毎週木曜日に発売される。

なりたち 干(＝おの)と刂(＝かたな)を組み合わせて、竹や木のふだに書いた字を小刀でけずってなおすことをあらわした字。のちに本をつくるいみになった。

答え 破れる。

幹

おん カン
くん みき

13画 〔干・10画〕〈ひる〉

つきでない

いみ ❶木の太いところ。みき。「根幹」❷だいじなところ。中心。「幹部・幹事・幹線」

使い方 ▼太い木の幹。▼会社の幹部(＝中心になってはたらく人)が集まって会議をひらく。▼母は、町内会の旅行の幹事をひきうけた。▼幹線道路は、どこも混んでいる。▼新幹線に乗って旅行する。

注意 「ほす・かわく」のいみをもつ「乾*」の字とまちがえないこと。

なりたち 倝(＝強い力で高く上がる)と干(＝太いぼう)を組み合わせた字。高くのびた太いみきのことをあらわす。

慣

おん カン
くん なれる・ならす

14画 〔忄・11画〕〈りっしんべん〉

ださない

いみ ❶なれる。ならす。「慣用・不慣れ」❷ならわし。「慣習・慣例・慣行・習慣」

使い方 ▼北国の寒さにもやっと慣れた。▼山登りに備えて、日ごろから足を慣らしておく。▼不慣れな仕事なのでつかれた。▼その土地の慣習にしたがう。▼式は、キリスト教の慣例(＝ならわし)にしたがって行われた。▼家に帰ったら手をあらう習慣がついている。

なりたち 忄(＝心)と貫(＝つらぬく)を組み合わせた字。一つのことを、どこまでも、なんどもやりとおして、なれること。

眼

おん ガン・*ゲン
くん *まなこ

11画 〔目・6画〕〈めへん〉

いみ ❶目。「眼科・眼帯・肉眼・開眼・★眼鏡」❷ものごとを見分ける力。「眼力・心眼」❸だいじなところ。「主眼・眼目」

使い方 ▼眼下(＝目の下)にまっ青な海が広がっている。▼落とした財布を血眼になって(＝むちゅうになって)探す。▼するどい眼力を持つ人。▼話の主眼をとらえる。

注意 「眠*」とまちがえないこと。

なりたち 目(＝目)と艮(＝あなにはまって動かない)を組み合わせた字。頭がい骨のあなにはまっている目のことをあらわす。

漢字クイズ 「夜の水」を何という？

基

おん　キ
くん　もと・*もと・*もとい

11画〔土・8画〕〈つち〉

いみ　もと。おこり。どだい。また、もとづく。「基本・基金・基地・基点・基礎*・基因・基準」

使い方　▼なにごとも基本が大切だ。▼東京駅を基点として、大阪*までのきょりを測る。▼実際の事件に基づく小説。▼事故は、不注意に基因するものが多い。

注意　「基ずく」と書かないこと。「墓」と形がにているので気をつける。

なりたち　-　-基　と　(=つち)　(=四角いみ〈穀物をふるう農具〉)を組み合わせてできた字。四角い土台のいみをあらわす。

寄

おん　キ
くん　よる・よせる

11画〔宀・8画〕〈うかんむり〉



いみ　①たよる。よりかかる。「寄生・寄宿」②あたえて使い方をまかせる。「寄付・寄進」③おくりとどける。「寄稿*」④たちよる。「寄港」

使い方　▼おじいさんが学生のころ、寄宿舎(=自宅の遠い生徒が住む宿舎)があったそうです。▼ためたお金を寄付する。▼お客様を最寄りの駅まで送って行く。▼お年寄りを大事にしよう。

注意　「奇*」とまちがえないこと。

なりたち　宀(=家)と奇(=一方にかたよる、よりすがる)を組み合わせた字。たよりとする家によりかかることをあらわす。

規

おん　キ
くん　—

11画〔見・4画〕〈みる〉



いみ　①きまり。おきて。「規則・規約・規律・規準・法規・正規・規格品」②コンパス。「定規」

使い方　▼夏休みには、規則正しい生活を送りたい。▼キャプテンは、チームの規律がくずれないように気をつけている。▼事故で、交通が規制されている。▼海をうめたてて、大規模な開発が行われている。▼三角定規で図形をかく。

なりたち　-規　(=まっすぐなぼう)と　(=みる)を組み合わせた字。まっすぐなぼう二本を組み合わせたコンパスで、円をえがくことをあらわす。

技

おん　ギ
くん　*わざ

7画〔扌・4画〕〈てへん〉





いみ　①うでまえ。わざ。「技能・技術・演技・競技・特技」②武道の、一定の型。手。

使い方　▼この工事には、高度の技術が必要です。▼劇で、先生が演技の指導をする。▼球技大会に出場しました。▼わたしの特技はピアノです。▼競技場へサッカーを見に行く。▼得意の技をかける。

注意　「枝」とまちがえないこと。

なりたち　-技　(=手)と　(=細いえだを手に持つようす)を組み合わせてできた字。手先でするこまかい細工のことをあらわす。

義

おん　ギ
くん　—

13画〔羊・7画〕〈ひつじ〉

いみ　①正しいおこない。「義務・義理・正義・忠義」②わけ。いみ。「意義・定義・講義」③血のつながりのない。「義兄・義母」④ほんもののかわりにするもの。「義足・義眼」

使い方　▼国民としての義務をはたす。▼山田くんは正義感(=正義をたいせつに思う心)の強い人だ。▼夏休みを有意義にすごそう。▼姉さんのおむこさんは、ぼくの義兄だ。

なりたち　-　-　-義　(=形のよいひつじ)と　(=やりににた武器)を組み合わせ、みごとなやりかたをあらわした字。

逆

おん　ギャク
くん　さか・さからう

9画〔辶・6画〕〈しんにょう〉　↕順 248

いみ　①さからう。反対する。「反逆」②さかさま。あべこべ。「逆行・逆風・逆転」

使い方　▼流れに逆らって、ボートをこぐ。▼兄は、逆立ちがとてもうまい。▼ねこが、毛を逆立てておこっている。▼あわてて、くつを逆さにはいた。▼九回のうらの逆転ホームランで、さよなら勝ちした。

なりたち　屰(=大の字に立った人をさかさまにした形)と辶(=進む)を組み合わせた字。反対の方向に進むことをあらわす。

久

3画 〔丿・2画〕〈の〉

おん キュウ・*ク
くん ひさしい

久久久

いみ 時間が長くたつ。長い間。「長久・永久・持久戦・耐*久力」

使い方 ▼かれから連らくがとだえて久しい。▼きのう、久しぶりにおばさんに出会った。▼地球上から永久に戦いがなくなるようにいのる。▼試合は持久戦(=長時間持ちこたえる戦い)に持ちこまれた。▼世界の平和という久遠(=永遠)の理想を必ず実現したい。

なりたち ク－久 ク(=せなかのまがった人)と丶(=そのせなかをひっぱるしるし)を合わせてできた字。長いといういみをあらわす。

旧

5画 〔日・1画〕〈ひ〉 ↕新 135

おん キュウ
くん ―

旧旧旧旧旧

いみ ❶長い年月がたっている。古い。むかしからの。「旧式・旧態・旧聞・旧道・旧家・新旧・旧知・旧友」❷以前の状態。「復旧」

使い方 ▼休みの日に、杉並木の旧道を歩いた。▼スポーツの世界では、新旧の交代がはげしい。▼かれとは、旧知の間がらです。▼大雨で不通になっていた鉄道が復旧した。

なりたち もとの字は「舊」。萑(=頭の毛の多い鳥)と臼(=「キュウ」という音をもつ)を組み合わせてできた字で、鳥の名をあらわす。のちに、この字をかりて「ふるい」「ひさしい」のいみにあてた。



居

8画 〔尸・5画〕〈しかばね〉

おん キョ
くん いる

居居居居居居居居

いみ ❶いる。すわる。「居間・居留守・居場所・居残る」❷すむ。すまい。「同居・別居・居住・住居・転居・新居」

使い方 ▼休日で父は一日じゅう家に居た。▼気になって居ても立ってもいられない。▼現場に居合わせた人に、事故の様子をきく。▼居心地のよい部屋。▼父は会社が遠いため、家族と別居している。▼大昔の住居のあとが発見された。▼新居が完成した。

なりたち 尸(=しり)と古(=しっかりとすえる)を組み合わせた字。台の上にしりをのせて、落ち着くことをあらわす。



許

11画 〔言・4画〕〈ごんべん〉

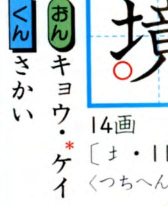
おん キョ
くん ゆるす

許許許許許許許許許許許

いみ ききいれる。ゆるす。「許可・許容・特許・免*許」

使い方 ▼弟のいたずらを許してやった。▼心を許し合った本当の友だち。▼先生の許可を得て、朝早くからスポーツ大会の練習に集まった。▼もれた放射能は、許容量をこえている。▼発明をして特許をとる。▼母は、自動車の運転免*許をとった。

なりたち 言(=ことば)と午(=上下に動かして、もちなどをつくきね)を組み合わせてできた字。少しのずれやくいちがいがあってもゆるすこと。



境

14画 〔土・11画〕〈つちへん〉

おん キョウ・*ケイ
くん さかい

境境境境境境境

いみ ❶さかい。くぎり。「境界・境内・国境」❷ところ。場所。「辺境・環*境」❸めぐりあわせ。ありさま。「心境・逆境・苦境・境遇*」

使い方 ▼となりの家との境に、生けがきがある。▼神社の境内(=しき地の中)をそうじする。▼辺境の地(=都から遠くはなれたところ)。▼逆境(=思うようにならず、苦しい身の上)にもめげない、強い心を持つ。

参考 「ケイ」の音は「境内」だけ。

注意 「鏡」とまちがえないこと。

なりたち 土(=つち)と竟(=人が音楽のひとふしを歌ってくぎりをつけること)を組み合わせた字。



均

7画 〔土・4画〕〈つちへん〉

おん キン
くん ―

均均均均均均均

いみ ❶ひとしい。おなじ。「均一・均等」❷ととのう。つりあっている。「均整・平均・均衡*」

使い方 ▼ここにある商品は、すべて百円均一です。▼ケーキを兄弟三人で均等に分ける。▼均整のとれた体。▼国語のテストの平均点は六十五点でした。▼輸出と輸入の均衡*(=つりあいがとれていること)をたもつ。

なりたち 土 匀－均 土(=つち)と匀(=全体に同じようにいきとどく)を組み合わせた字。土をならして全体にいきわたらせることをあらわす。

五年

禁

おん キン
くん —
13画 〔示・8画〕〈しめす〉

禁禁禁禁禁禁禁



いみ ❶やめさせる。さしとめる。また、さしとめてあること。「禁止・禁句・禁漁・禁煙*・解禁」❷とじこめる。「禁固・監*禁」

使い方 ▼この場所に立ち入ることを禁じます。▼この道路ははばがせまいので、自動車は通行禁止です。▼この列車には、禁煙*席がもうけられています。▼油断は禁物(＝してはいけないこと)だ。

なりたち 禁-禁-禁　神をまつった示(＝祭だん)のある場所のまわりに、林(＝林)をめぐらして、自由に出入りできないことをあらわした字。

句

おん ク
くん —
5画 〔口・2画〕〈くち〉

句句句句句

いみ ❶詩・歌・文章などの一くぎり。「句点・対句・文句・上の句・下の句・慣用句」❷俳句のこと。また、俳句を数えることば。「句集・句会」

使い方 ▼句読点を正しく打つ。▼文句があるなら、はっきり言ってください。▼短歌では、初めの五七五を上の句、つぎの七七を下の句という。▼三月三日は桃*の節句だ。▼すばらしい景色を見て一句うかんだ。

なりたち 句-句-句-句　ㄐ(＝小さくかこむしるし)と口(＝ことば)を組み合わせた字。ひとくぎりのことばをあらわす。

群

おん グン
くん むれる・むれ・むら
13画 〔羊・7画〕〈ひつじ〉

群群群群群群



いみ ❶むらがる。また、むれ。「群衆・群島・群集・一群・大群」❷多くの。「群臣・群雄*」

使い方 ▼はちが花のまわりに群れている。▼今年もがんの群れが、ぬま地にやってきた。▼たんぼの花が群がってさいている。▼優勝パレードに集まった群衆にこたえる選手たち。▼競技場の開場を待つ人々が、入口に群集している。

なりたち 群-群-群　君(＝まとめる)と羊(＝ひつじ)を組み合わせた字。ひつじがまるくまとまって、むれをつくることをあらわす。

経

おん ケイ・*キョウ
くん へる
11画 〔糸・5画〕〈いとへん〉

経経経経経経経

いみ ❶すぎる。とおる。「経過・経由・経路・経験」❷たていと。たてのすじ。「経線・経度・神経」❸いとなむ。「経営・経済・経費」❹仏の教えを書いたもの。「経文・経典」

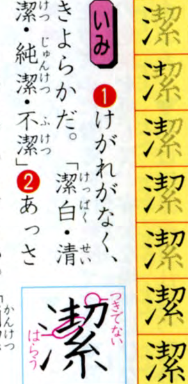
使い方 ▼二人は、十年の年月を経て再会した。▼お父さんの仕事の関係で、かのじょは海外での生活を経験している。▼国の経済の動きに関心を持つ。▼おひがんに、寺でお経をあげてもらった。

なりたち もとの字は「經」。糸(＝いと)と巠(＝ぬのをおるとき、上のわくから下の台へまっすぐにたて糸をはった形)を組み合わせた字。

潔

おん ケツ
くん *いさぎよい
15画 〔氵・12画〕〈さんずい〉

潔潔潔潔潔潔潔



いみ ❶けがれがなく、きよらかだ。「潔白・清潔・純潔・不潔」❷あっさりしている。いさぎよい。「簡潔」

使い方 ▼身の潔白(＝正しいこと)が証明された。▼身のまわりを清潔にする。▼そんな不潔な手で食事をしてはだめですよ。▼悪いことをしたと思ったので、みんなに潔くあやまった。▼必要なことがらを、簡潔にメモする。

注意 「食べる」「のむ」などの意味をもつ、「喫*」とまちがえないこと。

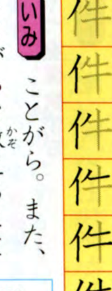
なりたち 氵(＝水)と絜(＝けがれがない)を組み合わせた字。けがれを水であらいきよめること。

件

おん ケン
くん —
6画 〔亻・4画〕〈にんべん〉

件件件件件件







いみ ことがら。また、ことがらを数えることば。「事件・条件・案件・人件費・件数」

使い方 ▼その件については、前に説明したとおりです。▼電話で用件を伝える。▼五日以内に返すという条件で、参考書を借りた。▼人件費(＝やとった人にしはらう給料など)がふえてきた。▼交通事故の件数を調べたら、今週だけで十件をこえていた。

なりたち 牛(＝物を代表する牛)と亻(＝それをひく人)を組み合わせてできた字。物やことがらのいみをあらわす。

券

おん ケン
くん ―
8画 〔刀・6画〕〈かたな〉

券券券券券券券券

券 つきでない

いみ ❶ふだ。きっぷ。「入場券・乗車券・定期券・特急券・回数券」❷手形や証書。「株券・証券」

使い方 ▼コンサートの**入場券**を予約する。▼**定期券**で電車通学する。▼映画の**前売り券**をもらった。▼バスの**回数券**を買う。▼おじは**証券会社**につとめている。▼百万円で**株券**を手に入れる。

注意 「巻」とまちがえないこと。

なりたち 𠔉-券 釆（=開いたてのひら）と廾（=両手）と⺈（=刀）を組み合わせた字。木のふだに小刀できざみ目をつけ、ひもをまいて保存する手形をあらわす。

険

おん ケン
くん けわしい

11画 〔阝・8画〕〈こざとへん〉

険険険険険険険険



険 つきでない

いみ ❶けわしい。「険路」❷あぶない。むずかしい。「険悪・危険・保険」

使い方 ▼**険しい**山道をあえぎながらのぼる。▼母はいつになく、**険しい**表情をしている。▼なんとなく**険悪**なふんいきになった。▼子どもだけで山に登るのは**危険**です。▼身の**危険**を感じて、安全な場所にひなんした。▼おばは**保険会社**につとめています。

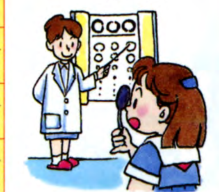
なりたち もとの字は「險」。阝（=おか）と僉（=多くのものをつないでてっぺんに集めたようす）を組み合わせた字。山の頂上がけわしいことをあらわす。

検

おん ケン
くん ―

12画 〔木・8画〕〈きへん〉

検検検検検検検検



検 つきでない

いみ しらべる。「検査・検挙・検定・検算・検針・検札・検討・点検・探検」

使い方 ▼きょう、午後から**身体検査**があります。▼めがねを買う前に、**検眼**してもらった。▼この計画は、もう一度**検討**してみよう。▼出かける前に、火の元を**点検**する。▼どうくつを**探検**する。

注意 「険」「験」とまちがえないこと。

なりたち 檢-檢（検） 木（=木）と僉（=たくさんの人や物をひきしめてまとめること）を組み合わせた字。たくさんの木のふだを集めてしらべることをあらわす。

限

おん ゲン
くん かぎる

9画 〔阝・6画〕〈こざとへん〉

限限限限限限限

限

いみ くぎりをつける。「限界・限定・限度・制限・日限・期限・門限・無限・極限・権限」

使い方 ▼参加者の人数を五人に**限**った。▼力の**限り**をつくして戦う。▼もう体力の**限界**だ。▼本は**期限**までに返すこと。▼**門限**に間に合うように帰宅する。▼宇宙は**無限**に広がっている。▼つかれが**極限**にまで達している。

なりたち 阝（=もりあげた土）と艮（=目じるしをつける）を組み合わせた字。土をもりあげて、土地のさかい目に目じるしをつけることをあらわす。

現

おん ゲン
くん あらわれる・あらわす

11画 〔王・7画〕〈おうへん〉

現現現現現現現



現 はらう

いみ ❶すがたをあらわす。また、あらわれる。「現象・現像・実現・表現・出現」❷今の。実際の。「現在・現代・現実・現状・現地」

使い方 ▼目の前に大きなかげがぬっと**現れ**た。▼選手たちが会場に姿を**現し**た。▼ふしぎな**現象**が起こる。▼理想と**現実**はなかなか一致しない。▼火事の**現場**にかけつける。▼**現金**で五万円寄付する。

注意 「姿を現す」「言い表す」「本を著す」のように、使いわけること。

なりたち 王（=玉）と、見（=みえる）を組み合わせた字。目の前に形がはっきり見えること。

ことばの知識

●読みかたで意味が変わる熟語
熟語の中には、読みかたが二つ以上あるものがあります。読みかたで、意味がちがうことばです。

風車
- ふうしゃ…風の力で回し、動力にするもの。
- かざぐるま…風で回すおもちゃ。

上手
- うわて…人よりすぐれていること。
- かみて…川上のほう。舞台の、むかって右側。
- じょうず…うまいこと。

色紙
- しきし…短歌・俳句・絵・サインなどを書く厚紙。
- いろがみ…いろいろな色にそめてある紙。

分別
- ふんべつ…よしあしを見分けること。その能力。
- ぶんべつ…種類によって、よりわけること。

減

おん ゲン
くん へ**る**・へ**らす**

12画
〔氵・9画〕
〈さんずい〉

減減減減減減減減

いみ ❶少なくなる。へる。「減少・減退・減税・減収・半減・増減」❷ひきざん。「減法」

使い方 ▼この町の人口は**減っ**ている。▼母はダイエットで、食事の量を**減らし**ている。▼暑さで、がんばろうという意欲が**減退**する。▼もう**いい加減**にあきらめよう。

注意 「減*」とまちがえないこと。

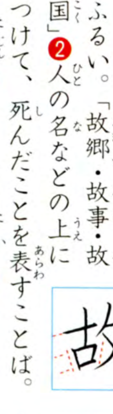
なりたち 氵-減-減

氵(=水)と咸(=ほこをあらわす「戌」と口を組み合わせて、おどして口をふさぐいみをもつ)て、水源をふさぎ、水をへらすことをあらわした字。

故



















おん コ
くん ゆ*え

9画
〔攵・5画〕
〈ぼくにょう〉

故故故故故故故故故

いみ ❶むかしからの。ふるい。「故郷・故事・故国」❷人の名などの上につけて、死んだことを表すことば。「故人」❸わざと。「故意」❹ふつうでないことがら。「故障・事故」❺わけ。理由。…のため。

使い方 ▼父の**故郷**に行く。▼**故人**のめいふくをいのる。▼**故意**に(=わざと)やった反則。▼**交通事故**に注意しよう。▼若さ**故**、失敗も多い。

なりたち 古(=かたい)と攵(=動詞の記号)を組み合わせた字。かたまって、はっきりきまること。のちに「ことさらに」や「ふるい」「もと」のいみをあらわすようになった。

個

おん コ
くん —

10画
〔亻・8画〕
〈にんべん〉

個個個個個個個個個個

いみ ❶全体に対して、ひとつ。ひとり。「個人・個別・個性・個室」❷ものを数えることば。「一個・二個」

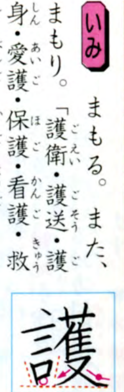
使い方 ▼それぞれが、**個人**の意見を主張してまとまらない。▼**個別**に(=一人一人別々に)面接します。▼あの人の服装はなかなか**個性的**だ。▼収かくしたすいかの**個数**を数える。

注意 「個別」を「一けん一けんの家」という意味の「戸別」とまちがえないこと。

なりたち 亻(=人)と固(=かたい)を組み合わせた字。一つ一つになった、かたいものをあらわす。「固」は「コ」という音もあらわす。

護





おん ゴ
くん —

20画
〔言・13画〕
〈ごんべん〉

護護護護護護護

いみ まもる。また、まもり。「護衛・護送・護身・愛護・保護・看護・救護・弁護・加護・養護」

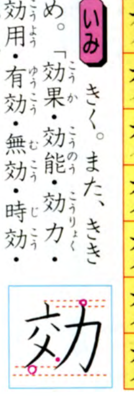
使い方 ▼川の**護岸工事**が始まりました。▼今週は、**動物愛護週間**です。▼自然を**保護**し、緑を守ろう。▼入院して初めて、**看護師さん**の大変さがわかりました。▼何よりもまず、けが人の**救護**がいちばんだ。▼兄は、**弁護士**をめざしてがんばっています。

なりたち 言(=ことば)と蒦(=手で外からつつむように持つ)を組み合わせた字。外からとりまいて、助け守ることをあらわす。

効







おん コウ
くん き**く**

8画
〔力・6画〕
〈ちから〉

効効効効効効効効

いみ きく。また、ききめ。「効果・効能・効力・効用・有効・無効・時効・特効薬」

使い方 ▼はらいたに**効く**薬。▼予想以上の**効果**をあげる。▼この殺虫ざいの**効力**は、一か月続く。▼もっと仕事の**効率**を高めよう。▼このきっぷは三日間**有効**だ(=使える)。▼あの事件は、すでに**時効**になった。

注意 「郊*」とまちがえないこと。「町はずれ」の意味をあらわす、

なりたち 交(=結果を出すこと)と力(=ちから)を組み合わせた字で、よい結果が出るようにつとめることをあらわす。

厚

おん *コウ
くん あつ**い**

9画
〔厂・7画〕
〈がんだれ〉

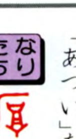
厚厚厚厚厚厚厚厚厚

いみ ❶あつみがある。あつい。「厚手・厚紙」❷まごころがこもっている。「厚意・厚情・温厚」❸ていどがはなはだしい。「厚顔・重厚」

使い方 ▼**厚み**のある板を切る。▼寒いからといって**厚着**をしない。▼**手厚い**かん護。▼**ご厚意**に感謝します。▼かれは**温厚**な人がらだ。

注意 「厚い」「暑い」「熱い」の三つの「あつい」を使い分けること。

なりたち



-[古字]-厚

厂(=がけ)と[古字](=「高」のもとの字をさかさまにしたもの)を組み合わせた字。土があつくつもったがけのことをあらわす。

耕

おん コウ
くん たがやす

10画 〔耒・4画〕〈すきへん〉

耕耕耕耕耕耕耕耕耕耕

いみ 田や畑をほりかえす。たがやす。「耕作・耕地・農耕・休耕」

使い方 ▼父は、うらの畑を耕して野菜の種をまきました。▼お百姓*さんが耕うん機に乗っている。▼この辺りは山が多く、耕地が少ない。▼わたしの住んでいる地方は、温暖で農耕に適しています。▼休耕田（＝いねを作るのを、いちじやめている田）に花を作る。

なりたち 耒（＝土をたがやす、すき）と井（＝四角のわく）を組み合わせてできた字。すきで田や畑をほりおこして、たて横のくぎりを入れることをあらわす。

鉱

おん コウ
くん ―

13画 〔金・5画〕〈かねへん〉

鉱鉱鉱鉱鉱鉱鉱鉱鉱鉱鉱鉱鉱



いみ 金属などをふくんでいる石。「鉱物・鉱石・鉱脈・金鉱・採鉱・炭鉱」

使い方 ▼理科室に、鉱石の標本がある。▼昔、大きな鉱山があった町。▼苦心のすえ、大きな鉱脈をほりあてた。

参考 読みが同じで、まちがえやすいことば。鉄鉱（＝鉄をふくんだ鉱石）と鉄鋼（＝はがね）。炭鉱（＝石炭をほり出す鉱山）と炭坑*（＝石炭をほり出すあな）。

なりたち もとの字は「礦」。石（＝いし）と黄（＝きいろ）を組み合わせた字。金や銅をふくんでいる、黄色に光る石をあらわす。

構

おん コウ
くん かまえる・かまう

14画 〔木・10画〕〈きへん〉

構構構構構構構構構構構構構構

いみ ❶組み立てる。つくる。また、しくみ。「構造・構成・構想・機構」❷たてものつくり。また、心やからだの準備。「構内・門構え・心構え・身構え」❸世話をしたり、心配したりする。かまう。

使い方 ▼地しんに強い構造のビル。▼文章の構成をくふうする。▼りっぱな門構えの家。▼バットを構える。▼どうぞお構いなく。

なりたち 木冓-構（＝木）と冓（＝木を、むこうとこちらに同じ形に組み合わせて立てたようす）を組み合わせ、木をうまく組み立てることをあらわす。

興

おん コウ・キョウ
くん *おこる・*おこす

16画 〔臼・10画〕〈うす〉

興興興興興興興興興興

いみ ❶さかんにする。さかんになる。「興業・興行・興亡・興奮・興隆*・復興・再興・振興」❷おもしろみ。おもむき。「興味・余興・興ざめ」

使い方 ▼遠足の前の夜は、興奮してねつけなかった。▼大地しんにおそわれた町が、ようやく復興した。▼何にでも興味をしめす人。

参考 「起こす」は、じっとしていたものを起き上がらせる。「子どもを起こす」。「興す」は、ものごとをさかんにする。「国を興す」。

なりたち 舁（＝二人の四本の手でかつぐ）と同（＝いっしょ）を組み合わせた字。

講

おん コウ
くん ―

17画 〔言・10画〕〈ごんべん〉

講講講講講講講講講講

いみ ❶ときあかす。話をする。「講演・講義・講師」❷なかなおりをする。「講和」❸集まり。団体。「えびす講」

使い方 ▼自然保護についての講演を聞く。▼おじは、週に三回、大学で講義をしている。▼学校にりっぱな講堂ができた。▼料理の講習会が開かれた。▼一国を代表して講和会議にのぞむ。

注意 「構」とまちがえないこと。

なりたち 言（＝ことば）と冓（＝木を上下に同じ形に組み合わせる）を組み合わせた字。両方がわかり合うように話し合うこと。

混

おん コン
くん まじる・まざる・まぜる

11画 〔氵・8画〕〈さんずい〉

混混混混混混混混混混混



いみ まじる。まぜる。「混入・混血・混声・混乱・混雑・混線・混合」

使い方 ▼大人に混じって、町内の野球大会に出た。▼ごはんにすと具を混ぜ合わせて、五目ずしを作った。▼混声合唱（＝男女で行う合唱）の美しいハーモニー。▼同時にいくつものことを言われ、頭が混乱した。

参考 「混ぜる」は、ちがうものをまぜて一つにする。「交ぜる」は、いくつかを組み合わせる。

なりたち 氵（＝水）と昆（＝入りまじる）を組み合わせた字。水だけではなく、いろいろなものが入りまじって区別がなくなることをあらわす。

漢字クイズ 牛の角に刀でほりこんだ字は何という字？

査

9画〔木・5画〕〈き〉

おん サ

くん ―

いみ 調べて明らかにする。「査定・調査・検査・探査・考査・審*査」

使い方 ▼税金の額を査定する（＝調べてきめる）。▼事故の原因をくわしく調査する。▼水道の水を検査して、安全をたしかめる。▼審*査の結果、わたしの作文はコンクールに入選しました。▼事件のあった現場付近を、巡*査（＝けいさつ官）がパトロールしている。

なりたち 木（＝き）と且（＝つみかさねる）を組み合わせた字。木をつみかさねて、通行のじゃまをすることをあらわす。のちに、さぐり出して調べるいみになった。

再

6画〔冂・4画〕〈どうがまえ〉

おん サイ・サ

くん ふたたび

いみ もういちど。かさねて。「再会・再開・再建・再考・再生・再発・再度・再出発・再興・再三再四」





使い方 ▼十年ぶりに再会しました。▼春が再びめぐってきた。▼雨があがったので、試合が再開された。▼病気が再発しないように気をつける。▼火のあつかいについて、再三注意された。▼再来年は、中学生になります。

なりたち －再 冓（＝木を、前後同じ形に組んだもの）の一方に「一」を加えてできた字。同じものごとがもう一つあることをあらわす。

災

7画〔火・3画〕〈ひ〉

おん サイ

くん わざわ*い

いみ わざわい。不幸なできごと。「災害・災難・火災・天災・戦災・人災・震*災」

使い方 ▼いつどんな災害にあってもいいように準備しておこう。▼とんでもない災難にあう。▼各地で火災が起こった。▼口は災いのもと（＝うっかり話したことが災難のもとになるということ）。

なりたち －災 巛（＝流れをせきとめる）と火（＝火）を組み合わせた字。順調な生活をはばむ大火のいみから、生活のじゃまをするものごとをあらわす。

妻

8画〔女・5画〕〈おんな〉 ↕夫 272

おん サイ

くん つま

いみ けっこんしている男女のうち、女の人。つま。「妻子・妻帯者・人妻・夫妻・先妻・後妻・愛妻家・良妻賢*母」

使い方 ▼「妻の久子です」と、父が母を会社の人にしょうかいした。▼おじは、妻子とはなれて、単身アメリカに住んでいる。▼山田夫妻は、元気にイギリスへ旅立っていった。▼かれは愛妻家といわれている。

なりたち －妻 （＝家の中の仕事をすること）と（＝かんざしをつけた女）を組み合わせて、家の中の仕事をする女をあらわした字。

採

11画〔扌・8画〕〈てへん〉

おん サイ

くん とる

いみ ❶指先でつまみとる。とる。とりあつめる。「採取・採集・採血・採光」❷えらんでとりあげる。「採決・採用」

使い方 ▼きのこを採る。▼植物採集をした。▼意見も出つくしたので採決に入ります。▼テストの採点。

参考 「採る」は、選んでとる。「取る」は、手でとる。「執*る」は、筆を持って仕事をする。「撮*る」は、写真をとる。「捕*る」は動物などをつかまえる。

なりたち －採－採（採） （＝手）と（＝手の先で芽をつみとるようす）を組み合わせてできた字。

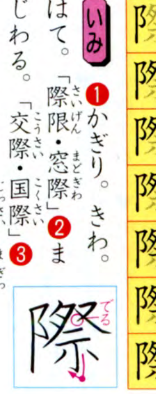
際

14画〔阝・11画〕〈こざとへん〉

おん サイ

くん *きわ

いみ ❶かぎり。きわ。はて。「際限・窓際」❷まじわる。「交際・国際」❸おり。ばあい。「実際・間際」



使い方 ▼この際、思いきって本当のことを言おう。▼会議が際限なく続いている。▼勝負は、土俵際であっけなくきまった。▼姉が、交際している人を母にしょうかいした。▼この夏、となりの市で国際会議が開かれることになった。▼これは実際にあった話です。

なりたち 阝（＝かべ）と祭（＝こすり合わせる）を組み合わせた字。かべとかべがすれあうほど、くっついていることをあらわす。

在

6画〔土・3画〕〈つち〉

おん ザイ
くん ある

在在在在在在

いみ ❶いる。ある。「在宅・在学・存在・不在・健在・現在」❷ふるさと。いなか。「在所・近在」

使い方 ▼財宝の在りかをさがし求める。▼アメリカに在住しているいとこをたずねた。▼お母さまはご在宅ですか。▼現在、在校生の数は七百人です。▼近郷近在（＝にぎやかな所の近くの村里）。

参考 にている字に「左」「存」などがある。

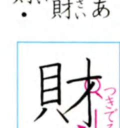
なりたち 土-Y-社-在 才（＝川の流れをとめるためにつくったせき）と土（＝つち）を組み合わせた字。

財

10画〔貝・3画〕〈かいへん〉

おん ザイ・*サイ
くん —

財財財財財財財財財財



いみ お金やねうちのある品物。「財産・財宝・財源・財界・財団・文化財・財布」

使い方 ▼祖父がのこした財産をうけつぐ。▼目もくらむような財宝。▼不景気で、市の財政も苦しい。▼私財をなげうって、青少年の育成につとめる。▼文化財の保護をうったえる。

注意 「材」と使いわけること。

なりたち 貝（＝お金）と才（＝ほどよく切ること）を組み合わせてできた字。ほどよくやりくりをして、生活に役立てることのできる、お金や品物のことをあらわす。

罪

13画〔罒・8画〕〈あみがしら〉

おん ザイ
くん つみ

罪罪罪罪罪罪罪



いみ きまりにそむくこと。悪い行い。「罪人・犯罪・無罪・謝罪・有罪・功罪・重罪」

使い方 ▼罪をおかす。▼せめてもの罪ほろぼし（＝罪のつぐない）に、その役はぼくがひきうけることにします。▼これまでにおかした数々の罪悪を告白する。▼犯罪がなくなるように努力する。▼裁判で無罪になった。▼つつしんでみなさまに謝罪申し上げます。

注意 「罰*」とまちがえないこと。

なりたち 罒（＝世の中にはりめぐらされている法のあみ）と、非（＝悪いこと）を組み合わせた字。

雑

14画〔隹・6画〕〈ふるとり〉

おん ザツ・ゾウ
くん —

雑雑雑雑雑雑雑

いみ ❶いりまじっている。また、いりまじってきちんとしていない。「雑貨・雑誌・雑音・雑用・雑念・雑談・雑草・雑木林・混雑・乱雑・複雑」❷ていねいでない。ざつ。「粗*雑」

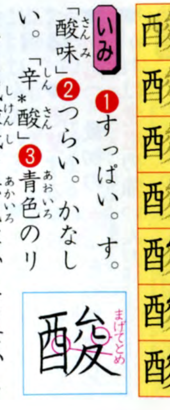
使い方 ▼近所の雑貨屋さんで買い物をする。▼この雑誌を毎月とっている。▼ラジオに雑音が入る。▼友だちと雑談した。▼乱雑なへやをかたづけた。▼雑な仕事ぶりだ。

なりたち 雜-雑（雑）のかわった形で、衣（＝衣服）と集（＝あつめる）を組み合わせた字。ぼろぎれを集めてつくった衣服をあらわす。

酸

14画〔酉・7画〕〈とりへん〉

おん サン
くん *すい





いみ ❶すっぱい。す。「酸味」❷つらい。かなしい。「辛*酸」❸青色のリトマス試験紙を赤色にかえるせいしつのあるもの。「酸性・酸類・塩酸」❹酸素のりゃく。「酸化」

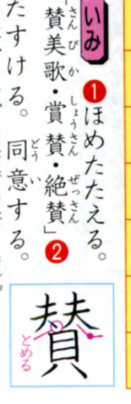
使い方 ▼このみかんは酸っぱい。▼世の辛酸をなめる（＝つらく苦しいめにあう）。▼塩酸のあつかいには注意が必要だ。▼金属が酸化することをさびるという。

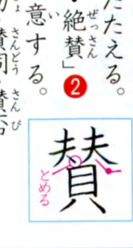
なりたち 夋（＝すらりとした人が立ったすがた）と酉（＝さけ）を組み合わせた字。きんにくやほねをやわらかくして、すらりとした体にするすっぱい液体のこと。

賛

15画〔貝・8画〕〈こがい〉

おん サン
くん —





いみ ❶ほめたたえる。「賛美歌・賞賛・絶賛」❷たすける。同意する。「賛成・賛意・賛助・賛同・賛否」

使い方 ▼よし子さんのピアノ演奏に、賞賛の拍*手がおくられた。▼かれの絵は、みんなから絶賛された。▼教会から美しい賛美歌が聞こえてきた。▼この案に賛成の人は、手をあげてください。

なりたち もとの字は「贊」。先（＝足先）を二つと貝（＝手に持った、神にそなえる品物）を組み合わせた字。まつりなどの儀*式のときに、中心になってすすめる人をわきから助けることをあらわす。

支

4画〔支・0画〕〈し〉

おん シ
くん ささえる

支支支支

いみ ❶ささえる。「支持・支柱・支点・支配・支援*」❷もとから分かれる。「支流・支店・支社・支線・支部・支出・支給」❸はらう。しはらう。「支気管支」❹さしつかえる。「支障」

使い方 ▼父は、若くして一家を支えてきた。▼先生の言葉が心の支えになった。▼わかいなえ木に支柱をそえる。▼銀行の支店ができた。▼今月は支出の多い月だ。▼しゅみは勉強に支障のないていどにする。

なりたち 竹のえだと手を組み合わせて、手に一本のえだをもつようすをあらわした字。

志

7画〔心・3画〕〈こころ〉

おん シ
くん こころざす・こころざし

志志志志志志志



いみ あることをしようと思う。また、その心。のぞみ。「志望・志願・意志・大志・有志・同志・遺志」

使い方 ▼兄は医者を志して勉強にはげんでいる。▼大きな志をたてる。▼志望する学校に合格した。▼初志(=最初の志)をつらぬく。▼かれは意志の強い人だ。

注意 「志をつぐ」「学問に志した」などの例のように、送りがなに気をつけること。

なりたち 士(=さししめす)と心(=こころ)を組み合わせた字。心のさししめすものということから、こころざしのいみとなった。

枝

8画〔木・4画〕〈きへん〉

おん シ*
くん えだ

枝枝枝枝枝枝枝枝

いみ ❶草木のえだ。「枝豆・枝葉・小枝・下枝」❷もとから分かれたもの。「枝道」

使い方 ▼庭に枝ぶりのいい松の木がある。▼枝葉末節(=本質的でないこと)にこだわるな。▼父が枝豆をつまみにビールを飲む。▼かれ枝を集めてたき火をした。▼話が枝道にそれた(=本すじからはずれた)。

注意 「技」とまちがえないこと。

なりたち 木(=木)と(=細い竹のえだを手に持つようす)を組み合わせた字。木のみきから分かれ出た細いえだのことをあらわす。

師

10画〔巾・7画〕〈はば〉

おん シ
くん ―

師師師師師師師師師師

いみ ❶人を教えみちびく人。先生。「師事・師弟・師匠*・教師・恩師・講師」❷そのことを職業にしている人。「医師・技師」

使い方 ▼おばは、中学校の教師をしています。▼恩師の教えを胸にきざみこむ。▼わたしの父は調理師として、母は美容師として、ともにいそがしくはたらいています。

なりたち 𠂤(=あつまり)と帀(=すみずみまで広く)を組み合わせた字。広く人々を集めた大きな団体をあらわす。のちに、人々を集めて教える人のいみになった。

資

13画〔貝・6画〕〈こがい〉

おん シ
くん ―

資資資資資資資資資資資資資

いみ ❶あることをするためのもとになるお金や品物。もとで。「資本・資金・資源・資産・資材・資料・学資・物資」❷生まれつきのからだや能力。「資質」❸地位。身分。「資格」

使い方 ▼資金を調達する。▼研究に必要な資料を集める。▼全国から、被*災地に救援*物資が送られる。▼いとこが看護師の資格をとった。▼豊かな資質にめぐまれる。

なりたち 貝(=お金や品物)と(=ざっとそろえる)を組み合わせた字。役立てるためにそろえたお金や品物をあらわす。

飼

13画〔食・5画〕〈しょくへん〉

おん シ
くん かう

飼飼飼飼飼飼飼飼飼飼飼飼飼



いみ 動物などをやしないそだてる。かう。「飼育・飼料・飼い主・飼い犬・飼い葉・放し飼い」

使い方 ▼妹は、金魚を三びき飼っている。▼飼い主に忠実な犬。▼馬が飼い葉おけに首をつっこんで、えさを食べている。▼わたしは五年生になって、飼育係にえらばれた。▼ぼくの仕事は、牛に飼料(=えさ)をやることです。

なりたち 司(=「シ」の発音をあらわす記号)と食(=食べ物)と、いみはあらわさない)を組み合わせてできた字。

五年

示

おん ジ・*シ
くん しめす

5画
〔示・0画〕
〈しめす〉

示示示示示

いみ 人に見せる。また、かくれたものを外にあらわして見せる。「展示・表示・指示・暗示・内示・公示・告示・訓示・示唆*」

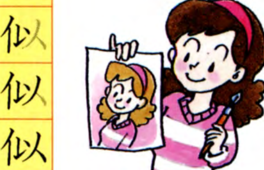
使い方 ▼最初に、先生が手本を示してみせた。▼でき上がった作品を会場に展示した。▼わかりやすく図示する。▼博物館の入り口に、館内の見取り図が表示してある。▼係員の指示にしたがって行動する。

なりたち 𣎆-示-示 神のみたまが天からくだってくる祭だんの形からできた字。祭だんに神の心がしめされることから、「しめす」のいみとなった。

似

おん *ジ
くん にる

7画
〔亻・5画〕
〈にんべん〉



似似似似似似似

いみ にている。「似顔・相似・近似・類似」

使い方 ▼父によく似た人を見かけた。▼ぼくと兄は、似た者どうして気が合います。▼母は和服がよく似合う。▼姉は似顔絵をかくのが得意です。▼類似の品(=よく似た品)に注意してください。▼練習問題と酷*似した(=たいへんよく似た)問題が試験に出た。

なりたち イ(=人)と以(=工作する)を組み合わせた字。人がさいくをして、物の形をととのえることをあらわす。うまくさいくをして、実物と同じものをつくることから、「にせる」「にる」のいみとなった。

識

おん シキ
くん ―

19画
〔言・12画〕
〈ごんべん〉

識識識識識識識

いみ ❶ものごとを見分ける。知る。また、その力。「識別・認識・面識・知識・意識・常識・学識」❷しるし。「標識」

使い方 ▼はば広い知識を身につけよう。▼優勝を意識して、きんちょうした。▼悪いことをしたら、あやまるのが常識(=ふつうの人がもっていなければならない知識)だ。

注意 「職」「織」とまちがえないこと。

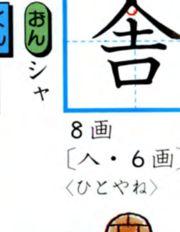
なりたち 𧬰-識 言(=ことば)と、戠(=目じるしのくい)を組み合わせてできた字。目じるしや名まえで区別して知ることをあらわす。

質

おん シツ・*シチ・*チ
くん ―

15画
〔貝・8画〕
〈こがい〉





質質質質質質質

いみ ❶もののなかみ。内容。「質量・物質」❷なかみのようす。生まれつき。「性質・気質・素質・本質」❸かざりけがない。「質素・質実」❹といただす。「質問」❺約束を守るしるしとしてあずける人や物。「質屋・人質」

使い方 ▼この物質から、いろいろな薬品がつくられる。▼品質のよさは保証します。▼質素だが、清潔な身なりをした人。▼わからない点は、えんりょなく質問してください。▼犯人が人質を解放した。

なりたち 所(=重さが同じ)と貝(=お金や品物)を組み合わせた字。お金につり合う品物のこと。

舎

おん シャ
くん ―

8画
〔人・6画〕
〈ひとやね〉





舎舎舎舎舎舎舎舎

いみ いえ。たてもの。また、やど。「校舎・宿舎・官舎・兵舎・牛舎・田舎★」

使い方 ▼古い校舎の改築が行われています。▼修学旅行の宿舎は、大きな旅館でした。▼父が役所につとめているので、わたしの家は官舎(=役人用のすまい)です。▼夕方に なったので、放牧していた牛を牛舎(=牛小屋)に入れた。▼列車が、田舎に帰る人でこみ合っている。

なりたち もとの字は「舍」。𠆢(=ゆったりとしてゆとりのあること)と口(=四角い場所)を組み合わせてできた字。手足をのばしてくつろぐことをあらわす。

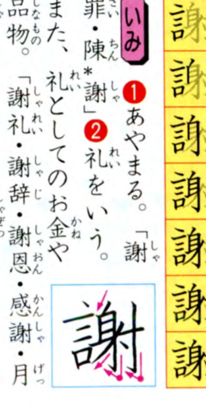
謝

おん シャ
くん *あやまる

17画
〔言・10画〕
〈ごんべん〉







謝謝謝謝謝謝謝

いみ ❶あやまる。「謝罪・陳*謝」❷礼をいう。また、礼としてのお金や品物。「謝礼・謝辞・謝恩・感謝・月謝」❸ことわる。「謝絶」

使い方 ▼自分の非をみとめて謝った。▼卒業式のあと、先生をかこんで謝恩会が開かれた。▼感謝の手紙が寄せられた。▼病室のドアに「面会謝絶」のふだがかかっている。

なりたち 𧪄-謝 言(=ことば)と、射(=はりつめた弓から矢をはなつようす)を組み合わせた字。お礼やおわびをいって、はりつめた気持ちがらくになること。

漢字のちしき 「耕」の暗記法。「三つの|を八(ふりはらい)井戸のまわりを耕す」

授

おん ジュ
くん *さずける・*さずかる

11画 〔扌・8画〕〈てへん〉

授授授授授授授授

いみ あたえる。さずける。また、もらう。さずかる。「授業・授賞・授乳・授与*・伝授・教授」

使い方 ▼女王が勲*章を授ける。▼一時間目の授業は算数です。▼ホテルで、記念品の授受が行われた。▼新人賞の授賞式がもよおされた。▼おじは大学の教授です。▼赤ちゃんは天からの授かり物（＝いただき物）だという。

注意 「授賞」は、賞（＝ほうび）をあたえること。「受賞」は、賞をもらうこと。

なりたち 扌（＝手）と受（＝ものをうけとる）を組み合わせた字。

修

おん シュウ・*シュ
くん おさめる・おさまる

10画 〔イ・8画〕〈にんべん〉



修修修修修修修修

いみ ❶学問や正しい行いなどを身につける。「修得・修行・修業（しゅぎょう）・修養・自修・研修」❷ととのえる。なおす。「修正・修理・修飾*・改修」

使い方 ▼お花の学問を修める。▼修業（＝わざをならうこと）をする。▼姉は、きのうから修学旅行に行っています。▼文章の一部を修正する。▼うちの車は今、修理に出ています。

なりたち 攸（＝人のせなかに水をそそいで行水をさせるようす）と彡（＝かざり）を組み合わせた字。なめらかに細長く形がととのうことをあらわす。

述

おん ジュツ
くん のべる

8画 〔辶・5画〕〈しんにょう〉

述述述述述述述述

いみ 話したり書いたりする。のべる。「述語・著述・記述・前述」

使い方 ▼調査の結果は、今、わたしが述べた通りです。▼主語と述語の関係をつかむ。▼かれの著述（＝書きあらわした本）には、きょうみ深いものが多い。▼会議の内容を、正確に記述する。▼わたしの希望は、前述（＝前に述べたこと）のとおりです。

注意 「迷」とまちがえないこと。

なりたち 朮（＝くっついてはなれない）と辶（＝進む）を組み合わせた字。今までのすじ道にそって進むことをあらわす。



五年

術

おん ジュツ
くん ―

11画 〔行・5画〕〈ぎょうがまえ〉

術術術術術術術術

いみ わざ。やりかた。方法。「技術・手術・美術・芸術・秘術・話術・忍*術」

使い方 ▼すぐれた技術を身につける。▼盲*腸の手術をするため、入院した。▼平安時代の美術品を見た。▼芸術に国境はない。▼あの人の話術（＝話のしかた）はすばらしい。▼兄は大学の馬術部に入った。▼相手の術中におちいる（＝相手の計略にひっかかる）。

なりたち 行（＝みち・やりかた）と朮（＝いるようす）を組み合わせた字。人が守ってきた、昔からのやりかた。あわのほに、実がくっついて

準

おん ジュン
くん ―

13画 〔氵・10画〕〈さんずい〉



準準準準準準準準

いみ ❶ものごとのめやすとなるもの。手本。また、それにしたがう。ならう。「基準・規準・標準・水準・準拠*」❷そなえる。「準備」❸主となるものにつぐ。「準決勝・準会員」

使い方 ▼この赤ちゃんの体重は、標準をこえている。▼生活の水準（＝ものごとの、ていど）が向上した。▼六年生が、運動会の準備をしている。▼準急電車が通過した。

なりたち 氵（＝水）と、隼（＝下ぶくれの鳥）と十（＝そろえる）を組み合わせた字。下にたまった水の表面をもとにして、高さをそろえること。

五年

漢字の知識

● 形の似ている漢字
形の似た漢字を、正しく書き分けましょう。（読みがなは音読み）

木（ぼく）―本（ほん）　字（じ）―宇（う）　人（じん）―入（にゅう）　牛（ぎゅう）―午（ご）　矢（し）―失（しつ）　数（すう）―教（きょう）　決（けつ）―快（かい）　場（じょう）―湯（とう）　全（ぜん）―金（きん）　市（し）―布（ふ）　貨（か）―貸（たい）　着（ちゃく）―看（かん）　住（じゅう）―往（おう）　徒（と）―従（じゅう）　説（せつ）―設（せつ）　枝（し）―技（ぎ）　浅（せん）―残（ざん）　弟（てい）―第（だい）

休（きゅう）―体（たい）　土（ど）―士（し）　氷（ひょう）―永（えい）　力（りき）―刀（とう）　古（こ）―舌（ぜつ）　考（こう）―孝（こう）　村（そん）―材（ざい）　池（ち）―地（ち）　大（だい）―犬（けん）　思（し）―恩（おん）　輪（りん）―輸（ゆ）　朝（ちょう）―期（き）　緑（りょく）―録（ろく）　度（ど）―席（せき）　支（し）―文（ぶん）　心（しん）―必（ひつ）　道（どう）―通（つう）　使（し）―便（べん）

十（じゅう）―丁（てい）　万（まん）―方（ほう）　右（う）―左（さ）　貝（ばい）―見（けん）　苦（く）―若（じゃく）　因（いん）―困（こん）　拾（しゅう）―捨（しゃ）　九（きゅう）―丸（がん）　友（ゆう）―反（はん）　積（せき）―績（せき）　適（てき）―敵（てき）　持（じ）―特（とく）　民（みん）―氏（し）　論（ろん）―輪（りん）　目（もく）―月（げつ）　放（ほう）―牧（ぼく）　綿（めん）―線（せん）　存（そん）―在（ざい）

夫（ふ）―天（てん）　千（せん）―干（かん）　田（でん）―由（ゆう）　手（しゅ）―毛（もう）　皿（さら）―血（けつ）　鳥（ちょう）―島（とう）　員（いん）―買（ばい）　王（おう）―玉（ぎょく）　間（かん）―問（もん）　未（み）―末（まつ）　委（い）―季（き）　宮（きゅう）―官（かん）　広（こう）―拡（かく）　計（けい）―討（とう）　小（しょう）―少（しょう）　券（けん）―巻（かん）　者（しゃ）―著（ちょ）　以（い）―似（じ）

漢字のちしき 「務」の暗記法。「マア、ノ（ちょいと）夂（のぶん）だけ力かすのも務め」

序

7画 〔广・4画〕〈まだれ〉

おん ジョ

くん ―

いみ ❶じゅんばん。「序列・順序・秩*序」❷ものごとのはじめ。いとぐち。「序曲・序の口・序文」

使い方 ▼下の学年から順序よくならんでください。▼オペラの序曲が聞こえてきた。▼このていどの寒さなんて、まだまだ序の口だ。▼卒業文集の序文を、校長先生におねがいする。

なりたち 序－序 广(=いえ)と予(=のびる)を組み合わせた字。家の中心の建物から、りょうわきにのびた建物のこと。つぎつぎに長くのびていくことをあらわす。

招

8画 〔扌・5画〕〈てへん〉

おん ショウ

くん まねく



いみ 自分のところによぶ。まねく。「招集・招待・招来」

使い方 ▼近所のお年寄りを招いて、昔話を聞かせてもらった。▼姉が、校門のところで手招きをしている。▼両親が、パーティーに招待されて出かけた。▼いとこの結婚式の招待状がとどいた。▼みんなを招集して(=よび集めて)、会議を開いた。▼ちょっとした不注意が、事故を招来する(=ひきおこす)。

なりたち 扌(=手)と召(=よびよせる)を組み合わせてできた字。手でまねきをして、人をよびよせることをあらわす。

承

8画 〔手・4画〕〈て〉

おん ショウ

くん うけたまわる*

いみ ❶ききいれる。「承知・承服・了*承・承認・承諾*・不承」❷うけつぐ。「伝承・継*承」

使い方 ▼ご注文を承ります。▼わたしのたのみを、快く承知していただいた。▼来年度の予算が承認された。▼古くからこの地方に伝承されているおどりを見た。▼王位を継*承した。

注意 送りがなをまちがえないこと。

なりたち 承－承 卩(=人がひざをついた形)と廾(=両手)と手(=手)を組み合わせた字。ひざまずき、両手をさしあげ、物を受けるようすをあらわす。

五年

証

12画 〔言・5画〕〈ごんべん〉

おん ショウ

くん ―



いみ 事実であることを明らかにする。また、そのよりどころとなるものや書類。「証明・証人・保証・実証・立証・証言・証拠*・証書・学生証」

使い方 ▼かれの説が正しいことが、証明された。▼ぼくがきみの証人になるよ。▼かれの人がらは、わたしが保証します。▼みんなの前で、正夫くんにつみがないことを証言した。▼卒業証書をもらう。

なりたち 言(=ことば)と正(=ただす)を組み合わせた字。意見を言って、まちがったところを正しくすることをあらわす。別の字の「證」のかわりに使うようになった。

条

7画 〔木・3画〕〈き〉

おん ジョウ

くん ―






いみ ❶すじ。また、すじみち。「条理・信条」❷ひとくぎりずつ書きわけたもの。ことがら。「条約・条文・条例・条件・第一条」

使い方 ▼わたしの信条(=信じてまもっていること)は「誠実」です。▼二国間で条約を結ぶ。▼かれの意見には、無条件で賛成だ。▼問題点を箇*条書きにしてまとめた。

なりたち 條－條(条) もとの字は「條」。攸(=人のせなかに細く長く水をかけるようす)と、木(=き)を組み合わせた字。細長い木のえだのことをあらわす。

状

7画 〔犬・3画〕〈いぬ〉

おん ジョウ

くん ―



いみ ❶すがた。ありさま。「状態・状況*・現状・白状・病状・液状」❷手紙・文書。「書状・状差し・招待状・礼状・年賀状・賞状」

使い方 ▼風が強く、立って歩けるような状態ではない。▼正直に白状しなさい。▼現状を報告します。▼友だちから年賀状がとどいた。▼校長先生に賞状をいただく。

なりたち 狀－狀(状) もとの字は「狀」。爿(=細長い寝台)と犬(=犬)を組み合わせた字。すらりとして細長い犬のすがたから、「ありさま」「ようす」をあらわす。

五年

常

おん ジョウ
くん つね・*とこ
11画〔巾・8画〕〈はば〉

いみ ❶いつも。ふだん。「常設・常温・常備・常用・常連・常夏・日常・平常・非常・無常」❷ふつうの。「常識・正常・異常」

使い方 ▼常に前向きに生きていく。▼このすいじ場は、常時（＝いつも）お湯が使えるようになっている。▼おばは、常夏の島ハワイに住んでいる。▼非常口をたしかめておく。▼機械に異常はない。

なりたち 尚（＝「ショウ」の音をあらわす）と巾（＝ぬの）を組み合わせた字。長いスカートのことをあらわす。のちに、「時間が長い」「長く続く」のいみになった。

情

おん ジョウ・*セイ
くん なさけ
11画〔忄・8画〕〈りっしんべん〉



いみ ❶気持ち。また、思いやりの気持ち。「情熱・愛情・感情・心情・強情・表情・同情・人情」❷ありさま。ようす。「情景・情勢・情報・実情・事情」❸おもむき。「風情」

使い方 ▼かれは情けぶかい人だ。▼音楽に情熱をそそぐ。▼かれは同情されるのを喜ばない。▼正確な情報を伝える。▼ちょっと事情があって、出席できません。▼古い寺には何ともいえない風情がある。

なりたち 忄（＝こころ）と青（＝もとになる）を組み合わせてできた字。心のもとになる気持ちのことをあらわす。

織

おん *ショク・シキ
くん おる
18画〔糸・12画〕〈いとへん〉



いみ ❶布をおる。また、布。「織物・織機・紡*織・手織り・西陣*織」❷組み立てる。組み合わせる。「組織」

使い方 ▼「夕づる」のぶたいで、つうが機を織る音が聞こえる。▼自動織機で布を織る。▼美しい手織りの花びんしきをもらった。▼羽織（＝和服の上に着る、たけの短い上着）のひもを結ぶ。▼会社の組織（＝しくみ）をあらためる。

注意 「識」「職」とまちがえないこと。

なりたち 糸（＝いと）と戠（＝目じるし）を組み合わせてできた字。糸を結び合わせて折り目を目立つようにすることで、はたをおる動作のこと。

職

おん ショク
くん —
18画〔耳・12画〕〈みみへん〉

いみ つとめ。やくめ。しごと。「職業・職務・職員・職人・就職・辞職」

使い方 ▼手に職をつける。▼大きくなったらどんな職業につこうかと、あれこれ考える。▼職員室は、あちらです。▼職人かたぎ（＝職人に多く見られる、よい仕事をするためにだきょうしない性格）の人。▼いとこは、就職が決まった。

注意 「織」「識」とまちがえないこと。

なりたち 職 - 職　耳（＝耳）と戠（＝口で言うかわりに目じるしをつけて区別する）を組み合わせた字。よくわかっている仕事のことをあらわす。

制

おん セイ
くん —
8画〔刂・6画〕〈りっとう〉

いみ ❶さだめる。きそく。「制定・制度・制服・体制」❷おさえる。とどめる。「制止・制限・強制・管制・規制・自制心」❸つくる。「制作」

使い方 ▼新しい法律が制定された。▼悪い制度は、すぐにあらためることがだいじだ。▼道路では制限速度を守ろう。▼卒業制作のへき画をつくった。

参考 「制作」は、絵やちょうこくなどをつくること。「製作」は、品物をつくること。

なりたち 未（＝木材を切る）と刂（＝刀）を合わせた字。刀で必要な部分を切りとり、ほかはすてること。

性

おん セイ・*ショウ
くん —
8画〔忄・5画〕〈りっしんべん〉

いみ ❶うまれつき。きだて。「性質・性格・性分・気性・根性・相性・適性・個性・理性・天性・習性・野性」❷物の特ちょう。状態。程度。「性能・急性・安全性・公共性」❸男と女のくべつ。「性別・男性・女性」

使い方 ▼兄弟でも、性格はまったく逆だ。▼きちんとしなければすまない性分（＝性質）だ。▼性能のすぐれた機械。▼親切な女性に目的地まで案内してもらった。

なりたち 忄（＝こころ）と生（＝うまれる）を組み合わせた字。生まれたままの心や性質のことをあらわす。

五年

漢字のちしき　漢字の音読みをかなで書くと１～３字であって、４字以上のものはない。

政

おん セイ・*ショウ
くん *まつりごと

9画〔攵・5画〕〈ぼくにょう〉

いみ ❶世の中をおさめること。「政治・政策・政界・政見・政府・政党・王政・行政・参政権」❷ものごとをきまり通りやること。「財政」

使い方 ▼武士の時代は、将軍が政(=政治)を行った。▼各党の政策をひかくしてみる。▼テレビで、選挙の政見放送を見た。▼政府の考えを問いただす。▼今は、財政のたてなおしが急がれる。

なりたち ―政 正(=まっすぐ進む)と攵(=動詞の記号)を組み合わせてできた字。まっすぐにととのえることをあらわす。

勢

おん セイ
くん いきおい

13画〔力・11画〕〈ちから〉



いみ ❶いきおい。ちから。「勢力・優勢・気勢・加勢」❷ようす。「形勢・情勢・姿勢・運勢」❸集まった人々。「大勢・総勢」

使い方 ▼合図とともに、勢いよく走り出した。▼台風は勢力をましつつ北上中です。▼試合は味方が優勢だった。▼満るいホームランを打たれて、形勢が逆転した。▼よい姿勢でつくえに向かう。

なりたち 埶(=木を植えて形をととのえる)と力(=ちから)を組み合わせた字。力を加え、形をととのえることから、自分ではどうにもならない外からの力をあらわす。

精

おん セイ・*ショウ
くん ―

14画〔米・8画〕〈こめへん〉

いみ ❶白くする。また、まじりものをとりさる。「精米・精製・精選」❷心。たましい。「精神・精進」❸こまかい。くわしい。「精密・精算・精通・精巧*」❹いきおい。元気。「精力」

使い方 ▼さとうを精製する(=まじりけのないものにする)。▼よい作品を精選して文集にのせる。▼精進(=一心に努力すること)のかいがあって、実力がついた。▼精力的に活動する人。

注意 「清」とまちがえないこと。

なりたち 米(=こめ)と青(=すみきってよごれがない)を組み合わせた字。きれいにした白米のこと。

製

おん セイ
くん ―

14画〔衣・8画〕〈ころも〉

いみ こしらえる。つくる。「製作・製造・製品・製材・製法・製図・手製・作製・精製・複製・調製」

使い方 ▼これはスイス製の時計です。▼プラモデルを製作する。▼新製品が開発された。▼海岸ぞいに製油所がたちならんでいる。▼姉の手製のマフラーをもらった。

参考 「制」と区別して使うこと。「製作」は、物や設備をつくること。「制作」は、芸術作品をつくること。

なりたち 制(=のびていくえだをとちゅうで切る)と衣(=布)を組み合わせた字。布をたち切って、着物にしたてることをあらわす。

税

おん ゼイ
くん ―

12画〔禾・7画〕〈のぎへん〉

いみ 国・都道府県・市町村が、おおやけの仕事をする費用として、国民や住民にわりあててとるお金。「税金・税関・税収・税務署・納税・国税・減税」

使い方 ▼納税(=税金を納めること)は、国民の義務です。▼国際空港には税関(=輸出入品の税金をとるところ)がある。▼住民税を納める。

なりたち ―税(稅) 禾(=作物)と、兌(=人の着物をはぎとること)を組み合わせてできた字。取り入れた作物の一部をぬきとることをあらわす。

責

おん セキ
くん せめる

11画〔貝・4画〕〈こがい〉



いみ ❶せめる。とがめる。「自責」❷つとめ。ぎむ。「責任・責務・重責」

使い方 ▼エラーしたからといって、そんなに自分を責めることはない。▼上級生は責任ある行動をとるように。▼無責任なことをいうものではない。▼自分の責務を忠実に実行する。▼わたしは二年間、会長の重責を果たしました。

なりたち ―責 朿(=先のとがったとげでさす)と貝(=お金)を組み合わせた字。お金の貸し借りのことで、相手をとげでさすように、ちくちくとせめることをあらわす。

漢字のちしき 漢字の音を、かなで書いて2字のものの2字目は、327ページの11字のみ。

績

17画 〔糸・11画〕〈いとへん〉

おん セキ
くん ——

いみ ❶わたや、まゆから糸をとる。つむぐ。「紡*績」❷仕事。また、そのできばえ。「成績・実績・業績・功績」

使い方 ▼この町には、むかしから紡*績工場(=糸をつむぐ工場)が多い。▼最近、成績があがってきた。▼父の会社は最近、業績がよいそうだ。▼平和のためにつくした、かれの功績(=てがら)は大きい。

注意 「積」とまちがえないこと。

なりたち 纘-績 糸(=糸)と、責(=借金がつもること)を組み合わせてできた字。横糸をつみ重ねて布をおっていくことをあらわす。

接

11画 〔扌・8画〕〈てへん〉

おん セツ
くん つ*ぐ

いみ ❶近づく。「接近・接戦・近接」❷つなぐ。また、つながる。「接着・接合・接続・直接・間接」❸もてなす。「接待・応接」

使い方 ▼台風が日本列島に接近している。▼接戦の末勝った。▼つばきの接ぎ木(=切り取った木の芽やえだをほかの木につなぎ合わせて育てること)。▼予防接種をする。▼お客様を応接間にお通しする。▼直接、先生にお話ししてみるよ。

なりたち 扌(=手)と妾(=男の人のそばで働く女の人)を組み合わせた字。相手にくっついてものごとをすることをあらわす。

設

11画 〔言・4画〕〈ごんべん〉

おん セツ
くん もう*ける

いみ ❶そなえつける。新しくつくる。「設備・設置・設計・設立・建設・施*設」❷用意しておく。「設問」

使い方 ▼お年寄りのための席を設ける。▼父は会社で設備のととのった病院の設計の仕事をしています。▼新しく会社が設立された。▼大きなダムが建設されている。▼次の設問に答えなさい。

注意 「説」「投」とまちがえないこと。

なりたち 䛒-設-設 ▽(=のみ)と ♀(=ぼう)と 又(=手)を組み合わせた字。のみでだいたいの形をつくることをあらわす。

舌

6画 〔舌・0画〕〈した〉

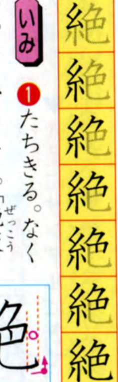
おん *ゼツ
くん した

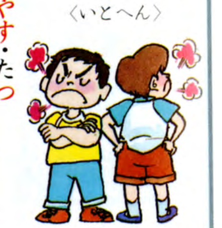
いみ ❶した。べろ。「舌先・舌つづみ」❷ことばを話すこと。「舌戦・弁舌・毒舌・筆舌」

使い方 ▼熱いおしるこを食べて、舌をやけどした。▼「ちぇっ」と舌打ちする。▼舌ざわりのいいアイスクリーム。▼弟はねこ舌です。▼妹が、まだ舌足らずの口調でしゃべる。▼弁舌さわやかにのべる。

なりたち 𠯑-舌 干(=ふたまたのぼう)と口(=くち)を組み合わせてできた字。口の中で自由に動かすことのできる、ぼうのような「した」をあらわす。

絶





12画 〔糸・6画〕〈いとへん〉

おん ゼツ
くん た*える・た*やす・た*つ

いみ ❶たちきる。なくす。また、たえる。「絶交・絶食・断絶・根絶・絶命・気絶」❷ことわる。「謝絶・拒*絶」❸ひじょうにすぐれている。また、ひじょうに。まったく。「絶景・絶唱・絶好・絶大・絶無・絶対・絶滅*」❹へだてる。「絶海」❺けわしい。「絶壁*」

使い方 ▼夜になると、人通りが絶える。▼ゆうべから絶食している。▼ながめは絶景(=すばらしい景色)だ。

なりたち 絕-絶(絶) 糸(=糸)と 刀(=刀)と ㄗ(=人のすがた)を組み合わせた字。刀で、糸や人をすっぱりと横に切ることをあらわす。

銭





14画 〔金・6画〕〈かねへん〉

おん セン
くん ぜに*

いみ ❶お金。「金銭・古銭・小銭」❷お金の単位。一銭は一円の百分の一。「一銭・銭湯」

使い方 ▼金銭のことでもめるのはいやだ。▼パンを買ってつり銭を受けとる。▼神社におまいりして、おさい銭をあげた。▼バスに乗るときは小銭(=こまかいお金)を用意しておく。▼銭湯のえんとつから、けむりが上がっている。

なりたち もとの字は「錢」。金(=金属)と戔(=小さくけずる)を組み合わせた字。小さな銅のきれはしのことをあらわし、のちに、銅でつくったお金のいみになった。

祖

9画〔ネ・5画〕〈しめすへん〉

おん ソ

くん —

いみ ❶父母の親。「祖父・祖母」❷何代も重ねた昔の人。「祖先・先祖」❸あるものごとをはじめた人。また、もとになるもの。「開祖・始祖・教祖・祖国・元祖」

使い方 ▼夏休みには、いなかの祖父母の家に行く。▼人類の祖先について考える。▼おぼんやおひがんは、先祖のれいをまつる行事だ。▼真言宗の開祖は空海だ。▼祖国(自分が生まれ育った国)を追われた人々。

なりたち ネ(=もとは「示」で祭だんをあらわす)と且(=物をかさねる)を組み合わせた字。何代も続いているせんぞのことをあらわす。

素

10画〔糸・4画〕〈いと〉

おん ソ・*ス

くん —

いみ ❶ものやことがらのおおもとになるもの。「元素・水素・要素」❷もとのままの。かざりけがない。ただそれだけの。「素材・素質・素顔・素直・質素」❸ふだんの。「素行・平素」

使い方 ▼衣・食・住は、生活の三要素といわれる。▼素質にめぐまれた選手。▼素足にサンダルばきで、お使いに行った。▼知り合いの家の前を素通りする。▼質素な生活を送る。▼平素から健康に気をつける。

なりたち 龶(=「垂」(=たれる)をりゃくした形)と糸(=いと)を組み合わせた字。一すじずつたれた、糸のもとになるせんいのこと。

総

14画〔糸・8画〕〈いとへん〉

おん ソウ

くん —

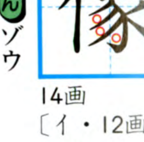
いみ ❶全体を一つにまとめる。おさめる。また、まとめて。「総合・総会・総務・総称*・総裁・総理」❷全体。すべて。「総員・総数・総画・総意・総額・総勢」

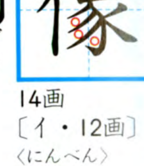
使い方 ▼父母会の総会が開かれる。▼市の総合病院に行った。▼旅行の費用の総額を計算する。▼びわ湖は、総面積約六百七十一平方キロメートルもある大きな湖です。

なりたち 總-總(総)と糸(=糸)と悤(=たくさんの用事を引き受けていそがしい)を組み合わせた字。一つにまとめることをあらわす。

造

10画〔⻌・7画〕〈しんにょう〉





おん ゾウ

くん つくる

いみ ものをこしらえる。「造形・造成・造花・造化・造船・造本・製造・人造・改造・構造・模造紙」

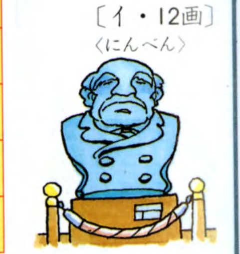
使い方 ▼日本酒は米から造る。▼山を切りくずして、宅地(=家を建てるための土地)を造成する。▼ふくざつな構造の機械。▼古い木造の建物がとりこわされる。

参考 「造る」は、機械などを使って大型のものをこしらえる。「作る」は、小さなものや文章をこしらえる。

なりたち 告(=くっつける)と⻌(=足の動作)を組み合わせた字。「材料をくっつけ合わせる」といういみをあらわす。

像

14画〔イ・12画〕〈にんべん〉

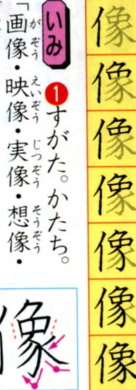


おん ゾウ

くん —

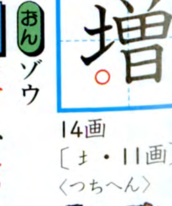
いみ ❶すがた。かたち。「画像・映像・実像・想像・現像」❷にせてつくる。また、そのもの。「仏像・銅像・自画像・肖*像画」

使い方 ▼テレビの映像がみだれている。▼中学生になった自分を、あれこれと想像する。▼写真を現像する。▼お寺の本堂に、古い仏像がある。▼かがみを見ながら自画像をかく。

なりたち  象(=ぞう)と亻(=人)を組み合わせた字。ぞうは、大きくてすがたが目立つところから、人や物のすがたや形をあらわす。

増

14画〔土・11画〕〈つちへん〉

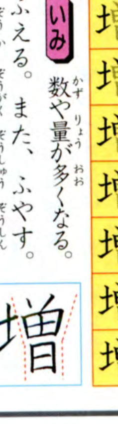


おん ゾウ

くん ます・ふえる・ふやす

いみ 数や量が多くなる。ふえる。また、ふやす。「増加・増額・増収・増進・増減・増築・急増・水増し」

使い方 ▼きのうの雨で、川の水かさが増した。▼かぜで休む人が増えてきた。▼おこづかいを少し増やしてもらおう。▼この町の人口は、年々増加している。▼健康を増進するために、ジョギングをしている。▼祖母のためにはなれを増築した。

なりたち   增-增(増)と土(=つち)と曾(=こくもつを入れ、何だんも重ねてふかすうつわ)を組み合わせた字。土を上へ上へとつみ重ねること。

漢字のちしき 漢字の音を、かなで書いて３字のものの２字目は、ャ・ュ・ョのみ。

則

おん ソク

くん ―

9画〔刂・7画〕〈りっとう〉

いみ きまり。さだめ。また、手本。「規則・法則・原則・校則・会則・鉄則・反則・教則本」

使い方 ▼会の**規則**にしたがう。▼自然界の**法則**にしたがう。▼短歌は**原則**として、三十一音で表現される。▼もう一回**反則**をすると、失格です。▼**変則的**なスケジュール。

参考 「刂」は、刀を立てた形からきたので「立刀」という。

なりたち 貝(=うつわのいみをもつ「鼎」をりゃくしたもの)と刂(=刀)を組み合わせた字。刀でうつわにやくそくのことばをほりつけることで、「きそく」のいみをあらわす。

測

おん ソク

くん はかる

12画〔氵・9画〕〈さんずい〉



いみ ❶深さ・きょりなどをしらべる。はかる。「測定・測量・目測・観測」❷おしはかる。「予測・推測」

使い方 ▼音波で海の深さを**測る**。▼工事に入る前に、まず土地を**測量**する。▼川のはばを**目測**した。▼父のしゅみは天体の**観測**だ。▼台風の進路を**予測**する。

注意 「側」「則」とまちがえないこと。

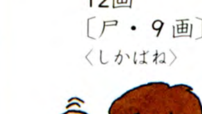
なりたち 𣶒-測 氵(=水)と則(=食器のそばにナイフをくっつけておく)を組み合わせた字。ものさしや基準となるものをそばにつけて、水の深さをはかることをあらわす。

属

おん ゾク

くん ―

12画〔尸・9画〕〈しかばね〉





いみ ❶つく。したがう。「属国・付属・所属・従属・専属・配属・直属」❷なかま。「金属」

使い方 ▼妹は、私立の小学校に**付属**しているようち園に入った。▼ぼくは、野球部に**所属**している。▼いとこは、入社後営業部に**配属**された。▼ライオンは、ねこ科に**属する**動物だ。▼**貴金属**を金庫にしまう。

なりたち 屬-屬(属) 尾(=しっぽ)と、蜀(=くわの葉にくっついてはなれない、目の大きい虫)を組み合わせた字。くっついてはなれないことをあらわす。

率

おん *ソツ・リツ

くん ひきいる

11画〔玄・6画〕〈げん〉

いみ ❶ひきつれる。ひきいる。「率先・引率・統率」❷ありのまま。「率直」❸かるがるしい。「軽率」❹わりあい。「比率・倍率・確率・利率・能率・百分率」

使い方 ▼保母さんに**率い**られて、園児たちが歩く。▼**率直**(=かざらずありのまま)な意見を述べる。▼**軽率な**(=かるがるしい)行動をとるな。▼宝くじに当たる**確率**は低い。

なりたち 𤣥-率 と十(=まとめる)と𢆶(=細いひも)と八(=はみ出たものを左右にはらいとる)を組み合わせた字。はみ出ないように中心にまとめること。

損

おん ソン

くん *そこなう・*そこねる

13画〔扌・10画〕〈てへん〉

いみ ❶すくなくなる。へる。うしなう。「損失・損得・欠損」❷きずつける。また、じゅうぶんにできない。そこなう。「損傷・破損」

使い方 ▼かれがやめてしまったのは、チームにとって大きな**損失**だ。▼冷夏で、観光地は大きな**損害**をこうむった。▼台風のため、橋が**破損**してわたれない。▼むりをして健康を**損なわ**ないようにしなさい。

なりたち 𢫦-損 扌(=手)と員(=口のまるくあいたうつわ)を組み合わせた字。まるいあなをあけて、へらすことをあらわす。

退

おん タイ

くん しりぞく・しりぞける

9画〔辶・6画〕〈しんにょう〉

↕ 進 180

いみ ❶うしろへさがる。また、今いる場所から引きさがる。「後退・退去・退出・退散」❷職などをやめる。また、ことわる。「退職・引退・辞退」❸ほろぼす。おいはらう。「退治・撃退」❹おとろえる。「退化」

使い方 ▼危険ですから、すみやかに**退去**してください。▼じゃま者は**退散**(=その場から**立ち退く**こと)しよう。▼予定より早く**退院**した。▼横綱*が**引退**した。▼害虫を**退治**する。

なりたち 𨒂-退 日(=太陽)と、夂(=とまりがちな足)と辶(=進む)を組み合わせた字。足がとまって進まないことをあらわす。

漢字のちしき 「酸」は「す」のこと。すは酒からつくるので、「酉」がついている。

貸

おん *タイ
くん かす

12画 〔貝・5画〕〈こがい〉 ↔ 借 247

貸貸貸貸貸貸貸貸



いみ じぶんの物を人に使わせる。かす。「貸し借り・貸家・貸借・賃貸」

使い方 ▼秋の旅行は、貸し切りバスで行くことになった。▼友だちと本の貸し借りをする。▼わたしの家族は、賃貸（＝料金を取って貸すこと）マンションに住んでいます。

注意 ㋐「貸す」と「借りる」はまぎらわしい。㋑「貸間」「貸家」などには「し」を送らない。㋒「貨」とまちがえないこと。

なりたち 代（＝かたがわりする）と貝（＝お金や品物）を組み合わせた字。財産の持ち主が、しばらく別の人にかわることをあらわす。

態

おん タイ
くん —

14画 〔心・10画〕〈こころ〉

態態態態態態態態





いみ 心がまえや身がまえ。また、すがた。ありさま。「態度・態勢・形態・状態・生態・実態・事態」

使い方 ▼授業中の態度をほめられた。▼新入生の受け入れ態勢をととのえる。▼民族によって、文化の形態はことなっている。▼健康状態には、つねに気をくばっています。▼ありの生態（＝生きて育つようす）を観察する。

なりたち 能（＝できる）と心（＝こころ）を組み合わせた字。自分は、このようにしていくという、心がまえをあらわす。のちに、「すがた」や「ようす」のいみになった。

団

おん ダン・*トン
くん —

6画 〔囗・3画〕〈くにがまえ〉

団団団団団団



いみ ❶まるい。また、まるいもの。「団子」❷集まってひとかたまりになる。また、あつまり。「団結・団体・団地・団長・団員・集団・劇団・楽団」

使い方 ▼月見に団子をそなえた。▼みんなで団結してたたかう。▼母は、団体旅行で温泉に行っている。▼わたしの家族は団地に住んでいます。▼毎朝、集団で登校している。▼人形劇の劇団の公演を見た。▼お客様に座布団をすすめた。

なりたち もとの字は、「團」。囗（＝かこむ）と専（＝まるい）を組み合わせた字。まるくかこんだものをあらわす。

五年

断

おん ダン
くん *たつ・ことわる

11画 〔斤・7画〕〈おのづくり〉

断断断断断断断

いみ ❶たちきる。やめる。たつ。「断食・断水・断絶・断続・切断・横断」❷きっぱりきめる。「断定・断言・決断・判断」❸おしきって行う。「断固・断行」❹ことわる。「無断」

使い方 ▼利害関係を断ち切った。▼工事のため、一時間断水します。▼ものごとを正しく判断する。▼友だちのさそいを断る。

参考 「絶つ」は「やめる」「なくす」。

なりたち －斷（断） （＝糸を四つとそれを切るしるし）と （＝おの）を組み合わせた字。糸のたばをおので切ることをあらわす。

築

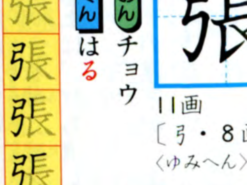
おん チク
くん きずく

16画 〔⺮・10画〕〈たけかんむり〉

築築築築築築築







いみ たてものなどをつくる。きずく。「築造・築城・建築・新築・増築・改築」

使い方 ▼明るい家庭を築く。▼おじは、一代でこの会社を築き上げた。▼法隆*寺は世界最古の木造建築である。▼古くなった校舎を新築することになった。▼二階を増築しました。▼わたしの家は、今改築中です。

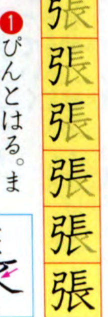
なりたち 竹（＝「チク」の音をあらわす）と巩（＝工事をすること）と木（＝き）を組み合わせた字。木のぼうで土をつきかためて、土台をつくることをあらわす。

張

おん チョウ
くん はる

11画 〔弓・8画〕〈ゆみへん〉

張張張張張張張



いみ ❶ぴんとはる。また、ひろげる。「緊*張・伸*張・出張・拡張・膨*張」❷おおげさにする。「誇*張」❸強く言う。「主張」

使い方 ▼むねを張って、元気よく歩く。▼友だちと張り合って、勉強にはげむ。▼店の前に張り紙がしてある。▼父は出張しています。▼店を拡張する。▼はっきりと、自分の意見を主張する。

なりたち －張 （＝弓）と （＝老人が長いかみの毛をなびかせて立っているようす）を組み合わせた字。弓につるをぴんとはることをあらわす。

五年

漢字のちしき 「製」は「着物を仕立てる」という意味。それで「衣」がついている。

提

おん テイ
くん *さげる

12画
〔扌・9画〕
〈てへん〉

いみ ❶手にさげてもつ。「手提げ」❷さしだす。さしめす。「提案・提出・提供・提言・前提」❸助け合う。「提携*」❹ひきいる。「提督*」

使い方 ▼習字の道具を、**手提げ**かばんに入れる。▼この**提案**に賛成の人は、手をあげてください。▼宿題を**提出**する。▼商店会から、ぼんおどりの資金が**提供**された。▼晴れることを**前提**に、計画をたてる。

なりたち 是(=まっすぐで短いさじと足を組み合わせた形で、まっすぐに進むことをあらわす)と扌(=手)を組み合わせた字。手でまっすぐにひっぱることをあらわす。

程

おん テイ
くん *ほど

12画
〔禾・7画〕
〈のぎへん〉

いみ ❶ものごとのどあい。「程度・音程」❷ものごとを進めるうえでのきまった分量。「課程」❸時間やきょりのへだたり。「行程・過程・日程」❹きまり。「規程・方程式」

使い方 ▼この問題は**程度**が高い。▼このピアノは**音程**(=二つの音の高さのちがい)がくるっている。▼修学旅行の**日程**(=毎日の予定)が発表された。▼父は**程なく**帰ります。

なりたち 禾(=作物)と呈(=短い直線)を組み合わせた字。いねのほの長さのことをあらわす。のちに、一定の長さやきまりのいみをあらわすようになった。

ことばの知識

●熟語の組み立て

①同字を二つ重ねる
例 山々　青々　楽々　堂々

②意味の似た漢字を組み合わせる
例 絵画　急速　光明　道路

③意味の反対の字、または対になる字を組み合わせる
例 遠近　公私　古今　勝負

④上の漢字の意味が、下の漢字の意味にかかっていく
例 人命（人の・命）
急死（急な・死）

⑤下の漢字の意味が、上の漢字にかかっていく
例 投球（球を・投げる）

⑥上に、打ち消しの漢字をつける
例 不用　未定　非常　無敵

⑦下の漢字が、上の漢字の意味を助ける
例 進化　急性　同然　美的

適

おん テキ
くん ―

14画
〔辶・11画〕
〈しんにょう〉

いみ あてはまる。ちょうどよい。「適当・適切・適度・適任・適応・適正・好適・快適」

使い方 ▼作文の内容に**適し**た題をつける。▼かっこに入れる**適当**な言葉を答えなさい。▼**適切**な意見をのべる。▼**適度**の(=ほどよい)運動は、健康によい。▼エアコンがきいていて、**快適**な部屋。

参考 「適切」「敵味方」「摘*発」「水一滴*」を使い分ける。

なりたち 商(=まっすぐ・ひとすじ)と辶(=進む)を組み合わせた字。目あてに向かって、まっすぐに進むことをあらわす。

敵

おん テキ
くん *かたき

15画
〔攵・11画〕
〈ぼくにょう〉

いみ たたかいやきょうその相手。「敵意・敵将・敵国・敵対・無敵・不敵・強敵・大敵・敵役」

使い方 ▼**敵味方**に分かれてゲームをする。▼むやみに人を**敵視**(=敵だと思ってにくむこと)するものではない。▼今度の相手は**強敵**だ。▼かれは、ぼくの**好敵手**(=力やわざが同じぐらいのよい相手)だ。▼劇で**敵役**を引き受けた。

注意 「適」「摘*」とまちがえやすい。

なりたち 商(=むかいあう)と攵(=動詞の記号)を組み合わせた字。まともにむかいあうこと。または、むかいあう相手をあらわす。

統

おん トウ
くん *すべる

12画
〔糸・6画〕
〈いとへん〉

いみ ❶ひとつづきにつながっているもの。すじ。「系統・伝統・血統」❷一つにまとめる。おさめる。「統一・統治・統合・統率・統計・大統領」

使い方 ▼もっと**系統的**に調べたほうがよい。▼ひな祭りは日本の**伝統的**な(=昔から伝わっている)行事の一つです。▼意見を**統一**する。▼気温の変化の**統計**をグラフに表す。

なりたち 糸-統 糸(=糸)と充(=みちる・全体にゆきわたる)を組み合わせた字。糸がすべてにつながっているようすをあらわす。ここから、「まとめ、おさめる」などのいみになった。

銅

14画 〔金・6画〕〈かねへん〉

おん ドウ
くん —

いみ 鉄より重く、電気や熱をよく伝える金属。どう。「銅貨・銅山・銅像・銅板・分銅・青銅」

使い方 ▼オリンピックで、世界各国の前で、銅メダルにかがやく。▼おじは、銅貨を集めている。▼公園の銅像の前で、友だちと待ち合わせる。▼銅線を使って、理科の実験をする。▼めずらしい銅器（＝銅で作ったうつわ）を見せてもらった。▼青銅でできた昔の太刀。

なりたち 金（＝金属）と同（＝あなをあけてつきとおす）を組み合わせた字。あなをあけやすい、やわらかい金属の「銅」をあらわす。

導

15画 〔寸・12画〕〈すん〉

おん ドウ
くん みちびく



いみ ❶案内する。また、教える。みちびく。「導入・先導・指導・補導・誘*導」 ❷電気・熱を伝える。「導体・導火線」

使い方 ▼チームを勝利に導く。▼外国から新しい技術を導入する。▼マラソンのランナーを、白バイが先導する。▼水泳の指導を受ける。▼花火の導火線に火をつける。

参考 「伝導」は、熱や電気を伝えること。「伝道」は、おもに宗教の教えを伝えること。

なりたち 道（＝くびを、ある方向にむけて進む）と寸（＝手）を組み合わせた字。ある方向にひっぱっていくというみをあらわす。

徳

14画 〔彳・11画〕〈ぎょうにんべん〉

おん トク
くん —



いみ ❶人としてのりっぱな心や行い。また、めぐみ。「道徳・人徳・美徳・不徳・功徳・公徳心・徳育」 ❷りえきになる。「徳用」

使い方 ▼三時間目は「道徳」の時間です。▼みんなに好かれるのは、山田君の人徳のせいだ。▼人々にめぐみをもたらす政治を、徳政という。▼公徳心を養う。▼こちらにある品物がお徳用です。

なりたち ー徳 （＝まっすぐ）と（＝心）と彳（＝おこない）を組み合わせた字。すなおな心にもとづくおこないをあらわす。

独

9画 〔犭・6画〕〈けものへん〉

おん ドク
くん ひとり

いみ ❶ひとり。ひとつ。「独立・独身・独学・独奏・独唱・独占*・独断・単独・孤*独」 ❷ドイツ。「独語・日独」

使い方 ▼ぶつぶつと、独り言を言う。▼それぞれが独自の考えをもっている。▼マラソンで、三十キロ地点から独走になる。▼日独（＝日本とドイツ）の文化交流にこうけんする。

参考 ドイツを「独」と書くのは、あて字の「独逸*」を略した形。

なりたち もとの字は「獨」。犭（＝犬）や蜀（＝くわの葉につく大きな目の虫）のように、一定の所にいて動かず、人のきげんをとらないことをあらわした字。

任

6画 〔亻・4画〕〈にんべん〉

おん ニン
くん まかせる・まかす

いみ ❶仕事や役目をひきうける。また、その仕事や役目。「任務・任命・任期・任地・責任・大任・留任・就任・辞任」 ❷まかせる。「任意・委任・一任・信任・放任」

使い方 ▼生徒会の役員の任期は一年です。▼自分の行動に責任をもとう。▼五年生になって、担任の先生がかわった。▼この仕事は、君に一任する。

なりたち ー任 （＝人）と（＝まん中がふくれた糸まき）を組み合わせた字。おなかの前に重いにもつをかかえること。

燃

16画 〔火・12画〕〈ひへん〉

おん ネン
くん もえる・もやす・もす

いみ もえる。また、もやす。「燃料・燃焼・不燃・可燃性・内燃機関」

使い方 ▼いきおいよく火が燃える。▼試合を前にして、闘*志を燃やす。▼ごみ箱の中の紙くずは、全部燃してしまおう。▼飛行機は、燃料を満タンにして飛びたった。▼このガスは、不燃性（＝燃えない性質）なので安心です。

参考 火（＝ひ・ひへん）・灬（＝れんが）は、火をあらわす。「災・炭・畑・焼・灯・照・熱・燃」など。

なりたち ー燃 火（＝火）と（＝もえる）とを組み合わせた字。もえることをあらわす。

能

10画〔月・6画〕〈にくづき〉

おん ノウ
くん ―

いみ ❶よくできる。また、そのはたらき。「能筆・能弁・能率・機能・能力・知能・有能」❷ききめ。「効能」❸面をつけ、謡*とはやしに合わせてまう、日本のげき。「能楽・能面」

使い方 ▼仕事の能率を上げる。▼可能な限り、計画を進めよう。▼すぐれた技能を持つ。▼チンパンジーは、知能の高い動物だ。▼この温泉は腰*痛に効能がある。

なりたち 能（=力を出してはたらく）と、月（=にく）と（=かめの足）を組み合わせた字。かめのようにねばり強くはたらくこと。

破

10画〔石・5画〕〈いしへん〉

おん ハ
くん やぶる・やぶれる

いみ ❶だめにする。また、こわす。「破損・破棄*・破壊*・破裂*・破談・破約・大破」❷負かす。「打破・撃*破」❸やりぬく。「読破」❹はずれる。「破格」

使い方 ▼約束を破らないこと。▼われたガラスの破片がとびちっている。▼破竹のいきおいで勝ち進む。▼十巻まである物語を読破した。▼雨量が百ミリを突*破した。

参考 「破る」は相手に勝つこと。「敗れる」は相手に負けること。

なりたち 皮（=「ヒ」という音をあらわす）と石（=いし）を組み合わせた字。たたいて物をこわすことをあらわす。

犯

5画〔犭・2画〕〈けものへん〉

おん ハン
くん おかす*

いみ ❶きまりをやぶる。つみをおかす。また、その人。「犯罪・犯人・犯行・再犯・主犯・共犯・知能犯」❷けいを受けた回数を数えることば。「前科二犯」

使い方 ▼同じあやまちを、二度と犯さない。▼犯罪のない明るい町にしよう。▼事件の犯人がつかまった。▼店内に、防犯カメラをとりつける。▼指名手配されたのは、前科二犯の男だ。

なりたち 犯 犭（=犬）と㔾（=のびようとするものを形のわくでおさえつける）を組み合わせた字。わくをやぶってとびだすことをあらわす。

つきでない

判

7画〔刂・5画〕〈りっとう〉

おん ハン・バン
くん ―

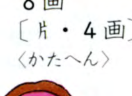
いみ ❶みわける。区別する。「判断・判明・判定・批判・評判」❷よい悪いを決める。さばく。「判決・判事・裁判」❸紙や本の大きさ。「B5判」❹いん。はんこ。「血判」

使い方 ▼正しい判断をする。▼おじは裁判所に勤めている。▼A5判の本。▼判（=印かん）をおす。

注意 「血判」「審*判」のように、「ばん」と読むときもある。

なりたち 半（=二つに切り分けること）とリ（=刀）を組み合わせた字。刀でものを切り分けることから、正しいかそうでないかを見分けることをあらわす。

版



8画〔片・4画〕〈かたへん〉



おん ハン
くん ―

いみ ❶印刷用の、文字や絵をほった板。また、それと同じはたらきをするもの。「版画・版木・版下・活版・製版」❷印刷して本などを作る。また、作った回数を数えることば。「版権・出版・初版・再版・絶版」

使い方 ▼今年の年賀状は版画で出そう。▼文章にわかりやすい図版をそえた。▼朝刊の地方版に、県の小学校スポーツ大会の記事が出た。

なりたち 版－版 片（=木の切れはし）と反（=表面をたいらにのばす）を組み合わせた字。たいらな木の切れはしのことをあらわす。

漢字の知識

●漢字を発明した人

漢字は、多くの人たちが長い年月の間に、だんだんにつくっていったものです。

しかし、昔の人たちはそうは思わず、一人の天才がすべての漢字をつくったものと考えていました。

その天才は、倉頡という名だったと伝えられています。この人は目が四つもあり、鳥やけものの足あとを見て、文字をつくることを思いついたということです。



▲倉頡像

漢字のちしき 「条」はもともと「木の小枝」という意味。それで「木」がついている。

五年

比

おん ヒ
くん くらべる

4画〔比・0画〕〈ならびひ〉

比 比 比 比



いみ ❶ならべてくらべる。「比類・比較*・対比・無比」❷ある数とある数をくらべたわりあい。「比率・比重・比例・反比例」

おれてはらう 比

使い方 ▼去年に**比べ**て、今年は雪が少ない。▼友だちと**背比べ**をした。▼この辺りは、**比較*的**（＝ほかとくらべて）あたたかい。▼外国の文化と日本の文化を**対比**して考えてみる。▼人口の増加に**比例**して、車の数も多くなった。

なりたち 比 人が二人ならんでいるようすをあらわした字。ならべてくらべることをいみする。

肥

おん ヒ
くん こえる・こえ・こやす・こやし

8画〔月・4画〕〈にくづき〉

肥 肥 肥 肥 肥 肥 肥 肥



いみ ❶ふとる。また、土地がゆたかである。「肥満・肥大・肥よく」❷こやし。「肥料・追肥・元肥」

肥

使い方 ▼兄は運動不足のため、**肥満**ぎみです。▼へんとうせんが**肥大**（＝大きくなって）いる。▼よく**肥え**た土地。▼野菜に**追肥**（＝生育のとちゅうであたえる**肥やし**）をする。

注意 「肥える」は「え」から送るが、「肥」は「え」を送らない。

なりたち 肥 月（＝にく）と巴（＝音をあらわし、いみとは関係がない）を組み合わせた字。にくがくっついてふとること。

非

おん ヒ
くん —

8画〔非・0画〕〈あらず〉

非 非 非 非 非 非 非 非

いみ ❶正しくない。まちがい。「非行・非道・非礼」❷とがめる。「非難」❸ほかのことばの前につけて、打ち消すことば。…ではない。…がない。「非運・非情・非業・非常識」

非

使い方 ▼かれの行いには**非**のうちどころがない（＝悪いところがない）。▼人に**非難**される。▼**非常**に仲の良い兄弟。▼ちょっと**非常識**なふるまいだ。

なりたち 非 鳥のはねが左右に分かれて、反対になっているようすをあらわした字。手や首を左右にふって打ち消すことをあらわす。

五年

備

おん ビ
くん そなえる・そなわる

12画〔亻・10画〕〈にんべん〉

備 備 備 備 備 備 備

いみ ようい する。そなえる。また、そなえ。「備品・備考・準備・整備・予備・設備・完備・守備・警備」

備

使い方 ▼試験に**備え**て勉強する。▼あの人には、音楽の才能が**備わっ**ている。▼旅行の**準備**がすっかりできた。▼キャンプに、**予備**の食料を持って行く。▼**設備**のととのった会議場。▼ぼくらの野球チームは、**守備**には自信をもっている。

なりたち 葡（＝矢をそろえて入れておく、「えびら」という用具の形）と亻（＝人）を組み合わせてできた字。そろえて用意しておくといういみをあらわす。

俵

おん ヒョウ
くん たわら

10画〔亻・8画〕〈にんべん〉

俵 俵 俵 俵 俵 俵 俵

いみ ❶米や炭を入れる、わらであんだふくろ。「米俵・炭俵・土俵」❷もののを入れた、たわらやふくろの数を数えることば。「米一俵」

俵

使い方 ▼米を**俵**につめる。▼倉の中に**米俵**を運び入れる。▼きのう横綱*の**土俵入り**を見た。▼米をまとめて**一俵**買う。

参考 一俵・二俵・三俵・四俵・五俵・六俵（ろっぴょう・ろくひょう）・七俵・八俵（はっぴょう・はちひょう）・九俵・十俵と読む。

なりたち **亻**（＝人）と、**表**（＝おもてに出してひろげる）を組み合わせた字。人にものを分けあたえることをあらわす。

評

おん ヒョウ
くん —

12画〔言・5画〕〈ごんべん〉



いみ ものごとのよい悪いを判断してきめる。また、それをのべたもの。「評判・評価・評論・批評・定評・好評・品評」

評

使い方 ▼これが、今、**評判**のドラマです。▼かれの研究は高く**評価**されている。▼それぞれの作品を持ちよって、おたがいに**批評**しあった。▼この辞典の使いやすさには、以前から**定評**があります。▼ぼくらの村では、野菜の**品評会**が行われる。

なりたち **言**（＝ことば）と**平**（＝たいらにそろう）を組み合わせた字。もののよい悪いを、えこひいきしないで決めることをあらわす。

漢字のちしき 「望」には「十五夜、満月」という意味があり、それで「月」がついている。

五年

貧

おん *ヒン・ビン
くん まずしい

11画 〔貝・4画〕〈こがい〉 ↔ 富 343

いみ まずしい。また、とぼしい。「貧富・貧困・貧苦・貧民・貧乏*・貧弱・貧血・貧相」

使い方 ▼貧しい家に生まれた少年が、貧困をのりこえて医者になった物語を読んだ。▼講演の内容について、貧しい知識しかもっていないことが情けなかった。▼貧弱なからだをきたえたい。▼朝礼で、貧血をおこしてたおれた。

なりたち 分(=二つにわける)と貝(=お金)を組み合わせてできた字。お金をぜんぶわけてしまって、たりなくなることをあらわす。

布

おん フ
くん ぬの

5画 〔巾・2画〕〈はば〉



いみ ❶ぬの。織物。「布地・綿布・毛布・敷*布」❷広くいきわたらせる。また、広く知らせる。「布教・布告・公布・配布・散布・分布・流布」

使い方 ▼じょうぶな布でふくろをつくる。▼はだざわりのよい布地。▼寒いので、毛布をかけてねむった。▼相手の国に宣戦を布告する。▼パンフレットを各戸に配布する。▼この植物は、広い地域に分布している。▼農薬を空から散布する。

なりたち 父(=「フ」という音をあらわす)と、巾(=ぬの)を組み合わせた字。

婦

おん フ
くん —

11画 〔女・8画〕〈おんなへん〉

いみ ❶女の人。「婦人・婦警」❷けっこんしている女の人。「主婦・新婦・夫婦」

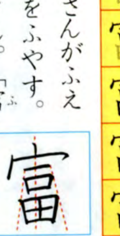
使い方 ▼上品な婦人に道を聞かれた。▼婦警(=婦人警官)が、パトロールする。▼姉は、仕事をやめて主婦にせんねんするそうだ。▼はく手にむかえられて、新郎*新婦が入場してきた。▼結婚式に夫婦で招待される。

なりたち 女(=女)と帚(=ほうき)を組み合わせた字。そうじなどの家の中の仕事をして、夫によりそうつまのことをあらわす。

富

おん フ・*フウ
くん とむ・とみ

12画 〔宀・9画〕〈うかんむり〉 ↔ 貧 342



いみ ❶ざいさんがふえる。ざいさんをふやす。また、ざいさん。「富力・富裕*・富貴・貧富」❷たくさんある。「豊富」

使い方 ▼かれは外国でばく大な富をきずいた。▼この地には、肥えた土地があり、豊富な水がある。▼かれは少年のころから文才(=文章をたくみにつくる能力)に富んでいた。

なりたち 宀(=家)と畐(=酒をいっぱいつめたとっくり)を組み合わせてできた字。家の中が財産でいっぱいになることをあらわす。

武

おん ブ・ム
くん —

8画 〔止・4画〕〈とまる〉

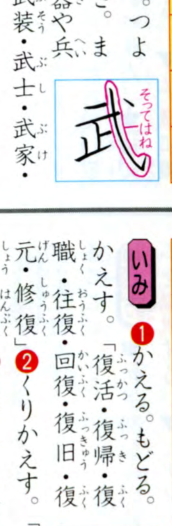


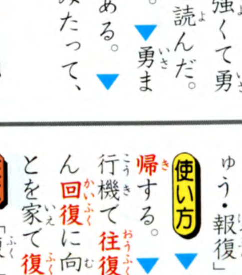




いみ ❶勇ましい。つよい。「武勇」❷いくさ。また、そのための兵器や兵士。「武器・武具・武装・武士・武家・武者人形」

使い方 ▼昔の武勇伝(=強くて勇ましいおこないの記録)を読んだ。▼敵は武器をすててにげた。▼勇ましい武者人形がかざってある。▼武者ぶるいする(=心が勇みたって、体がふるえる)。





なりたち 戈(=ほこ)と止(=足)を組み合わせてできた字。いさましく進むことをあらわしている。

復

おん フク
くん —

12画 〔彳・9画〕〈ぎょうにんべん〉 ↔ 往 291

いみ ❶かえる。もどる。かえす。「復活・復帰・復職・往復・回復・復旧・復元・修復」❷くりかえす。「復習・復唱・反復」❸しかえしをする。「復しゅう・報復」

使い方 ▼けがが治り、チームに復帰する。▼東京と北海道の間を飛行機で往復する。▼病状がどんどん回復に向かう。▼学校で習ったことを家で復習する。

注意 「複」「服」とまちがえないこと。

なりたち 彳(=行く)と复(=もとにもどす)を組み合わせた字。同じ道をもどることをあらわす。

五年

漢字のちしき 「線」はもともと「糸」という意味なので「糸」がつく。

複

おん　フク
くん　—

14画　〔衤・9画〕〈ころもへん〉　単 261

複複複複複複複

いみ　❶かさなる。かさねる。また、数が二つ以上ある。「複合・複雑・複数・重複」❷ふたたびする。「複写・複製」

使い方　▼**複雑**な内容の物語。▼**複数**の人がその物音を聞いたという。▼以前聞いた話と**重複**している。▼古い名画の**複製**。▼写真を**複写**する。

注意　「復」とまちがえないこと。

なりたち　Y-複　衤(=きもの)と、(=ふくれたうつわ)と夂(=足)を組み合わせた字。布を二重に重ねた着物(あわせ)のことで、二重になることをあらわす。

仏

おん　ブツ
くん　ほとけ

4画　〔亻・2画〕〈にんべん〉

仏仏仏仏



いみ　❶仏教で、さとりをひらいた人。ほとけ。「仏像・仏教・仏門・仏法・大仏・念仏・神仏」❷死んだ人。「仏前・仏壇*」

使い方　▼**仏教**が日本に伝わったのは、六世紀の中ごろといわれている。▼奈良の**大仏**を初めて見た。▼祖父の**仏前**に花をかざる。▼**仏様**に線香*をあげる。

参考　フランスのことを「仏」と書くのは、あて字の「仏蘭*西」を、略した形から。

なりたち　もとの字は佛。亻(=人)と弗(=「フツ」という音をあらわす)を組み合わせた字。

編

おん　ヘン
くん　あむ

15画　〔糸・9画〕〈いとへん〉

編編編編編編編

いみ　❶組み合わせてものをつくる。組み立てる。あむ。「編成・編入・編隊・編曲・編み物」❷本や新聞などをつくる。「編集・編者」❸文章などのひとまとまり。また、それを数えることば。「長編」

使い方　▼新学期から、新しいチームを**編成**する。▼ピアノの曲を、ギター用に**編曲**する。▼学級新聞を**編集**する。▼夏休みには、**長編小説**を読んでみよう。

なりたち　糸(=いと)と扁(=うすくてたいらなふだ)を組み合わせた字。文字を書いた竹のふだを、ひもでつづることをあらわす。

弁

おん　ベン
くん　—

5画　〔廾・2画〕〈にじゅうあし〉

弁弁弁弁弁

いみ　❶いう。のべる。また、ことばづかい。「弁舌・弁論・弁護士・熱弁・関西弁」❷見わける。区別する。「弁別」❸しまつをつける。「弁済・弁償*」❹役に立たせる。「弁当」❺花びら。「花弁」❻容器やくだの出入り口にあって、液体や気体の流れを調節するもの。べん。

使い方　▼**弁論大会**に出場する。▼議会で、質問に対する**答弁**を行う。▼**駅弁**を買ってもらって食べた。

なりたち　-弁　人(=かんむり)と(=両手)を組み合わせた字。両手でかんむりをかぶるようすをあらわした字。

保

おん　ホ
くん　たもつ

9画　〔亻・7画〕〈にんべん〉

保保保保保保保

いみ　❶まもる。せわをする。「保護・保育」❷もちこたえる。たもつ。「保安・保存・保健・確保」❸うけあう。「保証・保険・保障」

使い方　▼妹は**保育園**に通っています。▼健康を**保つ**ように、日ごろから心がける。▼冷凍*食品は、長い期間**保存**できる。▼長時間ならんで、自分の席を**確保**した。▼かれの人がらについては、ぼくが**保証**します。

なりたち　亻(=人)と呆(=赤んぼうをおむつにつつんで、たいせつに守る)を組み合わせた字。外をとりまいて、中のものをだいじに守ることをあらわす。

墓

おん　ボ
くん　はか

13画　〔土・10画〕〈つち〉

墓墓墓墓墓墓墓



いみ　死んだ人をほうむる所。はか。「墓場・墓地・墓前・墓標・墓参」

使い方　▼古墳*は、大昔の人の**お墓**です。▼おひがんには、先祖の**墓参り**に行く。▼お寺の裏に**墓場**があります。▼**墓石**に水をかける。▼**墓地**に続く道に、ひがん花がたくさんさいていた。▼**墓前**に、花や線香*をそなえました。

なりたち　-墓　(=太陽が草の中にしずんでかくれる)と、土(=つち)を組み合わせてできた字。死んだ人の体に土をかぶせて見えないようにする、もり土のことをあらわす。

五年

漢字のちしき　「究」はもともと「穴」という意味。それで「穴」(あなかんむり)。

報

12画〔土・9画〕〈つち〉

おん ホウ
くん *むくいる

いみ ❶こたえる。むくいる。むくい。「報恩・報復・果報」❷知らせる。「報告・報道・予報・情報・電報・報知機」

使い方 ▼親の恩に報いたい。▼研究の結果を報告する。▼報道の自由を守る。▼正しい情報を伝える。▼正午の時報に時計を合わせた。

注意 「服」とまちがえないこと。

なりたち -報 (＝手じょう)と (＝人をつかまえてしたがわせる)を組み合わせた字。つみをおかした人をつかまえて、ばつをあたえること。のちに「しかえしをする」いみになった。

豊

13画〔豆・6画〕〈まめ〉

おん ホウ
くん ゆたか



いみ ❶たくさんある。ゆたか。「豊富・豊漁・豊満」❷こくもつがよくみのる。「豊年・豊作」

使い方 ▼豊かな才能にめぐまれる。▼この地方には、資源が豊富にねむっている。▼今年はさんまが豊漁（＝たくさんとれること）だそうだ。▼豊満な（＝肉づきのよい）美人の絵がかざってある。▼豊作をいわう祭り。

なりたち -豊（豊） (＝山)と (＝高つき〈食べ物を入れる足のついたうつわ〉)と (＝二本のいねのほ)を組み合わせた字。作物を山もりにすることをあらわす。

防

7画〔阝・4画〕〈こざとへん〉

おん ボウ
くん ふせぐ

いみ ❶がいを受けないように守る。ふせぐ。「防衛・防止・防火・防犯・防寒・予防・消防・防風林」❷ていぼう。「堤*防」

使い方 ▼ストーブをたいて、寒さを防ぐ。▼防音装置がほどこされた部屋。▼池のそばに、危険防止のためのさくをもうける。▼かぜの予防のために、うがいをする。▼消防車が、サイレンを鳴らしながら走る。

なりたち 阝（＝もりあげた土）と方（＝左右にはり出す）を組み合わせてできた字。土をもりあげ、左右にはり出した、水の流れをおさえるつつみのことをあらわす。

貿

12画〔貝・5画〕〈こがい〉

おん ボウ
くん ―

いみ 物を売り買いする。「貿易・貿易港・貿易商・貿易風・貿易収支」

つきでない

使い方 ▼日本は、世界の国々と貿易をしている。▼原材料を輸入し、それを加工して輸出する貿易を、加工貿易という。▼横浜*は日本有数の貿易港だ。▼貿易風は北半球では北東の風、南半球では南東の風になります。

なりたち --貿 (＝まどをむりに開けて、中の物をとろうとするようす)と (＝お金)を組み合わせてできた字。相手からむりにもうけることをあらわす。

暴

15画〔日・11画〕〈ひ〉

おん ボウ・*バク
くん *あばく・あばれる

いみ ❶あらあらしくはげしい。「暴行・暴動・暴力・暴風・暴風雨・乱暴」❷思いがけず急におこる。「暴発」❸度をこしている。「暴飲暴食」❹あばく。「暴露*」

使い方 ▼暴力をふるうのはよくない。▼暴風で庭の木がおれてしまった。▼株価が暴落した。▼暴飲暴食はやめよう。▼人のひみつを暴く。

なりたち --暴 (＝太陽)と (＝動物のほね)と (＝両手)を組み合わせた字。動物のほねを両手で外に出して太陽にさらすようすで、「あらあらしい」のいみをあらわす。

務

11画〔力・9画〕〈ちから〉

おん ム
くん つとめる

いみ しなくてはならないこと。つとめ。「義務・任務・急務・業務・勤務・事務・公務」

使い方 ▼一年間、児童会の書記を務めた。▼重要な任務を任されている。▼けが人を救助するのが急務だ。▼父は市役所に勤務しています。▼姉は、会社で事務の仕事をしている。

参考 「務める」は、役目を受け持つ意味、「勤める」は、仕事につく意味、「努める」は、せいをだす意味に使う。

なりたち 敄（＝困難をのりこえて進もうとするようす）と力（＝ちから）を組み合わせた字。

漢字のちしき 「禾」を「のぎへん」というのは、この形を「ノ＋木」と見たもの。

夢

おん ム
くん ゆめ

13画〔夕・10画〕〈ゆう〉

夢夢夢夢夢夢夢

いみ ❶ねむっているときに見る、ゆめ。「初夢・正夢・悪夢・夢うらない」❷はかないもの。また、あこがれ。「夢想・夢中・夢幻*・夢物語」

使い方 ▼夢の中に、なつかしい友だちが現れた。▼初夢で夢うらないをする。▼宝くじにあたるなんて、夢のようだ。▼弟は夢中でまんがを読んでいる。

なりたち 夢-夢 苜(=赤くただれてよく見えないひつじの目)と、冖(=おおい)と夕(=月)を組み合わせた字。やみにおおわれて、ものがよく見えないことから、「夢」のいみになった。

迷

おん *メイ
くん まよう

9画〔辶・6画〕〈しんにょう〉

迷迷迷迷迷迷迷

いみ どうしてよいかわからなくなる。まよう。「迷路・迷信・混迷・低迷・*迷子」

使い方 ▼プレゼントを何にしようかと迷う。▼迷路のように入り組んだ道。▼迷信を信じる人は、まだ多い。▼政治は、混迷(=先の見通しがつかない)の状況*にある。▼最近、成績が低迷(=ふるわないこと)している。▼人に迷わくをかけないようにしよう。▼迷子が保護された。

なりたち 米(=小つぶで見えにくい)と辶(=進む)を組み合わせた字。進んでいるとちゅうで、道がわからなくなることをあらわす。

綿

おん メン
くん わた

14画〔糸・8画〕〈いとへん〉



綿綿綿綿綿綿綿

いみ ❶わた。「綿花・綿糸・綿布・綿織物・*木綿」❷ながく続く。「連綿・綿綿」❸こまかくくわしい。「綿密」

使い方 ▼空には、白い綿のような雲がうかんでいる。▼綿毛につつまれたたんぽぽの種。▼人類の歴史は連綿と続いている。▼この事業を成功させるために、綿密な計画を立てる。▼木綿のシャツのはだざわりがすきだ。

なりたち 糸-緜(綿) 帛(=白い布)と糸(=糸がつながる)を組み合わせてできた字。白い布をおる長い糸をあらわす。

五年

輸

おん ユ
くん ―

16画〔車・9画〕〈くるまへん〉

輸輸輸輸輸輸輸

いみ ほかの所へはこぶ。うつしはこぶ。「輸出・輸入・輸送・輸血・運輸」

使い方 ▼電気製品をアメリカに輸出する。▼このコーヒー豆は、ブラジルから輸入したものです。▼とれたての野菜を、トラックで輸送する。▼大量の救援物資*が、外国から空輸された(=飛行機ではこばれた)。

注意 「輪」とまちがえないこと。

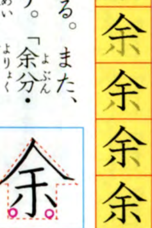
なりたち 輸-輸(輸) 車(=くるま)と、兪(=丸木舟のなかみをはりぬくこと)を組み合わせた字。ある場所の品物をそっくり取り出して、車でほかの場所に運ぶこと。

余

おん ヨ
くん あまる・あます

7画〔人・5画〕〈ひとやね〉





いみ ❶あまる。また、あまり。のこり。「余分・余計・余生・余命・余力・余白」❷そのほか。「余病・余談・余罪・余興」❸自分。

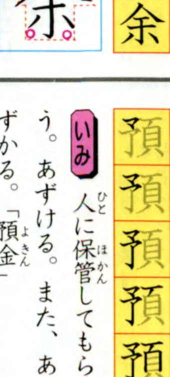
使い方 ▼試験まで、余すところ一週間だ。▼余計な心配はよそう。▼校庭を五周しても、まだ余力がある。▼もう話し合う余地はない。▼余罪(=そのほかの罪)をついきゅうする。

なりたち 余-余 亼(=土をおしひろげるようす)と八(=左と右にわける)を組み合わせてできた字。ゆったりと広げることをあらわし、あまるといういみとなった。

預

おん ヨ
くん あずける・あずかる

13画〔頁・4画〕〈おおがい〉



預預預預預預預

いみ 人に保管してもらう。あずける。また、あずかる。「預金」

使い方 ▼子どもを保育園に預ける。▼友だちに預けっぱなしにしていた本を、返してもらいに行く。▼責任をもってお預かりします。▼今日は、わたしが台所を預かる(=家事を引き受ける)。▼はじめて、預金通帳を作った。

注意 「預」と「予」をまちがえて使わないこと。

なりたち 予(=ゆとりをおく)と頁(=あたま・人員)を組み合わせてできた字。人数にゆとりをもたせることをあらわす。

五年

漢字のちしき 「査」はもともと「いかだ」といういみ。それで、「木」がついている。

容

おん ヨウ
くん ―

10画 〔宀・7画〕〈うかんむり〉

いみ ❶物を入れる。また、なかみ。「容器・容量・容積・内容」❷すがた。かたち。「容姿・容体・美容・形容」❸ゆるす。「容認・許容」❹たやすい。「容易」

使い方 ▼ガラスの容器に薬を入れる。▼話し合いの内容をまとめる。▼美容と健康のために、ジョギングをする。▼他人の過ちを許容する、広い心。▼この問題は容易に解けない。

なりたち 宀(=家)と谷(=くぼんでいて、中に水がたまる谷)を組み合わせた字。からの入れ物の中に物を入れること。また、その中身のこと。

五年生の漢字の注意点①

書き順をまちがえやすい漢字。

解 ⺈ 角 角 角 角 解 解
減 氵 氵 沪 沪 減 減 減
再 一 冂 冂 币 再
際 ⻖ ⻖ ⻖ 阝 際 際
断 丷 ⺍ 米 㡭 断 断 断
布 ノ ナ 才 右 布
版 丿 丿 片 片 片 版
状 丨 丬 丬 丬 状 状
永 丶 亅 永 永 永

字体で気をつけておく漢字としては、次のものがあります。

「報」の右側を「反」としないように。

「犯」を「犯」としないように。

「検」の右側が「㑒」とならないように注意。

「券」の下、「潔」の右上は「刀」で「力」ではありません。

「輪」の右側を「侖」としない。

五年生の漢字の注意点②

次のじゅく語の書き方に注意。

「率先・引率」などを「卒先・引卒」、「成績」を「成積」、「正義」を「正議」、「謝恩」を「謝思」、「招待」を「紹待」としないように注意しましょう。

また、次の漢字の訓読みと送り仮名を確にんしておきましょう。

「快」(こころよ-い)。「逆」(さか-らう)。「険」(けわ-しい)。「修」(おさ-める)。「耕」(たがや-す)。「勢」(いきお-い)。

「現・表」の使い分けにも注意しましょう。「表す」は中のものを外に出すことで、自分の考えや気もちをしめすときに、「現す」はかくれていたものが見えるようにおもてに出るときに使います。

「よろこびをたいどに表す」「すがたを現す」

略

おん リャク
くん ―

11画 〔田・6画〕〈たへん〉

いみ ❶考え。はかりごと。「計略・策略・戦略」❷かんたんにする。はぶく。「略図・略字・略歴・略式・省略・前略・略称*」❸せめとる。「攻*略・侵*略」

使い方 ▼弟をこらしめようと、計略をめぐらした。▼漢字には、もとの字を略したものもある。▼駅から家までの略図をかく。▼省略されている部分の内容を考えてみる。

なりたち 田(=た)と各(=横につらなる道)を組み合わせた字。田畑を切り開いて、横に通じる近道をつくること。のちに、まわりくどい手数をはぶくといういみになった。

留

おん リュウ・ル
くん と-める・と-まる

10画 〔田・5画〕〈た〉

いみ 同じ所にとどめる。また、とどまる。「留学・留任・留意・留守・保留・残留・停留所」

使い方 ▼気付いたことを書き留めておく。▼兄は、今、アメリカに留学しています。▼バスの停留所で待ち合わせをした。

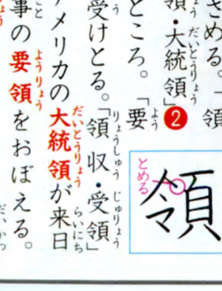
参考 「留める」は、同じ所にとどめるときに、「止める」は、動かなくするときに、「泊*める」は、宿泊*させるときに使う。

なりたち 古い字は「畱」。丣(=外に出さないでとじこめる)と田(=た)を組み合わせた字。一か所にとどめることをあらわす。

領

おん リョウ
くん ―

14画 〔頁・5画〕〈おおがい〉



いみ ❶おさめる。「領土・首領・頭領・大統領」❷中心になるところ。「要領・本領」❸受けとる。「領収・受領」

使い方 ▼アメリカの大統領が来日した。▼仕事の要領をおぼえる。▼選手が本領をはっきして、大活やくした。▼学芸会で使う物を買って、領収書をうけとる。▼品物はたしかに受領しました。

注意 「預」とまちがえないこと。

なりたち 令(=神のきよらかなことば)と頁(=くび)を組み合わせてできた字。きれいな首すじのことから、「たいせつなところ」のいみをあらわすようになった。

漢字のちしき 「電」はもともと「いなずま」という意味。それで、「雨(あめかんむり)」。

六年生で習う字

異354　遺354　域354　宇355　映355　延355　沿356　我356　灰356　拡357　革357　閣357　割358
株358　干358　巻359　看359　簡359　危360　机360　揮360　貴361　疑361　吸361　供362　胸362
郷362　勤363　筋363　系364　敬364　警364　劇365　激365　穴365　絹366　権366　憲366　源367
厳367　己368　呼368　誤368　后369　孝369　皇369　紅370　降370　鋼370　刻371　穀371　骨371
困372　砂372　座372　済373　裁373　策373　冊374　蚕374　至375　私375　姿375　視376　詞376
誌376　磁377　射377　捨377　尺378　若378　樹378　収379　宗379　就379　衆380　従380　縦380
縮381　熟381　純381　処382　署382　諸382　除383　将383　傷383　障384　城384　蒸384　針385
仁385　垂386　推386　寸386　盛387　聖387　誠387　宣388　専388　泉388　洗389　染389　善389
奏390　窓390　創390　装391　層391　操391　蔵392　臓392　存392　尊393　宅393　担393　探394
誕394　段394　暖395　値395　宙395　忠396　著396　庁397　頂397　潮397　賃398　痛398　展398
討399　党399　糖399　届400　難400　乳401　認401　納401　脳402　派402　拝402　背403　肺403
俳403　班404　晩404　否404　批405　秘405　腹405　奮406　並406　陛406　閉407　片407　補407
暮408　宝408　訪408　亡409　忘409　棒409　枚410　幕410　密410　盟411　模411　訳411　郵412
優412　幼412　欲413　翌413　乱413　卵414　覧414　裏414　律415　臨415　朗415　論416

◆六年生の漢字学習法

六年生では、一～六年で習う漢字を読むこと、一～五年の漢字を書き、文中で正しく使えること、六年の新出漢字百八十一字を少しずつ書くようにすることを目標にしています。

新出漢字については、漢和辞典を利用して、次のような学習をしてみるとよいでしょう。

「紅」という漢字を学習したら、今までに学習した「いとへん」の漢字を集めてみましょう。漢和辞典の部首さくいんで「いとへん」を引くと、「組・織・絵・続・統・絶・紀・約」など三十近く見つかります。

また、右側の「工」という部分をもった漢字を集めてみましょう。音訓さくいんで「コウ」を引いてもよいでしょう。「功」「工」があります。どちらも「コウ」という音をもっています。「工」が「コウ」という音を表すのです。

「胸」という漢字を学習したら、今までに学習した「キョウ」という音をもつ漢字を音訓さくいんを使って集めてみます。「競・共・協・境・教・強・橋・兄・鏡・京」などたくさん出てきます。そして、同じ「キョウ」でも使い方がちがうことを確認し、「胸」の使い方をしっかり理解します。

「吸」という漢字を学習したら、この漢字の送り仮名「す―う」のように「う」が送り仮名となる漢字を集めてみましょう。「敬う・構う・洗う・祝う・追う・思う・従う・救う・戦う・使う・集う・担う・願う」などたくさんの漢字が見つかります。

そして、これらの漢字に共通するのは、意味として動詞の働きをしていることであることがわかります。

「厳」という漢字は「きび―しい」と送り仮名がつきます。そこで「しい」という送り仮名のつく漢字を集めてみます。「楽しい・新しい・悲しい・美しい・苦しい・険しい・親しい・正しい・激しい・久しい・等しい・貧しい・易しい・難しい」などたくさん見つかります。これらの漢字に共通するのは、形容詞の働きをしていることであることがわかります。



異

おん イ
くん こと

11画 〔田・6画〕〈た〉

↕同 137

異異異異異異異異異異異

いみ ❶ことなる。ちがう。「異状・異論・異同・異質・異性・異口同音・異国・異人」❷へんな。「異常・異状・異様・奇*異」❸特色があって、すぐれている。「異色・異才・異彩*」

使い方 ▼人は、それぞれが異なった考えを持つ。▼異議（＝ちがった意見）のある人はいませんか。▼同音異義語（＝読みが同じ別語）。▼異国でくらす。▼この夏は、異常な暑さだ。▼かれは、異色の俳優といわれる。

なりたち 𢍰－異－異 大きな頭と、両手を差し出したからだの形を組み合わせた字。

遺

おん イ・*ユイ
くん ―

15画 〔⻌・12画〕〈しんにょう〉

遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺



いみ ❶おきわすれる。「遺失物」❷死んだあとにのこす。のこる。また、のこったもの。「遺産・遺族・遺志・遺書・遺児・遺体・遺伝・遺言」

使い方 ▼遺失物（＝忘れ物、落とし物）を交番にとどけた。▼父の遺志（＝死んだ人の残した望み）をついで医者をめざす。▼遺産を相続する（＝うけつぐ）。

注意 「遣*」（＝人をつかわす）とまちがえないこと。

なりたち 貴（＝大きく目立つ）と⻌（＝進む）を組み合わせた字。人の目につくようなものを残して去ることをあらわす。

域

おん イキ
くん ―

11画 〔土・8画〕〈つちへん〉

域域域域域域域域域域域



いみ くぎられた土地。また、かぎられたはんい。「地域・区域・領域・声域」

使い方 ▼この地域には、大きな工場が多い。▼きめられた区域ごとに集団登校する。▼芸が名人の域に達した。▼川の流域（＝川の流れにそった地域）に、平野がひろがっている。▼台風の被*害は、九州地方全域におよんだ。

注意 「城」とまちがえないこと。

なりたち 土或－域－域 土（＝土）と或（＝四角に区切った場所を武器で守る）を組み合わせた字。区切った場所のことをあらわす。

宇

おん ウ
くん ―

6画 〔宀・3画〕〈うかんむり〉

宇宇宇宇宇宇



いみ ❶大きな建物。また、それを数えることば。「堂宇・一宇」❷大空。天。「宇宙」❸におおわれたところ。心持ち。「気宇」

使い方 ▼この寺には、金堂・講堂・三重のとうなど、多くの堂宇（＝大きな建物）がたちならんでいる。▼宇宙のはてのことを考えてみる。▼ぼくのおじさんは、気宇壮*大（＝心持ちが広いこと）な人だ。

注意 「字」とまちがえないこと。

なりたち 宀（＝やね）と于（＝大きくまがっているようす）を組み合わせてできた字。大きくて丸いやねをあらわす。

映

おん エイ
くん うつる・うつす・*はえる

9画 〔日・5画〕〈ひへん〉

映映映映映映映映映



いみ ❶うつす。うつる。「映画・映写・映像・上映」❷てりかがやく。また、にあう。はえる。「反映・夕映え」

使い方 ▼夕日が水面に映っている。▼姉と映画を見に行った。▼テレビが故障して、映像が出ない。▼国民の意見を政治に反映させる。▼紅葉した山々が夕日に映える。▼白い服がよく映る（＝にあう）。

注意 「映画を映す」「写真を写す」などのように、「映す」と「写す」を使い分けること。

なりたち 日（＝太陽）と央（＝「オウ」の音をあらわす）を組み合わせた字。

延

おん エン
くん のびる・のべる・のばす

8画 〔廴・5画〕〈えんにょう〉

延延延延延延延延

いみ ❶長くなる。のびる。のばす。おくれる。「延期・延長・延延・延焼・順延・遅*延・延着」❷かさなっているものをふくめた合計。「延べ日数・延べ人数」

使い方 ▼市内の道路は、駅を中心に四方八方へ延びている。▼雨のため、運動会は次の日曜日に延期になった。▼同点のまま、試合は延長戦に入った。▼意見がまとまらず、会議が延々と続く。▼この駅は、一日に延べ十万人の人がのりおりするそうだ。

なりたち ノ（＝のばす）と止（＝足）と廴（＝進む）を組み合わせた字。

漢字クイズ 「干」の上の横棒をななめにすると何という字になる？

沿

おん エン　くん そう

8画〔氵・5画〕〈さんずい〉

沿沿沿沿沿沿沿沿

いみ 川・道・時の流れなどにしたがってつづく。そう。「沿岸・沿道・沿線・沿革・川沿い・海沿い」

使い方 ▼線路が海岸線に**沿っ**て走っている。▼この漁村は、古くから**沿岸漁業**でさかえた。▼**沿道**は、パレードを見る人たちでいっぱいになった。▼この電車の**沿線**は、さくらの名所として名高い。▼市の**沿革**(=移り変わり)を調べる。▼**川沿い**に、細い道が続いている。

なりたち **氵**(=水)と**㕣**(=水が低いほうへ流れる)を組み合わせた字。水が道すじにしたがって流れることをあらわす。

我

おん *ガ　くん われ・*わ

7画〔戈・3画〕〈ほこづくり〉

我我我我我我我

いみ ❶じぶん。わたし。「我流・我田引水・自我」❷ひとりよがり。

使い方 ▼ふと**我**にかえる(=気がつく)と、もう夜だった。▼わたしの絵は、**我流**(=自分かってなやり方)です。▼**無我夢中**で(=**我**をわすれて)がんばった。▼**我が家**では犬を二ひきかっています。▼弟は**我**が強い(=ごうじょうだ)。

なりたち 刃がぎざぎざになった武器の形からできた字。むかし、「自分」のことを「ガ」といい、同じ音をもつ「我」の字をかりて「自分」の意味をあらわした。

灰

おん *カイ　くん はい

6画〔火・2画〕〈ひ〉



灰灰灰灰灰灰

いみ はい。もえがら。「灰色・灰皿・石灰・灰じん」

使い方 ▼落ち葉を燃した**灰**に水をかける。▼**火山灰**によって、農作物に大きな被*害がでた。▼空が**灰色**にくもっている。▼父の机の上に、きれいなガラスの**灰皿**が置いてある。▼**石灰**の粉で、運動場に白いラインをひく。

なりたち 又(=手)と**火**(=火)を組み合わせてできた字。手で燃えかすをかき出しているようすをあらわしている。燃え残ったかすのことから、「はい」の意味になった。

答え 千(せん)。

拡

おん カク　くん ―

8画〔扌・5画〕〈てへん〉

拡拡拡拡拡拡拡拡

いみ おしひろげる。「拡大・拡張・拡散・拡声器・拡充*」

使い方 ▼もとの図を二倍に**拡大**した図をかく。▼**拡大鏡**(=小さなものを大きくして見る器具)で、花のつくりを観察した。▼会のきぼを**拡大**する。▼生徒の数が増えたので、グラウンドを**拡張**した。▼学校の設備の**拡充***(=設備などを増やし、豊かにすること)につとめる。

なりたち もとの字は「擴」。**扌**(=手)と**廣**(=家のわくの中いっぱいに空間が広がるようす)を組み合わせてできた字。手でわくいっぱいにおし広げていくという意味をあらわす。

革

おん カク　くん *かわ

9画〔革・0画〕〈かくのかわ〉



革革革革革革革革革

いみ ❶はいだ動物のかわの、毛やあぶらを取ってやわらかくしたもの。かわ。「皮革・牛革」❷あらためる。あらたまる。「革新・革命・変革」

使い方 ▼**皮革製品**をあつかう店。▼新しい**革ぐつ**をはいて出かけた。▼一七八九年、フランス**革命**がおこった。▼児童会を**改革**(=悪いところをあらためること)する。

参考 「皮」は動物・植物のかわ、物のおおいのこと。「革」は動物のかわをなめしたもののこと。

なりたち 動物のかわをはいで、ぴんとはった形からできた字。

閣

おん カク　くん ―

14画〔門・6画〕〈もんがまえ〉

閣閣閣閣閣閣閣

いみ ❶高く作った、りっぱな建物。「天守閣・神社仏閣」❷「内閣」の略。「閣議・組閣・入閣」

使い方 ▼お城の**天守閣**にのぼって、四方をながめる。▼**神社仏閣**(=神社やお寺)をめぐり歩く。▼総理大臣が、新しい**内閣**をつくる。▼大臣を集めて**閣議**(=大臣が集まってする会議)を開く。▼**内閣**をつくることを、**組閣**といいます。

なりたち **門**(=もん)と**各**(=足がかたいものにつきあたって止まる)を組み合わせた字。石やくいのことで、のちに、上部をささえる足のある、高いごてんをあらわした。

漢字クイズ 「家の中にある玉」とは？

割

おん ＊カツ
くん わる・わり・われる・＊さく

12画〔刂・10画〕〈りっとう〉

いみ ❶いくつかに分ける。また、きりさく。「割り算・割り当て・日割り・時間割り・割愛・割腹・分割・役割」❷比率。「割合・二割引き」

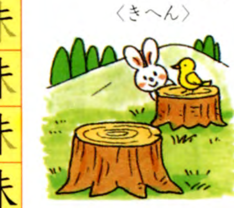
使い方 ▼あやまってガラスを割った。▼いそがしい時間を割いて人に会う。▼時間がないので、話を少し割愛(＝おしいと思いながらはぶくこと)します。▼たまご一個に、さとう大さじ一ぱいの割合で加える。▼バーゲンで、全品四割引きです。

なりたち 害(＝「カツ」の音をあらわす)とリ(＝刀)を組み合わせてできた字。刃物で二つに切りさくという意味をあらわす。

株

おん ―
くん かぶ

10画〔木・6画〕〈きへん〉



いみ ❶木を切りたおしたあとに残る根もと。「切り株」❷草や木の根。また、草や木を数えることば。「株分け・二株」❸「株式」「株券」のこと。「株券・株主・株式会社」

使い方 ▼木の切り株にこしを下ろす。▼きくの株分け(＝親の株から分けてうつしうえること)をする。▼古株の(＝古くからいる)社員。▼父は株券(＝その会社にお金を出したしるしの書類)を持っている。▼人のお株(＝とくいなこと)をうばう。

なりたち 木(＝き)と朱(＝木の切りかぶ)を組み合わせた字。

干

おん カン
くん ほす・＊ひる

3画〔干・0画〕〈ひる〉

いみ ❶かわく。また、かわかす。「干害・干満・干潮」❷かかわりあう。関係する。「干渉＊」

使い方 ▼洗たくものを干す。▼すっぱい梅干しを食べる。▼日照りがつづいて干害のおそれがでてきた。▼このへんの海は、干満(＝しおのみちひき)の差が大きい。▼他人の行動に干渉＊(＝横から口をだすこと)するのはよくない。

なりたち 干-干 先がふたまたになったぼうの形からできた字。敵をついたり、身を守ったりするどうぐのことで、「おかす」「かかわる」の意味をあらわす。

六年

巻

おん カン
くん まく・まき

9画〔己・6画〕〈おのれ〉

いみ ❶まく。「巻き尺・巻紙」❷まきもの。また、書物。「巻頭・巻末・上巻・下巻」❸書物・フィルムなどを数えることば。「一巻」

使い方 ▼巻き尺ではばとびのきょりをはかる。▼古い巻き物が出てきた。▼調べたいことばを、巻末のさくいんでさがす。▼全五十巻の物語全集が出版された。

なりたち 巻-巻(巻) 釆(＝ばらまく)と廾(＝両手)と㔾(＝かがんだ人)を組み合わせた字。かがんで両手をまるめ、ちらばろうとする物を受けることをあらわす。

看

おん カン
くん ―

9画〔目・4画〕〈め〉

いみ ❶みる。「看板・看破・看過」❷みまもる。せわをする。「看護・看病」

使い方 ▼となりのビルの屋上の大きな看板が、わたしの家の目印です。▼悪いたくらみを看破する(＝見やぶる)。▼それは看過する(＝見のがす)ことのできない問題だ。▼姉は、看護師をめざしています。▼母は、かぜで熱が下がらないわたしを、一晩じゅう看病してくれた。

なりたち 看-看 手(＝手)と目(＝目)を組み合わせてできた字。手を目の上にかざして、じっとよく見ることをあらわす。

簡

おん カン
くん ―

18画〔⺮・12画〕〈たけかんむり〉

いみ ❶てがる。大ざっぱ。「簡単・簡略・簡素・簡潔」❷手紙。「書簡・木簡」

使い方 ▼簡単な問題を数多くこなす。▼巻末に簡略な解説がのっています。▼簡素な(＝簡単でかざりけのない)生活を送る。▼感想はなるべく簡潔に(＝簡単にまとめて)書いてください。▼外国の大統領から日本の首相に書簡が届いた。

なりたち もとの字は「簡」。⺮(＝たけ)と閒(＝門のすき間から見える月)を組み合わせた字。うすくけずった竹のふだを、すき間を空けてならべてとじたものをあらわす。月が日にかわって「簡」となった。

六年

危

おん キ
くん あぶない・*あやうい・*あやぶむ

6画〔卩・4画〕〈ふしづくり〉 ↔安 144

いみ あぶない。また、あぶないめにあわせる。「危険・危機・危急・危害」

使い方 ▼危険な場所で遊ばないこと。▼思いがけない危機に直面した。▼病人は昨日からずっと危篤*状態(=今にも死にそうな状態)だ。▼危害を加える(=人を傷つける)。▼危ういところを助けてもらった。▼計画の実現が危ぶまれる。

なりたち 厃‐危(危) 人ががけの上と下にしゃがんだようすからできた字。あぶないがけに来て、人がしゃがみこむことをあらわす。

机

おん キ*
くん つくえ

6画〔木・2画〕〈きへん〉

いみ つくえ。台。「机上・机下(=手紙で、相手の名前の下にそえることば)・勉強机」

使い方 ▼妹は小学校の入学祝いに、新しい学習机を買ってもらった。▼机上に配布したプリントをごらんください。▼机上の空論(=頭の中で考えただけで実現しそうもない理論)。

なりたち 木(=き)と几(=木の台)を組み合わせた字。書きものをする台をあらわす。

揮

おん キ
くん —

12画〔扌・9画〕〈てへん〉

いみ ❶ふりまわす。手をまわしてさしずする。「指揮」❷外にあらわす。また、外にとびちる。「発揮・揮発」

使い方 ▼オーケストラの指揮をする。▼市長が陣頭指揮をして、水害地の復旧作業がすすめられている。▼自分たちの力を思うぞんぶん発揮して(=表に出して)優勝した。▼ガソリンなどの液体がふつうの温度で気体になることを揮発といいます。▼ベンジンは揮発性の強い液体だ。

なりたち 扌(=手)と軍(=ぐるりとまわりをかこむ)を組み合わせた字。円をえがくように手を動かすことをあらわす。

六年

貴

おん キ
くん *たっとい・*とうとい・*たっとぶ・*とうとぶ

12画〔貝・5画〕〈こがい〉

いみ ❶とうとい。「貴重・貴金属・貴婦人・貴族・高貴」❷相手に関係のあることばにつけて、尊敬の意味を表すことば。あなたの。「貴兄・貴下・貴社・貴国」

使い方 ▼かれは、チームにとって貴重な選手だ。▼貴金属をとりあつかっている店。▼冬山登山で、貴い体験をした。▼真理を貴ぶ。▼貴社(=あなたの会社)の製品は、実にすばらしい。

なりたち 𧴪‐貴 臾(=両手で丸くて大きい荷物を持つようす)と貝(=お金や品物)を組み合わせた字。

疑

おん ギ
くん うたがう

14画〔疋・9画〕〈ひき〉 ↔信 252

いみ ❶うたがう。あやしむ。「疑問・疑心・疑念・疑惑*・容疑・質疑・半信半疑」❷にている。まぎらわしい。「疑似」

使い方 ▼ぼくが犯人と疑われた。▼疑問の点は何でも質問してください。▼放火事件の容疑者がつかまった。▼おなかをこわして病院に行ったら、疑似赤りとしんだんされた。

なりたち 𠤕‐疑 𠤕(=人が立ち止まって、うしろを振り返るようす)と子(=子ども)と止(=足)を組み合わせた字。子どもが気になって進めないことで、うたがいためらうことをあらわす。

吸

おん キュウ
くん すう

6画〔口・3画〕〈くちへん〉

いみ すう。すいこむ。すいつく。また、とりいれる。「吸収・吸引・吸入・吸着・呼吸」

使い方 ▼かわいたスポンジは水をよく吸います。▼本を読んで、新しい知識を吸収する。▼このそうじ機は吸引力が強い。▼病人に酸素を吸入する。▼吸血鬼*の映画を見てこわくなった。▼大自然の中で思いきり深呼吸をする。

なりたち 口(=くち)と及(=とどく)を組み合わせてできた字。口があるものにとどいて、すいつくことをあらわす。「及」は、「キュウ」の音もあらわす。

六年

供

おん キョウ・*ク
くん そなえる・とも

8画 〔イ・6画〕〈にんべん〉

いみ ❶そなえる。「供物・供養」❷さしだす。「供給・提供」❸のべる。「供述・自供」❹人につきしたがう。また、その人。とも。

使い方 ▼先祖の仏前に花を**供える**。▼先祖の霊*を**供養**(=**供物**をそなえてまつること)する。▼必要な品物を**供給**する。▼犯行を**自供**(=自分のした悪いことを白状すること)する。▼日曜日に、父の**お供**で理髪*店に行った。

なりたち イ(=人)と**共**(=両手をそろえてささげる)を組み合わせてできた字。「そなえる」という意味をあらわす。

胸

おん キョウ
くん むね・*むな

10画 〔月・6画〕〈にくづき〉

いみ ❶むね。「胸部・胸囲・胸像・胸元」❷心。気持ち。「胸中・度胸・胸さわぎ」

使い方 ▼**胸**いっぱいに息を吸いこんだ。▼身体測定で**胸囲**をはかった。▼学校には初代の校長先生の**胸像**があります。▼**胸元**にペンダントが光る。▼事故で子どもをなくした遺族の**胸中**を思いやる。▼よしこさんは、**度胸**がすわっている。

なりたち 月(=からだ)と匈(=くぼんだあなを外からつつんだようす)を組み合わせた字。骨にかこまれたからだの中の大きなあなで、「むね」をあらわす。

郷

おん キョウ・*ゴウ
くん —

11画 〔阝・8画〕〈おおざと〉

いみ ❶地方。いなか。また、ふるさと。「郷土・郷里・故郷・帰郷」❷特別の何かがある場所。「水郷・理想郷」

使い方 ▼**郷土料理**を味わう。▼**郷**に入っては**郷**に従え(=住もうとする土地の習慣にしたがうのがよい、という意味のことわざ)。▼生まれ育った**故郷**をなつかしむ。▼正月には**帰郷**する予定です。

なりたち 郷(鄉) (=ごちそうをもったうつわ)と (=二人の人)を組み合わせた字。ごちそうをはさんで向かい合う二人から、向かい合う村々の意味になった。

答え 洗った。

勤

おん キン・*ゴン
くん つとめる・つとまる

12画 〔力・10画〕〈ちから〉

いみ ❶つとめる。はたらく。また、つとめ。「勤務・勤労・勤勉・通勤」❷僧*が毎日行う修行。つとめ。「勤行」

使い方 ▼父は、食品関係の会社に**勤めて**います。▼この会社の**勤務時間**は九時から五時までです。▼かれはとても**勤勉**な人です。▼朝夕の**通勤客**でひじょうに混み合います。▼おじが、北海道に**転勤**することになりました。

なりたち もとの字は「勤」。**堇**(=水分を出しつくしてかわききり、こなごなになること)と**力**(=ちから)を組み合わせた字。力を出しつくしてこまめに働くことをあらわす。

筋

おん キン
くん すじ

12画 〔⺮・6画〕〈たけかんむり〉

いみ ❶からだのすじ。「筋肉・筋骨・筋力・腹筋」❷細長いもの。「筋金・鉄筋」❸長くうけついでいるもの。「血筋」❹ものごとの道理。「筋道」❺物語の続きぐあい。「筋書き」

使い方 ▼はげしい運動のあとで**筋肉**がいたむ。▼校舎は、**鉄筋コンクリート**建てです。▼かれは野球**一筋**にがんばっています。▼**筋道**(=ものごとの順序)をたてて話す。▼物語の**筋**(=**あら筋**)をまとめる。

なりたち ⺮(=たけ)と**肋**(=あばらぼね)を組み合わせてできた字。すじばって、ひきしまったきんにくをあらわす。

ことばの知識

● 三字の熟語のできかた

漢字三字の熟語のできかた。

① 一字ずつの漢字をならべたもの
例 衣食住　市町村　松竹梅

② 二字の熟語の下に、一字をつけたもの
例 学級会　芸術家　宇宙人
★「化」(=そのようにすること)
具体化　合理化　機械化
★「性」(=そのような性質)
安全性　可能性　感受性
★「的」(=その傾向・ようすがある)
積極的　楽天的

③ 二字の熟語の上に、一字をつけたもの
例 新記録　高気圧　絹織物
※打ち消しの漢字をつけたもの
「非」非公式　非常識
「不」不可能　不完全
「未」未完成　未成年
「無」無意識　無責任

漢字クイズ 「少ない石」を何という？

六年

系

おん ケイ
くん ―

7画〔糸・1画〕〈いと〉

系系系系系系系

いみ ❶つながり。「系統・系列・体系・系図・父系・母系」❷つながりのある集まり。「太陽系・理科系・文科系」

使い方 ▼もっと系統（＝すじみち）だてて話してください。▼おじは、あの銀行の系列（＝つながりがあること）の会社につとめている。▼我が家の家系をたどると、昔は武家だった。▼太陽系の星は、太陽を中心に回っている。

なりたち 系-系 ノ（＝引きのばすしるし）と糸（＝糸）を組み合わせてできた字。糸をつないでいって、長くのばすことをあらわす。

敬

おん ケイ
くん うやまう

12画〔攵・8画〕〈ぼくにょう〉



敬敬敬敬敬敬敬

いみ うやまう。「敬意・敬語・敬服・敬愛・敬老・敬遠・敬礼・尊敬」

使い方 ▼人を敬う気持ちを大切にする。▼目上の人と話すときは、敬語を使う。▼かれのがまん強さには、いつも敬服している。▼九月十五日は敬老の日です。▼四番バッターを敬遠する。▼あの人は、心から尊敬できる人です。

なりたち 敬-敬（敬） 䒑（＝ひつじのつの）と勹（＝人）と口（＝口）と攴（＝動詞の記号）を組み合わせた字。つのにふれてはっとおどろくことから、かしこまることをあらわす。

警

おん ケイ
くん ―

19画〔言・12画〕〈いう〉

警警警警警警警

いみ 注意して用心させる。また、とりしまる。「警告・警報・警備・警察・警官・警護・警視庁・夜警」

使い方 ▼地しんの後すぐ、津*波警報が出た。▼警備が厳重なビル。▼おじさんは警察官です。▼列車がするどい警笛を鳴らす。

注意 「驚*」とまちがえないこと。

なりたち 警-警 苟（＝人がひつじのつのにふれないようにする）と攴（＝動詞の記号）と言（＝ことば）を組み合わせた字。ことばで注意して、用心させることをあらわす。

劇

おん ゲキ
くん ―

15画〔刂・13画〕〈りっとう〉

劇劇劇劇劇劇劇

いみ ❶しばい。「劇場・劇化・劇的・劇作家・演劇・悲劇・喜劇・新劇」❷はげしい。「劇薬」

使い方 ▼新しい劇場がオープンした。▼姉は中学校の演劇クラブに入っています。▼わたしは悲劇より喜劇がすきだ。▼祖父がテレビで時代劇を見ている。▼これは劇薬で、とても危険です。

参考 「はげしい」の意味では、ふつう「激」を使う。「劇」を使うのは、「劇薬」だけ。

なりたち 豦（＝とらといのしし）と刂（＝刀）を組み合わせ、「はげしい」という意味をあらわした字。

激

おん ゲキ
くん はげしい

16画〔氵・13画〕〈さんずい〉

激激激激激激激

いみ いきおいが強い。はげしい。「激流・激論・激戦・激痛・激突*・激怒*・激励*・感激・急激・過激」

使い方 ▼激しい雨に、強い風も加わってきた。▼激流の中を、ゴムボートでくだっていった。▼激戦のすえ、一点差で勝利を勝ちとった。▼数々の困難にあいながらも、必死に生きようとする主人公の姿に感激しました。▼夜になって、急激に冷えこんできた。

なりたち 氵（＝水）と敫（＝強くうつ）を組み合わせた字。水が岩にぶつかりしぶきをあげることから、「はげしい」という意味をあらわす。

穴

おん ケツ*
くん あな

5画〔穴・0画〕〈あな〉



穴穴穴穴穴

いみ ❶地面などのくぼみ。あな。「穴居・穴蔵・墓穴（ぼけつ・はかあな）・節穴」❷かけているところ。また、人に知られていなくて、思いがけない利益をうむことがらや場所。「穴場」

使い方 ▼穴があったら入りたい（＝とてもはずかしい）。▼うら山にほら穴がある。▼墓穴をほる（＝自分で自分の身をほろぼす）。▼あのチームはキーパーが穴（＝欠点）だ。

なりたち 宀-穴 宀（＝家）と八（＝左右に分ける）を組み合わせてできた字。土をほってつくった大むかしのあなぐらの家をあらわす。

六年

絹

おん ケン
くん きぬ

13画 〔糸・7画〕〈いとへん〉

いみ かいこのまゆからとった糸。また、その糸でおった布。「絹糸(けんし・きぬいと)・絹布・絹織物」

使い方 ▼昔、中国の絹をヨーロッパへ運ぶ商人が通った道を、絹街道(＝シルクロード)という。▼絹をさくような女性の悲鳴が聞こえた。▼絹糸でししゅうをする。▼このふすまは絹張り(＝絹の布がはってあること)です。▼以前からこの地方では、上質な絹織物が作られていた。

なりたち -絹 (＝糸)と を組み合わせた字。かいこからとるきぬ糸をあらわす。

権

おん ケン・*ゴン
くん ―

15画 〔木・11画〕〈きへん〉

いみ ❶人やものごとを自由にできる力。「権力・権利・権限・権勢・権威*・実権・特権・選挙権・所有権」❷仮にもうけられたもの。「権化」

使い方 ▼正当な権利を主張する。▼二十才未満の人には選挙権はない。▼政治の実権をにぎる。▼すべての人の人権を尊重する。▼神の権化(＝仮にすがたをかえてあらわれたもの)のような人。

なりたち もとの字は「權」。木(＝き)と雚(＝音をあらわす)を組み合わせた字。木の名前をあらわしたが、はかりのおもりの意味になり、つりあいをとる力の意味になった。

憲

おん ケン
くん ―

16画 〔心・12画〕〈こころ〉

いみ ❶基本となるきまり。「憲法・憲章・違*憲・立憲政治」❷役人。また、警察官。「官憲」

使い方 ▼日本の政治は、憲法にもとづいて行われる、立憲政治です。▼五月三日は、憲法記念日です。▼児童憲章は、児童のしあわせを守るためにつくられたきまりです。▼その行為*は違*憲(＝憲法に反すること)だ。

なりたち -憲 (＝かぶせるもの)と (＝目)と (＝心)を組み合わせた字。目や心にわくをかぶせて、わがままをさせないことをあらわす。

源

おん ゲン
くん みなもと

13画 〔氵・10画〕〈さんずい〉

いみ ものごとのはじまり。みなもと。「源流・源泉・起源・資源・水源・電源・語源・財源」

使い方 ▼川の流れ出る源までさかのぼる。▼人類の起源について興味を持つ。▼資源を大切にしましょう。▼何日も雨がふらないせいで、水源地のダムの水位が下がったそうだ。▼パソコンの電源を入れる。

注意 「原因」「原案」などの「原」とまちがえないこと。

なりたち -源 (＝水)と (＝がけの下のいずみから水が流れるようす)を組み合わせた字。「みなもと」のこと。

厳

おん ゲン・*ゴン
くん *おごそか・きびしい

17画 〔⺍・14画〕〈つ〉

いみ ❶おごそかなようす。「厳然・厳粛*・尊厳・荘*厳」❷きびしいようす。「厳格・厳重・厳正・厳選・厳禁・厳守・厳密」

使い方 ▼厳かに式をとり行う。▼北国の冬は、長く厳しい。▼祖父はとても厳格な人だ。▼戸じまりを厳重にする。▼この部屋で火をあつかうのは厳禁です。▼規則を厳守する。▼厳密な調査を行う。

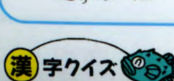
なりたち もとの字は「嚴」。吅(＝口が二つ)と厰(＝いかつく、どっしりしている)を組み合わせた字。いかめしいことばて、きびしくとりしまることをあらわす。

ことばの知識

●まちがえやすい数えかた

数字に次のことばがついたときには、数えかたに注意しましょう。

- 以後(＝以降) 「十日以後」は、十日をふくむ。
- 以前 「十日以前」は、十日をふくむ。
- 以内 「五人以内」は、五人をふくむ。
- 前 「今日から三日前」は、今日をふくまない。
- 未満 「二十才未満」は、二十才をふくまない。
- おき 「三日おき」は、そのことのない日が間に三日入る。
- ごと 「四年ごと」は、四年に一度。
- ぶり 「七日ぶり」は、数えはじめの日をふくまない。「先週の日曜日から七日ぶり」は、今週の日曜日。



姿をアラワすは「現」。では、本をアラワすは？

己

おん コ・キ*
くん おのれ

3画 〔己・0画〕〈おのれ〉



いみ じぶん。わたし。おのれ。「自己・利己・知己」

使い方 ▼新学期に、みんなで自己しょうかいをした。▼かれは、自分のことしか考えない利己的な人だ。▼おばは、知己(=知り合い)をたよってイギリスにわたった。▼己の力の限界を知る。

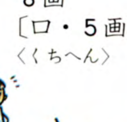
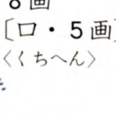
注意 「巳*」(=十二支のへびの「み」)や「已*」(=「すでに」の意味をもつ)とまちがえないこと。

なりたち ー己 むかしの土器にかかれたもようのうち、とくに目じるしになる形からできた字。

呼

おん コ
くん よぶ

8画 〔口・5画〕〈くちへん〉





いみ ❶よぶ。さけぶ。「呼応・呼称*・点呼・連呼・歓*呼・呼び物・呼び水」❷息をはく。「呼気・呼吸」

使い方 ▼校門のところで、知らない人に呼び止められた。▼協力してくれるよう、みんなに呼びかける。▼わたしたちの美化運動に呼応して、となりのクラスでも運動が開始された。▼遠足で、集合したあと点呼をとる。▼山の頂上について、大きく深呼吸した。

なりたち ー呼 口(=口)と(=息が下から上へとのぼり、八の字のようにちらばるようす)を組み合わせた字。

誤

おん ゴ
くん あやまる

14画 〔言・7画〕〈ごんべん〉 ↕正 80

いみ まちがえる。また、まちがい。あやまる。「誤解・誤字・誤差・誤報・誤算・誤植・誤用」

使い方 ▼問題を読みまちがえて、答えを誤る。▼それはあなたの誤解です。▼この作文には誤字が多い。▼きのうの事故のニュースは誤報でした。▼五人しか集まらないとは、思わぬ誤算(=みこみちがい)だった。▼ことばの誤用を集めてみた。

注意 悪かったと、わびる意味の「あやまる」は「謝る」と書く。

なりたち ー誤 (=ことば)と(=くいちがうことを言う)を合わせた字。

答え 著。

后

おん コウ
くん ―

6画 〔口・3画〕〈くち〉

いみ 天皇の妻。きさき。「皇后・皇太后・太皇太后」

使い方 ▼皇后陛下(=今の天皇のおくさま)からおことばをたまわる(=身分の高い人や目上の人からいただく)。▼皇太后(=前の天皇のおくさま)のおすがたに接する。▼天皇陛下(=今の天皇)のおばあさんにあたる方を、太皇太后という。

なりたち ー后 (=人)と(=あな)を組み合わせてできた字。人のからだのうしろにあるおしりのあなをあらわす。ここから「うしろ」の意味になり、のちに「きさき」の意味になった。

孝

おん コウ
くん ―

7画 〔子・4画〕〈こ〉

いみ 親をたいせつにすること。「孝行・孝心・孝養・親不孝」

使い方 ▼かれは親孝行だと近所で評判です。▼孝行のしたい時分に親はなし(=少し年を取って親の気持ちがわかり、親を大切にしようと思うころには親は死んでしまっていることが多い。だから、親は生きているうちにだいじにしなさい、という教え)。▼父母に孝養をつくす。

注意 「考」「老」とまちがえやすい。

なりたち 老(=年寄り)をりゃくしたと子(=こども)を組み合わせた字。年をとった親をたいせつにするという意味をあらわす。

皇



おん コウ・オウ
くん ―

9画 〔白・4画〕〈しろ〉



いみ てんのう。みかど。「皇居・皇位・皇室・皇族・皇后・皇子・皇女・皇太子・天皇・上皇・法皇」

使い方 ▼皇居(=天皇のすまい)前の広場は、外国人も混じった観光客でにぎわっていた。▼皇太子が皇位をうけついで、天皇になった。▼皇室の最近のニュースを伝えるテレビ番組を見た。

参考 「天皇」のときは、発音が変わり、「テンノウ」と読む。

なりたち ー皇 (=はじめ)と王(=い大な人)を組み合わせた字。いちばんはじめの王のことをあらわす。

漢字クイズ 郵便のマークは次のうちのどれ? 〒・¥・Ψ

紅

おん コウ・*ク
くん べに・*くれない

9画 〔糸・3画〕〈いとへん〉

紅紅紅紅紅紅紅紅紅

いみ ❶あざやかな赤い色。「紅白・紅葉(こうよう・もみじ)・紅顔・紅茶・紅潮・紅花・真紅」❷くちびるやほおにつけるべに。「口紅」

使い方 ▼夕日が空を**紅**にそめていた。▼**紅白**の二組みに分かれてたたかう。▼山の秋は**紅葉**が美しい。▼ふざけて母の**口紅**をつけて、しかられた。▼**真紅**のばらがさいている。

参考 「ク」の音は、「真紅・深紅」のときだけに使う。

なりたち **糸**(=いと)と**工**(=「コウ」の音をあらわす)を組み合わせた字。べに色にそめた糸、また、その色をあらわす。

降

おん コウ
くん お**りる**・お**ろす**・ふ**る**

10画 〔阝・7画〕〈こざとへん〉 ↕乗 177

降降降降降降降降降降

いみ ❶おりる。くだる。「降下・降格・降板・下降・乗降」❷ふる。「降雨・降雪」❸まけて、したがう。「降参・降伏*」❹のち。「以降」

使い方 ▼電車の**乗り降り**は順序よくしよう。▼パラシュートで**降下**する。▼冷たい雨が**降りしきる**。▼今夜から明日にかけて、かなりの**降雪量**がみこまれます。▼力つきて**降参**した。▼六時**以降**は家にいます。

参考 「降」には「くだる」の意味もあるが、「くだる」は「下る」と書く。

注意 送りがなに気をつけること。

なりたち **阝**(=おか)と**夅**(=下を向いた両足)を組み合わせた字。

鋼

おん コウ
くん *はがね

16画 〔金・8画〕〈かねへん〉

鋼鋼鋼鋼鋼鋼鋼鋼鋼

いみ きたえて質をかたくじょうぶにした鉄。はがね。「鋼鉄・鋼材・製鋼・鉄鋼」

使い方 ▼**鋼**のような肉体の人。▼工場から**鋼材**(=物をつくる材料となる**鋼鉄**)が運びだされる。▼**製鋼所**のえんとつが見える。▼このあたりは昔から、**鉄鋼**の町としてさかえてきた。

注意 「綱*」「網*」「鉱」とまちがえないこと。

なりたち **金**(=金属)と**岡**(=高くて平らなかたい土地)を組み合わせてできた字。かたい金属のはがねをあらわす。

刻

おん コク
くん きざ**む**

8画 〔刂・6画〕〈りっとう〉

刻刻刻刻刻刻刻刻

いみ ❶ほりつける。きざむ。「刻印・彫*刻」❷きびしい。つらい。「刻苦・深刻」❸時間のひとくぎりひとくぎり。とき。「時刻・定刻・夕刻」

使い方 ▼ぼくのおじは**彫*刻家**です。▼兄が、いつになく**深刻**な顔をしている。▼朝の通学時には、**五分刻み**にバスがくる。▼時計を見ると、**時刻**は、ちょうど正午だった。▼会議は**定刻**に始まった。▼かれはきょう**遅*刻**した。

なりたち **亥**(=ぶたの骨組み)と**刂**(=刀)を組み合わせてできた字。かたいものに、刀でかどばった切れ目を入れることをあらわす。

穀

おん コク
くん ―

14画 〔禾・9画〕〈のぎへん〉

穀穀穀穀穀穀穀穀穀

いみ ❶こくもつ。米・麦など。「穀物・穀類・五穀・雑穀・米穀」❷こくもつのつぶ。また、そのから。「脱*穀」

使い方 ▼この地方は**穀物**の生産量が多い。▼父の出身地は、日本の**穀倉地帯**として有名な所です。▼**五穀**とは、米・麦・豆・あわ・きびのことです。▼コンバインはいねをかり取りながら**脱*穀**する機械です。

参考 「殻*」(=動物や植物の外側をおおっているかわ)とにている。

なりたち もとの字は「穀」。**殸**(=かたいから)と**禾**(=作物)を組み合わせた字。かたいからをかぶったこくもつの実をあらわす。

骨

おん コツ
くん ほね

10画 〔骨・0画〕〈ほね〉

骨骨骨骨骨骨骨骨骨

いみ ❶からだを形づくるほね。「骨折・骨格・骨肉・背骨・人骨・白骨・遺骨」❷からだ。「骨身・老骨」❸ものごとを組み立てる中心になるもの。「骨子・鉄骨」❹人がら。気性。「気骨・反骨」

使い方 ▼**骨格**のしっかりした人。▼仕事の**骨休め**に、温泉に行く。▼あたたかい思いやりが**骨身**にしみた。▼計画の**骨子**(=おもな内容)。▼**気骨**のある(=信念をつらぬく)人。

なりたち 冎 ‐ 骨
冎(=ほねの関節)と**⺼**(=にく)を組み合わせた字。からだのしんにある骨をあらわした字。

困

おん コン　くん こまる

7画〔囗・4画〕〈くにがまえ〉

いみ くるしみなやむ。こまる。「困難・困苦・困惑*・困窮*・貧困」

使い方 ▼災害にあい困っている人たちに、何かしてあげたいと思う。▼困難をのりこえて、ついに優勝の栄かんを勝ち取った。▼思いがけない質問をされて困惑*した。▼世界には、まだ貧困に苦しむ人々がたくさんいる。

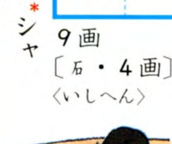
注意 「因」とまちがえないこと。

なりたち 木(＝き)と囗(＝かこむ)を組み合わせた字。木をかこいのなかにおしこんで、動かないようにしばったようすをあらわす。動きがとれなくてこまること。

砂

おん サ・*シャ　くん すな

9画〔石・4画〕〈いしへん〉





いみ ❶すな。「砂場・砂山・砂浜*・砂上・砂金・砂鉄・砂利・土砂」❷すなのようにこまかいつぶ。「砂糖」

使い方 ▼公園の砂場で、子どもたちがままごと遊びをしている。▼磁石を地面においたら、砂鉄がたくさんついた。▼砂時計で時間をはかる。▼美しい砂浜*を散歩する。▼大雨でがけがくずれ、土砂が道をふさいだ。▼コーヒーに、砂糖をスプーンで二はい入れる。

なりたち 石(＝いし)と少(＝小さくけずる)を組み合わせてできた字。こまかくなるまでけずった、石のつぶをあらわす。

座

おん ザ　くん *すわる

10画〔广・7画〕〈まだれ〉

いみ ❶すわる。また、すわる場所。「座席・座談会・座布団・正座」❷星の集まり。また、その名前を表すことば。「星座・白鳥座」❸劇団や劇場の名前につけることば。

使い方 ▼座席指定の前売り券を予約する。▼おぼうさんのお経を、正座して聞いた。▼お客さまに座布団をすすめた。▼オリオン座は冬の星座です。▼かぶき座へ、しばいを見に行きました。

なりたち 座－座　坐(＝ふたりの人が向き合って、土の上にすわるようす)と广(＝家)を組み合わせてできた字。

済

おん サイ　くん すむ・すます

11画〔氵・8画〕〈さんずい〉



いみ ❶たすける。すくう。「救済・共済組合」❷おわる。すむ。また、おわらせる。すます。「決済・返済」

使い方 ▼困っている人を救済する。▼父は、共済組合(＝おたがいに助け合う組織)に入っている。▼ガソリン代が安い、経済的な車が発表された。▼テストが済んで、ほっとしている。▼借りていたお金を、全部返済した。

なりたち もとの字は、「濟」。齊(＝でこぼこがなくそろったようす)とシ(＝水)を組み合わせた字。川の水量をととのえることから、ととのってそろう意味をあらわす。

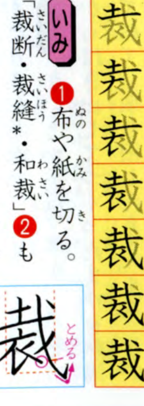
裁

おん サイ　くん *たつ・さばく

12画〔衣・6画〕〈ころも〉







いみ ❶布や紙を切る。「裁断・裁縫*・和裁」❷ものごとのよしあしをはっきり決める。さばく。「裁判・裁決・裁量・独裁・制裁・仲裁」❸「裁判所」の略。「地裁・高裁・最高裁」❹形。ようす。「体裁」

使い方 ▼布を裁つ。▼法を破った者は裁判所で裁かれる。▼自分の裁量でものごとを処理する。▼父は地裁(＝地方裁判所)に勤めている。▼体裁ばかり気にしていてはだめだ。

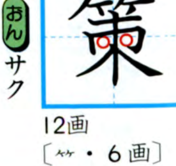
なりたち 𢦏－裁　𢦏(＝たち切る)と衣(＝布)を組み合わせた字。布地をたち切ることをあらわす。

策

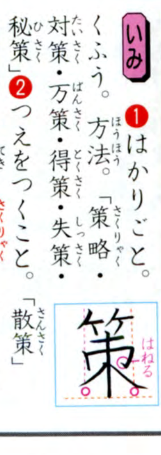
おん サク　くん ―

12画〔⺮・6画〕〈たけかんむり〉









いみ ❶はかりごと。くふう。方法。「策略・対策・万策・得策・失策・秘策」❷つえをつくこと。「散策」

使い方 ▼敵の策略(＝はかりごと)にはまった。▼災害の対策を立てる。▼各党の党首が政策(＝政治上の方針)を発表する。▼いっそ遠回りするほうが得策だ。▼野山を散策する(＝ぶらぶら歩く)。

なりたち 策－策　艸(＝竹)と朿(＝とげが出ているえだ)を組み合わせた字。ぎざぎざしたむち、または、竹のたんざくのこと。竹のたんざくに書いた計画書の意味をあらわす。

冊

おん サツ・*サク
くん ―
5画〔冂・3画〕〈どうがまえ〉

いみ ❶書物。本。書物。また、書きつけ。「冊子・別冊・分冊・短冊」❷書物を数えることば。「一冊・数冊」

使い方 ▼祖父は、自分の人生の記録を小さな**冊子**にまとめた。▼雑誌を買ったら、**別冊**の付録がついていた。▼七夕には、**短冊**に願い事を書いてささの枝に下げます。▼夏休みに、学級文庫の本を**五冊**読んだ。

なりたち ―冊（冊）
竹や木のふだをひもで横につないだ形からできた字。むかしはそれに字を書いたことから、書物の意味をあらわす。

蚕

おん サン
くん かいこ
10画〔虫・4画〕〈むし〉



いみ かいこがの幼虫。かいこ。「蚕糸・蚕室・養蚕」

使い方 ▼**蚕室**で、たくさんの**蚕**がくわの葉を食べるざわざわという音が聞こえる。▼この地方は昔、**養蚕**がさかんに行われていました。

参考 かいこがの幼虫が、糸を口からはき出してつくったまゆを熱湯でにて、取り出した糸を「生糸」という。生糸から絹糸ができる。

なりたち もとの字は「蠶」。**朁**（＝間にもぐりこむ）と**虫**二つを組み合わせた字。くわの葉の間にもぐりこんで葉を食べる、かいこのことをあらわす。

漢字の知識

●「おおざと」と「こざと」
「⻏」が、漢字の左側につくときは「こざと（へん）」、右側につくときは「おおざと」といい、よびかたがちがうのはなぜでしょう。
「おおざと」は、古くは「邑」と書き、王様などがおさめている土地と、人がひざまずいているようすから、王様がおさめる土地（領土・村）の意味を表した字です。地名や、住んでいる状態などを表す字を作ります。
「こざと（へん）」は、古くは、「阜」と書き、土地を高く、階段のようにつみあげた形をしめし、「おか」「もり土」「階段」などに関係のある字を作ります。

●「おおざと」の漢字…都・郵・郡・部・郷
●「こざと（へん）」の漢字…院・階・陸・陽・防・除・険・隊・際・障

答え にくづき。

至

おん シ
くん いたる
6画〔至・0画〕〈いたる〉

いみ ❶いきつく。いたる。「必至・夏至・冬至」❷この上もなく。ひじょうに。「至急・至近・至難・至極」

使い方 ▼さくらの木は、全国**至る**所に見られる。▼このままでは負けるのは**必至**（＝かならずそうなるようす）だから、選手を代える。▼**至難**のわざ（＝ひじょうにむずかしいことがら）。▼**大至急**うかがいます。

なりたち ―至
矢（＝矢）が下に向かって進むようす）と一（＝めあての線）を組み合わせてできた字。矢がめあてのところまでとどくようすをあらわす。

私

おん シ
くん わたくし
7画〔禾・3画〕〈のぎへん〉 ↕公 93




いみ ❶公・全体に対して、自分だけのこと。自分。「私財・私物・私事・私用・私鉄・私製・私心・私情・私有」❷ひそか。ないしょ。「私語」

使い方 ▼**私**のほうから、あらためてお宅へうかがいます。▼**私用**があって会議を欠席した。▼かれは**私立中学**を受験するそうだ。▼**公私**（＝公共のことと個人的なこと）を混同（＝まぜこぜにすること）しないように。▼授業中の**私語**はつつしもう。

なりたち **禾**（＝とり入れた作物）と、**ム**（＝自分のものをうでてかかえこむようす）を合わせた字。自分の分をかかえこむ意味をあらわす。

姿

おん シ
くん すがた
9画〔女・6画〕〈おんな〉

いみ からだつき。すがた。「姿見・姿勢・姿態・容姿・雄*姿・後ろ姿」

使い方 ▼小鳥の鳴き声がするが、**姿**が見えない。▼**姿勢**のよい人。▼美しい**容姿**（＝顔だちとからだつき）を保つ。▼祖母が、**姿見**（＝全身をうつす大型の鏡）の前で帯をしめている。▼姉の**晴れ姿**をカメラに収めた。▼出かける父の**後ろ姿**を見送る。

なりたち ―姿
二（＝ならべる）と**欠**（＝からだをかがめる）と**女**（＝女）を組み合わせた字。女が顔や身なりをととのえることで、全体をざっとつくろったそのままのようすをあらわす。

漢字のちしき 「栄・営・労」の⺍はもとは𤇾、「学・覚」の⺍はもとは𦥯で別だった。

視

おん シ
くん ―

11画 〔見・4画〕〈みる〉

いみ ❶気をつけてみる。みる。「視察・視力・視界・視野・視点・視線・視覚・視聴*覚・正視」❷そのように見なす。「重視・軽視・無視・敵視」

使い方 ▼市長さんが、学校の**視察**に見えた。▼山頂に登ると、**視界**が開けた。▼もっと広い**視野**でものごとを考えよう。▼みんなの意見を**重視**して決めた。▼あいさつをしたのに、**無視**されてしまった。

なりたち もとの字は「視」。示（＝「シ」の音をあらわす）と見（＝見る）を組み合わせてできた字。示の本来の意味の「祭だん」とは関係がない。まっすぐみること。

詞

おん シ
くん ―

12画 〔言・5画〕〈ごんべん〉

いみ ❶ことば。「詞章・作詞・歌詞」❷性質によって分けた、ことばのまとまり。「品詞・名詞・動詞・代名詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助詞・助動詞」

使い方 ▼最近、**作詞**を始めた。▼**歌詞**をおぼえる。▼**名詞**（＝人や物の名まえを表すことば。「家」「動物」「花子」など）。▼**動詞**（＝物の動きや、はたらきなどを表すことば。「行く」「働く」「話す」など）。▼**形容詞**（＝ものの性質やようすを表すことば。「美しい」「白い」「広い」など）。

なりたち 言（＝ことば）と司（＝「シ」の音をあらわす）を合わせた字。

誌

おん シ
くん ―

14画 〔言・7画〕〈ごんべん〉

いみ ❶事実を書きしるす。また、書きしるしたもの。「日誌」❷ざっし。「誌面・誌上・雑誌・週刊誌」

使い方 ▼交代で、うさぎの**飼育日誌**をつける。▼スポーツ選手の活やくの記事が**誌面**をかざる。▼クイズの答えは、来月号の**誌上**（＝**雑誌**の記事の中）で発表します。

注意 「雑誌」の「誌」と、「新聞紙」の「紙」をまちがえないこと。

なりたち 言（＝ことば）と志（＝心がある一点をめざしてとまること）を組み合わせた字。大切なことばを書物に書きとめたり、心の中にとめておいたりすること。

六年

磁

おん ジ
くん ―

14画 〔石・9画〕〈いしへん〉

いみ ❶鉄をひきつける性質。また、その性質を持っていること。「磁石・磁気・磁力・磁針・磁場」❷高い温度で焼いたかたい焼き物。「陶*磁器」

使い方 ▼鉄の棒にコイルを巻いて**電磁石**を作る。▼リニアモーターカーは、**磁力**で車体をうかせて走る。▼**陶*磁器**（＝焼き物）をあつかう店。

注意 「慈*」「滋*」などとまちがえないこと。「慈*」は、いつくしむこと。「滋*」は、栄養になること。

なりたち 石（＝いし）と兹（＝どんどんふえる）を組み合わせた字。鉄を引きつけて大きくなっていく石をあらわす。

射

おん シャ
くん いる

10画 〔寸・7画〕〈すん〉

いみ ❶矢をはなつ。また、銃*などで、たまをうつ。「射殺・射撃*・発射・試射」❷光・電波・液体などを、勢いよくだす。はなつ。「注射・反射・直射・放射・噴*射」

使い方 ▼矢で的を**射る**。▼ロケットを**発射**する。▼インフルエンザの**予防注射**をうけた。▼夕日が湖面に**反射**している。▼**直射日光**がまぶしい。

なりたち －－射 （＝弓に矢をつがえているすがた）と（＝手）を組み合わせた字。弓を引きしぼって矢をはなつことをあらわす。

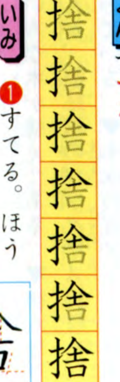
捨



おん シャ
くん すてる

11画 〔扌・8画〕〈てへん〉 ↕拾 172







いみ ❶すてる。ほうっておく。「取捨・四捨五入」❷寺や僧*に、寄付する。「喜捨」

使い方 ▼**捨て身**（＝いのちがけ）になってものごとにぶつかっていく。▼百の位を**四捨五入**して、千の位までのがい数で表してください。▼祖母は、寺によく**喜捨**（＝喜んでほどこしをすること）をしている。

なりたち 扌（＝手）と舎（＝からだから力をぬき、のびのびとやすむ場所）を組み合わせてできた字。手の力をぬき、指をのばしてつかんでいた物をはなすことをあらわす。「舎」が「シャ」の音をあらわす。

六年

尺

おん シャク
くん ―

4画 〔尸・1画〕〈しかばね〉

尺尺尺尺

いみ ❶昔使われた長さの単位。一尺は約三十・三センチ。「尺貫法」❷ものさし。また、長さ。「尺度・巻き尺・くじら尺・縮尺」

使い方 ▼祖父はよく、尺八(=長さが一尺八寸の竹のたて笛)の練習をしています。▼この地図は五万分の一の縮尺です。▼善悪の尺度(=ものごとをはかるひょうじゅん)は、人によってちがう。▼巻き尺を使って、ボール投げのきょりをはかった。

なりたち [古い字形]-[古い字形]-尺 人が手の指を広げて、長さをはかるようすをあらわした形からできた字。

若

おん *ジャク・*ニャク
くん わかい・*もしくは

8画 〔艹・5画〕〈くさかんむり〉

↕老 285



若若若若若若若若

いみ ❶わかい。おさない。「若者・若葉・若草・若君・若年・老若(ろうにゃく・ろうじゃく)・★若人」❷いくらか。「若干」❸あるいは。または。

使い方 ▼祖父は、若いころからつりにこっている。▼校庭のすみに、桜の若木を植える。▼老若男女(=年よりも若者も男も女も、みんな)が輪になって、おどった。▼意見に若干(=少し)のくいちがいがある。▼月曜若しくは火曜に来てください。

なりたち [古い字形]-[古い字形]-若 しなやかなかみの毛を両手でとかしている、からだのやわらかい女のすがたからできた字。

樹

おん ジュ
くん ―

16画 〔木・12画〕〈きへん〉

樹樹樹樹樹樹樹

いみ ❶立ち木。「樹木・樹海・樹氷・樹液・樹齢*・大樹・果樹園・街路樹」❷うちたてる。「樹立」

使い方 ▼森には、たくさんの樹木がおいしげっている。▼朝日をうけて、樹氷がきらきら光る。▼果樹園の中には、りんご・なしなどいろいろな木が植えてある。▼植木屋さんが、街路樹のプラタナスの枝を切っている。▼水泳の百メートル自由形で、新記録を樹立した。

なりたち [古い字形]-樹 [古い字形](=木)と、[古い字形](=たいこを立てたようす)と[古い字形](=手)を組み合わせた字。

収

おん シュウ
くん おさめる・おさまる

4画 〔又・2画〕〈また〉

収収収収

いみ ❶中に入れる。また、手に入れる。「収容・収納・収録・吸収・回収・収入・収支・収集・収穫*」❷まとめる。おさめる。「収拾」

使い方 ▼みごと成功を収める。▼このかばんなら、荷物が全部収まるだろう。▼六万人収容する競技場。▼野鳥の声をテープに収録した。▼切手の収集がしゅみです。▼客がおしかけて、収拾がつかない。

なりたち [古い字形]-収 [古い字形](=二本のひもをひとつによじり合わせる)と[古い字形](=手)を組み合わせた字。ばらばらのものを、ひとところに集めることをあらわす。

宗

おん シュウ・*ソウ
くん ―

8画 〔宀・5画〕〈うかんむり〉

宗宗宗宗宗宗宗宗

いみ ❶本家。家元。「宗家」❷神や仏の教え。また、それを信じる人たちの団体。「宗教・宗徒・宗派・宗旨*」

使い方 ▼かれは、おどりの宗家(=流派の中心となる家)の子に生まれた。▼仏教には、天台宗・真言宗・浄*土宗・禅*宗など、いろいろな宗派がある。

参考 「ソウ」と読むときは、おおもとの意味。「シュウ」と読むときは、宗教に関係のある意味を表す。

なりたち [古い字形]-宗 [古い字形](=やね)と示(=祭だん)を組み合わせた字。先祖のたましいがまつってあるところをあらわす。

就

おん シュウ・*ジュ
くん *つく・*つける

12画 〔尢・9画〕〈だいのまげあし〉

就就就就就就就

いみ ❶仕事や役目などにつく。また、ある状態になる。「就業・就任・就職・就寝*」❷しとげる。「成就」

使い方 ▼重要な任務に就いた。▼新しい先生の就任(=役目につくこと)のあいさつがあった。▼おばはこの春就職した。▼わたしの就寝*時間(=ねる時間)は決まっています。▼この会社は午前九時に就業(仕事を始めること)する。▼長年の夢が成就(=実現すること)した。

なりたち 京(=大きいおか)と尤(=まげた右手)を組み合わせた字。人をよびよせて、ある場所や、役目につけることをあらわした字。

漢字のちしき 「皿」はうつわのことで、「益」のもとの意味は「あふれる」。

衆

おん シュウ・*シュ
くん —
12画〔血・6画〕〈ち〉

いみ 人数が多い。また、多くの人。なかま。「衆知・衆目・衆人・衆議院・民衆・群衆・観衆・聴*衆・若い衆」

使い方 ▼オリンピックの成功のために、衆知(=みんなのちえ)を集める。▼おしゃかさまは、衆生(=すべての生き物)を救おうとした。▼初もうでに、何千の群衆が集まる。▼三万人の観衆が集まる。▼大衆的な安い料金の店。

なりたち 〔古代文字〕-〔古代文字〕-衆 〔古代文字〕(=太陽)と〔古代文字〕(=三人の人)を組み合わせた字。太陽の下でおおぜいの人が働いているようすをあらわす。

従

おん ジュウ・*ショウ・*ジュ
くん したがう・したがえる
10画〔彳・7画〕〈ぎょうにんべん〉 ↕主 169

いみ ❶人のあとについていく。また、言う通りにする。したがう。「従軍・従順・従属・服従・追従(ついじゅう・ついしょう)」❷ある仕事につく。「従事・従業員・専従」❸ものごとの起点を表す。「従来」❹つきしたがう人。「従者・主従」❺思い通りにする。「従容」とも。また、おちついている。

使い方 ▼研究に従事する。▼従順な人がら。▼従来(=今まで)通り。

なりたち 〔古代文字〕-從(従) 〔古代文字〕(=行く)と〔古代文字〕(=足)と〔古代文字〕(=前の人に、うしろの人がついていくようす)を組み合わせた字。あとにしたがうこと。

縦

おん ジュウ
くん たて
16画〔糸・10画〕〈いとへん〉 ↕横 148

いみ ❶たて。「縦糸・縦横・縦断・縦走・縦隊・縦貫*」❷思い通りにする。「縦覧・操縦・放縦」

使い方 ▼この便せんは縦書き用です。▼このあたりはこの地方の交通の中心で、道路が縦横に走っている。▼自転車で、日本列島を縦断する。▼ジェット機を操縦するパイロットになりたい。▼放縦(=かってきまま)な生活を送る。

なりたち 〔古代文字〕-縱(縦) 〔古代文字〕(=糸)と〔古代文字〕(=人のあとに人がしたがう)を組み合わせた字。糸が長くたてにのびることをあらわす。

六年

縮

おん シュク
くん ちぢむ・ちぢまる・ちぢめる・ちぢれる・ちぢらす
17画〔糸・11画〕〈いとへん〉

いみ 小さくする。ちぢめる。「縮小・縮写・縮尺・縮図・短縮・圧縮」

使い方 ▼せんたくをしたら、セーターが少し縮んだ。▼このコピー機は、拡大と縮小が自由にできるので便利です。▼マラソンの日本記録を短縮する。▼おみやげまでいただいて恐*縮(=おそれいること)です。

注意 かなづかいは、「ちぢむ」。「ちじむ」と書かないこと。

なりたち 〔古代文字〕丫〔古代文字〕-縮 〔古代文字〕(=糸)と〔古代文字〕(=せまい場所に人がちぢこまってとまること)を合わせた字。

熟

おん ジュク
くん *うれる
15画〔灬・11画〕〈れんが〉

いみ ❶十分に、にる。「半熟」❷よくみのる。うれる。「成熟・未熟・早熟」❸十分になれて、たくみになる。「熟練・熟達・円熟・未熟者」❹念を入れてする。「熟考・熟読」

使い方 ▼熟語の意味を辞典で調べる。▼卵を半熟にする。▼うでがまだ未熟だ。▼職人が熟練のわざをみせる。▼よく熟れたかきの実。

注意 「熱」「塾*」とまちがえやすい。

なりたち 〔古代文字〕-熟 〔古代文字〕(=火)と〔古代文字〕(=肉にしんを通す)と〔古代文字〕(=動詞の記号)を組み合わせた字。火がしんまで通るように、やわらかくにること。

純

おん ジュン
くん —
10画〔糸・4画〕〈いとへん〉



いみ ❶まじりけがない。けがれがない。「純金・純白・純毛・純益・純潔・純粋*」❷かざりけがない。ありのまま。「純真・純情・単純」

使い方 ▼純白のウエディングドレスを着る。▼この犬は、純粋*な日本犬です。▼蒸留水は、不純物を取りのぞいた水です。▼ものごとを単純に考える。

なりたち 糸(=いと)と屯(=土の中で木の芽)を組み合わせた字。ずっしりと力をたくわえた草さがたれたようすをあらわし、ふさの色が一色であることから、「まじりけがない」という意味になった。

六年

漢字のちしき 「隹」は「とり」という意味を表す部首(383ページ参照)。

処

5画 〔几・3画〕〈つくえ〉

おん ショ

くん —

いみ ❶ある場所にいる。また、いるところ。「出処」❷しまつする。「処理・処置・処分・処刑*・対処」

使い方 ▼出処進退(=できごとが起こったときの行動のしかた)を明らかにする。▼けがの応急処置。▼古本を処分した。▼いろいろな問題をてきぱきと処理する。▼処女作(=初めての作品)を出版する。▼非常事態にすみやかに対処する。

なりたち -処 夂(=足)と几(=台)を組み合わせてできた字。足をとめて台にこしかけることから、場所の意味をあらわす。

署

13画 〔罒・8画〕〈あみがしら〉

おん ショ

くん —

いみ ❶役所。また、わりあてられた役目。「署長・署員・部署・消防署・警察署」❷書きしるす。「署名」

使い方 ▼署長が署員の前で、朝のあいさつをする。▼係員がそれぞれの部署(=わりあてられた役目の場所)につく。▼消防署は、二十四時間出動態勢だ。▼この書類に署名をしてください。

注意 「著」「暑」とまちがえやすい。

なりたち -署(署) 网(=あみ)と者(=「ショ」の音をあらわす)を組み合わせた字。あみ目のように分かれた持ち場に、人を配置すること。

諸

15画 〔言・8画〕〈ごんべん〉

おん ショ

くん —

いみ あることばの上について、「いろいろな」という意味を表すことば。「諸国・諸島・諸説・諸君・諸問題」

使い方 ▼ヨーロッパ諸国を旅する。▼南西諸島の島々をめぐり歩く。▼諸君(=「みなさん」の意味で大ぜいの人々によびかけることば)に一言お話ししたい。▼校内で起こっている諸問題について、話し合う。

注意 「緒*」とまちがえないこと。

なりたち -諸(諸) 言(=ことば)と者(=こんろにまきをつめて燃やす)を組み合わせ、一か所に多くのものが集まることをあらわす。

除

10画 〔阝・7画〕〈こざとへん〉

おん ジョ・*ジ

くん のぞく

いみ ❶とりさる。のぞく。「除去・除外・除草・除雪・除名・除湿*・解除・掃*除」❷わりざんをする。また、わりざん。「除法・乗除」

使い方 ▼欠席の人を除いて、全員賛成です。▼雪の多い地方では、除雪作業がたいへんです。▼おおみそかの夜、除夜のかねを聞きながら年越*しそばを食べる。▼掃*除道具をかたづける。

注意 「徐*」とまちがえないこと。

なりたち 阝(=もり上げた土)と余(=おしのける)を組み合わせた字。じゃまになる土を、おしのけることをあらわす。

将

10画 〔寸・7画〕〈すん〉

おん ショウ

くん —

いみ ❶軍隊やチームをひきいる人。「将軍・主将」❷軍人の階級をあらわすことば。「将官・大将」❸これから…しようとする。「将来」

使い方 ▼兄は、中学のバレー部で主将になった。▼昔の軍隊では、大将という階級がいちばん上だったそうだ。▼ぼくは将来、Jリーグの選手になりたい。

注意 「丬」の筆順に気をつける。

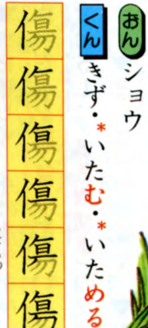
なりたち -将(將) 爿(=長い台)と月(=にく)と寸(=手)を組み合わせた字。大ぜいの人々をさしずするかしらの意味をあらわす。

傷

13画 〔亻・11画〕〈にんべん〉

おん ショウ

くん きず・*いたむ・*いためる



いみ ❶からだや品物をきずつける。いためる。また、いたむ。きず。「傷害・負傷・軽傷・重傷・死傷・中傷・損傷」❷つらい思いをする。「傷心・感傷」

使い方 ▼ばらのとげで、手が傷だらけになった。▼りんごが傷んでいる。▼野球の試合で負傷した。▼秋になると、感傷的な気分になる。

参考 「傷む」は、物がわるくなること。「痛む」は、からだや心にいたみを感じること。

なりたち 亻(=人)と昜(=きずつく)を組み合わせた字。物に強くあたって、きずつくことをあらわす。

漢字のちしき 「難(ナン・むずかしい)」は、もとは、鳥の名を表す字だった。

障

おん ショウ
くん *さわる

14画 〔阝・11画〕 〈こざとへん〉

いみ じゃまになる。また、じゃまをする。さえぎるもの。「障害・故障・支障・保障・障子」

使い方 ▼多くの**障害**をのりこえた、ヘレン・ケラー。▼電車が**故障**でおくれたため、ちこくしてしまった。▼テレビゲームは、勉強に**差し障り**がないていどにする。▼母は、**障子**のはりかえをしている。

参考 「障害」は、何かをするのにじゃまになるもの。「傷害」は、人をきずつけること。

なりたち 阝(＝かべや土べい)と章(＝「ショウ」の音をあらわす)を組み合わせた字。

城

おん ジョウ
くん しろ

9画 〔土・6画〕 〈つちへん〉

いみ 敵をふせぐためのとりで。しろ。「城門・城主・城壁*・城塞*・城下町・古城・落城・築城・宮城」

使い方 ▼わたしの町には、古い**城あと**が残っている。▼**城門**をかたくとざす。▼この町は昔、**城下町**(＝**城**を中心としてできた町)としてさかえたそうです。▼**落城**とともに多くの武士が死んだ。

なりたち 城―城 土(＝土)と成(＝かためてまとめる)を組み合わせてできた字。その土地に住んでいるすべての人が入れるような、土でかためてつくった「しろ」をあらわす。

蒸

おん ジョウ
くん *むす・*むれる・*むらす

13画 〔艹・10画〕 〈くさかんむり〉

いみ ❶水などがあたためられて気体になる。「蒸発・蒸気・蒸留」❷ゆげをあてて熱する。むす。むらす。「蒸し焼き・蒸しぶろ・蒸し器・茶わん蒸し」

使い方 ▼ひなたの水たまりの水が、いつのまにか**蒸発**してなくなった。▼水を熱して、その**蒸気**をひやして作った水を**蒸留水**といいます。▼父はSL(＝**蒸気機関車**)のファンです。▼**蒸し暑い**日が続く。▼ご飯を**蒸らし**てから食べる。

なりたち 艹(＝植物)と烝(＝熱い空気が上へたちのぼる)を組み合わせた字。

六年

針

おん シン
くん はり

10画 〔金・2画〕 〈かねへん〉

いみ はり。また、はりの形をしたもの。「針箱・長針・短針・秒針・針金」

使い方 ▼**針**の穴に糸を通す。▼時計の**短針**は「時」を、**長針**は「分」をしめしています。▼最初の**方針**どおりに、計画を進める。▼船の**針路**を南にとる。▼松やすぎなどのように、葉が**針**のような形をしている木を**針葉樹**という。▼**避*雷*針**(＝かみなりのひがいを防ぐための金属のぼう)にかみなりが落ちた。

なりたち 金(＝金属)と十(＝「シン」という音をあらわす)を組み合わせた字。布や皮をぬうはりをあらわす。

仁

おん ジン・*ニ
くん ―

4画 〔亻・2画〕 〈にんべん〉

いみ おもいやり。いつくしみ。「仁愛・仁徳・仁術・仁義」

使い方 ▼博士の**仁愛**に満ちた行いに対して、ノーベル平和賞がおくられた。▼あの人の**仁徳**あふれる行いには頭が下がる。▼医は**仁術**なり(＝病気をなおすことは、情け深い行いである)。▼**仁義**(＝人として行わなければならない道理)を重んじる。▼門の両側に**仁王**の像がある。

なりたち 仁―仁 亻(＝人)と二(＝二のしるし)を組み合わせてできた字。ふたりが思いやりをもってつきあうことをあらわした字。

漢字の知識

●**まちがえやすい漢字**
形が似ていたり、音も同じだったりして、まちがえやすい漢字があります。注意しましょう。

- 域…地域 / 城…城主
- 系…直系 / 糸…製糸
- 探…探検 / 深…深海
- 困…困難 / 因…因果
- 捨…取捨 / 拾…拾得
- 熟…熟語 / 熱…熱意
- 資…物資 / 質…物質
- 能…能力 / 態…態度
- 従…従事 / 縦…縦横
- 墓…墓参 / 暮…暮色
- 蔵…蔵書 / 臓…臓物
- 署…署長 / 暑…暑気
- 郡…郡部 / 群…大群
- 営…営業 / 栄…栄養
- 率…引率 / 卒…卒業
- 官…官庁 / 管…管理

六年

垂

8画 〔土・5画〕〈つち〉

おん スイ
くん たれる・たらす

いみ たれさがる。また、たらす。「垂直・垂*線・懸*垂・胃下垂」

使い方 ▼牛がよだれを垂らしている。▼学芸会のために垂れ幕を作った。▼三角形の頂点から、底辺に垂直な線(=垂線)を引くと、二つの直角三角形ができる。▼体育の時間に懸*垂をした。▼父はレントゲンをとってみたら、胃下垂(=胃が垂れ下がる病気)だとわかった。

なりたち -垂 (=ほがたれているようす)と土(=土)を組み合わせてできた字。上のほうから地上にたれさがるという意味をあらわす。

推

11画 〔扌・8画〕〈てへん〉

おん スイ
くん *おす

いみ ❶おしすすめる。「推進」❷おしはかる。「推測・推量・推察・推理・推定・類推」❸人にすすめる。「推挙・推薦*・推奨*」❹うつりかわる。「推移」

使い方 ▼六年生が中心になって、計画を推進する。▼十年後のこの町の姿を推測する。▼父は推理小説が好きで、よく読んでいる。▼川上君をクラス委員に推した。▼人の着ている物からも、時代の推移が感じられる。



なりたち -推 (=手)と(=ずんぐりとした鳥)を組み合わせた字。ずっしりと重みをかけておすこと。

寸

3画 〔寸・0画〕〈すん〉

おん スン
くん ―

いみ ❶昔使われた長さの単位。一寸は一尺の十分の一で、約三・〇三センチ。「一寸」❷長さ。「寸法・採寸」❸わずか。すこし。「寸前・寸志・寸分・寸時・寸評」

使い方 ▼洋服の寸法をはかってもらった。▼ゴール寸前でぬかれて、二着になった。▼設計図と寸分のくるいもなく作り上げる。▼寸時(=わずかな時間)をおしんで練習にはげむ。▼大雨で鉄道が寸断された。



なりたち -寸 (=手)と一(=一のしるし)を組み合わせて、指一本のはばの長さをあらわした字。

盛

11画 〔皿・6画〕〈さら〉

おん *セイ・*ジョウ
くん もる・*さかる・*さかん

いみ ❶うつわにもる。「山盛り・盛り土」❷さかん。また、さかり。「盛大・盛夏・全盛・繁*盛」

使い方 ▼かごに盛ったくだものを供える。▼庭の草花は、今花盛りです。▼全国的にサッカーが盛んになってきた。▼全国大会で優勝したチームが、駅前で盛大なかんげいを受けている。▼引退した選手の全盛期のプレーを、ビデオで見た。▼この店は繁*盛している。

なりたち 成(=大きくもり上げた土をとんとんとたたいてかためる)と皿(=さら)を組み合わせた字。入れものを山もりにすること。

聖

13画 〔耳・7画〕〈みみ〉

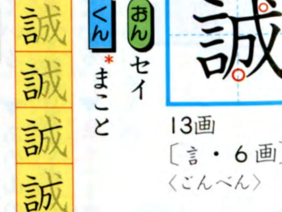
おん セイ
くん ―

いみ ❶ちえや徳のすぐれた人。「聖人」❷おごそかなようす。また、きよらかなようす。「聖域・神聖・聖火・聖地」❸その分野で最もすぐれた人。「楽聖・詩聖」❹キリスト教に関することにつけることば。「聖書・聖母」



使い方 ▼聖人君子(=知識や徳がすぐれた人)。▼オリンピックの聖火ランナー。▼ベートーベンは、楽聖(=音楽界の偉*人)とよばれる。▼聖母マリアの像。

なりたち 耳(=みみ)と呈(=まっすぐにさし出す)を組み合わせた字。耳の通りがよいことから、わかりがよいことをあらわす。

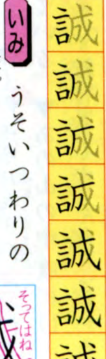


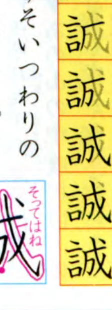
誠

13画 〔言・6画〕〈ごんべん〉

おん セイ
くん *まこと

いみ うそいつわりのない心。まごころ。また、ほんとうのこと。「誠意・誠実・忠誠・至誠」







使い方 ▼こちらの誠意が、先方に通じたようだ。▼看護師をしている母は、かん者さんに対して誠心誠意(=まごころをこめて)つくしている。▼山下さんは、とても誠実な(=正直でまじめな)人です。▼誠にすみませんが、座席を少しずつつめてください。

なりたち 言(=ことば)と成(=欠点やくいちがいがなくまとまる)を組み合わせた字。欠点やうそのないことばやおこないをあらわす。

漢字のちしき 「落」は「葉がかれておちる」という意味。それで「艹」がついている。

宣

おん セン
くん ―

9画〔宀・6画〕〈うかんむり〉

いみ ❶はっきりつげる。のべる。「宣言・宣告・宣戦・宣誓*」❷ひろくしらせる。「宣伝・宣教師」

使い方 ▼大会の開会を宣言する。▼選手宣誓*（＝選手代表のちかいのことば）の声がひびきわたった。▼新製品の宣伝を大々的に行う。▼キリスト教は宣教師によって世界の国々に広められた。

注意 「宜*」とまちがえないこと。

なりたち 宀（＝家）と亘（＝まわりをとりまくかきね）を組み合わせた字。王さまのごてんをあらわし、ここから、「みんなにわかるように言う」などの意味になった。

専

おん セン
くん *もっぱら

9画〔寸・6画〕〈すん〉



いみ ❶そのことだけを行う。もっぱら。「専念・専門・専属・専任」❷「専」自分ひとりでする。また、ひとりじめにする。「専有・専制・専売」

使い方 ▼母は、去年生まれた妹の育児に専念している。▼観光バス専用のちゅう車場です。▼専門家の意見を聞いてみる。▼おじは、新聞社の専属カメラマンをしている。

注意 「専問」と書かないこと。

なりたち もとの字は「專」。叀（＝糸により をかけるおもり）と寸（＝手）を組み合わせた字。手でまわすと一本のより糸になることから、「一つにまとまる」意味をあらわす。

泉

おん セン
くん いずみ

9画〔水・5画〕〈みず〉

いみ 水がわいている所。いずみ。みなもと。「泉水・温泉・源泉・鉱泉」

使い方 ▼歩きつかれたので、泉のほとりの木かげで休んだ。▼週末に、家族みんなで温泉に行く予定です。▼毎朝飲む特製の野菜ジュースが、ぼくのエネルギーの源泉になっている。▼あの山の中腹には、鉱泉（＝鉱物質をふくんだ泉）がわき出ている。▼泉水（＝庭にほった池）のある日本庭園。

なりたち 岩の間の丸いあなのおくから、水がわき出てくる形からできた字。

洗

おん セン
くん あらう

9画〔氵・6画〕〈さんずい〉

いみ ❶あらう。きよめる。「洗顔・洗面・洗眼・洗濯*・洗剤*」❷かくれていることを調べて明らかにする。「洗」

使い方 ▼キャンプに持っていく洗面道具を用意した。▼セーターを、洗濯*機を使わずに、手で注意深く洗った。▼あの人の身のこなしは、洗練されている。▼かくしていたことを、友だちに洗いざらい（＝何もかも）しゃべってしまった。

なりたち 氵（＝水）と先（＝指の間に細いすきまがあいている、人の足先の形）を組み合わせた字。せまいすきまに水を通して、よごれを取ることをあらわす。

染

おん *セン
くん そめる・そまる・*しみる・*しみ

9画〔木・5画〕〈き〉

いみ ❶色をつける。そめる。また、そまる。「染料・染色・染織」❷病気などがうつる。「感染・汚*染・伝染」

使い方 ▼夕日が山々をまっかに染めている。▼こぼしたジュースで、スカートに染みができてしまった。▼インフルエンザに感染した。▼交通量の多い場所は、車の排*気ガスで空気が汚*染されがちだ。

なりたち 氵（＝水）と朵（＝木のうつわ）を組み合わせた字。うつわの中の色のついた水に、布や糸をつけて、ゆっくりと色をしみこませることをあらわす。

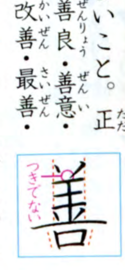
善

おん ゼン
くん よい

12画〔口・9画〕〈くち〉 ↕ 悪 144

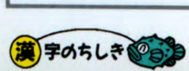
たてかくはあと

いみ ❶よいこと。正しいこと。「善良・善意・善悪・善人・改善・最善・独善」❷うまくいく。また、なかよくする。「善戦・善後策・親善」



使い方 ▼多くの善意の寄付が集まった。▼ものごとの善悪をわきまえる。▼改善すべき点がたくさんあります。▼善戦したが、おしくも敗れてしまった。▼親善試合を行った。

なりたち 羊（＝おいしくてりっぱなそなえもの）と言（＝はっきりとけじめのついたものの言い方）を二つ組み合わせた字。たっぷりとしてりっぱであることをあらわす。



「寒・冬」の字の中の「⺀」はもとは「冷」の中の「冫」と同じ形。

奏

9画〔大・6画〕〈だい〉

おん ソウ
くん *かなでる

いみ ❶天子や天皇に申し上げる。「奏上」❷音楽をかなでる。「演奏・合奏・独奏・伴*奏・四重奏」❸なしとげる。よい結果をあらわす。「奏功」

使い方 ▼天皇陛下に**奏上**する(=申し上げる)。▼父がギターを**奏で**ている。▼オーケストラの**演奏**をきく。▼音楽会で、クラス全員の**合奏**をひろうする。▼作戦が功を**奏した**(=ききめがあった)。

なりたち －奏 (=神の前にささげるたまぐし)と (=両手)を組み合わせた字。ものをそろえてまとめるという意味をあらわす。

窓

11画〔穴・6画〕〈あなかんむり〉

おん ソウ
くん まど





いみ ❶まど。「窓口・窓際・天窓・車窓」❷へや。「同窓」

使い方 ▼みどりの**窓口**で特急券を買った。▼**車窓**から外のけしきをながめている。▼**窓際**の席にすわる。▼母は、小学校の**同窓会**に出かけていった。

注意 「窓」は、「究・空」などと同じ「穴」(=あなかんむり)の部。「宀」(=うかんむり)の部ではない。

なりたち －窗(窓) (=あな)と (=空気ぬきのまど)と (=心)を組み合わせた字。風通しのよいまどをあらわす。

創

12画〔刂・10画〕〈りっとう〉

おん ソウ
くん —



いみ ❶ものごとをはじめる。また、はじめてつくる。「創業・創立・創刊・創作・創造・創意・創始者・独創」❷きずをつける。また、きず。「創傷」

使い方 ▼きょうは、学校の**創立記念日**です。▼今月、新しい雑誌が**創刊**された。▼かれは、物語の**創作**がとくいだ。▼このクラブは、**創設**されてから五年になる。▼**創傷**(=はものなどでうけたきず)を負う。

なりたち 倉(=「ソウ」の音をあらわす)と刂(=刀)を組み合わせた字。はもので材料に切れめを入れることで、ここから、「はじめる」という意味になった。

六年

装

12画〔衣・6画〕〈ころも〉

おん ソウ・*ショウ
くん *よそおう

いみ ❶よそおう。また、よそおい。「装飾*・装束・包装・服装・衣装・盛装・変装・仮装・武装」❷そなえつける。「装置・装備」

使い方 ▼**装い**も新たに劇場がオープンした。▼きれいな**包装紙**でプレゼントを包む。▼遠足には、歩きやすい**服装**で行く。▼学芸会の**衣装合わせ**をした。▼ガス管がはずれないように**安全装置**がついている。

なりたち －装(装) (=せい の高い男)と (=衣服)を組み合わせた字。身なりをきちんとすることをあらわす。

層

14画〔尸・11画〕〈しかばね〉

おん ソウ
くん —

いみ ❶いくえにもかさなる。「地層・高層・断層」❷人々や社会の区分。「上層・若年層・中堅*層・階級」

使い方 ▼大昔の人が捨てた貝が層をなしている。▼赤土や砂の**地層**があらわれた。▼このあたりは、**高層ビル**のたち並ぶ新しい町です。▼会社の**上層部**の意見をうかがう。▼このゲームは、**若年層**(=年が若い人たち)の間で人気がある。

なりたち －層(層) (=やね)と (=いくつか重ねて米をふかす道具)を組み合わせた字。やねがいくつも重なっている家をあらわす。

操

16画〔扌・13画〕〈てへん〉

おん ソウ
くん *みさお・*あやつる

いみ ❶たくみに動かす。あやつる。「操縦・操作・操車・操業・体操」❷態度や心をかえない。みさお。「操行・節操・情操」

使い方 ▼コンピューターを**操作**して、大量の計算を行う。▼夏休み中は、毎朝広場に集まって**ラジオ体操**をする。▼どんな時にも**節操**(=自分の考えや立場をかたく守ること)をまげない。

なりたち －Y－操 (=手)と (=高い木に鳥が集まって鳴きさわぐ)を組み合わせた字。手の先をせわしなく動かしてたぐりよせること。

六年

漢字のちしき 「冷」の中の「冫」は、「氷」を表す部首(389ページ参照)。

蔵

おん ゾウ
くん *くら

15画
〔艹・12画〕
〈くさかんむり〉

いみ ❶しまう。しまっておく。「蔵書・所蔵・内蔵・貯蔵・秘蔵・冷蔵庫・無尽*蔵」❷品物をしまっておく建物。くら。「土蔵・穴蔵」

使い方 ▼冷蔵庫の中を整理する。▼父の蔵書を借りて読む。▼うす暗い蔵の中に入った。▼酒屋さんには土蔵が三つもある。▼道ばたにお地蔵さんが立っている。

参考 「蔵」は、いろいろな品物をしまっておく所。「倉」は、米などをしまっておく所。

なりたち もとの字は「藏」。艹(=植物)と臧(=「ゾウ」の音をあらわす)を組み合わせた字。

臓

おん ゾウ
くん —

19画
〔月・15画〕
〈にくづき〉

いみ からだの中のいろいろな器官。はらわた。「臓器・臓物・内臓・心臓・じん臓・肝*臓」

使い方 ▼病院で内臓の検査をしてもらう。▼心臓の手術に成功した。▼肺臓は、すいこんだ空気から酸素をとり、血液にあたえるはたらきをする。▼ぶたの臓物をにこんでもつなべを作る。

参考 「内臓」は、はらわたの意味。「内蔵」は、内部に持つという意味。

なりたち 月(=からだ)と蔵(=しまっておく)を組み合わせた字。からだの中にしまいこまれているものをあらわした字。

存

おん ソン・ゾン
くん —

6画
〔子・3画〕
〈こ〉

いみ ❶ある。生きている。また、いる。「存在・現存・生存・共存」❷たもつ。「保存」❸知っている。また、考え。「存外・存分・一存・所存」

使い方 ▼かれは、このチームにとって重要な存在です。▼地球上には、いろいろな生物が共存している。▼食べ物を、冷蔵庫に入れて保存する。▼別に異存はありません。▼存分に(=思うままに)楽しむ。

注意 「在」とまちがえないこと。

なりたち 在(=じっとそこにとどまる)をりゃくした才と、子(=こども)を組み合わせた字。大切にとっておくという意味をあらわす。

尊

おん ソン
くん たっとい・とうとい・たっとぶ・とうとぶ

12画
〔寸・9画〕
〈すん〉

いみ ❶とうとい。また、とうとぶ。「尊敬・尊重・尊厳」❷あることばにつけて、尊敬の気持ちを表すことば。「尊父・尊顔・釈*尊」

使い方 ▼戦争は、尊い人命をうばってしまう。▼祖先を尊ぶ。▼尊敬する偉*人のことを調べる。▼住民の意見を尊重して、この土地を開発するのはやめます。▼お寺の本堂に、古くから伝わるご本尊がまつられている。

なりたち 尊(尊) 酋(=酒つぼ)と寸(=手)を組み合わせて、「とうとい」という意味をあらわした字。

宅

おん タク
くん —

6画
〔宀・3画〕
〈うかんむり〉

いみ すまい。いえ。「宅地・住宅・自宅・社宅・家宅・新宅・別宅・帰宅」

使い方 ▼あした、先生のお宅へうかがってもいいですか。▼宅配便でおくり物が届いた。▼このあたりは、最近できた住宅街です。▼母は退院して、自宅で静養している。▼ぼくの家は、新しい社宅にひっこした。▼父はこのところいそがしくて、帰宅がとてもおそい。

なりたち 宀(=家)と乇(=草の根が、地中にしっかりと根づいているようす)を組み合わせてできた字。じっとこしを落ち着けて住む家のことをあらわす。

担

おん タン
くん *かつぐ・*になう

8画
〔扌・5画〕
〈てへん〉

いみ ❶荷物などをかつぐ。になう。「担架*」❷仕事や責任をひきうける。うけもつ。「担当・担任・負担・分担」

使い方 ▼若者が将来を担う。▼けが人を担架*で運ぶ。▼くわしくは担当者がお答えします。▼六年生になって、担任の先生が代わった。▼送料は会社負担で、商品を送ってもらった。▼仕事を分担する。

なりたち もとの字は「擔」。扌(=手)と詹(=重くのしかかる)を組み合わせてできた字。ずっしりと重いものを手で持ち上げ、かたにかつぐことをあらわす。

漢字のちしき 「魚」の中の「灬」は、魚のしっぽの形が変わったもの(395ページ参照)。

探

おん タン
くん ＊さぐる・さがす

11画　〔扌・8画〕〈てへん〉

いみ さがしもとめる。ふかく調べる。「探求・探究・探検・探知・探訪・探査」

使い方 ▼昔の財宝を**探しあて**た。▼暗やみの中を**手探り**で歩く。▼事故の原因を**探求**（＝さぐりもとめること）する。▼かくれた歴史の真実を**探究**（＝明らかにするためにさぐりきわめること）する。▼アマゾンの秘境を**探検**する。▼わく星**探査**の人工衛星。

（なぞり書き：探）

なりたち ［古代文字］―［古代文字］―探　［古代文字］（＝手）と［古代文字］（＝あなのおくの火を、手でさぐり出すようす）を組み合わせた字。

誕

おん タン
くん ―

15画　〔言・8画〕〈ごんべん〉



いみ うまれる。うむ。「誕生・生誕」

使い方 ▼明日は妹の**誕生日**なので、プレゼントを買いに行った。▼イエス・キリストの**誕生**を祝うクリスマスのことを、**降誕祭**ともいいます。▼新しい内閣が**誕生**した。▼著名な画家の**生誕**百年を記念する展覧会が開かれた。

（なぞり書き：誕）

なりたち ［古代文字］―誕（誕）　［古代文字］（＝ことば）と［古代文字］（＝長くのばす）を組み合わせた字。もとは、「でたらめ」「うそ」を意味する字だったが、発音の「タン」から、「赤んぼうが生まれる」の意味にも使われるようになった。

段

おん ダン
くん ―

9画　〔殳・5画〕〈るまた〉

いみ ❶かいだん。「上段・下段・石段・段段畑」❷しきり。くぎり。「段落」❸等級。「段階・段位・値段・有段者」❹やりかた。方法。「手段・段取り」

使い方 ▼この文章は五つの**段落**から成る。▼**段階**をおって、わかりやすく説明する。▼じゅう道の**段位**。▼勝つためには**手段**をえらばない。

（なぞり書き：段　つきだす・はらう）

なりたち ［古代文字］―［古代文字］―段　［古代文字］（＝布の両はしをたらした形）と［古代文字］（＝動詞の記号）を組み合わせた字。上から下へ順々に降りることができるかいだんをあらわす。

暖

おん ダン
くん あたたか・あたたかい・あたたまる・あたためる

13画　〔日・9画〕〈ひへん〉　↕冷 283

いみ あたたかい。あたたまる。「暖流・暖色・暖冬・暖房＊・温暖・寒暖計」

使い方 ▼窓から**暖か**な日ざしがさしこむ。▼日本海流は**暖流**です。▼**暖冬**のため、防寒衣料の売れ行きが悪い。▼**暖房**＊がききすぎていて暑いくらいだ。▼ここは、気候が**温暖**で、住みやすいところです。

（なぞり書き：暖　つきでない）

参考 「暖かい」は、気候や気温のときに、「温かい」は、ものの温度や心のぬくもりなどのときに使う。

なりたち 日（＝太陽）と爰（＝両手の間にゆとりがあるようす）を組み合わせた字。

値

おん チ
くん ね・＊あたい

10画　〔亻・8画〕〈にんべん〉

いみ ❶ねだん。あたい。また、ねうち。「値段・高値・安値・価値・売り値・買い値」❷数量の大きさ。「数値」

使い方 ▼よく選んで、質のいいものを買う。▼あまり高いので**値切って**買った。▼かれのしたことは、称＊賛に**値する**。▼これは読む**価値**のある本だ。▼円周率の**近似値**（＝ある数にひじょうに近い値）は、三・一四一六である。

（なぞり書き：値　一かくで）

注意 「価値」を、「値価」と書かない。

なりたち 亻（＝人）と直（＝ものをまっすぐに見る）を組み合わせた字。人が物をしっかり見ることから、ねうちがわかること。

宙

おん チュウ
くん ―

8画　〔宀・5画〕〈うかんむり〉

いみ 空。空中。空間。「宇宙・宙返り・宙づり」

使い方 ▼限りなく広大な**宇宙**。▼**宇宙飛行士**になるのがわたしの夢です。▼ジェット戦とう機が**宙返り**をする。▼岩場で足をすべらせ、あやうく**宙づり**になるところでした。▼満員電車で、人の間にはさまれて足が**宙**にういてしまった。

（なぞり書き：宙　つきだす）

なりたち 宀（＝やね）と由（＝ぬけ出る、つきぬける）を組み合わせてできた字。家をおおうやねのことをあらわす。のちに、はてしなくつきぬけて広がる大空の意味に使われるようになった。

漢字のちしき　「熱」などの「灬」は、火の形が変わったもの（393ページ参照）。

忠

おん チュウ
くん —

8画 〔心・4画〕〈こころ〉

いみ ❶まごころ。まこと。「忠告・忠実」❷まごころをこめてつくすこと。「忠義・忠誠・忠節・忠臣・不忠」

とめる 忠

使い方 ▼こんなに激しい雨になるのだったら、母の忠告通りにかさを持ってくればよかった。▼風景を、こまかいところまで忠実に写生する。▼武士は主君に忠誠をつくす（＝まごころをこめてつくす）ことをほこりとしていた。

なりたち 中（＝からだのまん中）と心（＝こころ）を組み合わせた字。心がどちらにもかたよらないことから、「まごころ」の意味になった。

著

おん チョ
くん あらわ*す・いちじる*しい

11画 〔艹・8画〕〈くさかんむり〉



いみ ❶書きあらわす。また、書きあらわした本。「著書・著者・共著・名著・著述家」❷はっきりしている。いちじるしい。「著名」

使い方 ▼研究の結果をまとめて本に著す。▼この本の著者は、ぼくも知っている。▼本の著者には、著作権という権利がある。▼夏休みに、名著といわれる作品を読んでみた。▼西村さんは最近、成績が著しく上がっている。

なりたち [glyph]-著 艹（＝植物）と[glyph]（＝しばをもやして、火の熱を一か所に集める）を組み合わせてできた字。

ことばの知識

● 類義語

意味のよく似たことばを、類義語といいます。類義語は、意味が似ていても、使いかたにはちがいがあります。ちがいを考えてみましょう。

発刊…新聞や本などを、新しく印刷して出すこと。
発行…新聞・本・お札・券などを、印刷して出すこと。

他言…ほかの人に話すこと。
口外…口に出して言うこと。人に話すこと。

満身…（心も肉体もふくめた）からだ全体。
全身…からだ全体。

著者…その本を書きあらわした人。
筆者…その文章や本などを書いた人。

庁

おん チョウ
くん —

5画 〔广・2画〕〈まだれ〉

いみ 役所。「庁舎・官庁・登庁・道庁・府庁・県庁・文化庁」

つきでない 庁

使い方 ▼近代的な設計の庁舎（＝役所の建物）が完成した。▼休日の官庁街（＝役所が集まっているところ）は、ひっそりとしずまりかえっていました。▼地図で、九州地方の県庁所在地を調べました。▼気象庁が台風の情報を知らせる。

参考 「丁」がつく「町」「頂」「庁」などの字は、すべて「ちょう」と読む。

なりたち もとの字は「廳」。广（＝いえ）と聽（＝きく）を組み合わせた字。住民のいろいろな問題やようすをきく役所をあらわす。

頂

おん チョウ
くん いただく・いただき

11画 〔頁・2画〕〈おおがい〉

いみ ❶物のいちばん高いところ。いただき。「頂点・絶頂・登頂」❷上にのせる。いただく。❸「もらう」「食べる」「飲む」のへりくだった言い方。いただく。

つきでない 頂

使い方 ▼人々のいかりが頂点に達した。▼展覧会で金賞をとって、有頂天になる（＝喜んでむちゅうになる）。▼富士山の頂上でご来光を拝む。▼夏でも山頂（＝山の頂）は雪を頂いている。▼もう十分に頂きました。

注意 「項*」とまちがえないこと。

なりたち 頁（＝あたま）と丁（＝てっぺん）を合わせた字。

潮

おん チョウ
くん しお

15画 〔氵・12画〕〈さんずい〉

いみ ❶太陽と月の引力によって、海面が一定の時間ごとに高くなったり低くなったりすること。また、海水の流れ。「潮流・潮風・潮干がり・満潮・干潮」❷世の中や考え方のうつりかわり。「風潮」❸ものごとをするのにちょうどよいとき。「潮時」

使い方 ▼潮が満ちたり引いたりする。▼世の風潮に流されない。▼話を切り出すなら今が潮時だ。

なりたち 氵（＝水）と朝（＝草の間から日が出るようす）を組み合わせた字。太陽がのぼるにつれて満ちてくるしおのこと。

賃

おん チン
くん ―

13画 〔貝・6画〕 〈こがい〉

賃賃賃賃賃賃賃

いみ 人のはたらきに対してしはらうお金。また、物などを利用したことに対してしはらうお金。「賃金・賃上げ・労賃・運賃・家賃・賃貸し」

使い方 ▼従業員に**賃金**をはらう。▼お使いをして**お駄*賃**をもらった。▼来月から、バスの**運賃**が上がる。▼月々の**家賃**を銀行にふりこむ。▼**賃貸**（=お金をとって貸すこと）のマンションが近くにできた。

なりたち 任-賃 任（=人が荷物をかかえこむようす）と貝（=お金）を組み合わせた字。お金をはらって、人をやとうことをあらわす。

痛

おん ツウ
くん いたい・いたむ・いためる

12画 〔疒・7画〕 〈やまいだれ〉

痛痛痛痛痛痛痛

いみ ❶からだに苦しさ・つらさを感じる。いたむ。「苦痛・心痛・頭痛・腹痛・悲痛」❷ひどく。ひじょうに。「痛切・痛感・痛快」

使い方 ▼母は、朝からずっと**頭痛**になやまされている。▼病気になってはじめて、健康のありがたみを**痛切**に感じた。▼戦争の話を聞いて、平和のありがたさを**痛感**した。▼トム・ソーヤーの物語は、実に**痛快**だ（=非常にゆかいだ）。

なりたち 甬（=つきぬける）と疒（=病気）を組み合わせてできた字。つきぬけるようなひどいいたみの意味をあらわす。

展

おん テン
くん ―

10画 〔尸・7画〕 〈しかばね〉

展展展展展展展

いみ ❶広げる。また、広げならべる。「展示・展覧会」❷広がりさかんになる。「展開・発展・進展」❸広くながめる。「展望」

使い方 ▼自由研究の作品が**展示**してある。▼父と、絵の**展覧会**を見に行った。▼車窓には美しい景色が**展開**している。▼話し合いは**進展**を見ない（=進まない）。▼**展望台**から海をながめた。

なりたち 尸-展 尸（=からだ）と㠭（=着物をおもしてのばす）を組み合わせた字。着物の上にからだをのせて、平らにのばすこと。

六年

討

おん トウ
くん う*つ

10画 〔言・3画〕 〈ごんべん〉

討討討討討討討

いみ ❶敵をうつ。せめる。「討伐*・追討・征*討・夜討ち」❷くわしく調べる。「討議・討論・検討」

使い方 ▼にげる敵に**追い討ち**をかける。▼はげしい**討論**をする（=意見を言い合う）。▼もう一度よく**検討**して（=調べて確かめて）から、発表いたします。

参考 「討つ」は武力でやっつける。「打つ」はたたく。「撃*つ」は鉄ぽうなどをうつ。

なりたち 言（=ことば）と寸（=肘をりゃくした形）を組み合わせた字。すみずみまで調べて、ことばで追い求めることをあらわす。

党

おん トウ
くん ―

10画 〔儿・8画〕 〈にんにょう〉

党党党党党党党

いみ 考え方が同じ人々のあつまり。なかま。「党派・党員・党首・政党」

使い方 ▼国会議員が、**党派**（=同じ考えや意見を持つ人の集まり）をこえて協力する。▼新しい**党首**が選ばれた。▼新しい**政党**をつくる。▼**徒党**（=悪いことをたくらむ人の集まり）を組んでいたずらをする。

参考 「悪党（=悪人）」は、大ぜいの人ではなくひとりのときにいう。

なりたち もとの字は「黨」。尚（=もとのトウという音をあらわした）と黑（=わるい）を組み合わせた字。多くの人が集まって、不正な取り引きをすることをあらわす。

糖

おん トウ
くん ―

16画 〔米・10画〕 〈こめへん〉

糖糖糖糖糖糖糖

いみ ❶さとうきびなどからつくるあまい食品。「砂糖・製糖・糖蜜*」❷水にとかすとあまみのある炭水化物。「糖類・糖分・ぶどう糖」

使い方 ▼紅茶に**砂糖**を二はい入れる。▼社会科見学で、**製糖**工場に行った。▼ホットケーキに**糖蜜***をかけて食べた。▼このおかしは**糖分**が少ないので、あっさりした味がする。▼果物には、**果糖**と**ぶどう糖**が多くふくまれている。

なりたち 米（=こめ）と唐（=「トウ」の音をあらわす）を組み合わせた字。米からあめをつくったことから、さとうの意味をあらわす。

漢字のちしき 「辶」は道や移動を表す部首（401ページ参照）。

届

8画 〔尸・5画〕〈しかばね〉

おん ―

くん とどける・とどく

届 届 届 届 届 届 届 届

いみ ❶あるところに物がつくようにする。とどける。また、先方につく。とどく。「届け物・届け先」❷役所やかんとくする人にもうしでる。また、その書類。「欠席届」

使い方 ▼拾ったお金を交番に届ける。▼遠くの電波が届く。▼願いを聞き届ける。▼心づかいが行き届く。

参考 「出生届」「欠席届」などは、「け」を送らない。

なりたち もとの字は「屆」。尸(=からだ)と出(=土のかたまり)を組み合わせた字。ふとったからだの人は動きがにぶいので、ある場所までとどいて止まることをあらわす。

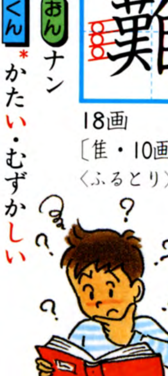
難

18画 〔隹・10画〕〈ふるとり〉 ↕ 易 290

おん ナン

くん *かたい・むずかしい

難 難 難 難 難 難 難



いみ ❶わざわい。苦しみ。「難民・災難・苦難・盗*難・避*難」❷むずかしい。「難解・難問・難題・難関・就職難」❸欠点をせめたてる。「非難」

使い方 ▼思いがけない災難にあった。▼父が難しい顔をして、新聞の政治面を読んでいる。▼今度ばかりは、弟のいたずらを許し難い。▼今日じゅうに目的地に着くのは困難だ。▼学芸会のけいこを忘れて帰ってしまい、みんなに非難された。

なりたち 𦰩(=動物を火で焼く)と隹(=鳥)を組み合わせて、鳥を火で焼くことをあらわした字。火で焼かれるようにつらいこと。

ことばの知識

● **四字熟語**

四字でできている、いわれのあることばや、慣用句を、四字熟語といいます。

異口同音 多くの人が、口をそろえて同じことを言うこと。

一挙両得 一つのことをして、二つのよいことがあること。

一石二鳥 「一挙両得」に同じ。

一長一短 よいところもあるが、わるいところもあること。

右往左往 多くの人々が、ちつじょなく、動き回ること。

完全無欠 かけたところや、たりないところがないこと。

空前絶後 たいへんめずらしいこと。

十人十色 人はめいめい、好みや考えかたがちがうということ。

日進月歩 たえず進歩していること。

乳

8画 〔乚・7画〕〈おつにょう〉

おん ニュウ

くん ちち・*ち

乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳

いみ ❶母親のちぶさから出る白いえき。ち。また、そのような白いえき。「乳牛・母乳・牛乳・授乳・離*乳・乳液・豆乳」❷ちちをあたえてやしなう。また、ちちを飲む。「乳児・乳歯・乳母」❸ちぶさ。「乳首」

使い方 ▼チーズやバターなどの乳製品。▼牛の乳しぼりを手伝う。▼乳飲み子(=赤んぼう)。

なりたち →乳(乳) 孚(=子どもをかばうようす)と乚(=つばめ)を組み合わせた字。つばめが大切に子どもを育てるようすをあらわす。のちに、「ちち」の意味になった。

認

14画 〔言・7画〕〈ごんべん〉

おん *ニン

くん みとめる

認 認 認 認 認 認 認

いみ ❶はっきり知る。みとめる。「認識・確認・誤認」❷ゆるす。みとめる。「認可・承認・公認・自認・認定・認知」

使い方 ▼自分のあやまちを認める。▼問題の重要性をよく認識しなさい。▼事実関係をよく確認してからお話しします。▼県から保養所の建築の認可がおりた。▼ここに認め(=認め印)をおしてください。

なりたち 言(=ことば)と忍(=ねばり強い心)を組み合わせた字。人のことばなどをねばり強く心にきざみつけること。じっくりと見て、心にとどめることをあらわす。

納

10画 〔糸・4画〕〈いとへん〉

おん ノウ・*ナッ・*ナ・*ナン・*トウ

くん おさめる・おさまる

納 納 納 納 納 納 納

いみ ❶さしだす。おさめる。また、しまう。「納税・納入・納期・納屋・納戸・出納」❷おわりにする。「納会」

使い方 ▼国民には納税の義務がある。▼納屋(=物置)に農具をしまう。▼納戸(=衣服や道具をしまっておくへや)の中を整理する。▼父は、市役所で出納(=お金の出し入れ)の仕事をしている。▼納得がいかない。

参考 「納める」は中に入れる。「収める」は取り入れる。「治める」は世の中をしずめる。「修める」は勉強する。または、悪いところをなおす。

なりたち 糸(=いと)と内(=中にしまう)を組み合わせた字。

漢字のちしき 「述」は「後についていく」という意味。それで「辶」がついている。

脳

おん ノウ
くん ―

11画
〔月・7画〕
〈にくづき〉

脳脳脳脳脳脳脳

いみ ❶頭の骨の中にある、考えるはたらきをしたり、からだを動かす命令を出したりするもの。のうみそ。「大脳・小脳・脳波」❷あたま。また、あたまのはたらき。「脳天・脳裏・頭脳」❸中心となる大切なもの。「首脳」

使い方 ▼脳天(=頭のてっぺん)。▼脳裏(=頭や心の中)。▼政府の首脳。

注意 「悩*」とまちがえないこと。

なりたち もとの字は「腦」。(=にく)と(=頭に毛がはえているようす)を組み合わせた字。やわらかくてしわのある「のうみそ」のことをあらわす。

派

おん ハ
くん ―

9画
〔氵・6画〕
〈さんずい〉

派派派派派派派

いみ ❶もとから分かれる。また、分かれたもの。「分派・学派・宗派・右派・左派」❷人を行かせる。つかわす。「派出・派遣*・特派員」

使い方 ▼意見が対立して、二つの派に分かれた。▼茶道や生け花には、いろいろな流派がある。▼被*害を調べるために、水害地に派遣*される。▼父は今、特派員としてアフリカに行っている。

なりたち -派 (=水)と(=川の流れが分かれたようす)を組み合わせた字。本流から分かれ出て流れる支流の意味をあらわす。

拝

おん ハイ
くん おがむ

8画
〔扌・5画〕
〈てへん〉

拝拝拝拝拝拝拝

いみ ❶神や仏をうやまって、おじぎをする。おがむ。「拝礼・拝殿*・参拝」❷つつしんで受ける。「拝命・拝任」❸へりくだる気持ちを表すことば。「拝見・拝借」

使い方 ▼お正月の朝、初日の出を拝む。▼拝殿*に立って、うやうやしく拝礼した。▼神社に参拝する。▼お便り、うれしく拝見しました。▼この本を三日ほど拝借いたします。▼拝観料は五百円です。

なりたち (=手)と(=神へのささげもの)を組み合わせてできた字。神前にものをささげておがむという意味をあらわす。

六年

背

おん ハイ
くん せ・せい・*そむく・*そむける

9画
〔月・5画〕
〈にくづき〉

背背背背背背背

いみ ❶せなか。また、うしろ。「背中・背骨・背面・背後・背景・背泳」❷そむく。「背信・背任・背反」❸せたけ。「背比べ」

使い方 ▼かべを背にして立つ。▼重い荷物を背負う。▼旅館の背後には山がせまっていました。▼富士山を背景にして写真をとった。▼父の言いつけに背いて、しかられた。

なりたち -背 (=ふたりの人がせなかを向け合ったようす)と(=からだ)を組み合わせた字。せなか、または、せなかを向けることをあらわす。

肺

おん ハイ
くん ―

9画
〔月・5画〕
〈にくづき〉

肺肺肺肺肺肺肺

いみ 胸の左右にある、呼吸のはたらきをする器官。はいぞう。「肺臓・肺炎*・肺活量・肺がん」

使い方 ▼わたしは小さいころ、かぜから肺炎*になって入院したことがある。▼肺活量(=肺にすいこめる空気の量)をはかる。▼おたまじゃくしからかえるになるとき、えら呼吸から肺呼吸にかわる。

なりたち -肺(肺) (=からだ)と(=草の芽が、ぱっと開くようす)を組み合わせた字。ぱっぱっと開いたりとじたりして呼吸をする「はい」をあらわす。

俳

おん ハイ
くん ―

10画
〔亻・8画〕
〈にんべん〉

俳俳俳俳俳俳俳

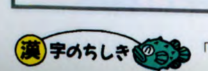
いみ ❶芸をする人。「俳優」❷俳句。「俳句・俳号・俳人・俳壇*」

使い方 ▼好きな俳優のしばいを見た。▼俳句は、五・七・五の十七音からなる、世界でいちばん短い詩です。▼俳人(=俳句をつくる人)松尾芭*蕉*は、紀行文もいくつか書いている。▼一茶というのは俳号(=俳人としての名)です。

注意 「排*」とまちがえないこと。

なりたち 亻(=人)と非(=羽が左右に開いたようす)を組み合わせた字。右と左に分かれてかけ合いの芸を見せる人の意味から、役者をあらわす。

六年



「一ケ」はイッコと読む。この「ケ」は、本当は「个」という漢字。

班

おん ハン
くん —

10画〔王・7画〕〈おうへん〉

班班班班班班班班班班

いみ いくつかに分けたそれぞれの集まり。また、それを数えることば。「班長・班活動・三班」

使い方 ▼クラスを五つの班に分ける。▼班長はみんなの意見をまとめてください。▼各班で分担して、そうじをする。▼放送班の人は、放課後、放送室に集合してください。▼今週の給食当番は一班だ。▼国会で、首班(=内閣総理大臣)が指名された。

なりたち 王(=玉)を二つと、刂(=刀)を組み合わせてできた字。玉を刀で二つに切り分けることで、切り分けた一つ一つをあらわす。

班 はらう

晩

おん バン
くん —

12画〔日・8画〕〈ひへん〉

晩晩晩晩晩晩晩晩晩晩晩晩

いみ ❶夕がた。また、夜。「今晩・昨晩・朝晩」❷時期がおそい。すえ。「晩春・晩秋・晩年・早晩」

使い方 ▼天気予報では、今晩から雨になるらしい。▼兄は、試験の前、一晩てつ夜してがんばったそうだ。▼晩秋(=秋の終わりのころ)の野山を歩く。▼おじいさんは晩年(=年をとってからの人生)を郷里でしあわせにおくった。

注意 「勉」とまちがえないこと。

なりたち 日(=太陽)と免(=「バン」の音をあらわす)を組み合わせた字。くらくて物がよく見えないようすをあらわす。

晩

否

おん ヒ
くん *いな

7画〔口・4画〕〈くち〉 ↕ 可 293

否否否否否否否

たてをかく

いみ 打ち消すことば。そうではないと反対の意味を表すことば。「否決・否定・否認・拒*否・安否・賛否・可否・合否」

使い方 ▼案は否決された。▼その考えもいちがいには否定できない。▼住民の要求を、役所が拒*否する。▼賛成か否か、はっきりしなさい。▼試験の合否(=合格か不合格か)を早く知りたい。▼地しんが起こったので、親せきの安否(=ぶじかぶじでないか)が心配だ。

なりたち 不(=打ち消すこと)と口(=ことば)を組み合わせてできた字。ことばで打ち消すこと。

否

批

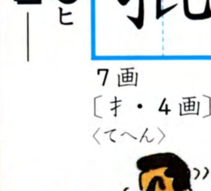
おん ヒ
くん —

7画〔扌・4画〕〈てへん〉

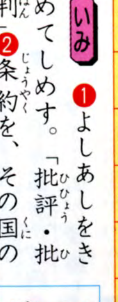
批批批批批批批

一かくでかく









いみ ❶よしあしをきめてしめす。「批評・批判」❷条約を、その国の代表者がみとめる。「批准*」

使い方 ▼かきあげた絵をみんなで批評しあった。▼かれは、この計画について批判的な意見をもっている。▼内閣が条約を批准*する(=よいとみとめる)。

なりたち 扌(=手)と比(=ならべてくらべる)を組み合わせてできた字。つき合わせてくらべて決めることをあらわす。「比」は「ヒ」の音もあらわす。

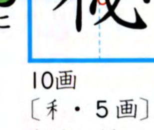
批

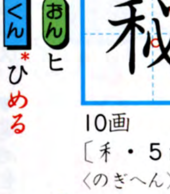
秘

おん ヒ
くん *ひめる

10画〔禾・5画〕〈のぎへん〉

秘秘秘秘秘秘秘秘秘秘







いみ ❶人にわからないようにする。「秘密・秘宝・秘策・秘蔵・秘境・秘伝」❷人のちえではわからない。「神秘」❸通じが悪い。「便秘」

使い方 ▼闘*志を胸に秘めて、試合にのぞむ。▼これは絶対に秘密です。▼姉は、会社の秘書室で働いている。▼かぜをひかない秘訣*を教えてください。▼神秘的な美しさの湖。

なりたち 祕-祕(秘)。示(=祭)と必(=ぼうが折れないように、両がわに木をそえてくくる)を組み合わせた字。入り口をしめて中がわからないように神をまつること。

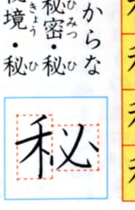
秘

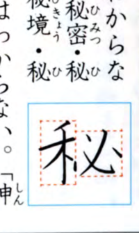
腹

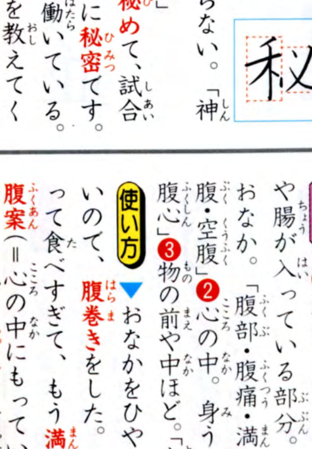
おん フク
くん はら

13画〔月・9画〕〈にくづき〉

腹腹腹腹腹腹腹







いみ ❶胸の下で、胃や腸が入っている部分。おなか。「腹部・腹痛・満腹・空腹」❷心の中。「腹案・腹心」❸物の前や中ほど。「山腹・中腹」

使い方 ▼おなかをひやすといけないので、腹巻きをした。▼調子にのって食べすぎて、もう満腹です。▼腹案(=心の中にもっている計画)を話す。▼山の中腹で一休みする。

注意 「復」「複」とまちがえやすい。

なりたち 腹-腹 月(=にく)と复(=ふくれたうつわ)と夂(=足)を組み合わせた字。腸がいくえにも重なってふくれたおなかをあらわす。

腹

漢字のちしき 「个」は「個」と音も意味も同じ。「一ケ=一个=一個」(403ページ参照)。

奮

おん フン
くん ふるう

16画
〔大・13画〕
〈だい〉

奮奮奮奮奮奮奮奮 (たてがさき)

いみ 気力をこめてふるいたつ。「奮起・奮戦・奮闘*・興奮・発奮」

使い方 ▼勇気を奮い起こしてあいてにぶつかっていった。▼みなさん、奮って早朝練習に参加してください。▼父はお年玉を一万円奮発してくれた。▼チームが優勝した夜は、興奮してねむれなかった。▼兄の一言に発奮して、死にものぐるいでがんばった。

なりたち 大(=手足を大きく広げる)と隹(=鳥)と田(=地面)を組み合わせた字。鳥が飛び立とうとして、力いっぱいはばたくようすをあらわす。力を一度に出すこと。

並

おん *ヘイ
くん なみ・ならべる・ならぶ・ならびに

8画
〔一・7画〕
〈いち〉



並並並並並並並並

いみ ❶ならぶ。ならべる。「並行・並木道」❷ていどがふつうであること。また、同じようであること。「世間並み」

使い方 ▼バスに乗る方は、二列に並んでください。▼古い家並みの残る町。▼新郎*並びに新婦をご紹介*します。▼いちょうの並木がきれいな大通り。▼鉄道と並行して走るバス。▼電池を並列につなぐ。▼一人でやるのは並たいていでなかった。

なりたち 竝(並) 人が立っているすがたを二つ組み合わせて、ならぶことをあらわした字。

陛

おん ヘイ
くん ―

10画
〔阝・7画〕
〈こざとへん〉

陛陛陛陛陛陛陛陛陛陛

いみ 天皇や皇后、国王や女王などをうやまってよぶときにつけることば。「陛下」

使い方 ▼天皇・皇后両陛下は、おそろいでデンマークの女王陛下にお会いになった。

注意 「階」とまちがえないこと。

なりたち 坒(=きちんとならんだ土の段)と阝(=もり上げた土)を組み合わせた字。きちんとならんだ階段のこと。そこから、宮殿*の階段の意味になった。「陛下」ということばは、天子に話をするとき、階段の下にいるけらいから伝えてもらったことからできた。

閉 (↕開 151)

おん ヘイ
くん とじる・*とざす・しめる・しまる

11画
〔門・3画〕
〈もんがまえ〉

閉閉閉閉閉閉閉閉閉閉閉 (はねる)

いみ ❶とじる。しめる。「閉門・開閉・密閉」❷やめる。おえる。「閉店・閉会・閉校」

使い方 ▼目を閉じると、幼い日の思い出がよみがえってきます。▼夕方になったので、カーテンを閉めた。▼つごうにより、本日は閉店いたします。▼校長先生が閉会の辞(=あいさつ)を述べた。▼今年の暑さには閉口(=うんざりしていやになること)した。

なりたち 門(=もん)と才(=たち切って止める)を組み合わせた字。門をとじて、人の出入りを止めることをあらわす。

片

おん *ヘン
くん かた

4画
〔片・0画〕
〈かた〉

片片片片

いみ ❶二つで一組みになっているもののいっぽう。「片道・片手」❷きれはし。ひときれ。わずか。「片時・破片・紙片・断片・一片」❸不完全なようす。「片言」

使い方 ▼大きな荷物を片手で持ちあげる。▼片道だけ飛行機で行く。▼この先は工事のため、片側通行になっています。▼ガラスの破片で手を切った。▼片言の英語を話す。

なりたち 木(=木)を まん中から半分に切った右がわの形)からできた字。うすく平らな木の切れはしをあらわす。

補

おん ホ
くん おぎなう

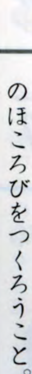
12画
〔衤・7画〕
〈ころもへん〉

補補補補補補補補補補補補

いみ 足りないところを足す。おぎなう。「補欠・補足・補給・補強・補修・補正・補助・補習・補導・補佐*・補充*・候補」

使い方 ▼おじは、学費を補うためにアルバイトをしています。▼水泳大会の補欠選手になった。▼わたしから、補足説明します。▼マラソン選手が水分を補給する。▼台風でこわれたやねを補修する(=なおす)。▼山下さんは委員長に立候補した。

なりたち 衤(=布)と甫(=平らにぴったりつける)を組み合わせた字。着物のほころびをつくろうこと。



漢字のちしき 「ばか」は、中国語の「摩訶不思議」の「摩訶」から(409ページ参照)。

六年

暮

おん *ボ
くん くれる・くらす

14画 〔日・10画〕〈ひ〉

暮暮暮暮暮暮暮

いみ ❶日がくれる。また、そのころ。「暮色・日暮れ・夕暮れ・薄*暮」❷生活する。くらす。❸季節や年が終わりになる。また、そのころ。「歳*暮」

使い方 ▼**暮色**（＝夕暮れのうす暗い感じ）につつまれる。▼**お歳*暮**（＝せわになった人におくる、年の暮れのおくり物）を送る。

参考 莫は「かくれる」という意味。日がかくれるのが「暮」、土にかくれるのが「墓」、布にかくれるのが「幕」。

なりたち ―暮　（＝草原のかなたに日がしずむようす）と（＝日）を組み合わせた字。

宝

おん ホウ
くん たから

8画 〔宀・5画〕〈うかんむり〉

宝宝宝宝宝宝宝宝

いみ めずらしくて価値のあるもの。たから。「宝船・宝石・宝物・宝庫・財宝・国宝・秘宝・重宝（じゅうほう・ちょうほう）」

使い方 ▼父は**宝くじ**にあたった夢を見たそうだ。▼いろいろな**宝石**をちりばめたかんむり。▼神社の**宝物殿***を見学した。▼オホーツク海は魚の**宝庫**だ。▼**国宝**の仏像の展覧会があった。

なりたち 寶―寶（宝）　（＝やね）と（＝玉）と（＝水などを入れる、土でつくったうつわ）と（＝たからもの）を組み合わせた字。大切なものをやねの下にしまっておくこと。

訪

おん ホウ
くん *おとずれる・たずねる

11画 〔言・4画〕〈ごんべん〉



訪訪訪訪訪訪訪訪訪訪訪

いみ よその土地や家などへ出かけていく。おとずれる。たずねる。「訪問・訪日・来訪・歴訪・探訪」

使い方 ▼何年ぶりかに、生まれ育ったふるさとを**訪れ**ました。▼昨日、父といっしょにおじさんの家を**訪ね**ました。▼あしたから、**家庭訪問**が始まります。▼来月の末に、アメリカの大統領が**訪日**する（＝日本を**訪れる**）予定です。

なりたち ―訪　（＝ことば）と（＝左右にはり出す）を組み合わせた字。右や左に歩いて、ことばでたずねまわることをあらわす。

亡

おん ボウ・*モウ
くん *ない

3画 〔亠・1画〕〈なべぶた〉

亡亡亡

いみ ❶なくなる。ほろびる。「亡失・存亡・滅*亡」❷しぬ。また、しんでいるようす。「死亡・亡霊*・亡者」❸にげてかくれる。「亡命・逃*亡」

使い方 ▼**滅*亡**（＝ほろびること）した平家（＝平の姓*をもつ一族）のあとをたずねる。▼祖父は八十才で**亡くなった**。▼交通事故による**死亡者**がへった。▼外国に**亡命**（＝政治的な圧力や、身の危険をさけるためにほかの国ににげること）する。

なりたち ―亡　人をついたてでかくすことをあらわした字。あったものがかくれて見えなくなること。

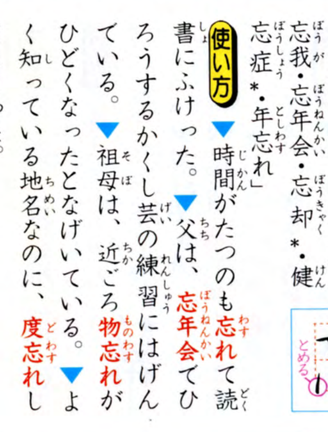
忘

おん *ボウ
くん わすれる

7画 〔心・3画〕〈こころ〉







忘忘忘忘忘忘忘

いみ 記おくがなくなる。わすれる。「忘れ物・忘我・忘年会・忘却*・健忘症*・年忘れ」

使い方 ▼時間がたつのも**忘れ**て読書にふけった。▼父は、**忘年会**でひろうするかくし芸の練習にはげんでいる。▼祖母は、近ごろ**物忘れ**がひどくなったとなげいている。▼よく知っている地名なのに、**度忘れ**してしまった。

なりたち 亡（＝今まであったものがなくなる）と心（＝こころ）を組み合わせた字。心の中にあったものがなくなることをあらわす。「亡」は「ボウ」の音もあらわす。

棒

おん ボウ
くん ―

12画 〔木・8画〕〈きへん〉

棒棒棒棒棒棒棒棒棒棒棒棒

いみ ❶木・金属などの、細長くまっすぐなもの。また、その形をしたもの。ぼう。「棒磁石・棒立ち・鉄棒・金棒」❷変化のないこと。「棒読み」

使い方 ▼**棒高跳*び**で、世界新記録がでた。▼大きな物音におどろいて、馬が**棒立ち**になった。▼山下君は**鉄棒**の名手です。▼**やぶから棒**（＝とつぜん）に、何を言いだすのですか。▼教科書を**棒暗記**（＝意味を考えずにそのままおぼえること）しても、実力はつきません。

なりたち 木（＝き）と奉（＝両手で持つ）を組み合わせた字。両手でさげ持つ木のぼうをあらわす。

六年

 中国語の「摩訶不思議」は、梵語の「マハラ（おろかの意）」の訳語。

枚

おん マイ
くん ―

8画 〔木・4画〕〈きへん〉

枚 枚 枚 枚 枚 枚 枚 枚

いみ ❶数える。「枚挙」❷紙・板・うすい物などを数えることば。「紙一枚」❸昔、お金などを数えるときに使ったことば。「大枚・銀一枚」

使い方 ▼大都市では、そんな事件は**枚挙**にいとまがない(＝たくさんあって数えきれない)。▼試験用紙の**枚数**を数える。▼作文用紙が**五枚**必要だ。▼**大枚**をはたいて(＝たくさんのお金を使って)買う。

なりたち 木(＝き)と攵(＝手に持つ)を組み合わせてできた字。手に持つつえやむちのことをあらわす。のちに、同じ種類のものを数えるときに使う単位として使われた。

幕

おん マク・バク
くん ―

13画 〔巾・10画〕〈はば〉

幕 幕 幕 幕 幕 幕 幕 幕



いみ ❶物をおおったり、しきりやかざりに使ったりする広く長い布。「暗幕・字幕・除幕」❷将軍が政治をとる所。「幕府・幕末・討幕」❸劇などのひとくぎり。場面。❹終わり。

使い方 ▼卒業式の会場に紅白の**幕**をはりめぐらす。▼**徳川幕府**は三百年近く続いた。▼ここは君の出る**幕**ではない。▼複雑な事件のわりには、あっけない**幕切れ**だった。

なりたち 幕－幕 (＝草原のむこうに太陽がかくれるようす)と巾(＝布)を組み合わせた字。物におおいをかぶせて見えなくすることをあらわす。

密

おん ミツ
くん ―

11画 〔宀・8画〕〈うかんむり〉

密 密 密 密 密 密 密 密

いみ ❶すきまなく集まっている。また、くっついている。「密集・密生・密閉・密度・密接・密林」❷こまかくいきとどいている。「精密・厳密」❸こっそり行うようす。「秘密・内密・密約・密告・密書」❹親しい。「親密」

使い方 ▼**密閉**されたところでは、換*気に注意しよう。▼**人口密度**の高い地域。▼あの国とは**密接**な関係がある。▼旅行の**綿密**な計画を立てる。▼このことは、二人だけの**秘密**だ。▼**親密**な間がら。

なりたち 宓(＝家の戸をぴたりとしめる)と山(＝やま)を組み合わせた字。

盟

おん メイ
くん ―

13画 〔皿・8画〕〈さら〉

盟 盟 盟 盟 盟 盟 盟 盟

いみ かたいやくそくをする。また、そのやくそく。ちかい。「盟主・盟約・同盟・加盟・連盟」

使い方 ▼かれを**盟主**(＝仲間の中心となる人)とあおぐ人々が集まった。▼同じ考えの仲間で**盟約**(＝かたい約束)を結んだ。▼外国と**同盟**を結ぶ。▼今度、ボーイスカウト**連盟**に**加盟**した。

なりたち 盟－盟 (＝ものごとがはっきりと見える)と皿(＝さら)を組み合わせた字。さらに入れた、神にささげるいけにえの血をすすって、神にあかしをたてることをあらわす。

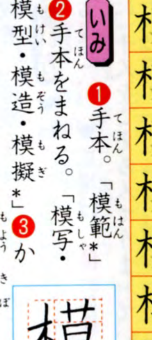
模

おん モ・ボ
くん ―

14画 〔木・10画〕〈きへん〉



模 模 模 模 模 模 模 模





いみ ❶手本。「模範*」❷手本をまねる。「模写・模型・模造・模擬*」❸かたち。ありさま。「模様・規模」

使い方 ▼先生が、最初に**模範***を示した。▼有名な画家の絵を**模写**(＝まねてかくこと)する。▼**模型飛行機**をつくる。▼母が、美しい**模様**の着物を着ている。▼**大規模**な工事が始まった。

注意 「膜*」とまちがえないこと。

なりたち 模－模 (＝日が草の中にしずんで見えなくなる)を組み合わせた字。ねん土をおしつけて同じ物をつくるための木のい型のこと。

訳

おん ヤク
くん わけ

11画 〔言・4画〕〈ごんべん〉

訳 訳 訳 訳 訳 訳 訳 訳

いみ ❶ある国のことばや古いことばを、ほかの国のことばや現代のことばになおす。また、なおしたもの。「訳文・和訳・英訳・通訳・翻*訳・現代語訳」❷わけ。理由。

使い方 ▼この小説は、五か国語に**訳され**ているそうです。▼最近は**同時通訳**といって、話すそばから**訳す**場合もある。▼あなたがおこっている**訳**(＝理由)を、教えてください。▼おそくなって**申し訳**ありません。

なりたち 譯(訳) ことば(＝つみをおかした人をならべてたしかめる)を組み合わせた字。

六年

郵

おん ユウ
くん —

11画 〔阝・8画〕〈おおざと〉

いみ 手紙や小包を送る制度。ゆうびん。「郵便・郵送・郵便局・郵政省」

使い方 ▼父の会社には、大量の郵便物が送られて来るそうだ。▼記念切手を買いに、郵便局まで行った。▼郵便番号を忘れずに書こう。▼クイズの答えを書いて郵送した。▼郵政省は、郵便や貯金や電信などの仕事をしている役所です。

なりたち 垂(=大地のはて)と阝(=さくでかこった場所)を組み合わせてできた字。命令や報告を伝える役目の人たちのために、国ざかいにおいた、さくでかこった小屋をあらわす。

優

おん ユウ
くん *やさしい・*すぐれる

17画 〔亻・15画〕〈にんべん〉

いみ ❶しとやかなようす。やさしい。「優美・優雅*」❷すぐれている。「優勝・優位・優勢・優秀・優劣*」❸特別だいじにする。「優先・優遇*」❹役者。「俳優・男優・女優・名優・声優」

使い方 ▼わたしたちの先生はとても優しい。▼広場は、優に(=らくに)千人をこえる人でうまっていた。▼中山くんは、運動神経が優れている。▼校内マラソン大会で優勝した。

なりたち 亻(=人)と憂(=心がしずんでいるときのすがた)を組み合わせた字。ゆったりとしなやかにふるまう役者をあらわす。

幼

おん ヨウ
くん おさない

5画 〔幺・2画〕〈いとがしら〉

いみ わかい。おさない。「幼児・幼年・幼少・幼名・幼魚・幼虫」

使い方 ▼幼い妹のめんどうをみる。▼母はきょう、町で、ぐうぜん幼なじみの友に再会したそうだ。▼幼児の入園料は、無料です。▼かれは幼少のころ、病弱だったそうです。▼ぼくには、幼稚*園に行っている弟がいます。▼あお虫は、もんしろちょうの幼虫です。

注意 「幻*」とまちがえないこと。

なりたち [古字]-幼 幺(=細くみじかい糸)と力(=力)を組み合わせた字。力の弱い、おさない子どもをあらわす。

欲

おん ヨク
くん *ほっする・*ほしい

11画 〔欠・7画〕〈けつ〉

いみ ほしがる。のぞむ。また、ほしいと思う心。「欲望・欲求・欲情・欲深・欲張り・食欲・意欲・強欲・無欲・私欲」

使い方 ▼人間の欲望には、きりがない。▼欲求を満たす。▼欲張って、ひとりじめにしないように。▼秋になると、食欲が増す。▼勉強しようという意欲がわく。

注意 「浴」とまちがえないこと。

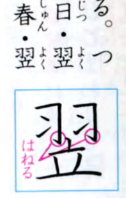
なりたち 谷(=あながあいている)と欠(=からだをかがめたようす)を組み合わせた字。心の中のものたりない気持ちをうめたいと思うことをあらわす。

翌

おん ヨク
くん —

11画 〔羽・5画〕〈はね〉





いみ つぎにくる。つぎの。「翌朝・翌日・翌週・翌月・翌年・翌春・翌秋・翌翌年」

使い方 ▼翌朝は、早く目がさめた。▼初めてプールにはいった翌日に、かぜをひいてしまった。▼新製品の広告が出た翌週から、問い合わせがふえた。▼ぼくたちは、新しい校舎ができた翌年に入学した。

注意 「習」とまちがえないこと。

なりたち [古字]-翌(翌) 立(=立てること)と羽(=もう一つあって対になるつばさのこと)を組み合わせた字。もう一つべつの日という意味。

乱

おん ラン
くん みだれる・みだす

7画 〔乚・6画〕〈おつにょう〉

いみ ❶みだれる。みだす。「乱雑・乱筆・乱心・混乱・散乱」❷むやみに。「乱立・乱読」❸世の中がおさまらないこと。いくさ。「戦乱・内乱・反乱・動乱」

使い方 ▼乱暴な口をきく。▼ガラスの破片が散乱している。▼プールの水面に、光が乱反射してまぶしい。▼電車がストップして、駅は大混乱だ。▼線路際に看板が乱立している。▼動乱の時代を生きぬく。

なりたち もとの字は「亂」。𤔔(=両手で糸を引っぱる)と乚(=おさめる)で、もつれた糸を両手でときほぐすようすをあらわした字。

卵

7画 〔卩・5画〕〈ふしづくり〉

おん *ラン
くん たまご

卵 卵 卵 卵 卵 卵 卵

いみ ❶鳥・魚・虫などのたまご。「卵黄・卵白・卵生・生卵・産卵」❷まだ一人前になっていない人。

使い方 ▼卵のきみを卵黄といい、しろみを卵白という。▼わたしは、母のつくる卵焼きが大すきです。▼遠足のおべんとうの中に、ゆで卵が入っていました。▼魚は、卵生(=卵から生まれること)の動物です。▼秋になると、さけは産卵のために川をのぼる。▼兄は、医者の卵だ。

なりたち 卵-卵 魚やかえるの丸いたまごが、たくさんつらなっているようすの一部をあらわした形からできた字。

覧

17画 〔見・10画〕〈みる〉

おん ラン
くん ―

覧 覧 覧 覧 覧 覧 覧

いみ ❶広く見わたす。また、全体を通して見る。「回覧・観覧・遊覧・閲*覧・展覧会・博覧会」❷見やすくまとめたもの。「便覧(びんらん・べんらん)」

使い方 ▼となりの家に回覧板を届ける。▼遊園地で観覧車に乗った。▼湖を遊覧船でひとまわりした。▼好きな画家の展覧会を見に行った。▼六年生で学習する漢字の一覧表を作る。

なりたち 覧-覧(覽) 監(=水面にうつした顔を見るようす)と見(=見る)を組み合わせた字。上から下のものを見まわすことをあらわす。

裏

13画 〔衣・7画〕〈ころも〉 ↕表 200

おん *リ
くん うら

裏 裏 裏 裏 裏 裏 裏

いみ ❶物のうしろ。うら。「裏側・裏地・裏面・表裏・裏打ち」❷物のうちがわ。うち。「脳裏・手裏けん」❸その状態であること。…のうちに。「成功裏」

使い方 ▼学校の裏はあき地になっている。▼紙の表と裏を見分ける。▼裏通りを歩く。▼友情を裏切るようなことはしたくない。▼不安が脳裏(=頭の中)をかすめた。▼会は成功裏(=成功のうち)に終わった。

なりたち 衣(=布)と里(=すじめを入れた田畑)を組み合わせた字。着物のうら地に使った、しまもようの布地のことをあらわす。

律

9画 〔彳・6画〕〈ぎょうにんべん〉

おん リツ・*リチ
くん ―

律 律 律 律 律 律 律

いみ ❶きそく。おきて。きまり。「規律・法律・律儀*」❷音楽や音の調子。「調律・旋*律」

使い方 ▼集団生活では、規律正しくしよう。▼兄は、大学で法律の勉強をしている。▼おじは律儀*な(=まじめで義理がたい)人だ。▼ピアノの調律(=楽器の音を正しくととのえること)をしてもらった。▼美しい旋*律(=メロディー)。

なりたち 律-律 彳(=おこない)と聿(=筆を手に持つようす)を組み合わせた字。人間のおこないの基本になることを筆でかか条書きにすること。

臨

18画 〔臣・11画〕〈しん〉

おん リン
くん *のぞむ

臨 臨 臨 臨 臨 臨 臨

いみ ❶高い所から下を見おろす。また、身分が高い人が出むく。「君臨・光臨」❷あるものごとが起ころうとしているときや、その時間にいあわせる。「臨席・臨時・臨終」❸面とむかう。「臨海」

使い方 ▼試合に臨む。▼臨機応変(=その場その場にふさわしい)処置。▼年末は臨時に人をやとう。▼七月の第三週は、臨海学校だ。

なりたち 臨-臨-臨 臣(=目をふせて下を見るようす)と人(=人)と品(=いろいろなもの)を組み合わせた字。人が高い所から、下のいろいろなものを見おろすこと。

朗

10画 〔月・6画〕〈つき〉

おん ロウ
くん *ほがらか

朗 朗 朗 朗 朗 朗 朗



いみ ❶晴れわたっていてすがすがしい。明るくはればれしている。「朗報・清朗」❷声が明るく高くひびくようす。「朗読・朗朗・朗詠*」❸人がらが明るくて元気なようす。「明朗」

使い方 ▼合格の朗報(=うれしい知らせ)がとどいたので、とびあがってよろこんだ。▼授業中に、大きな声で詩を朗読しました。▼母は朗らかな性格です。▼かれは明朗快活で、だれからも好かれています。

なりたち 良(=清らかでくもりがないこと)と月(=つき)を組み合わせた字。月が清くすんでいることをあらわす。

漢字のちしき 「穀」は、「こくもつ」の意味を表す部首「禾」の部にはいっている。

資料・さくいん

論

15画
〔言・8画〕
〈ごんべん〉

おん ロン
くん ―

論 論 論 論 論 論 論 論

よこがさき

いみ ❶すじみちをたてて考える。「論理・論争・論文・議論・討論」❷ものごとについての考え。意見。「持論・理論・結論・言論・世論(よろん・せろん)」

使い方 ▼議論を重ねる。▼つまらないことで兄と口論になった。▼その決定には、反論の余地がない。▼この辺で結論を出しましょう。▼そのやり方は、理論的におかしい。

注意 「諭*」とまちがえないこと。

なりたち 言(＝ことば)と侖(＝文字を書いたたんざくをきちんと整理して集める)を組み合わせた字。ことばをきちんと整理してならべることをあらわす。

六年生の漢字の注意点①

書き順でまちがえやすい漢字。

域

吸

収

垂

蔵

片

郵

臨

また、次の漢字の訓読みと送り仮名を確認しておきましょう。

「延」(の-びる・の-べる・の-ばす)。「疑」(うたが-う)。「誤」(あやま-る)。「従」(したが-う・したが-える)。「縮」(ちぢ-む・ちぢ-める・ちぢ-れる)。「尊」(たっと-い・とうと-い・たっと-ぶ)。「閉」(し-める・と-じる・し-まる)。「補」(おぎな-う)。「難」(むずか-しい)。「危」(あぶ-ない)。

六年生の漢字の注意点②

次の漢字の使い分けに注意しましょう。

「治・納・収・修」。

「収」は何かの中に入れて落ち着くこと、また、取って自分のものにすること。「納」は何かにしまう、送りこむこと、また、支はらったり送り入れたりすること。「治」は静まる、おだやかになる。「修」は学問やわざを身につけること。

「努・務・勤」。

「努」は力をつくして何かをすること。「務」は役目を受け持つこと。「勤」はつとめ先にかよい仕事をすること。

また、次の漢字の画数を確認しておきましょう。

「郷」十一画。「縦」十六画。「臓」十九画。「厳」十七画。「善」十二画。「臨」十八画。「蒸」十三画。

六年

国語および理科や社会の

教科書に出てくる学習漢字外のおもな漢字

▼配列は、総画順です。上の数字は総画数です。

▼音訓のらんは、かたかなが音読み、ひらがなが訓読み、赤色の字は送りがなです。

画数	漢字	音訓	語例
3	及	キュウ・およぶ・および・およぼす	追及・普及
	刃	ジン は	刃物・刃先
	与	ヨ あたえる	与党・授与
4	介	カイ	紹介・介護
	凶	キョウ	凶作・凶器
	幻	ゲン まぼろし	幻灯・幻想
	互	ゴ たがい	交互・相互
	升	ショウ ます	一升びん
	井	セイ・ショウ い	天井・井戸
	斗	ト	北斗七星
	乏	ボウ とぼしい	欠乏・貧乏
5	巨	キョ	巨大・巨人
	甲	コウ・カン	甲子園・甲板
	召	ショウ めす	召集・召使い
	占	セン しめる・うらなう	占領・独占
	払	フツ はらう	支払い
	矛	ム ほこ	矛盾
6	汚	オ けがす・けがれる・けがらわしい・よごす・よごれる・きたない	汚点・汚染
	汗	カン あせ	発汗・汗水
	企	キ くわだてる	企画・企業
	吉	キチ・キツ	吉凶・不吉
	仰	ギョウ・コウ あおぐ・おおせ	仰視・仰天・信仰
	江	コウ え	江戸・入り江
	旨	シ むね	要旨・論旨
	朱	シュ	朱印状・朱色
	充	ジュウ あてる	充実・充電
	旬	ジュン	上旬・下旬
	壮	ソウ	壮大・壮観
	肌	はだ	肌身・肌着
	伏	フク ふせる・ふす	伏線・起伏・降伏
	朴	ボク	素朴
7	戒	カイ いましめる	戒名
	肝	カン きも	肝臓・肝っ玉
	却	キャク	焼却・返却
	狂	キョウ・くるう・くるおしい	狂言・狂気
	迎	ゲイ むかえる	迎春・送迎
	坑	コウ	炭坑・坑道
	抗	コウ	抗議・対抗
	攻	コウ せめる	攻撃・特攻隊
	佐	サ	大佐・中佐・少佐
	寿	ジュ ことぶき	寿命・長寿
	秀	シュウ ひいでる	優秀・秀才
	床	ショウ とこ・ゆか	起床・寝床・床下
	肖	ショウ	肖像画
	伸	シン のびる・のばす	伸縮・背伸び
	杉	すぎ	杉並木・縄文杉
	択	タク	採択・選択
	沖	チュウ おき	沖積層・沖合い

画数	漢字	音訓	語例
	沈	チン しずむ・しずめる	沈黙・沈没
	廷	テイ	朝廷・法廷
	伴	ハン・バン ともなう	伴奏・同伴
	尾	ビ お	交尾・尾根
	没	ボツ	没収・水没
	抑	ヨク おさえる	抑止・抑圧
8	依	イ・エ	依存
	炎	エン ほのお	肺炎・炎上
	欧	オウ	欧米・欧州
	怪	カイ あやしい・あやしむ	怪物・怪談
	岳	ガク たけ	山岳・八ケ岳
	奇	キ	奇妙・奇数
	祈	キ いのる	祈願・祈念
	拠	キョ・コ	拠点・証拠
	況	キョウ	状況・不況
	弦	ゲン つる	管弦楽・弦楽器
	肯	コウ	肯定
	昆	コン	昆虫・昆布
	刺	シ さす・さささる	風刺・名刺
	祉	シ	福祉
	邪	ジャ	無邪気・邪道
	昇	ショウ のぼる	昇降口・上昇
	沼	ショウ ぬま	沼地・伊豆沼
	炊	スイ たく	炊事・自炊
	征	セイ	征服・出征
	姓	セイ・ショウ	姓名・百姓
	析	セキ	分析・解析
	拙	セツ	拙宅・稚拙
	卓	タク	卓球・円卓
	坪	つぼ	一坪
	抵	テイ	抵抗・抵触
	到	トウ	到着・周到
	突	トツ つく	突然・突進
	拍	ハク・ヒョウ	拍手・脈拍・拍子
	泊	ハク とまる・とめる	宿泊・停泊
	迫	ハク せまる	迫力・迫害
	彼	ヒ かれ・かの	彼岸・彼女
	苗	ビョウ なえ・なわ	苗木・苗代
	怖	フ こわい	畏怖
	併	ヘイ あわせる	併合・合併
	奉	ホウ・ブ たてまつる	奉仕・奉行
	房	ボウ ふさ	冷暖房・一房
	免	メン まぬかれる	任免・免許
	盲	モウ	盲導犬・盲学校
	炉	ロ	暖炉・溶鉱炉
9	為	イ	行為
	卸	おろす・おろし	卸売市場・棚卸し
	架	カ かける・かかる	架空・高架
	軌	キ	軌跡・軌道
	契	ケイ ちぎる	契約・契機
	孤	コ	孤児・孤独
	荒	コウ あらい・あれる・あらす	荒野・荒天
	郊	コウ	郊外・近郊
	香	コウ・キョウ か・かおり・かおる	香水・色香
	洪	コウ	洪水・洪積層
	施	シ・セ ほどこす	施設・実施
	狩	シュ かり・かる	刀狩り・潮干狩り
	臭	シュウ くさい	脱臭・臭気
	柔	ジュウ・ニュウ やわらか・やわらかい	柔道・柔和
	浄	ジョウ	浄化・浄水
	侵	シン おかす	侵入・侵略
	津	シン つ	津波
	促	ソク うながす	促音・促進

漢字	音訓	語例
俗	ゾク	民俗・風俗
胎	タイ	胎児・胎内
帝	テイ	帝国・天帝・皇帝
峠	とうげ	峠道
赴	フ おもむく	赴任
封	フウ・ホウ	同封・封筒・封建
胞	ホウ	細胞・胞子
冒	ボウ おかす	冒頭・冒険
盆	ボン	盆地
柳	リュウ やなぎ	川柳
厘	リン	一割一分一厘
10		
華	カ・ケ はな	豪華・華族
核	カク	結核・核兵器
恐	キョウ・おそれる・おそろしい	恐怖・恐縮
恵	ケイ・エ めぐむ	恩恵・知恵
兼	ケン かねる	兼業農家
剣	ケン つるぎ	剣道・真剣
軒	ケン のき	一軒・軒先
悟	ゴ さとる	覚悟
貢	コウ・ク みつぐ	貢献・年貢
剛	ゴウ	金剛石・剛健
栽	サイ	栽培・盆栽
剤	ザイ	洗剤・薬剤師
脂	シ あぶら	樹脂・脂肪
称	ショウ	称号・敬称
症	ショウ	症状・花粉症
振	シン ふる・ふるう	振動・不振
扇	セン おうぎ	扇風機
租	ソ	地租改正
畜	チク	家畜・畜産
哲	テツ	哲学
途	ト	用途・途中・途上
桃	トウ もも	桃山時代
透	トウ・すく・すかす・すける	透明・浸透
唐	トウ から	唐突・唐織
倒	トウ たおれる・たおす	倒立・倒木
般	ハン	諸般・一般
被	ヒ こうむる	被害・被災
疲	ヒ・つかれる・つからす	疲労
浜	ヒン はま	浜辺・九十九里浜
浮	フ うく・うかれる・うかぶ・うかべる	浮世絵
紛	フン・まぎれる・まぎらす・まぎらわす・まぎらわしい	紛失・紛争
砲	ホウ	大砲・鉄砲
紡	ボウ つむぐ	紡績
竜	リュウ たつ	恐竜・竜宮城
烈	レツ	強烈・痛烈
11		
菓	カ	菓子・茶菓
涯	ガイ	生涯
患	カン わずらう	患者・急患
脚	キャク・キャ あし	脚本・脚力
菌	キン	細菌・殺菌
偶	グウ	偶然・偶数
掘	クツ ほる	発掘・採掘
掲	ケイ かかげる	掲示板・掲載
婚	コン	婚約・結婚
斎	サイ	書斎
執	シツ・シュウ とる	執権・執筆
斜	シャ ななめ	斜面・傾斜
蛇	ジャ・ダ へび	大蛇・蛇足
釈	シャク	釈放・解釈
渋	ジュウ・しぶ・しぶい・しぶる	渋滞・渋茶
渉	ショウ	干渉・交渉
紳	シン	紳士

漢字	音訓	語例
掃	ソウ はく	清掃・掃除
脱	ダツ ぬぐ・ぬげる	脱退・脱皮
窒	チツ	窒素
彫	チョウ ほる	彫刻・彫像
偵	テイ	探偵・偵察
添	テン そえる・そう	添加・添付
陶	トウ	陶磁器・陶芸
婆	バ	老婆
排	ハイ	排水・排気ガス
培	バイ つちかう	培養
販	ハン	自動販売機
描	ビョウ えがく	描写・点描
猫	ビョウ ねこ	山猫
符	フ	符号・切符
麻	マ あさ	麻薬・麻酔
12		
偉	イ えらい	偉人・偉大
越	エツ こす・こえる	優越・越冬地
援	エン	援助・応援
奥	オウ おく	奥地・奥底
換	カン かえる・かわる	交換・換気
喫	キツ	喫煙・喫茶店
距	キョ	距離
御	ギョ・ゴ おん	御所・御中
圏	ケン	北極圏・首都圏
硬	コウ かたい	硬貨・硬度
項	コウ	項目・事項
湿	シツ しめる・しめす	湿原・湿地
晶	ショウ	結晶・水晶
掌	ショウ	合掌づくり
殖	ショク ふえる・ふやす	養殖
診	シン みる	診察・往診
訴	ソ うったえる	直訴・告訴
疎	ソ うとい・うとむ	疎開・疎遠
葬	ソウ ほうむる	葬儀・会葬
替	タイ かえる・かわる	交替・代替
棚	たな	棚田・大陸棚
弾	ダン ひく・はずむ・たま	弾丸・爆弾
遅	チ・おくれる・おくらす・おそい	遅刻・遅延
超	チョウ こえる・こす	超音波・超能力
塚	つか	貝塚・一里塚
堤	テイ つつみ	堤防・防波堤
渡	ト わたる・わたす	渡航・渡来人
廃	ハイ すたれる・すたる	廃止・廃藩置県
普	フ	普通・普段
幅	フク はば	歩幅・幅跳び
雰	フン	雰囲気
募	ボ つのる	応募・募集・募金
帽	ボウ	帽子・脱帽
愉	ユ	愉快
雄	ユウ お・おす	雄大・英雄・雄花
揚	ヨウ あげる・あがる	掲揚・抑揚
硫	リュウ	硫酸
惑	ワク まどう	惑星・迷惑
湾	ワン	東京湾・湾岸戦争
腕	ワン うで	腕力・鉄腕
13		
違	イ ちがう・ちがえる	違反・違法
煙	エン・けむる・けむり・けむい	禁煙・煙突
鉛	エン なまり	鉛筆・鉛色
暇	カ ひま	休暇・余暇
雅	ガ	雅楽・優雅
較	カク	比較
勧	カン すすめる	勧告・勧誘
棄	キ	棄権・廃棄物

画数	漢字	音訓	語例
	傾	ケイ・かたむく・かたむける	傾向・前掲
	継	ケイ・つぐ	中継・継続
	遣	ケン・つかう・つかわす	遣唐使・派遣
	献	ケン・コン	献血・献立
	鼓	コ・つづみ	鼓動・太鼓・小鼓
	溝	コウ・みぞ	下水溝・流雪溝
	債	サイ	国債・地方債
	歳	サイ・セイ	歳月・歳時記
	慈	ジ・いつくしむ	慈愛・慈悲
	飾	ショク・かざる	修飾・服飾
	触	ショク・ふれる・さわる	触覚・感触
	寝	シン・ねる・ねかす	寝室・寝殿・昼寝
	慎	シン・つつしむ	慎重
	跡	セキ・あと	奇跡・遺跡
	摂	セツ	摂政・摂取
	僧	ソウ	僧侶・高僧
	滞	タイ・とどこおる	滞在・滞納
	滝	たき	白滝
	嘆	タン・なげく・なげかわしい	感嘆符・嘆願
	稚	チ	稚魚・幼稚園
	殿	デン・テン・との・どの	宮殿・御殿・殿様
	督	トク	監督・督促
	漠	バク	砂漠・漠然
	微	ビ	微笑・微生物
	滅	メツ・ほろびる・ほろぼす	滅亡・絶滅
	誉	ヨ・ほまれ	名誉・栄誉
	雷	ライ・かみなり	雷雨・雷鳴
	鈴	レイ・リン・すず	風鈴・呼び鈴
14	維	イ	維持・明治維新
	綱	コウ・つな	横綱・手綱
	豪	ゴウ	豪族・集中豪雨
	獄	ゴク	地獄・安政の大獄
	需	ジュ	需要・必需品
	誓	セイ・ちかう	五カ条の御誓文
	端	タン・はし・は・はた	極端・南端
	徴	チョウ	特徴・徴兵令
	摘	テキ・つむ	指摘・摘発
	滴	テキ・しずく・したたる	点滴・水滴
	稲	トウ・いね・いな	水稲・稲作
	罰	バツ・バチ	処罰・罰金
	碑	ヒ	石碑・記念碑
	漂	ヒョウ・ただよう	漂白・漂流
	腐	フ・くさる・くされる・くさらす	腐葉土・豆腐
	墨	ボク・すみ	白墨・水墨画
	膜	マク	網膜・角膜
	漫	マン	漫画・散漫
	網	モウ・あみ	鉄条網・網戸
	暦	レキ・こよみ	旧暦・西暦
15	影	エイ・かげ	影響・影絵
	縁	エン・ふち	縁日・額縁
	歓	カン	歓迎・歓声
	監	カン	監視・監獄
	儀	ギ	儀式・地球儀
	緊	キン	緊張・緊急
	撃	ゲキ・うつ	撃退・反撃
	稿	コウ	原稿・投稿
	撮	サツ・とる	撮影
	趣	シュ・おもむき	趣味・趣向
	縄	ジョウ・なわ	縄文時代・縄目
	審	シン	審判・審議
	震	シン・ふるう・ふるえる	地震・震災
	請	セイ・シン・こう・うける	請求・請願・申請
	潜	セン・ひそむ・もぐる	潜水・潜在

画数	漢字	音訓	語例
	駐	チュウ	駐車・駐在
	徹	テツ	徹底・徹夜
	踏	トウ・ふむ・ふまえる	雑踏・踏み絵
	輩	ハイ	先輩・後輩
	賠	バイ	賠償金
	範	ハン	範囲・模範
	盤	バン	地盤・羅針盤
	敷	フ・しく	敷設・敷地・屋敷
	膚	フ	皮膚
	舞	ブ・まう・まい	舞台・歌舞伎
	墳	フン	古墳
	撲	ボク	打撲・撲滅
	魅	ミ	魅力・魅了
	黙	モク・だまる	黙読・暗黙
	霊	レイ・リョウ・たま	精霊・悪霊
16	緯	イ	緯度・北緯
	壊	カイ・こわす・こわれる	破壊・崩壊
	還	カン	返還・帰還
	儒	ジュ	儒学・儒教
	獣	ジュウ・けもの	野獣・鳥獣
	濁	ダク・にごる・にごす	濁音・濁点・濁流
	濃	ノウ・こい	濃厚・濃度
	薄	ハク・うすい・うすめる・うすまる・うすらぐ・うすれる	薄情・薄氷
	壁	ヘキ・かべ	障壁・壁画
	謡	ヨウ・うたい・うたう	童謡・民謡
	頼	ライ・たのむ・たのもしい・たよる	信頼・依頼
	隣	リン・となる・となり	近隣・隣人
	錬	レン	精錬所・鍛錬
17	環	カン	環境・衆人環視
	謙	ケン	謙虚・謙譲語
	購	コウ	購入・購買
	償	ショウ・つぐなう	補償金・弁償
	鮮	セン・あざやか	鮮魚・新鮮
	霜	ソウ・しも	霜害・霜月
	濯	タク	洗濯機
	聴	チョウ・きく	聴覚・視聴者
	療	リョウ	医療・治療・診療
	齢	レイ	高齢・年齢
18	穫	カク	収穫
	騎	キ	騎馬・騎兵
	顕	ケン	顕著・顕微鏡
	鎖	サ・くさり	鎖国
	瞬	シュン・またたく	瞬間・瞬時
	礎	ソ・いしずえ	礎石・基礎
	騒	ソウ・さわぐ	騒動・騒音
	藩	ハン	藩主・親藩大名
	覆	フク・おおう・くつがえす・くつがえる	覆面・転覆
	翻	ホン・ひるがえる・ひるがえす	翻訳・翻案
	糧	リョウ・ロウ・かて	食糧・兵糧
19	鶏	ケイ・にわとり	養鶏場・鶏卵
	瀬	せ	瀬戸内海
	藻	ソウ・も	海藻・藻類
	爆	バク	爆発・原爆
	譜	フ	譜代大名・楽譜
	離	リ・はなれる・はなす	別離・離陸
20	響	キョウ・ひびく	交響曲・音響
	懸	ケン・ケ・かける・かかる	一生懸命・懸賞
	譲	ジョウ・ゆずる	譲歩・譲渡
21	艦	カン	艦隊・軍艦
	魔	マ	魔法・魔女
	躍	ヤク・おどる	活躍・飛躍
22	襲	シュウ・おそう	襲名・空襲
23	鑑	カン	図鑑・年鑑

漢字のなりたち

1 中国で生まれた漢字

漢字は、大昔に、中国で生まれました。大昔の中国人が、自分たちの中国語を書きあらわすために作ったのが、漢字です。漢字は、発音とともに意味も表しており、文字であると同時に、古い中国語でもあります。

漢字が生まれた時期は、はっきりしません。しかし、今から三千年あまり前にさかえた、殷という国の遺せきから、かめの甲らやけものの骨にきざまれた、**甲骨文字**という、一番古いと考えられる漢字が出てきました。この字ができあがるのに千年ぐらいかかったと考えると、漢字のはじまりは、今から四千年ぐらい前ということになります。

2 漢字の作りかたと使いかた

昔の中国人が、どのようにして漢字を作り、使ったのかを調べてみましょう。

①象形文字

「象形」とは、「物の形を象る」という意味です。物の形をえがいた絵をかんたんにして、作る方法です。犬は犬の絵から、山は山の絵から作ります。この方法による字は六百字ぐらいあります。

手 足 犬 木 竹

象形文字

この辞典の「なりたち」で、「…のかたちから」「…のようすから」と書いてあるのが、象形文字です。

②指事文字

「指事」とは、「事がらを指しめす」という意味です。絵では表しにくい、数や位置などを、点や線でしめしたものです。たとえば、「ひとつ・ふたつ・みっつ」を、横線の「一・二・三」で表し、「うえ」は、横線のうえにしるしをつけて表しました。

一 二 上 下 本

指事文字

③会意文字

「会意」とは、「意味を会(=合)わせる」という意味です。すでにある象形文字や指事文字などを組み合わせて、一つの漢字にしたものです。

木を二つ組み合わせて「林」、三つ組み合わせて「森」、口と鳥で「鳴(く)」、亻(=人)と木で、「休(む)」とするなどが、その例です。ほかに、「明・位・際・岩・好・孝」なども、会意文字です。

④形声文字

「形声」の「形」は意味、「声」は発音のことで、意味を表す部分と、発音を表す部分を組み合わせて作った文字です。たとえば、「清」の字では、「氵」が「水に関係がある」意味を表し、「青」が発音を表しています。

この方法は便利なので、漢字の八〇パーセント以上が、形声文字です。

持 { 寺…「ジ」という発音 / 扌…手に関係がある }

想 { 相…「ソウ」という発音 / 心…心に関係がある }

⑤仮借文字

発音だけを「仮に借りる」という意味で、文字のもとの意味には関係なく、読みだけをかりて、ほかのことばを表したものです。これは作りかたではなく、使いかたの一つで、ふつう「当て字」とよばれているものです。

たとえば、「来」の字は、小麦の絵からできた字で、小麦のことを表していましたが、「くる」という意味のことばも「ライ」と言ったので、同じ音の「来」の字で「くる」意味を表すようになりました。ほかに、外国の地名を書き表す、「亜米利加」「伊太利」などの使いかたも、この用法です。

⑥転注文字

「転注」とは、「転じて(=変化して)、注しゃくしあう」という意味です。これも文字を作る方法ではなく、ある文字を、もとの意味に関係のある別の意味に使う、使いかたをいいます。

たとえば、「楽」はもともと「音楽」の意味だけを表していましたが、音楽を聞くとたのしいことから、「たのしい」という意味にも使うようになり、「ラク」という読みもできました。「わるい」という意味の「悪」を、「にくむ」という意味に使うのもその例です。

(国字=日本で作られた字)

日本で、漢字の作りかたをまねて作った漢字を、中国からつたわった漢字と区別して、**国字**といいます。国字は、日本独特のことばを書き表すのに、適当な漢字がないときに作られたもので、ほとんどが会意文字で、音のあるものはわずかです。

例 働…ドウ・はたらく　畑…はたけ　峠…とうげ

漢字の読みかた

1 漢字の二とおりの読みかた

①漢字の音と訓

「花」という字は、「花粉」のときは「カ」と読み、「花がさく」のときは「はな」と読みます。

「カ」という読みかたは、中国から「花」の漢字とともにつたわってきたもので、もともとは中国語です。

これに対して、「はな」ということばは、日本人が漢字を知らなかった大昔から、日本で作られ、使われてきた日本語です。漢字が日本につたわったとき、「花」の字が、日本語の「はな」と同じ意味を表していたので、「はな」と読むようになったのです。

「花」の「カ」のように、中国からつたわった読みを「音」といい、「花」の「はな」のように、大昔からの日本語で読む読みを、「訓」といいます。

②音訓の見分けかた

読んで意味がわかる読みかたは、たいてい訓です。

雨 { あめ…意味がわかる→訓 / う…意味がわからない→音 }

ただし、音読みで意味がわかるものもあります。

次の読みは意味がわかりますが、音読みです。

絵(エ)　駅(エキ)　銀(ギン)　線(セン)　茶(チャ)　鉄(テツ)　肉(ニク)　本(ホン)　門(モン)　十(ジュウ)　百(ヒャク)

2 漢字の音

①三種類の音

漢字の音は、古い中国語の発音がつたえられてできたものです。そのために、いつ、どの地方からつたえられたかによって、いくつもの音ができました。

(1)呉音　日本にいちばん古くつたえられた音で、中国の呉(=長江の下流一帯)の地方から、五、六世紀ごろにつたわったものです。現在、仏教のことばに多くのこっています。

(2)漢音　隋から唐の時代にかけて、多くの使節や留学僧たちが中国にわたり、当時の都である長安の発音を日本に持ち帰りました。この発音にもとづく音を漢音といいます。現在、日本で使われている漢字の音は、ほとんどがこの漢音です。

(3)唐(宋)音　平安時代の末から、中国の宋・元・明の国と行き来した禅宗の僧や、商人たちによってつたえられた発音を、唐音、または宋音といいます。唐音は禅宗のことばや、当時輸入された器具や食べ物の名まえなどにのこっています。

外 { 呉音 ゲ　外科 / 漢音 ガイ　海外 / 唐音 ウイ　外郎 }

行 { 呉音 ギョウ　行事 / 漢音 コウ　銀行 / 唐音 アン　行脚 }

②二つ以上の音をもつ漢字

①で説明したように、時代によっていくつもの音がつたわったため、二つ以上の音をもつ漢字があります。音の中には、ちがう音でも同じ意味を表すものと、音がちがうと、意味がちがうものとがあります。

人 { ジン　人員・成人 / ニン　人間・人情 } ……同じ

易 { エキ　貿易・交易 / イ　平易・容易 } ……ちがう

③同じ音のことば

漢字には、同じ音の字がたくさんあります。したがって、同じ音の熟語もたくさんあります。これらのことばを、同音(異義)語といいます。

例　名案―明暗　異同―移動　改正―快晴

3 漢字の訓

●**二つ以上の訓をもつ漢字**

一つの漢字で、いくつもの訓をもつものがあります。

ただし、それらの大部分は、送りがながちがうだけで、漢字の部分の読みかたは同じものです。

広い　広まる　広める　広がる　広げる

それ以外には、次のようなものがあります。

生　いきる・いける・うまれる・はえる・なま

下　した・しも・さげる・くだる・おろす

4 熟語の読みかた

二字の熟語の一字一字を、音で読むか訓で読むか調べてみると、次のように、いくつもの読みかたがあることがわかります。

①二字とも音で読む

愛読(アイドク)　圧力(アツリョク)

②二字とも訓で読む

目印(めじるし)　右手(みぎて)

③上の字を音で、下の字を訓で読む

―重箱読み

素顔(スがお)　新型(シンがた)

重箱　重→音読み　箱→訓読み

④上の字を訓で、下の字を音で読む

―湯桶読み

荷物(にモツ)　古本(ふるホン)

湯桶　湯→訓読み　桶→音読み

⑤二通りの読みかたがあることば

色紙 { 色紙で、つるをおる。 / 色紙に寄せ書きをする。 }

風車 { 風車を回して遊ぶ。 / 風車小屋がたっている。 }

市場 { 市場で買い物をする。 / 市場を開放する。 }

⑥特別の読みかたをすることば――当て字・熟字訓

明日　大人　昨日　今日　果物　今朝　景色　七夕

■漢字の部分

※漢字の多くは、左右、上下など、二つの部分に分けることができます。その「部分」を一らん表にまとめたものです。

へん

部分	よび方	漢字例
亻	にんべん	休・体・住・使
冫	にすい	冷
口	くちへん	味・唱・呼・吸
土	つちへん	地・場・坂・塩
女	おんなへん	姉・妹・始・婦
子	こへん	孫
弓	ゆみへん	引・強・張
彳	ぎょうにんべん	後・徒・待・往
阝	こざとへん	院・陽・階・陸
忄	りっしんべん	性・快・情・慣
扌	てへん	持・指・投・拾
方	かたへん	族・旅・旗
日	ひへん	明・時・曜・昨
月*	つきへん	服
木	きへん	林・柱・材・根
歹	かばねへん・いちたへん	死・残
氵	さんずい	海・波・流・泳
火	ひへん	灯・焼・燃
牛	うしへん	牧・物・特
犭	けものへん	犯・独
王	おうへん	理・球・現
田	たへん	町・略
目	めへん	眼
矢	やへん	知・短
石	いしへん	研・確・砂・磁
礻	しめすへん	社・神・福・祝
禾	のぎへん	秋・科・種・積
米	こめへん	粉・精・糖
糸	いとへん	紙・絵・級・績
耳	みみへん	職
月*	にくづき	腸・腹・胸・脈
舟	ふねへん	船・航
衤	ころもへん	複・補
言	ごんべん	話・詩・語・談
車	くるまへん	転・軽・輪・輸
金	かねへん	鉄・鏡・鉱・銅
食	しょくへん	館・飲・飯・飼
馬	うまへん	駅・験

つくり

部分	よび方	漢字例
刂	りっとう	列・別・利・副
力	ちから	助・動・功・効
匕	ひ	北・化
卩	ふしづくり	印・卵
彡	さんづくり	形
阝	おおざと	部・都・郡・郵
攵	のぶん・ぼくにょう	数・教・放・政
斤	おのづくり	新・断
欠	けつ・あくび	次・歌・欲
殳	るまた	殺・段
隹	ふるとり	雑・難
頁	おおがい・いちのかい	頭・顔・願・頂

かんむり

部分	よび方	漢字例
亠	なべぶた	交・京・亡
冖	わかんむり	写
⺍	つかんむり	単・巣・営・厳
宀	うかんむり	家・守・宿・客
艹	くさかんむり	花・葉・芽・菜
耂	おいかんむり	考・者・老
癶	はつがしら	発・登
穴	あなかんむり	空・究・窓
罒	あみがしら・よこめ	置・罪・署
竹	たけかんむり	算・第・箱・管
雨	あめかんむり	雪・雲・電

あし

部分	よび方	漢字例
儿	ひとあし・にんにょう	元・兄・光・児
廾	にじゅうあし	弁
心	こころ	思・急・悲・志
灬	れんが・れっか	点・照・然・熱
皿	さら	益・盛・盟

たれ

部分	よび方	漢字例
厂	がんだれ	原・厚
尸	しかばね	局・屋・居・属
广	まだれ	広・店・庫・庭
疒	やまいだれ	病・痛

にょう

部分	よび方	漢字例
夂	すいにょう・ふゆがしら	夏・変
廴	えんにょう	建・延
辶	しんにょう・しんにゅう	近・道・追・過
走	そうにょう	起

かまえ

部分	よび方	漢字例
冂	どうがまえ	円・再・冊
勹	つつみがまえ	包
戈	ほこがまえ・ほこづくり	我・成・戦
弋	しきがまえ	式
气	きがまえ	気
行	ぎょうがまえ・ゆきがまえ	術・衛・街
門	もんがまえ・かどがまえ	間・関・開・閉
匚	かくしがまえ	区・医
囗	くにがまえ	国・回・園・囲

＊「つきへん」と「にくづき」の形はよくにていますが、「にくづき」の「月」は、「肉」の形が変化したものです。

■漢字の部首

部首	よび方	漢字例
一	いち	上・下・丁・世
丨	ぼう・たてぼう	中
丶	てん	丸・主
ノ	の・はらいぼう	乗・久
乙(乚)	おつ(おつにょう)	九・乱・乳
亅	はねぼう	予・事・争
二	に	五
人(亻・𠆢)	ひと(にんべん・ひとやね)	以・仕・会・今
八	はち	六・公・具・共
刀(刂)	かたな(りっとう)	分・切・初・刷
力	ちから	加・努・労・勤
十	じゅう	千・半・協・卒
ム	む	去・参
又	また	友・反・取・受
口(口)	くち(くちへん)	右・台・問・味
土(土)	つち(つちへん)	型・堂・圧・増
士	さむらい	声・売
夕	た・ゆう	外・多・夜・夢
大	だい	天・太・失・夫
女(女)	おんな(おんなへん)	委・妻・姿・好
子(子)	こ(こへん)	字・学・季・孫
寸	すん	寺・対・導・尊
小(⺌)	しょう	少・当
山	やま	岩・岸・島
川	かわ	州
工	こう・え	左・差
己	き・おのれ	巻
巾(巾)	はば(はばへん・きんべん)	市・席・布・帳
干	いちじゅう・ひる	年・平・幸・幹
幺	いとがしら	幼
弓(弓)	ゆみ(ゆみへん)	弟・弱・引・強
心(忄・⺗)	こころ(りっしんべん・したごころ)	必・応・快・忘
戸	と(とかんむり)	所
手(扌)	て(てへん)	才・挙・承・折
方(方)	ほう(かたへん)	旅・族・旗
日(日)	ひ(ひへん)	早・星・昔・映
曰	ひらび	書・曲・最
月(月)	つき(つきへん)	朝・有・望・服
木(木)	き(きへん)	本・未・東・板
止(止)	とまる(とめへん)	正・歩・歴・武
犬(犭)	いぬ(けものへん)	状・犯・独
氏	うじ	民
水(氵・氺)	みず(さんずい・したみず)	氷・永・池・求
火(火・灬)	ひ(ひへん・れんが・れっか)	災・灰・無・熱
片(片)	かた(かたへん)	版
毋(母)	なかれ・はは(のかん)	毎・毒
玉(王・王)	たま(おう・おうへん)	班
生	うまれる	産
田(田)	た(たへん)	男・画・番・町
白	しろ	百・的・皇
目(目)	め(めへん)	直・県・相・眼
示(礻)	しめす(しめすへん)	祭・票・禁・祖
立	たつ	章・童・競
糸(糸)	いと(いとへん)	素・系・組・約
羊(⺷)	ひつじ	美・着・群・義
羽	はね	習・翌
耳(耳)	みみ(みみへん)	聞・聖・職
肉(月)	にく(にくづき)	育・胃・能・脳
衣(衤)	ころも(ころもへん)	表・製・裁・補
虫	むし	蚕
血	ち	衆
西(覀)	にし(おおいかんむり)	要
見	みる	親・覚・観・規
角(角)	かく・つの(つのへん)	解
豆	まめ	豊
貝(貝)	こがい・かい(かいへん)	買・負・貨・財
足(⻊)	あし(あしへん)	路
車(車)	くるま(くるまへん)	軍・輪・輸
酉(酉)	ひよみのとり(とりへん)	酒・配・酸
里(里)	さと(さとへん)	重・量・野
臣	しん	臨
隹	ふるとり	集・雑・難
青	あお	静
食(食)	しょく(しょくへん)	養・館・飼
鳥	とり	鳴

その他の部首（（ ）内は漢字例）

入(入)　几(処)　凵(出)　尢(就)　支(支)
文(文)　斗(料)　比(比)　毛(毛)　父(父)
玄(率)　用(用)　疋(疑)　皮(皮)　耒(耕)
自(自)　至(至)　臼(興)　舌(舌)　艮(良)
色(色)　谷(谷)　豕(象)　赤(赤)　辛(辛)
辰(農)　身(身)　麦(麦)　長(長)　非(非)
面(面)　革(革)　音(音)　風(風)　飛(飛)
首(首)　骨(骨)　高(高)　魚(魚)　黄(黄)
黒(黒)　歯(歯)　鼻(鼻)

※漢字辞典では、漢字をグループごとにまとめています。漢字をひくためのめじるしを「部首」といいます。（ ）は、部首の形がかわったときのよび方、漢字例は、グループに入る漢字です。よび方は、辞書によってことなる場合があります。

漢字の筆順

1 漢字の点画と画数

漢字は、いろいろな形の点や線の組み合わせでできています。これらの点や線をまとめて「点画」とよびます。

一つの漢字や漢字の部分を組み立てている点画の数を、「画数」といいます。画数を数えるときは、複雑におれ曲がった線でも、ひと続きに書くものは一画として数えます。

2 漢字の筆順

「火」という字を書くときには、丶丷少火の順に書きます。このように、文字を書くとき、どんな順番に書くかが決まっていて、その順番のことを、書き順とか筆順とかいいます。

「火」の字を、ノ人火火のような順に書いても、できあがってしまえばちゃんと火の形になり、だれにも読めますから、筆順などどうでもよいと考える人もいます。しかし、筆順は、長い文字の歴史の中で、いちばん書きやすい書きかたとして、決まってきたものですから、漢字を、はやく、美しく書くうえで、大切なことなのです。

①点の基本
②横画の基本
③縦画の基本
④はねの基本
⑤右上へのはね上げの基本
⑥左はらいの基本
⑦短い左はらいの基本
⑧右はらいの基本

永字八法

3 漢字の組み立てと筆順

二つの部分が組み合わさってできている漢字は、次の順番に書きます。

①左右に分けられる字
左の部分を先に書く。
例 活　結　現　映

②上下に分けられる字
上の部分を先に書く。
例 客　英　志　等

③たれのある字
たれの部分を先に書く。
例 病　歴　属　庁

④にょうのある字
先に書くものと、あとに書くものとがある。
(1)走は先に書く。
例 起

活 ①②　客 ①②　病 ①②　起 ①②

(2)辶廴はあとに書く。
例 連　適　延

⑤かこむ形のある字
(1)冂勹气冂门門は先に書く。
例 司　句　包　気　同　向　関
(2)丁弋弌戈戉戊匚行口は、初めと終わりに分けて書く。
例 一 丁 可　一 三 式　二 正 武　一 亘 或　士 表 裁　丿 厂 万 成　一 矢 医　彳 術 術　冂 困 困
(3)凵はあとに書く。
例 㐅 凶

連 ①②　司 ①②　同 ①②　可 ①②③　成 ①②③　医 ①②③　術 ①②③　困 ①②③　凶 ①②

4 点画と筆順

点画のならびかたや、組み合わさりかたによって、次のようなきまりがあります。

①上下にならんだ点画は、上から下への順
例 一 二 三　一 T 工

②左右にならんだ点画は、左から右への順
例 ノ 八　丿 川 川

③外側の点画と内側の点画では、外側が先
例 ノ 夕　冂 月　冂 円

注意 このきまりには例外が多い。

④横画と縦画が交わるときは、横が先
例 一 十　一 艹（花）
冂 月 用　𠂉 𠂉 無 無（無）
䒑 兰 羊　𠂉 三 手

注意 このきまりには例外が多い。

⑤字や字の部分全体をつらぬく横画は最後に書く
例 ㄑ 女 女　ㄑ 𠃊 毋 母
　 ⺆ 舟 舟　冂 冊 冊

注意 「世」は例外。　一 十 廿 廿 世

⑥左はらいと右はらいが交わるときは、左はらいが先
例 ハ ク 父

⑦左はらいと横画が交わるとき
(1)横画が長く、左はらいが短い字では、左はらいを先に書く…右・若・有・布・希
例 ノ ナ 右　㐅 产 肴 希
(2)横画が短く、左はらいが長い字では、横画を先に書く…左・友・存・在・大・夫・春
例 一 ナ 左　一 ナ 𠂇 存

ワープロ・パソコンで，ローマ字入力するときの注意

パソコンなどで，文字をローマ字で入力する場合，今まで学習してきたことがらと，多少ちがうところがある。

◆「お」と「を」，「じ」と「ぢ」，「ず」と「づ」は，それぞれ別。

・「お」→ O　　「を」→ WO
・「じ」→ ZI / JI　　「ぢ」→ DI
・「ず」→ ZU　　「づ」→ DU

★このように，別の入力のしかたをするので，注意しよう。



言葉の終わりの「ん」，ひらがな1字の「ん」を表示したいときは，「nn」とnを重ねて打つ。
例 ありません
→ ARIMASENN



3 別の書き表しかた

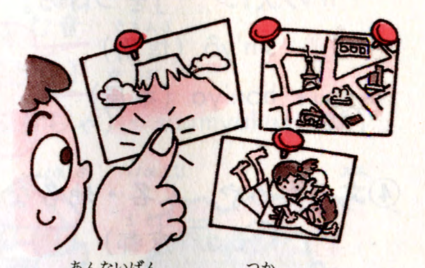
●一つの音に二通りの書き表しかたがある場合がある。

し	si-	shi	しゃ	sya-	sha	しゅ	syu-	shu	しょ	syo-	sho
ち	ti-	chi	ちゃ	tya-	cha	ちゅ	tyu-	chu	ちょ	tyo-	cho
つ	tu-	tsu									
ふ	hu-	fu									
じ	zi-	ji	じゃ	zya-	ja	じゅ	zyu-	ju	じょ	zyo-	jo
ぢ	zi-	di	ぢゃ	zya-	dya	ぢゅ	zyu-	dyu	ぢょ	zyo-	dyo
づ	zu-	du									
を	o-	wo									

など

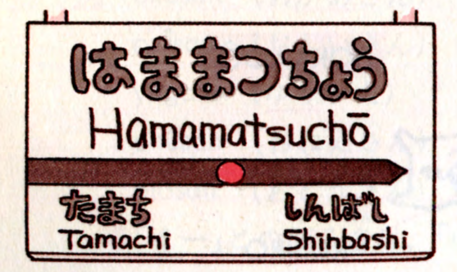
（ピンク）は，ヘボン式（英語に近い形）　（グレー）は日本式

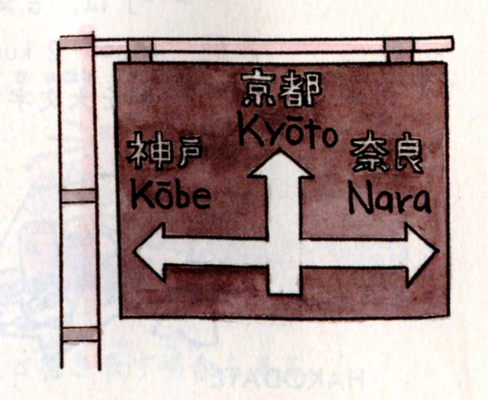
例
syasin — shashin（写真）
tizu — chizu（地図）
tume — tsume（つめ）
zyûdô — jûdô（じゅう道）
Huzisan — Fujisan（富士山）



♣ヘボン式の書き表しかたは駅名のけいじや案内板などに使われている。

町で見かけるローマ字





●ローマ字の書き表しかた●

1 一つの音を，１字から３字で書き表す

● １字で表すもの

・母音（あ行の音）……a（あ）・i（い）・u（う）・e（え）・o（お）

・はねる音……n（ん）

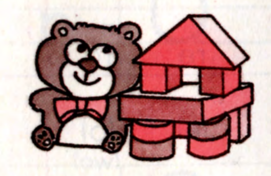
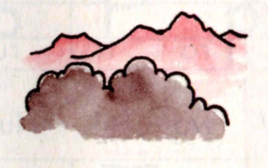
● ２字で表すもの

例　ka（か）・ki（き）・ku（く）・ke（け）・ko（こ）・
wa（わ）・ga（が）・za（ざ）・da（だ）・ba（ば）・pa（ぱ）

● ３字で表すもの

小さく書く「ゃ・ゅ・ょ」をふくむ音

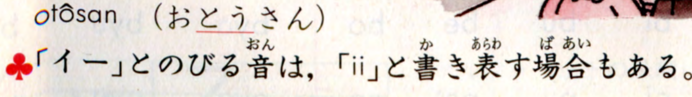
例　kya（きゃ）・kyu（きゅ）・kyo（きょ）
tosyokan（図書館）・omotya（おもちゃ）・sanmyaku（山脈）

2 書き表しかたのきまり

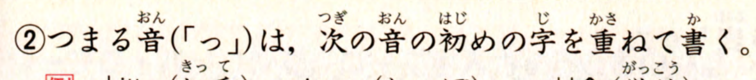
①長音（のばす音）は，「a・i・u・e・o」の上に「＾」をつけて表す。

例　okâsan　（おかあさん）
ozîsan　（おじいさん）
yûgata　（ゆうがた）
onêsan　（おねえさん）
otôsan　（おとうさん）

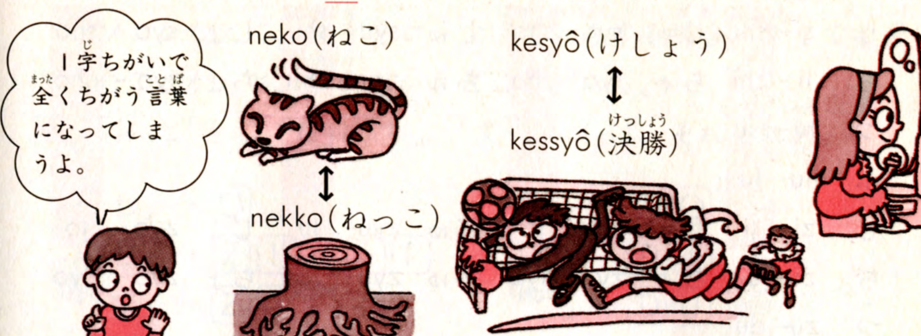


♣「イー」とのびる音は，「ii」と書き表す場合もある。

②つまる音（「っ」）は，次の音の初めの字を重ねて書く。



例　kitte（切手）　sippo（しっぽ）　gakkô（学校）　zassi（ざっし）



③読みまちがえをふせぐため，切れるところをしめす「’」をつける。

・はねる音（n）の次に，a・i・u・e・o，またはyがくる場合には，nの次に「’」をつける。

例　sin'yô（信用）
hon'ya（本屋）

sinyô だと「しにょう」，honya だと「ほにゃ」とも読めてしまうので，n の次で切って読むことを「’」でしめす。

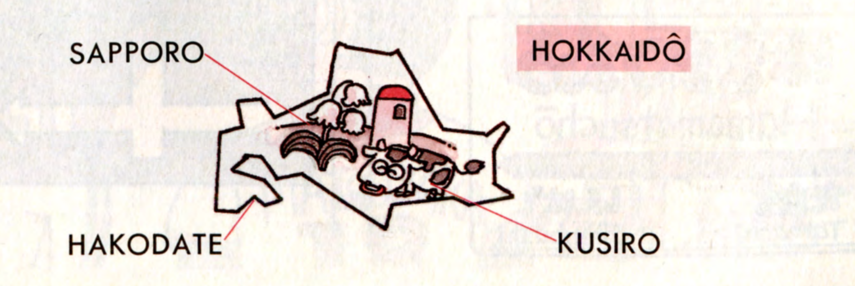
④文の初めや，人名・地名などは語の初めを大文字で書く。

例　Kyôto（京都）
Yamada-Hazime（山田はじめ）
└→「-」は，言葉をつなぐ印。

＊「-」をつけないで，あけたままの書き方もあります。

例　4 nen-2 kumi ／ Naha-si（那覇市）

♣地名などは，全部を大文字で書くこともある。

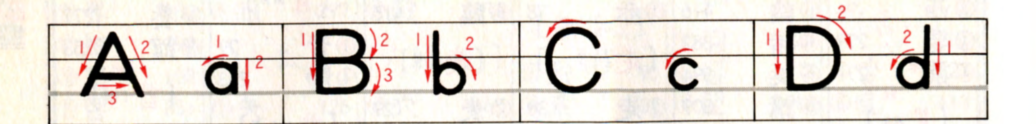


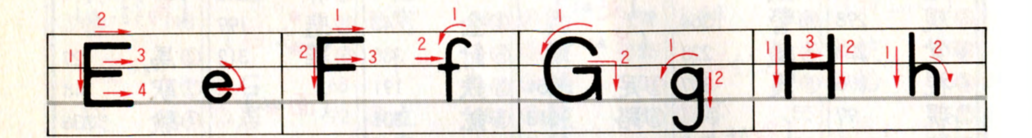
ローマ字表

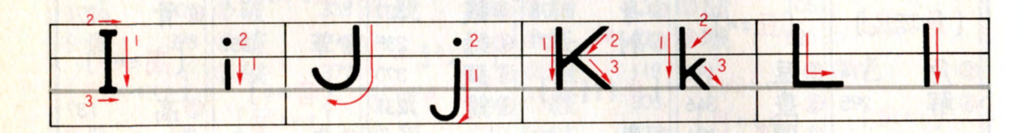
□の部分は，大文字。表の中の(　)については，P.433 を参照。

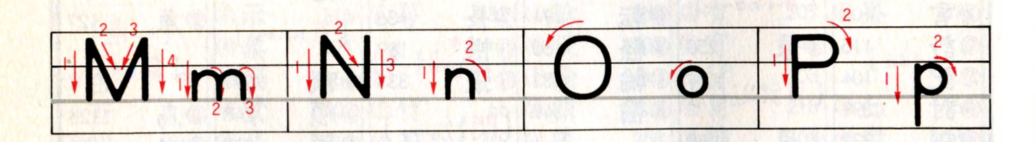
	A	I	U	E	O			
	a	i	u	e	o			
K	ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo
S	sa	si (shi)	su	se	so	sya (sha)	syu (shu)	syo (sho)
T	ta	ti (chi)	tu (tsu)	te	to	tya (cha)	tyu (chu)	tyo (cho)
N	na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo
H	ha	hi	hu (fu)	he	ho	hya	hyu	hyo
M	ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo
Y	ya	(i)	yu	(e)	yo			
R	ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo
W	wa	(i)	(u)	(e)	(o) (wo)			
	n							
G	ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo
Z	za	zi (ji)	zu	ze	zo	zya (ja)	zyu (ju)	zyo (jo)
D	da	(zi) (di)	(zu) (du)	de	do	(zya) (dya)	(zyu) (dyu)	(zyo) (dyo)
B	ba	bi	bu	be	bo	bya	byu	byo
P	pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo

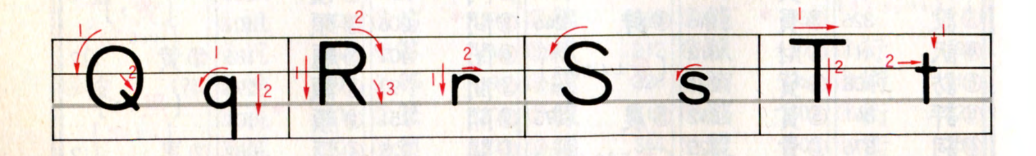
ローマ字の書きかた　アルファベットの筆順

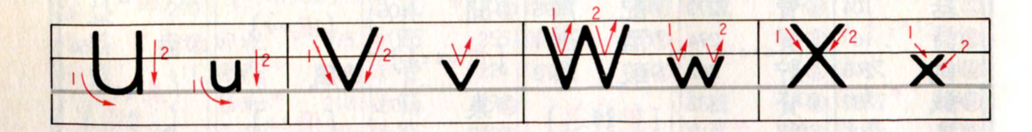


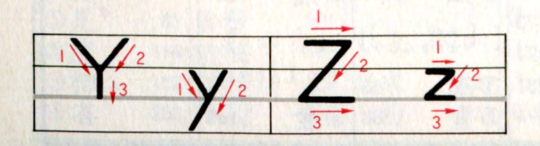












アルファベットの筆順にはいく種類かあり，これはその一例です。

部首さくいん

●このさくいんは、漢字を部首別にならべたものです。
●丸数字は、その漢字を学習する学年をあらわしています。
●*のついた漢字は、本来はほかの部首に入るものです。

総画さくいん

- このさくいんは、漢字を画数順にならべたものです。同じ画数の漢字は、学年順にならべています。
- 丸数字は、その漢字を学習する学年をあらわしています。

さくいん

さくいん

か

き

さくいん

音訓さくいん

● このさくいんは、漢字を読みかたの五十音順にならべたものです。読みかたが同じ漢字は、画数順になっています。
● カタカナは音読み、ひらがなは訓読みです。赤い字は送りがなです。
● 丸数字は、その漢字を学習する学年。

あ

い

さくいん

う

え

お

小学生の新レインボー漢字読み書き辞典

——改訂カラー版——

1970年2月20日　初版発行
1990年2月10日　改訂新版第1刷発行
1996年1月10日　新版第1刷発行
2000年12月5日　改訂カラー版第1刷発行
2009年2月17日　改訂カラー版第13刷発行

発行人　岡部学
編集　学研辞典編集部
発行所　株式会社 学習研究社
〒141-8510 東京都品川区西五反田2-11-8
印刷所　図書印刷株式会社
製本所　図書印刷株式会社

この本に関する各種のお問い合わせは、次のところにご連絡ください。
●編集内容については TEL 03-6431-1603（編集部直通）
●在庫、不良品（落丁、乱丁）については TEL 03-6431-1199（出版販売部）
●それ以外のこの本に関するお問い合わせは下記まで。
文書は〒141-8510　東京都品川区西五反田2-11-8
学研お客様センター『漢字読み書き辞典』係
電話は03-6431-1002（学研お客様センター）

この辞典をつくった人

●監修

石井庄司（文学博士）

●指導・原稿執筆

氷田光風（硬筆指導／元文教大学教授）
伊藤順子（東京都千代田区立麹町小学校教諭）
梅澤　実（鳴門教育大学助教授）
大村奈保美（辞典研究家）
金平純三（東京都狛江市立狛江第6小学校教諭）
北島春信（前成城学園初等学校校長）
熊谷えみ子（東京都杉並区立井荻小学校教諭）
恋塚　稔（辞典研究家）
長岡　襄（漢字研究家）
西池和巳（「言語教育振興財団」理事）
本堂純子（東京都多摩市立西落合小学校教頭）
間中孝貴（元東京学芸大学附属世田谷小学校副校長）
山本茂男（森村学園初等部教諭）

●装丁

吉田誠＋稲垣直美（プリズマ）

●表紙・カバーイラスト

KUNTA

●紙面設計・イラスト・図版・写植

あん企画
EDメディアファクトリー
井手研二
クリエイティブ・ノア
田中晴美
ヒット

●写真・モデル

学研写真資料室
幸田果林

●編集協力

㈱奎文館
えんぴつクラブ
莅戸正人
プランナッツ
三宅真木

●組版・製版・印刷

図書印刷株式会社

●総括

市川俊男

●編集

高田　浩
平田美穂

●製作管理

近藤　擎

世界の絵文字と象形文字



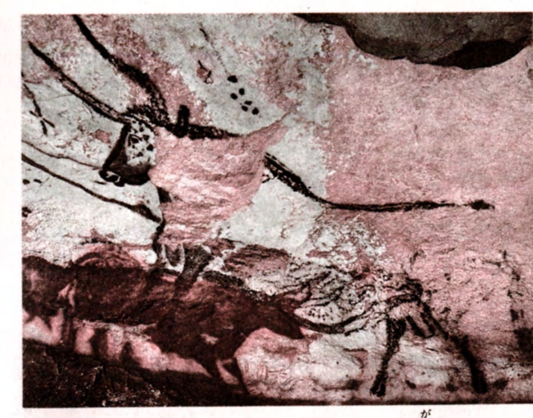
古代エジプトの絵文字　第１王朝，紀元前3100年ごろ。ナルメル王の化粧板。



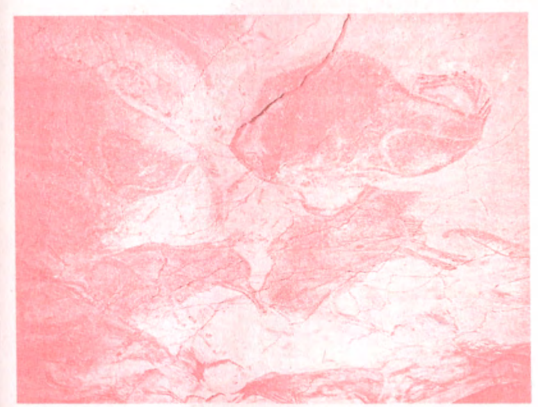
中国の甲骨文字
紀元前1500年ごろ



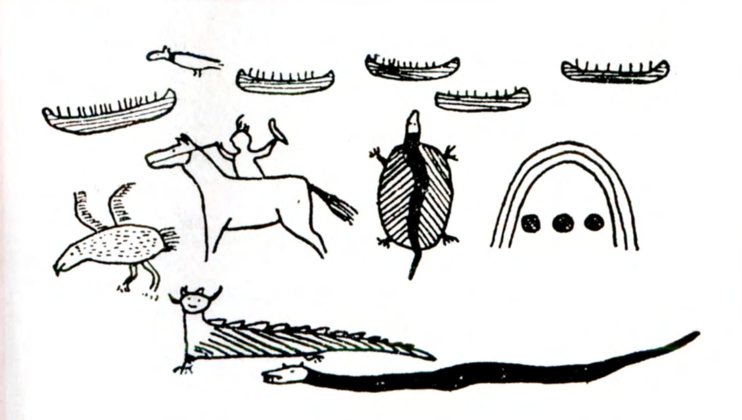
アッシリアのくさび形文字
紀元前3000年ごろ



フランスのラスコーどうくつのへき画
１万5000年ぐらい前



スペインのアルタミラどうくつのへき画
１万5000年ぐらい前



アメリカ先住民の絵文字



小学生の新レインボー漢字読み書き辞典

オールカラー

監修 石井庄司









ISBN4-05-300933

C6581 ¥1300E

531112

定価：本体1,300円

＊税が別に加算されます。





装丁 吉田 誠＋稲垣直美（プリズマ）

カバー・イラスト KUNTA